

IBM Campaign バージョン 9 リリース 0 2013 年 1 月 15 日

# ユーザー・ガイド



#### - お願い -

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、269ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Campaign バージョン 9 リリース 0 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限 り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

- 原典: IBM Campaign Version 9 Release 0 January 15, 2013 User's Guide
- 発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 担当: トランスレーション・サービス・センター
- 第1刷 2012.12
- © Copyright IBM Corporation 1998, 2013.

## 目次

第1章 IBM	Cam	paign	の概	腰.	•			1
Campaign の対象	象者 .							1
他の IBM 製品	との統合	ì						2
IBM Marketin	ng Opera	ations 2	の統合	合につ	0117	Ξ.		2
レガシー・キ	-ャンペ・	ーンにこ	ついて			•		3
Campaign の概念	念..					•		3
キャンペーン	· · ·					•		4
フローチャー	-ト.					•		4
セッション.						•		5
プロセス						•		5
オファー						•		5
セル・・・						•		5
	_							
第 2 章 Can	npaigr	ιの概	要.	• •	•	• •	•	7
ユーザー名とパ	スワート	*				•		7
IBM EMM にに	リグイン	するには	t			•		7
役割と権限						•		8
Campaign での	セキュリ	ティー	・レベ	ル.		•		8
開始ページの設	定							8
<u></u>								_
第3章キャ	ッンペー	-ン.	• •	• •	•	• •	•	9
キャンペーン用	のデータ	7の準備				•		9
Campaign で	の IBM	Digital	Analy	tics t	ュグン	メント	-	
の使用						•		9
キャンペーンの	設計.					•		9
例: マルチチ	ヤネルの	のリテン	ション	ン・キ	ヤン	^ペー	-	
ン								10
キャンペーンへ	のアクセ	マスにつ	いて					11
キャンペーンの	操作 .							12
キャンペーン	の作成	方法 .						12
戦略的セグメ	、 ントの:	キャンハ	ペーン	との関	連行	すけ		13
オファーのキ	-ャンペ・	ーンとの	)関連	付け				13
キャンペーン	の表示	方法 .						14
リンクされた	こレガシ・	- • <del>+</del> +	ァンペ・	ーンカ	ЪĞ			
Marketing Op	perations	プロジ	ェクト	、に移	動す	る方		
法								15
キャンペーン	~のサマ	リー詳約	日の編	集方法	<b>.</b>			15
キャンペーン	の実行	について						16
キャンペーン	の印刷	方法 .						16
キャンペーン	の移動	方法 .						16
キャンペーン	の削除	について						17
キャンペーン	/結果の	分析 .						17
キャンペーンの	編成 .							18
キャンペーン	/・フォ,	ルダーの	)追加	方法				18
キャンペーン	/・フォ,	ルダーの	)名前	と説明	一の約	扁集プ	Ĵ	
法								18
キャンペーン	/・フォ,	ルダーの	)移動	方法				19
キャンペーン	/・フォ,	ルダーの	)削除	方法				19
キャンペーンに	関するり	リファレ	ンス情	青報.				19
「キャンペー	ーン一覧	」ペーシ	ジのア	イコン	· .			20
「キャンペー	-ン・サ	マリー」	タブ	のアイ	'コン	/ .		20

第4章 フローチャート.......	23
フローチャート・ワークスペースの概要	23
フローチャートの設計についての考慮事項	24
フローチャートの作成	25
フローチャートを作成するには.......	25
フローチャートのコピー	26
フローチャートをコピーするには	26
フローチャートの表示	27
フローチャートを表示するには.......	27
フローチャートの確認	27
フローチャートのプロセスを確認するには...	28
フローチャートの編集	28
編集用にフローチャートを開くには	28
フローチャートのプロパティーを編集するには .	29
フローチャートの検証	29
フローチャートを検証するには.......	30
フローチャートのテスト	30
フローチャートをテスト実行するには	30
フローチャート・ブランチをテスト実行するには	31
フローチャートの実行	31
フローチャートを実行するには.......	31
フローチャート・ブランチを実行するには...	32
プロセスを実行またはテスト実行するには	32
実行履歴オプションについて	33
フローチャートの実行を一時停止するには	34
一時停止されたフローチャートの実行を継続する	
	35
フローナヤートの実行を停止するには	35
停止されにノローナヤートの美行を継続するには	35
フレダイム・エフーのトフノルシューティング .	35
フローチャートの削除	30
フローフャートを削除りるには	30
データベーフ内島商化によるフローチャート・パフ	30
ノークシスの向上	37
イ インハの向上 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	57
のパフォーマンスを改善すろには	38
トラブルシューティング用のフローチャート・ファ	50
イルのパッケージ化	39
トラブルシューティング用のフローチャート・フ	0,
ァイルをパッケージ化するには	39
フローチャート・データ・パッケージの IBM テ	
クニカル・サポートへの送信	40
フローチャート・データのパッケージ化のオプシ	
эン	40
第5章 Campaign プロセスの概要	43

プロセスのタイプ	43
データ操作プロセス	43
実行プロセス..............	44
最適化プロセス	44
プロセス・ボックスに関する作業	45
プロセスをフローチャートに追加するには...	45
プロセスのステータスの判別	46
2 つのプロセスの接続	47
例:プロセスの接続	47
プロヤスをコピーして貼り付けるには	48
プロセスを切り取るには	48
プロセスをデンプレート・ライブラリーから貼り	-10
けいていて アンデン アンディングライン ひ知り	40
「りつには	42
プロセスを移動するには	49
ノロビスを削除りるには	50
2 フのノロセスの間の接続を削除りるには	50
フローナヤートの外観の変更	50
フロセ人を実行またはナ人下実行するには	51
実行履歴オフションについて	52
プロセス用のデータ・ソースの選択	54
着信セル、セグメント、またはテーブルをプロセ	
スへの入力として選択するには.......	54
複数のテーブルをプロセスへの入力として選択す	
るには	54
新規テーブルをソースとして選択するためにマッ	
プするには	54
フィールドのプロファイル	55
フィールドをプロファイルするには	55
プロファイルでの入力の制限	56
プロファイルの不許可	56
プロファイル・オプションの設定	57
プロファイル・カウントのリフレッシュ	58
プロファイル・カテゴリーを昭今に挿入するにけ	50
プロファイルの結果を印刷するには	59
プロファイル・データをエクフポートするには	50
フロノティル テレビエクハホ 「するには 、 プロセフでの昭今の作成	59
「ポイント & カリック」を使用して昭今を作成	00
「小イント & クリック」を使用して照去を作成	60
9 るには	00
「ナキスト・ヒルター」を使用して思会を作成す	(1
	61
「式ヘルハー」を使用して照会を作成するには .	62
SQL を使用した照会の作成	64
Campaign フロセスでの照会の評価方法	68
コンタクト・ログの出力ファイルまたはテーブルの	
指定	68
出力ファイルをコンタクト・ログに指定するには	69
データベース表をコンタクト・ログに指定するに	
は	69
乱数選択用のシードの変更	70
レコードを選択するためのランダム・シードを変	
更するには	70
プロセス出力での重複 ID の除外	71
第 6 章 Campaign プロセスの構成	73
プロセスのリスト	73
選択	74

選択プロセスを構成するには	. 74
IBM Digital Analytics ヤグメントを選択プロセス	• • •
で毎日するには	76
マージ	. 70
マージ・プロセフを進出すてにけ	. 79
$\chi^{-}$ ン・ノロビスを構成りるには	. 79
	. 80
	. 81
照会によるセクメント化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 81
別のセグメント・フロセスへの人力としてのセグ	
メントの使用..............	. 81
セグメント化の考慮事項	. 81
フィールドでセグメント・プロセスを構成するに	
は	. 82
照会でセグメント・プロセスを構成するには .	. 83
セグメント・プロセス構成: 「セグメント」タブ	84
セグメント・プロセス構成: 「抽出」タブ	. 85
セグメント・プロセス構成: 「全般」タブ	. 86
「新規セグメント」および「セグメントの編集」	
ダイアログ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 86
サンプル	. 87
サンプル・プロヤスを構成するには	. 87
サンプル・サイズ計算器について	90
オーディエンス	. 90
オーディエンス・レベル	. 91
ハウフェールディング	. 91
ハワスホールノインク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 92
レベルの切り省ん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 92
オーティエンス・ノロセスの構成	. 93
	. 95
例: レコードのフィルター処理	. 96
人力と出力で同じオーティエンス・レベルを使用	
<i>ta</i>	. 96
入力と出力で異なるオーディエンス・レベルを使	
用する	100
	103
例: トランザクション・データの抽出	104
eMessage ランディング・ページからデータを抽	
出する際の前提条件............	104
抽出プロセスの構成	104
データをセル、単一テーブル、または戦略的セグ	
メントから抽出するには..........	104
eMessage ランディング・ページからのデータの	
抽出	106
「抽出」タブのリファレンス . . . . . .	108
スナップショット	109
スナップショット・プロセスを構成するには	109
スケジュール	111
Campaign スケジュール・プロヤスと IBM スケ	
ジューラーとの間の相違	112
スケジュール・プロセスを構成するには	113
トリガーに基づいたスケジューリング	
キューブ	115
	115 117
キューブ・プロセスを構成するには	115 117 117
キューブ・プロセスを構成するには	115 117 117
キューブ・プロセスを構成するには セグメントの作成	<ol> <li>115</li> <li>117</li> <li>117</li> <li>118</li> <li>110</li> </ol>
キューブ・プロセスを構成するには	<ol> <li>115</li> <li>117</li> <li>117</li> <li>118</li> <li>119</li> <li>120</li> </ol>

コンタクト・プロセス (メール・リストまたはコ	
ール・リスト)を構成するには	120
コール・リスト	126
トラッキング	127
トラッキング・プロセスを構成するには	128
レスポンス	130
レスポンス・プロセスを構成するには....	131
モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	132
モデル・プロセスを構成するには	133
スコア	134
スコア・プロセスを構成するには.....	135
第7章オファー	137
オファー属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	137
オファーのバージョン	139
オファー・テンプレート	139
オファー・リストについて	140
静的オファー・リスト	140
スマート・オファー・リスト	141
セキュリティーおよびオファー・リスト	141
如理	142
コントロール・グループ	142
ターゲット・セルへの制御セルの関連付け	142
オファーの処理	143
新規オファーの作成	143
オファーの関連製品	144
オファーの複製	146
オファーのグループ化	147
オファーを編集するには	148
オファーキたけオファー・リフトを移動するには	1/18
オファー・リストへのオファーの追加	1/0
オファーの削除	149
オファーの回収	150
フローチャート内のセルにオファーを割り当てる	150
	150
ターゲット・セル・スプレッドシート内のセルに	150
オファーを割り当てる方法	151
オファーの検索	151
「オファー一覧」ページのアイコン	152
サマリー・ページからオファー・レポートを表示	152
するには	153
オファー・リストの処理	153
お的オファー・リストを追加するには	155
スマート・オファー・リストを追加するには	154
オファー・リストを編集するには	155
オファー・リストの移動	155
オファー・リストの削除	155
オファー・リストの回収	155
ヤルへのオファー・リストの割り当て	155
Marketing Operations が Campaion と統合されてい	חרו
markening Operations // Campaign C/VL D C4+CV4	130
る場合のオファーの管理	156
る場合のオファーの管理	156
る場合のオファーの管理	156 157
る場合のオファーの管理. Marketing Operations の資産を Campaign のオファ ーで使用する方法. Marketing Operations の資産を Campaign のオフ	156 157
る場合のオファーの管理 Marketing Operations の資産を Campaign のオファ ーで使用する方法 Marketing Operations の資産を Campaign のオフ ァーで使用する方法	156 156 157

第8章セル161
セル名およびセル・コード
例: セルの名前変更のシナリオ
セルの操作
フローチャート・プロセス内でセルを作成する方
法
出力セル・サイズの制限
セル名の変更
セル名のリセット
セル名とセル・コードのコピーおよび貼り付けに
ついて
セル・コードの変更
「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログ
を使用してフローチャート・セルを照合およびリ
ンクする方法
「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログ
を使用してフローチャート・セルを照合解除また
はリンク解除する方法
「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログ
を使用してフローチャート・セルを手動で照合お
よびリンクする方法
プロセス構成ダイアログを使用してフローチャー
ト・セルをターゲット・セルにリンクする方法 . 174
プロセス構成ダイアログを使用してフローチャー
ト・セルをターゲット・セルからリンク解除する
方法
フローチャート内のセルにオファーを割り当てる
には
セルへのオファー・リストの割り当て 175
セルに割り当てられたオファーでパラメーター値
を設定するには
ターゲット・セル・スプレッドシートについて 176
ターゲット・セル・スプレッドシートのセル・ス
テータス情報
ターゲット・セル・スプレッドシートの操作178

### 第9章 コンタクト履歴およびレスポン

ス・トラッキング	
コンタクト履歴およびオーディエンス・レベル 187	/
詳細コンタクト履歴	/
コンタクト履歴テーブルへのエントリーの書き込み 188	5
処理履歴 (UA_Treatment)	)
ベース・コンタクト履歴 (UA_ContactHistory) 189	)
詳細コンタクト履歴 (UA_DtlContactHist) 191	-
オファー履歴	2
コンタクト履歴への書き込みの無効化 192	2
テスト実行の実施	2
ログ・オプションを無効にする方法 192	2
コンタクト履歴およびレスポンス履歴の消去193	;
コンタクト履歴およびレスポンス履歴の消去方法 193	;
レスポンス・トラッキングについて194	ł
レスポンス・トラッキングの実行 194	ł
レスポンス・タイプ	)
レスポンス・カテゴリー	)
直接レスポンス	)
推定レスポンス	2

属性分析方式							. 203
最適一致 .							. 203
断片一致 .							. 204
複数一致 .							. 204

第 10 章 保管オブジェクト	205
ユーザー定義フィールドについて......	. 205
ユーザー定義フィールドの作成	. 205
ユーザー定義フィールドの保管	. 207
ユーザー定義フィールドを永続化するには	. 208
ユーザー変数について	. 211
ユーザー変数を作成するには	. 212
カスタム・マクロについて	. 212
カスタム・マクロを作成するには.....	. 213
カスタム・マクロを使用するためのガイドライン	215
カスタム・マクロを管理するには.....	. 218
テンプレートについて	. 218
テンプレートをテンプレート・ライブラリーにコ	1
ピーするには	. 218
テンプレート・ライブラリーからテンプレートを	1
貼り付けるには.............	. 219
テンプレートを管理するには	. 219
保管テーブル・カタログについて......	. 220
保管テーブル・カタログにアクセスするには.	. 220
テーブル・カタログを編集するには....	. 220
テーブル・カタログを削除するには....	. 221
第 11 草 セッション .......	223
セッションの操作	. 223
セッションの操作	. 223 . 223
セッションの操作	. 223 . 223 . 224
セッションの操作	. 223 . 223 . 224 . 224
セッションの操作	. 223 . 223 . 224 . 224 . 224 . 224
セッションの操作	· 223 · 223 · 224 · 224 · 224
セッションの操作	· 223 · 223 · 224 · 224 · 224 · 224 · 224
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	. 223 . 223 . 224 . 224 . 224 . 224 . 224 . 225 . 225
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	· 223 · 223 · 224 · 224 · 224 · 224 · 225 · 225 · 225 · 225
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>. 223</li> <li>. 223</li> <li>. 224</li> <li>. 224</li> <li>. 224</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> </ul>
セッションの操作	<ul> <li>. 223</li> <li>. 223</li> <li>. 224</li> <li>. 224</li> <li>. 224</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> <li>. 225</li> <li>. 226</li> <li>. 226</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>226</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li> <li>セッションを作成するには</li> <li>セッションを表示するには</li> <li>セッションのサマリー詳細を編集するには</li> <li>セッション・フローチャートを編集するには</li> <li>セッション・フローチャートのプロパティーを編集するには</li> <li>セッション・フローチャートのプロパティーを編集するには</li> <li>セッションのコピーについて</li> <li>セッションの実行について</li> <li>セッションの実行について</li> <li>セッションを移動するには</li> <li>セッションの削除について</li> <li>セッションの編成について</li> <li>セッション・フォルダーを追加するには</li> </ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>228</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li> <li>セッションを作成するには</li> <li>セッションを表示するには</li> <li>セッションのサマリー詳細を編集するには</li> <li>セッション・フローチャートを編集するには</li> <li>セッション・フローチャートのプロパティーを編集するには</li> <li>セッション・フローチャートのプロパティーを編集するには</li> <li>セッションの以下について</li> <li>セッションの実行について</li> <li>セッションの実行について</li> <li>セッションの削除について</li> <li>セッションの削除について</li> <li>セッションの制除について</li> <li>セッションの制除について</li> <li>セッションの制除について</li> <li>セッションの利以ぞしたういず</li> <li>単略的セグィントについて</li> </ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>228</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>229</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li> <li>セッションを作成するには</li> <li>セッションを表示するには</li> <li>セッションのサマリー詳細を編集するには</li> <li>セッション・フローチャートを編集するには</li> <li>セッション・フローチャートのプロパティーを終 集するには</li> <li>セッションの実行について</li> <li>セッションの実行について</li> <li>セッションの実行について</li> <li>セッションの制除について</li> <li>セッションの調応について</li> <li>セッション・フォルダーを追加するには</li> <li>セッション・フォルダーを追加するには</li> <li>セッション・フォルダーを移動するには</li> <li>セッション・フォルダーを削除するには</li> <li>セッション・フォルダーを削除するには</li> <li>ビッション・フォルダーを削除するには</li> <li>転略的セグメントのパフォーマンスの向上</li> <li>戦略的セグメントのパフォーマンスの向上</li> </ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>229</li> <li>230</li> <li>230</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>229</li> <li>230</li> <li>231</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>229</li> <li>230</li> <li>231</li> </ul>
<ul> <li>セッションの操作</li></ul>	<ul> <li>223</li> <li>223</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>224</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>225</li> <li>226</li> <li>226</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>227</li> <li>228</li> <li>228</li> <li>229</li> <li>230</li> <li>231</li> </ul>

	キャンペーンのサマ	リー	•	ペ-	ージ	か	ら単	战略	的	セク	ブ	
	メントを表示するに	は										232
	セグメントのサマリ	ー詳	細	を約	扁集	す	るに	こは	t.			232
	戦略的セグメントの	ソー	ス	• ]	フロ	_	チャ	7-	- ト	を約	扁	
	集するには											232
	「セグメント一覧」	ペー	ジ	の	アイ	コ	ン					233
	戦略的セグメントの	実行										233
	戦略的セグメントの	編成										234
	戦略的セグメントの	削除										236
グ	ローバル抑制および	グロ・	-)	汃	/抑	制-	セグ	`×	ンコ	トに		
5	ит											237
	グローバル抑制の適	i用										237
	グローバル抑制の無	効化										238
デ	ィメンション階層に、	つい、	τ									238
	例: ディメンション	階層										239
	ディメンション階層	の作	成									239
	ディメンション階層	を更	新	する	3							241
	保管ディメンション	階層	を	Π-	ード	す	る					241
+.	ューブについて											241

弗 12 早 レホート 2	第	レポート ....	24
---------------	---	-----------	----

. 219	レポート・タイプ
. 220	Campaign リスト・ポートレット
. 220	Campaign IBM Cognos レポート・ポートレット 24
. 220	レポートの操作24
. 221	レポートへのアクセスと表示
	レポート制御
223	レポート・ツールバー
. 223	レポートを E メールで送信するには 24
. 223	さまざまな形式でのレポートの表示
. 224	レポートの再実行
. 224	Campaign レポートのリスト
. 224	フローチャート・セル・レポート
	セグメント・クロス集計レポート
. 225	キャンペーン・カレンダー
. 225	キャンペーンおよびオファーのリストのレポート 25
. 225	パフォーマンス・レポート

付録.	IBM	Campaign	オブジェクト名で
-----	-----	----------	----------

の特殊文字.............	. 265
サポートされていない特殊文字	. 265
命名上の制約を持たないオブジェクト	. 266
特定の命名上の制約を持つオブジェクト	. 266
IBM 技術サポートへの連絡	. 267

	王和	• •	• •	207
特記事項				269
商標				. 271
プライバシー・ポリシーおよ	び利用条(	牛の考	慮事項	頁 271

## 第1章 IBM Campaign の概要

Campaign は、バックエンド・サーバー、Web サーバー、および Marketing Platform セキュリティーで構成される Web ベースのエンタープライズ・マーケティング・ マネジメント (EMM) ソリューションです。 Campaign を使用して、ユーザーはダ イレクト・マーケティング・キャンペーンを設計、実行、および分析できます。

Campaign には使いやすいグラフィカル・ユーザー・インターフェースが用意されて います。これにより、顧客 ID の選択、抑止、セグメント化、およびサンプリン グ、さらに顧客 ID の出力リスト作成というダイレクト・マーケティング・プロセ スがサポートされます。 Campaign を使用して、リレーショナル・データベース (データベース・タイプを問わず) やフラット・ファイルなど、すべてのデータ・ソ ースのデータにシームレスにアクセスし、操作することができます。

Campaign はマーケティング・キャンペーンを 1 つ以上のフローチャートで構成される 1 つの個別エンティティーとして扱います。各フローチャートは 1 つ以上の プロセスで構成されます。プロセスは、キャンペーン・フローチャートの構成要素 であり、Campaign の心臓部と言えます。プロセスが実際のデータ操作、スケジュー リング、オファー照合、リスト生成、および最適化を行います。フローチャート内 に一連のプロセスを構成して、キャンペーンを定義および実装します。

プロセスは、コンタクト履歴およびレスポンス履歴にデータを挿入し、レスポンス 属性およびレポート作成をサポートします。各キャンペーンは 1 つ以上の戦略的セ グメント、オファー、およびレポートに関連付けることができ、複数のフローチャ ートで構成できます。

Campaign は未加工 SQL、マクロ、および関数をサポートします。ただし、ユーザ ーは SQL を知らなくてもキャンペーンを設計できます。マップされたデータベー ス表は、簡単に選択、マージ、サンプリング、およびセグメント化することがで き、結果として得られた顧客をさまざまなオファーに関連付けることができます。 キャンペーンの結果については、記録、レスポンス・トラッキング、および投資収 益率 (ROI) 計算を行うことができます。キャンペーンは、特定時点に実行されるよ うにスケジュールすること、または特定イベントによってトリガーされるようにす ることが可能です。これらはすべて、SQL の知識がなくても可能です。

#### **Campaign**の対象者

Campaign は、マーケティングの専門家、およびデータ・マイニング、On-Line Analytical Processing (OLAP)、ならびに SQL の専門家を使用対象者として設計され ています。

Campaign のユーザー は、ダイレクト・マーケティング・キャンペーンを設計、実 行、および分析することができます。キャンペーン管理者 は、データベース表のマ ッピング、構成設定の調整、ユーザー用カスタム属性とオファー・テンプレートの 定義などの初期作業と同時進行作業を実施することで、その同僚のための基礎作業 を行います。 Campaign 管理者が実行する作業について詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を 参照してください。

## 他の IBM 製品との統合

Campaign は、オプションで以下の IBM<sup>®</sup> 製品と統合できます。

- Distributed Marketing。集中管理キャンペーンの分散した、カスタムでの実行を サポートします。
- eMessage。ターゲットを設定した、測定可能な E メール・マーケティング・キャンペーンを構築します。
- Interact。対話における体験を充実させるために、パーソナライズされたオファーおよび顧客プロファイルの情報をリアルタイムで取得します。Campaign での Interact 機能の使用 (対話式フローチャートの使用やバッチ・フローチャートの Interact プロセスの使用を含む) については、IBM Interact の資料を参照してくだ さい。
- Marketing Operations。Marketing Operationsのマーケティング・リソース管理機 能を Campaign のキャンペーン開発機能と統合します。詳しくは、『IBM Marketing Operations との統合について』を参照してください。
- CustomerInsight。ダイレクト・マーケティング・キャンペーンの設計時に、 CustomerInsight グループの選択内容にアクセスできるようにします。
- Digital Analytics for On Premises。ダイレクト・マーケティング・キャンペーンの設計時に、Digital Analytics for On Premises 訪問者セグメントにアクセスできるようにします。
- Contact Optimization。ビジネス・ルールおよび制約を考慮する一方で、顧客中心の観点からコンタクトを最適化します。
- PredictiveInsight。レスポンス・モデリング、クロスセル、顧客評価、およびセグ メンテーションの予測モデルのスコア設定を活用します。

Campaign と統合されている他の IBM 製品の使用について詳しくは、それらの製品 に同梱されている資料を参照してください。

#### IBM Marketing Operations との統合について

Campaign を Marketing Operations と統合すると、そのマーケティング・リソース管 理機能を使用してキャンペーンを作成、計画、および承認することができます。

Campaign を Marketing Operations と統合すると、スタンドアロンの Campaign 環境 で以前に実行された多くのタスクが Marketing Operations で実行されます。以下に それらのタスクを示します。

- キャンペーンの操作:
  - キャンペーンの作成
  - キャンペーンの表示、移動、および削除
  - キャンペーンのサマリー詳細の操作
- ターゲット・セル・スプレッドシートの操作
- セルへのオファーの割り当て
- 制御セルの指定

- カスタム・キャンペーン属性の作成および追加
- カスタム・セル属性の作成および追加

これらのタスクについては、「Marketing Operations および Campaign 統合ガイ ド」で説明されています。

以下のタスクは、Campaign のスタンドアロン環境と統合環境の両方で実行されます。

- フローチャートの作成
- フローチャートの実行
- ・ キャンペーン/オファー/セルの詳細分析
- キャンペーン・パフォーマンスに関するレポート作成(インストールされている レポート作成パックによる)

オファー統合も有効になっている場合、Marketing Operations で以下のタスクを実行 します。

- オファーの設計
  - オファー属性の定義
  - オファー・テンプレートの作成
- オファーの作成、承認、公開、編集、および回収
- オファー・リストおよびオファー・フォルダーによるオファーの編成

## レガシー・キャンペーンについて

レガシー・キャンペーンは、Marketing Operations と Campaign の間の統合を有効に する前に、 Campaign (または Affinium Campaign 7.x) で作成されたキャンペーン です。統合環境では、以下のタイプのレガシー・キャンペーンにアクセスできるよ うに Campaign を構成できます。

- 統合が有効になる前に、スタンドアロン Campaign (Campaign が現行バージョン か旧バージョンかを問わず)で作成されたキャンペーン。これらのキャンペーン は Marketing Operations プロジェクトにリンクできません。
- Affinium Campaign 7.x で作成され、Affinium Plan 7.x プロジェクトにリンクされたキャンペーン。両製品の属性間のデータ・マッピングに基づく場合、これらのキャンペーンの機能はこれらの製品のバージョン 7.x から変化していません。

Campaign を使用すると、統合が有効にされた後でも、両方のタイプのレガシー・キャンペーンにアクセスし、操作することができます。

## **Campaign**の概念

Campaign を使用する前に理解しておく必要がある基本概念には、以下の内容があります。

- 4ページの『キャンペーン』
- 4ページの『フローチャート』
- 5ページの『セッション』
- 5ページの『プロセス』

- 5ページの『オファー』
- 5ページの『セル』

#### キャンペーン

Campaign でキャンペーンを作成して、ダイレクト・マーケティング・キャンペーン を管理および反映します。各キャンペーンは以下の要素によって定義します。

- 名前
- セキュリティー・ポリシー
- 説明
- 目的
- キャンペーン・コード
- 発効日および有効期限
- イニシアチブ
- 所有者
- カスタマイズされた属性

キャンペーンには 1 つ以上のフローチャート が含まれています。フローチャート は、キャンペーンを実行するためにデータに対して一連のアクションを実行するよ うに設計します。

#### フローチャート

Campaign では、フローチャートはデータに対して実行する一連のアクションを表し ます。すべてのアクションはそれぞれプロセス という構成要素によって定義されま す。プロセスを構成および結合することで、基礎にあるデータを操作して目標を達 成できます。フローチャートは、手動で、スケジューラーにより、または定義済み の何らかのトリガーへの応答として実行できます。

フローチャートを使用して特定のマーケティング目標を達成します。例えば、ダイ レクト・メール・キャンペーンの対象として適格な受信者の判別、その受信者グル ープのメール配信リストの生成、特定のオファーへの各受信者の関連付けなどとい った目標を達成できます。またフローチャートを使用して、キャンペーンへのレス ポンダーをトラッキングおよび処理し、キャンペーンの投資収益率を計算すること もできます。

各キャンペーンごとに、そのキャンペーンを実装するためのフローチャートを 1 つ 以上設計し、必要なデータ操作またはアクションを実行するフローチャートを形成 する各プロセスを構成します。

各フローチャートには以下の要素があります。

- 名前
- 説明
- 構成および接続されたプロセス
- 1 つ以上のデータ・ソース

Interact のライセンス交付を受けたユーザーは、Campaign を使用してリアルタイムの対話式フローチャート を実行することもできます。対話式フローチャートはイベ

ントの発生に依存するフローチャートです。対話式フローチャートについて詳しく は、「Interact ユーザー・ガイド」を参照してください。

#### セッション

セッションとは、アプリケーション内のある特殊な場所のことです。この場所で、 基本的、永続的、およびグローバルなデータ構成体 (戦略的セグメントやキューブ など)が Campaign 管理者によって作成され、すべてのキャンペーンで使用できる ようになります。キャンペーンと同様に、セッションも個々のフローチャートで構 成されます。

#### プロセス

フローチャートは、キャンペーンまたはセッションで特定のタスク (データの選 択、2 つの異なるオーディエンス・グループのマージ、キャンペーン結果の書き出 しなど)を実行するように構成された個々のプロセスで構成されます。

#### オファー

オファーは、さまざまな方法で提供することができる、単一のマーケティング・メ ッセージを表します。

Campaign では、1 つ以上のキャンペーンで使用できるオファーを作成します。

オファーは、以下のように再使用可能です。

- 異なるキャンペーン内で
- 異なる特定時点において
- 異なる人々のグループ (セル) を対象として
- オファーのパラメーター化されたフィールドを変化させた、異なる「バージョン」として

コンタクト・プロセスのいずれかを使用してフローチャートでターゲット・セルに オファーを割り当て、オファーを受け取った顧客および応答した顧客に関するデー タを取得することによりキャンペーン結果をトラッキングします。

#### セル

セルとは、単にデータベースからの ID (顧客や見込み顧客などの ID) のリストで す。Campaign では、フローチャートでデータ操作プロセスを構成および実行して、 セルを作成します。これらの出力セルは、同じフローチャートの他のプロセス (そ の作成元プロセスのダウンストリームにあるもの) で入力として使用することもで きます。作成できるセル数に制限はありません。

Campaign で 1 つ以上のオファーの割り当て先となっているセルはターゲット・セルと呼ばれます。ターゲット・セルとは、同種の個人 (あるいは、個々の顧客や世帯アカウントなど、オーディエンス・レベルが定義されている任意のエンティティー)の固有のグループのことです。例えば、高価値顧客、Web でのショッピングを好む顧客、分割払いのアカウント、E メール・コミュニケーションの受信を決めている顧客、リピートのロイヤル購入者などに、それぞれセルを作成できます。作成した各セルまたはセグメントの扱いはそれぞれ異なっており、異なるチャネルを介して異なるオファーまたはコミュニケーションを受け取ります。

オファーの受け取り対象として適格ではあるが、分析の目的でそのオファーの受け 取り対象から除外されている ID を含むセルは、制御セルと呼ばれます。Campaign では、制御は常に検証制御です。

「セル」という用語は、「セグメント」と互換的に使用される場合があります。戦略的セグメントは、キャンペーン・フローチャート内ではなく、セッション内で作成されるセルです。戦略的セグメントは他のセル(例えば、フローチャート内のセグメント・プロセスによって作成されたセルなど)と変わりませんが、どのキャンペーンでもグローバルに使用できる点が異なります。戦略的セグメントは、その当初の作成元であるフローチャートが再実行されるまで、静的 ID リストとなっています。

## 第2章 Campaign の概要

Campaign で意義のある作業を実行できるようになるには、事前にデータベース表を マップし、(場合によっては) セグメント、ディメンション、キューブなどのデー タ・オブジェクトを作成し、さらに、個々のキャンペーンを計画および設計してお く必要があります。これらの作業は、当初は IBM コンサルタントの支援のもとで 実行し、その初回のキャンペーンと本書を利用して、ユーザー自身で追加のキャン ペーンを設計および実行すること、あるいはさまざまなレベルの支援のもとで初回 のキャンペーンを改善、拡張し、そのキャンペーンを基礎として利用することが期 待されます。

構成およびその他の管理作業について詳しくは、「Campaign インストール・ガイ ド」および「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

## ユーザー名とパスワード

Campaign にアクセスするには、Marketing Platform で作成されたユーザー名とパス ワードの組み合わせが必要であり、Campaign にアクセスする権限を持っている必要 もあります。

有効なユーザー名とパスワードがない場合は、システム管理者にお問い合わせくだ さい。

## IBM EMM にログインするには

この手順は、使用するサーバーへの Web サイト・アドレス (または URL) を知っていること、および割り当てられたユーザー名とパスワードを持っていることを前提としています。支援が必要な場合は、IBM EMM 管理者に問い合わせてください。

- サポートされるブラウザーを開き、IBM EMM サーバーへの URL を入力します。 表示されるプロンプトは、インストール済み環境のために定義されたセキュリティー設定によって異なります。
- 2. プロンプトが出された場合、デジタル・セキュリティー証明書を受け入れます。
- ログイン・ページで、ユーザー名とパスワードを入力して、「サインイン」をク リックします。
- 4. パスワードを変更するためのプロンプトが出された場合は、新しいパスワードを 入力し、再度それを入力して確認し、「パスワードの変更」をクリックします。

ダッシュボードまたはデフォルトの開始ページが表示されます。使用可能となるオ プションは、IBM EMM 管理者によって割り当てられた許可によって異なります。

**注:** サポートされるブラウザーのリストについては、「*IBM EMM Enterprise* 製品の 推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」ガイドを参照してください。

## 役割と権限

Campaign でのユーザー名は、レビュー担当者、デザイナー、マネージャーなどの 1 つ以上の役割に関連付けられています。組織に固有の役割は、管理者が定義しま す。役割によって、Campaign で実行できる機能が決まります。これらの機能を特定 のオブジェクトに対して実行できるかどうかは、組織によって実装されるオブジェ クト・レベルのセキュリティーによって決まります。自分の権限では許可されない オブジェクトにアクセスしたり、タスクを実行したりする必要がある場合は、シス テム管理者にお問い合わせください。

#### Campaign でのセキュリティー・レベル

Campaign でのセキュリティーは、以下の 2 つのレベルで機能します。

- 機能 ユーザーが属する役割に基づいて、オブジェクトのさまざまなタイプに対して実行できるアクションを決定します。これらの役割は組織が実装時に定義し、各役割には一連の権限が関連付けられています。これらの権限は、役割に属するユーザーが実行できるアクションを決定します。例えば、「管理者」という役割が割り当てられているユーザーには、システム・テーブルをマップおよび削除するための権限が与えられる場合があり、「レビュー担当者」という役割が割り当てられているユーザーには、システム・テーブルをマップおよび削除するための権限は与えられない場合があります。
- オブジェクト・許可されているアクションの実行対象にできるオブジェクト・タイプを定義します。言い換えれば、ユーザーが、キャンペーンを編集するための一般的な権限が付与されている役割に属しているとしても、特定のフォルダーにあるキャンペーンにアクセスできないよう、Campaignのオブジェクト・レベルのセキュリティーをセットアップすることができます。例えば、ユーザーが部門Aに属している場合、機能役割に関係なく、部門Bに属するフォルダーの内容へのアクセスを許可されない場合があります。

## 開始ページの設定

IBM EMM に最初にログインした際に、ダッシュボード・ページを表示しない場合 は、インストール済みの IBM 製品のいずれかの 1 つのページを開始ページとして 選択することができます。

表示しているページを開始ページとして設定するには、「設定」> 「現在のページ をホームに設定 (Set current page as home)」を選択します。開始ページとして選 択できるページは、各 IBM EMM 製品および IBM EMM 内のユーザーの権限によ って決定されます。

表示しているページで、「**現在のページをホームに設定 (Set current page as** home)」オプションが有効になっている場合、そのページを開始ページとして設定で きます。

## 第3章 キャンペーン

キャンペーンは、そのキャンペーンを実行するためにデータに対して一連のアクションを実行するようにユーザーが設計した、1 つ以上のフローチャートで構成され ます。フローチャートは複数のプロセスで構成されます。プロセスは、キャンペーンに必要な実際のデータ操作、コンタクト、スケジューリング、およびレスポンス・トラッキングを行うようにユーザーが構成します。プロセスは、実質的にはキャンペーンをどのように定義し、実装するかを表したものです。

複数のチャネルを使用して 1 つのオファーを提供するリテンション・キャンペーン 用に設計されたフローチャートの例は、10ページの『例:マルチチャネルのリテン ション・キャンペーン』を参照してください。

## キャンペーン用のデータの準備

キャンペーン用のデータを準備するには、最初に、顧客と製品に関する情報を含む データ・ソース内のテーブルまたはファイルを Campaign に通知する必要がありま す。データを Campaign にマップすることで、そのデータがプロセスで操作に使用 できるようになります。詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」のデータベース表の 管理に関するセクションを参照してください。

また、キャンペーンで使用するオファー、戦略的セグメント、およびその他のデー タ・オブジェクトの作成も必要になる場合があります。キャンペーンで使用するオ ブジェクトの作成については、205ページの『第 10 章 保管オブジェクト』を参照 してください。

#### Campaign での IBM Digital Analytics セグメントの使用

IBM Digital Analytics Web Analytics 製品を使用すると、ユーザーは訪問レベルおよ びビュー・レベルの基準に基づいてセグメントを定義することができます。これら のセグメントを Campaign で使用できるようにすると、フローチャートでそれらを 使用できるため、マーケティング・キャンペーンでターゲットにすることができま す。この「オンライン・セグメンテーション」機能を使用すると、 IBM Digital Analytics のデータを自動的にキャンペーンに取り込むことができます。

- 統合を構成するには、「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。
- IBM Digital Analytics 定義のセグメントを Campaign で使用するには、76 ページの『 IBM Digital Analytics セグメントを選択プロセスで使用するには』を参照してください。

## キャンペーンの設計

キャンペーンを作成する前に、キャンペーンの書類上での設計と目標の決定を済ま せておく必要があります。書類上でキャンペーンの設計を行ったら、キャンペーン を作成し、キャンペーンの目標を達成するためのフローチャートを 1 つ以上作成す ることにより、Campaign にそのキャンペーンを実装します。 キャンペーンは 1 つ以上のフローチャートで構成されます。フローチャートは相互 接続された複数のプロセスで構成されます。フローチャート内で結合されたプロセ スは Campaign の心臓部と言えます。プロセスが実際のデータ操作、コンタクト、 スケジューリング、およびレスポンス・トラッキングを行うからです。実質、プロ セスはキャンペーンをどのように定義し、実装するかを表したものです。

## 例: マルチチャネルのリテンション・キャンペーン

この例では、複数のチャネルを使用して、自然消滅的に失われた可能性のある顧客 にオファーを提供するリテンション・キャンペーンを示します。次の 2 つのフロー チャートが必要です。

- オファーの送信先(セグメントごとに異なるチャネルを使用)の顧客のリストを生成するためのコンタクト・フローチャート
- オファーへのレスポンスをトラッキングして、レポート作成と分析用にレスポンス・データを書き出すためのレスポンス・フローチャート

#### コンタクト・フローチャート

以下の例は、リテンション・キャンペーンのコンタクト・フローチャートのサンプ ルを示しています。このフローチャートは、それぞれの価値セグメント内で適格な 顧客を選択し、セグメントごとに異なるチャネルのコンタクト・リストを出力しま す。



フローチャートの第 1 レベルでは、Gold セグメントと Platinum セグメントの顧客 と、マーケティング・コミュニケーションから離脱した顧客を選択するのに、選択 プロセスが使用されています。

第 2 レベルでは、マージ・プロセスが Gold および Platinum の顧客を結合し、離脱した顧客を除外します。

次に、セグメント・プロセスが、適格なすべての顧客をスコアに基づいてそれぞれ の価値の層に分割します。

最後に、各顧客がリストに割り当てられます。高価値の顧客はコール・リストに出 カされて、オファーについて電話でコンタクトできるようになります。中価値の顧 客はメール・リストに出力されて、ダイレクト・メール・オファーを受け取るよう になります。最も低価値の顧客は、E メールでオファーを受け取ります。

#### レスポンス・フローチャート

この同じキャンペーンの2番目のフローチャートは、コール・センターおよびレス ポンス取得システムによって取得された、ダイレクト・メール、Eメール、および 電話のオファーに対するレスポンスをトラッキングします。レスポンス情報は、 Campaign のさまざまなパフォーマンス・レポートを通じて入手することができま す。以下の例は、リテンション・キャンペーンのレスポンス・トラッキング・フロ ーチャートを示しています。



## キャンペーンへのアクセスについて

キャンペーンには「キャンペーン一覧」ページからアクセスします。このページは メニューの「**キャンペーン」>「キャンペーン**」リンクから表示できます。

「キャンペーン一覧」に表示される情報は、Campaign 環境の構成方法によって異なります。

- スタンドアロン Campaign 環境 -「キャンペーン一覧」ページには、少なくと も読み取り権限のあるすべてのキャンペーンとキャンペーン・フォルダーが表示 されます。
- Marketing Operations と Campaign の統合環境 レガシー・キャンペーンへのアクセス権限が有効になっている場合、「キャンペーン一覧」ページにはレガシー・キャンペーンのみが表示されます。そうでない場合、このページにキャンペーンの一覧は表示されません。Marketing Operations によって作成されたキャンペーンにはキャンペーン・プロジェクトを通じてアクセスします。

レガシー・キャンペーンについて詳しくは、3ページの『レガシー・キャンペー ンについて』を参照してください。レガシー・キャンペーンへのアクセス権限を 有効にするための Campaign の構成については、インストール文書を参照してく ださい。 Marketing Operations で作成されたキャンペーン・プロジェクトに「キャンペーン 一覧」ページからアクセスする場合は、「**キャンペーン・プロジェクト**」フォル ダーのリンクをクリックします。このフォルダーから、Marketing Operations のプ ロジェクト・ビューにアクセスできます。表示されるプロジェクトは、Marketing Operations で設定したデフォルトのプロジェクト・ビューによって異なります。 必要であれば、すべてのキャンペーン・プロジェクトが表示されるようにこのビ ューを構成することができます。

キャンペーン・プロジェクトについて詳しくは、「*Marketing Operations および Campaign 統合ガイド*」を参照してください。プロジェクト・ビューについて詳し くは、「*Marketing Operations* ユーザー・ガイド」を参照してください。

**注:**「**キャンペーン・プロジェクト**」フォルダーの削除、移動、またはコピーは できません。

## キャンペーンの操作

このセクションでは、Campaign 内でキャンペーンに関して実行できる作業について 説明します。

注: ご使用の Campaign 環境が Marketing Operations と統合されている場合、キャ ンペーンの操作には Marketing Operations 内のキャンペーン・プロジェクトを使用 する必要があります。統合が有効になる前に作成された既存のキャンペーンがその Campaign 環境にあり、Campaign がレガシー・キャンペーンにアクセスできるよう に構成されている場合、本書の説明に従ってそれらのキャンペーンを操作してくだ さい。詳しくは、2ページの『IBM Marketing Operations との統合について』を参 照してください。

注: キャンペーンを操作するには、適切な権限が必要です。権限については、 「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

### キャンペーンの作成方法

1. 「キャンペーン」>「キャンペーン」を選択します。

現行パーティション内のフォルダーまたはキャンペーンが表示された「キャンペ ーン一覧」ページが表示されます。

- 2. フォルダー構造内を移動して、キャンペーンの追加先フォルダーを開きます。
- 3. 「**キャンペーンの追加**」アイコンをクリックします。

「新規キャンペーン」ページが表示されます。

- 4. 「キャンペーン・サマリー」内のフィールドに記入します。
- 5. キャンペーン・サマリーの詳細の入力が完了したら、「**保存と終了**」をクリック します。

「キャンペーン」ページに新しいキャンペーンのリストが表示されます。

注: キャンペーンのフローチャートの作成を直ちに開始する場合は、「保存とフ ローチャートの追加」をクリックすることもできます。ただし、フローチャート を作成する前に、該当するセグメントとオファーをキャンペーンに関連付けることをお勧めします。その方が、フローチャートでの顧客の選択およびコンタクト・リストの作成が簡単になります。

#### 戦略的セグメントのキャンペーンとの関連付け

戦略的セグメントとは、1 つのセッションでシステム管理者 (上級者) が作成し、す べてのキャンペーンで使用できるようにした ID のリストのことです。戦略的セグ メントは他のセグメント (例えば、セグメント・プロセスによって作成されたセグ メントなど) と変わりませんが、どのキャンペーンでもグローバルに使用できる点 が異なります。

戦略的セグメントをキャンペーンと関連付けると、フローチャートの作成時にその セグメントを簡単に選択できます。また、関連する戦略的セグメントをキャンペー ンと関連付けることで、Campaign内のレポート機能が向上します。

#### セグメントをキャンペーンに関連付ける方法

1. 「キャンペーン・サマリー」タブで、「**セグメントの追加/削除**」アイコンをクリ ックします。

「セグメントの追加/削除」ウィンドウが表示されます。

- 2. 追加するセグメントを以下のように選択します。
  - 追加するセグメントが見つかるまで、フォルダーをクリックしながらフォルダーの間を移動していきます。
  - 「ツリー・ビュー」/「リスト・ビュー」をクリックしてセグメントのリスト・ビューを変更してから、追加するセグメントに移動します。
  - 「検索」をクリックして「検索」タブにアクセスします。追加するセグメント を見つけるための名前や説明をこのタブで入力できます。
- 追加するセグメントを選択(複数可)し、>> をクリックしてそれらを「含める セグメント」リストに移動します。Shift キーを押しながらクリックするか、 Ctrl キーを押しながらクリックすると、複数のセグメントを選択できます。
- 4. このキャンペーンに関連付けるセグメントの選択が完了したら、「変更の保存」 をクリックします。

追加したセグメントは「キャンペーン・サマリー」ページの「**関連セグメント**」の 下にリストされます。

注:選択プロセスを使用してキャンペーンのフローチャートで顧客を選択する場合、キャンペーンに関連付けられているセグメントがリストの先頭に表示されるので、顧客が見つけやすくなります。

## オファーのキャンペーンとの関連付け

キャンペーンを定義する際にオファーをキャンペーンと関連付けると、コンタクト・プロセスでオファーをセルに割り当てるときに、そのオファーを簡単に選択できます。「キャンペーン・サマリー」タブからキャンペーンに関連するオファーを定義する場合、「トップダウン」の関連付けと呼ばれます。最初にキャンペーンとの関連付けをせずに単純にフローチャートでオファーを使用する場合は、「ボトムアップ」の関連付けと呼ばれます。

#### 「キャンペーン・サマリー」タブからオファーを「トップダウン」で 関連付ける方法

1. 「キャンペーン・サマリー」タブで、「**オファーの追加/削除**」アイコンをクリッ クします。

「オファーの追加/削除」ウィンドウが表示されます。

- 2. 追加するオファーを以下のように選択します。
  - 追加するオファーが見つかるまで、フォルダーをクリックしながらフォルダーの間を移動していきます。
  - 「検索」をクリックして「検索」タブにアクセスします。追加するオファーを 見つけるための名前、説明、またはコードをこのタブで入力できます。
- 追加するオファーを選択(複数可)し、>> をクリックしてそれらを「含めるオ ファー」リストに移動します。Shift キーを押しながらクリックするか、Ctrl キ ーを押しながらクリックすると、複数のセグメントを選択できます。
- 4. このキャンペーンに関連付けるオファーの選択が完了したら、「変更の保存」を クリックします。

追加したオファーは「キャンペーン・サマリー」タブの「**関連オファー**」の下にリ ストされます。これらのオファーは、このキャンペーンのフローチャートで使用す るまでぼかし表示されます。

「キャンペーン・サマリー」タブの「関連オファー」セクションには、キャンペー ンに関連付けられているすべてのオファーがリストされます。「トップダウン」で 関連付けられているオファーは、「ボトムアップ」で関連付けられているオファー とは、視覚的に区別されます。オファー名の横にアスタリスクが付いている場合、 そのオファーは「トップダウン」方式でキャンペーンに関連付けられたことを示し ます。最初にトップダウンで定義されずに直接フローチャートで使用されたオファ ーは、アスタリスクなしで表示されます。トップダウンで定義されていても、まだ フローチャートで使用されていないオファーは、フローチャートで使用されるまで ぼかし表示されます。

コンタクト・プロセスを使用してキャンペーンのフローチャートにコンタクト・リ ストを作成する場合、トップダウンで定義されたオファーはリストの先頭に表示さ れるので、1 つ以上のターゲット・セルへの割り当て用にオファーを見つけて選択 することが容易になります。

#### キャンペーンの表示方法

1. 「**キャンペーン」>「キャンペーン**」を選択します。

現行パーティション内のフォルダーまたはキャンペーンが表示された「キャンペ ーン一覧」ページが表示されます。

- 2. 表示するキャンペーンを含むフォルダーに移動します。
- 3. 表示するキャンペーンの名前をクリックして、そのキャンペーンを「サマリー」 タブで開きます。

または

4. 表示するキャンペーンの名前の横にある「**タブの表示**」アイコンをクリックしま す。

「サマリー」、「ターゲット・セル」、および「分析」のタブを選ぶための選択 項目が (そのキャンペーンの表示の上部に横並びで、またはポップアップ・メニ ューとして)表示され、キャンペーン内の各フローチャート (ある場合)の表示 に関する選択項目も表示されます。

5. 表示するキャンペーンのタブをクリックします。

選択したタブでキャンペーンが開きます。

## リンクされたレガシー・キャンペーンから Marketing Operations プロジェクトに移動する方法

1. 「キャンペーン」>「キャンペーン」を選択します。

現行パーティション内のフォルダーまたはキャンペーンが表示された「キャンペ ーン一覧」ページが表示されます。レガシー・キャンペーンのみがリストされま す。

Marketing Operations と Campaign の統合が有効になった状態で作成されたキャ ンペーンを表示するには、「キャンペーン・プロジェクト」フォルダーをクリッ クします。レガシー・キャンペーンがない場合、または構成内でレガシー・キャ ンペーンが有効になっていない場合、このページは常に空になります。

2. 前に Affinium Plan のプロジェクトにリンクしたキャンペーンの名前をクリック します。

「サマリー」タブにキャンペーンが開きます。

3. 「**関連プロジェクト**」フィールドに表示されたプロジェクトの名前をクリックし ます。

Marketing Operations が開き、リンクされたプロジェクトの「**サマリー**」タブが 表示されます。

 Campaign に戻るには、Marketing Operations 内の(「関連キャンペーン (コー ド)」) フィールド内のプロジェクトの名前をクリックします。

#### キャンペーンのサマリー詳細の編集方法

1. 「キャンペーン」ページで、サマリー詳細を編集するキャンペーンの名前をクリ ックします。

また、「**タブを編集**」アイコンをクリックしてコンテキスト・メニューから「サ マリー」を選択すると、編集モードのキャンペーン・サマリーに直接アクセスで きます。

「サマリー」タブにキャンペーンが開きます。

- 2. 「サマリーの編集」アイコンをクリックします。
- 3. 「サマリー」タブで必要な編集を行います。

注: キャンペーン名には文字に関する特定の制限があります。詳しくは、265 ペ ージの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

4. 変更を完了したら、「保存と終了」をクリックします。

変更が保存され、キャンペーンが閉じます。

#### キャンペーンの実行について

キャンペーンを実行するには、キャンペーン内の 1 つ以上のフローチャートを実行 します。フローチャートを実行するには、事前にそのフローチャートのすべてのプ ロセスを正しく構成しておく必要があります。構成されていないフローチャート・ プロセスはぼかし表示されます。正常に構成されたフローチャート・プロセスは色 付きで表示されます。

システム・テーブルに出力が書き込まれないようにして実行する、フローチャート のテスト実行を行うことができます。

#### キャンペーンの印刷方法

「**項目の印刷**」アイコンを使用すると、キャンペーン内の任意のページを印刷できます。

1. 印刷するキャンペーンのタブを選択します。

選択したタブが開きます。

2. 「項目の印刷」アイコンをクリックします。

現在のページの印刷用ページを表示する新しいウィンドウが開きます。

3. 「印刷」をクリックします。

「印刷」ウィンドウが表示され、ここでプリンター・オプションを設定できま す。

4. 「印刷」ウィンドウで「印刷」をクリックします。

ページが印刷されます。

#### キャンペーンの移動方法

キャンペーンをフォルダーからフォルダーへ移動することで、キャンペーンの編成 を行えます。

**重要:**移動を計画しているキャンペーン内のフローチャートを誰かが編集中の場合、キャンペーンを移動するとそのフローチャート全体が失われる可能性があります。キャンペーンの移動時は、そのキャンペーン内のフローチャートがいずれも編集用に開かれていないことを確認してください。

- 「キャンペーン」ページで、移動するキャンペーンの横のチェック・ボックスを 選択します。複数のキャンペーンを選択して、一度に同じ場所に移動することが できます。
- 2. 「移動」アイコンをクリックします。

「項目の移動」ウィンドウが表示されます。

3. キャンペーンの移動先のフォルダーをクリックします。

フォルダーの横にある + 記号をクリックしてフォルダーを開き、リストをナビ ゲートします。

4. 「このロケーションを受け入れる」をクリックします。

注:フォルダーをダブルクリックすると、場所の選択と受け入れを 1 回の手順 で行うこともできます。

キャンペーンが宛先フォルダーに移動されます。

#### キャンペーンの削除について

キャンペーンを削除すると、キャンペーンとすべてのフローチャート・ファイルが 削除されます。再使用するためにキャンペーンの一部を保管しておく場合は、その 部分を保管オブジェクトとして保存できます。詳しくは、 205 ページの『第 10 章 保管オブジェクト』を参照してください。

**重要:** コンタクト履歴やレスポンス履歴のレコードが関連付けられているキャンペ ーンを削除すると、対応するコンタクト履歴およびレスポンス履歴のレコードもす べて削除されます。関連するコンタクト履歴およびレスポンス履歴を保持する必要 がある場合は、キャンペーンを削除しないでください。

#### キャンペーンの削除方法

- 1. 「キャンペーン」ページで、削除するキャンペーンに移動します。
- 2. 削除するキャンペーンの横のチェック・ボックスを選択します。複数のキャンペ ーンを選択して一度に削除できます。
- 3. 「選択項目の削除」アイコンをクリックします。

**重要:** コンタクト履歴やレスポンス履歴のレコードが関連付けられているキャン ペーンを削除しようとすると、対応するコンタクト履歴およびレスポンス履歴の レコードもすべて削除されることを示す警告メッセージが表示されます。対応す るコンタクト履歴およびレスポンス履歴を保持する必要がある場合は、「**キャン セル**」をクリックします。

4. 確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

選択したキャンペーンが削除されます。

注: キャンペーンを表示しているときに、「削除」アイコンをクリックしてキャンペーンを削除することもできます。

#### キャンペーン結果の分析

キャンペーンを実行した後は、結果を測定し、その結果を使用して戦略を細かく調 整することができます。Campaign は、実際の応答率、売上、レスポンダー当たりの 利益など、キャンペーンに関するさまざまな情報を分析します。この情報に基づ き、Campaign は合計および増分の売上と利益、および全体的な ROI を計算できま す。 Campaign には、キャンペーンに関する情報の収集および分析に役立つ複数のタイプ のレポートがあります。レポートの操作については、245ページの『第 12 章 レポ ート』を参照してください。

#### キャンペーンの編成

キャンペーンはフォルダーまたは一連のフォルダーを作成して編成することができ ます。これにより、作成したフォルダー構造内の1つのフォルダーから別のフォル ダーにキャンペーンを移動できます。キャンペーンを編成するために、フォルダー の追加、移動、および削除が可能です。フォルダーの名前および説明を編集するこ ともできます。

#### キャンペーン・フォルダーの追加方法

1. 「キャンペーン」>「キャンペーン」を選択します。

現行パーティション内のフォルダーまたはキャンペーンが表示された「キャンペ ーン一覧」ページが表示されます。

サブフォルダーの追加先フォルダーに移動して「サブフォルダーの追加」をクリックします。または最上位にフォルダーを追加する場合は、単純に 「サブフォルダーの追加」をクリックします。

「サブフォルダーの追加」ページが表示されます。

3. フォルダーの名前、セキュリティー・ポリシー、および説明を入力します。

注:フォルダー名には文字に関する特定の制限があります。詳しくは、265ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

4. 「変更の保存」をクリックします。

「キャンペーン一覧」ページに戻ります。作成した新しいフォルダーまたはサブフ ォルダーが表示されます。

#### キャンペーン・フォルダーの名前と説明の編集方法

1. 「キャンペーン」>「キャンペーン」を選択します。

現行パーティション内のフォルダーまたはキャンペーンが表示された「キャンペ ーン一覧」ページが表示されます。

- 2. 名前を変更するフォルダーをクリックします。
- 3. 「名前の変更」をクリックします。

「サブフォルダー名の変更」ページが表示されます。

4. フォルダーの名前と説明を編集します。

注:フォルダー名には文字に関する特定の制限があります。詳しくは、265ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

5. 「変更の保存」をクリックします。

「キャンペーン一覧」ページに戻ります。フォルダーまたはサブフォルダーの名前 が変更されます。

#### キャンペーン・フォルダーの移動方法

1. 「キャンペーン」>「キャンペーン」を選択します。

現行パーティション内のフォルダーまたはキャンペーンが表示された「キャンペ ーン一覧」ページが表示されます。

- 2. 移動するサブフォルダーを含むフォルダーに移動します。
- 3. 移動するフォルダーの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のフォル ダーを選択して同じ場所に一度に移動できます。
- 4. 「移動」アイコンをクリックします。

「項目の移動」ウィンドウが表示されます。

5. サブフォルダーの移動先のフォルダーをクリックします。

フォルダーの横にある + 記号をクリックしてフォルダーを開き、リストをナビ ゲートします。

6. 「このロケーションを受け入れる」をクリックします。

注:フォルダーをダブルクリックすると、場所の選択と受け入れを 1 回の手順 で行うこともできます。

サブフォルダーとそのすべての内容が宛先フォルダーに移動されます。

#### キャンペーン・フォルダーの削除方法

フォルダーを削除するには、事前にフォルダーの内容を移動または削除する必要があります。

注:フォルダーを削除するために必要な権限を持っている場合、Campaign で、そのフォルダー内のサブフォルダーを削除することもできます。

1. 「キャンペーン」>「キャンペーン」を選択します。

現行パーティション内のフォルダーまたはキャンペーンが表示された「キャンペ ーン一覧」ページが表示されます。

- 2. 削除するサブフォルダーを含むフォルダーに移動します。
- 3. 削除するフォルダーの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のフォル ダーを選択して一度に削除できます。
- 4. 「選択項目の削除」をクリックします。
- 5. 確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

フォルダーと、下位のすべての空のサブフォルダーが削除されます。

## キャンペーンに関するリファレンス情報

このセクションでは、キャンペーンを操作するための Campaign インターフェース のフィールドとアイコンについて説明します。

## 「キャンペーン一覧」ページのアイコン

「キャンペーン一覧」ページでは以下のアイコンが使用されます。



以下の表では、左側のアイコンから右側のアイコンへの順番で説明します。

注: Campaign インターフェースの多くのアイコンは、権限が必要な機能に関連付け られています。詳しくは、「*Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してくださ い。

表1. 「キャンペーン一覧」ページで使用されるアイコン

アイコン名	説明
キャンペーンの追加	新しいキャンペーンを追加する場合にクリックします。 注:ユーザーに適切な権限がない場合、または Marketing Operations と Campaign の統合が有効でない場合、このアイ コンは表示されません。 Marketing Operations でのキャン ペーン・プロジェクトの作成については、「 <i>Marketing</i> <i>Operations および Campaign 統合ガイド</i> 」を参照してくだ さい。
サブフォルダーの追加	新しいキャンペーン・サブフォルダーを追加する場合にクリ ックします。
項目の印刷	ページを印刷します。
移動	各項目の横にあるチェック・ボックスをクリックして 1 つ 以上のキャンペーンまたはキャンペーン・サブフォルダーを 選択した後、このアイコンをクリックして選択した項目の移 動先となる新しい場所を指定します。
選択項目の削除	各項目の横にあるチェック・ボックスをクリックして 1 つ 以上のキャンペーンまたはキャンペーン・サブフォルダーを 選択した後、このアイコンをクリックして選択した項目を削 除します。
キャンペーンの再ロード	ページ上のキャンペーンのリストをリフレッシュする場合に このアイコンをクリックします。

## 「キャンペーン・サマリー」タブのアイコン

「キャンペーン・サマリー」タブでは以下のアイコンが使用されます。



以下の表では、左側のアイコンから右側のアイコンへの順番で説明します。

注: インターフェースの多くのアイコンは、権限が必要な機能に関連付けられています。詳しくは、「Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。適切な

権限がない場合、「サマリーの編集」、「セグメントの追加/削除」、「オファーの 追加/削除」、「フローチャートの追加」、「キャンペーンの移動」、および「キャ ンペーンの削除」のアイコンは表示されません。

表2. 「キャンペーン・サマリー」 タブのアイコン

アイコン名	説明
サマリーの編集	キャンペーン・サマリーを編集する場合に、このアイコンを
	クリックします。
セグメントの追加/削除	このキャンペーンに関連付けられている戦略的セグメントを
	変更する場合に、このアイコンをクリックします。
オファーの追加/削除	このキャンペーンに関連付けられているオファーを変更する
	場合に、このアイコンをクリックします。
実行	「実行」メニューにアクセスする場合に、このアイコンをク
	リックします。このメニューで「 <b>すべて実行</b> 」を選択する
	と、このキャンペーン内のすべてのフローチャートを実行で
	きます。
フローチャートの追加	このキャンペーンにフローチャートを追加する場合に、この
	アイコンをクリックします。
項目の印刷	キャンペーン・サマリーを印刷する場合に、このアイコンを
	クリックします。
キャンペーンの移動	キャンペーンの移動先となる新しい場所を指定する場合に、
	このアイコンをクリックします。
キャンペーンの削除	キャンペーンを削除する場合に、このアイコンをクリックし
	ます。

## 「キャンペーン・サマリー」タブに関するリファレンス情報

次の表では、「キャンペーン・サマリー」タブのフィールドについて説明します。

表3. 「キャンペーン・サマリー」タブのフィールド

フィールド	説明
セキュリティー・ポリシー	キャンペーンに適用されるセキュリティー・ポリシー。
説明	「キャンペーン一覧」ページのキャンペーン名の下に表示さ れる、このキャンペーンの説明。
目的	このキャンペーンの目的。
キャンペーン・コード	キャンペーンの固有 ID。指定されたフォーマットに従って います。Campaign は、それぞれの新規キャンペーンに固有 のキャンペーン・コードを自動的に生成します。このコード はデフォルト・フォーマットまたは組織のカスタム・フォー マットに従っています。このコードを編集するか、「コード の再生成」をクリックして新しいコードを生成できます。 注:コードを編集すると、Campaign ではキャンペーン・コ ードの全体的な固有性が確保されなくなります。レスポン ス・トラッキングを実行する場合は、トラッキング・コード として (キャンペーン・コードなどの) 編集可能コードの使 用は避けるようにしてください。代わりに、Campaign が生 成した処理コードを使用してください。処理コードは手動で 編集できず、固有性が保証されます。

表3. 「キャンペーン・サマリー」タブのフィールド (続き)

フィールド	説明
開始日/終了日	キャンペーンが有効な期間を示す日付範囲。日付を手動入力
	するか、カレンダー・アイコンをクリックするか、または前
	後の矢印を使用して日付を選択することができます。
イニシアチブ	そのキャンペーンが該当するイニシアチブ。選択可能なイニ
	シアチブのリストはシステム管理者が作成します。
所有者	この編集不可フィールドには、このキャンペーンを作成した
	担当者のユーザー名が表示されます。

システム管理者が作成したカスタム属性はすべてページ下部に表示されます。

## 第4章 フローチャート

フローチャートを使用して、キャンペーン・ロジックを実行するためにデータ上で 一連のアクションを実行します。キャンペーンは、1 つ以上のフローチャートから 構成されています。フローチャートは、キャンペーンで必要になるデータ操作、コ ンタクト・リストの作成、あるいはコンタクトおよびレスポンスのトラッキングを 実行するために構成する複数のプロセスで構成されています。実質的に、プロセス はキャンペーンを定義および実装する方法です。

注:フローチャートで作業するには、適切な権限が必要になります。権限について 詳しくは、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

## フローチャート・ワークスペースの概要

フローチャート・ワークスペースは、フローチャートを設計するためのツールとスペースを備えています。

フローチャートを作成または編集するときに、別個のフローチャート・ウィンドウ が開きます。作業していく中で、フローチャート・ウィンドウを移動したりサイズ 変更したりすることができます。一度に開くことができるフローチャートは 1 つだ けです。あるフローチャートが既に開かれているときに別のフローチャートを開こ うとすると、変更の保存を促すプロンプトが出されます。

注: ポップアップ・ブロッカーは、フローチャート・ウィンドウが開かないように します。ブラウザーまたはブラウザー・アドオンのポップアップ・ブロッカーを必 ずオフにしてください。

次の図は、フローチャート・ウィンドウで編集するために開いているフローチャートを示しています。



フローチャート・ウィンドウは、以下の要素から成ります。

表4. フローチャート・ウィンドウの要素

	要素	説明
1	ツールバー	ツールバー (ウィンドウの最上部)には、フローチャートを扱う作業のためのオプションがあります。各オプションの機能を知るには、カーソルをオプション上に置きます。「変更を保存し編集を続ける」アイコンをクリックして、フローチャートを頻繁に保存してください。完了したら、「保存して終了」をクリックします。
2	パレット	パレット (ウィンドウの左側) には、フローチャートを作成するためにワークスペースにドラッグ できるプロセスが収められています。デフォルトでは、すべてのプロセス・タイプが表示されま す。プロセスのサブセットをカテゴリー (「 <b>リスト生成」、「セグメンテーション」、「レスポン</b> ス」、「データ準備」)別に表示するには、カテゴリー・ボタンを使用します。
3	ワークスペ ース	ワークスペースは、プロセス・ボックスを構成および接続してフローチャートを作成する場所で す。パレットにあるプロセス・ボックスをワークスペースにドラッグした後、プロセス・ボックス をダブルクリックして構成します。
		ボックスを接続するには、矢印が 4 つ表示されるまでカーソルをプロセス・ボックス上に置いた 後、あるプロセス・ボックスから別のプロセス・ボックスへ接続矢印をドラッグします。
		プロセス・ボックスを右クリックすると、オプションのメニューが開きます。
		フローチャートの全体を表示し、見たい部分を強調表示するには、右下隅にある灰色の小ボックス を使用します。

大きいまたは複雑なフローチャートを扱うときは、以下の操作が可能です。

- ツールバーの「プロセス名の検索」フィールドにプロセス名を入力して、プロセス・ボックスを検索する。
- ワークスペースの右下隅にある灰色の小ボックスを移動して、フローチャートの 全体を表示する。ワークスペースのこのビジュアル表示は、すべてのプロセス・ ボックスが同時に画面に収まらないときに有用です。
- ツールバーの「内容に合わせて調整」アイコンをクリックして、フローチャートをワークスペースに入るようにサイズ変更する。その後必要であれば、ズーム・オプションや灰色の小さいナビゲーション・ボックスを使用できます。

フローチャートの外観の変更については、50ページの『フローチャートの外観の変 更』を参照してください。

#### フローチャートの設計についての考慮事項

フローチャートを作成する際は、次のような考慮事項に注意してください。

- 循環依存関係の回避。プロセス間に循環依存関係を作成しないように注意してください。例えば、フローチャートに、セグメント化プロセスへの入力を提供する 選択プロセスがあるとします。選択プロセスでの入力として、その選択プロセスが出力を提供するセグメント化プロセスと同じプロセスによって作成されるセグメントを選択すると、循環依存関係が作成されてしまいます。この状態は、このプロセスを実行しようとするとエラーになります。
- グローバル抑制の適用。組織でグローバル抑制機能を使用する場合は、IDの特定のセットが、ターゲット・セルおよびキャンペーンでの使用から自動的に除外される可能性があることに注意してください。

## フローチャートの作成

新規フローチャートを作成するか、既存のフローチャートをコピーすることにより、新規のフローチャートをキャンペーンに追加できます。

既存のフローチャートをコピーすることにより、完成したフローチャートを使用し て作業を開始し、必要に応じてそのフローチャートを変更できるため、時間を節約 することができます。

フローチャートの作成を支援するために、事前構成されたフローチャート・テンプ レートを使用して、共通のキャンペーン・ロジックまたはプロセス・ボックス・シ ーケンスを素早く作成できます。また、照会、テーブル・カタログ、トリガー、カ スタム・マクロ、ユーザー変数、およびユーザー定義フィールドの定義など、その 他のオブジェクトを保存して再使用することもできます。

#### フローチャートを作成するには

注:対話式フローチャートを作成する場合は、IBM Interact の資料で詳細を確認して ください。

 フローチャートを追加するキャンペーンまたはセッションで、「フローチャート の追加」アイコンをクリックします。

「フローチャートのプロパティー」ページが表示されます。

2. フローチャートの名前および説明を入力します。

注:フローチャート名には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

注:「フローチャート・タイプ」では、ライセンス交付を受けた Interact ユーザ ーでない限り、「標準バッチ・フローチャート」が選択できる唯一のオプション です。ライセンス交付を受けたバージョンの Interact をインストールしている場 合は、「対話式フローチャート」も選択できます。

3. 「保存とフローチャートの編集」をクリックします。

フローチャートが新しいウィンドウで開きます。このウィンドウには、プロセス・パレット (左側)、ツールバー (最上部)、およびブランクのフローチャート・ワークスペースがあります。フローチャート・ワークスペースの概要については、23ページの『フローチャート・ワークスペースの概要』を参照してください。

パレットにあるプロセス・ボックスをワークスペースにドラッグすることにより、フローチャートにプロセスを追加します。

通常、フローチャートは 1 つ以上の選択またはオーディエンス・プロセスから 始まり、作業を行う顧客またはその他の市場性のあるエンティティーを定義しま す。

5. ワークスペース内のプロセスをダブルクリックして構成します。

詳しくは、43ページの『第 5 章 Campaign プロセスの概要』を参照してください。

重要:プロセスを追加して構成しているときは、「変更を保存し編集を続ける」 を頻繁にクリックしてください。

- 6. キャンペーンのワークフローを決定する各構成済みプロセスを接続します。
- 7. 「保存して終了」をクリックしてフローチャート・ウィンドウを閉じます。

#### フローチャートのコピー

既存のフローチャートをコピーして、キャンペーンに追加することにより、完成し たフローチャートを使用して作業を開始し、必要に応じてそのフローチャートを変 更できるため、時間の節約になります。

コピーされたフローチャートにコンタクト・プロセス(メール・リストまたはコー ル・リスト)が含まれており、そのターゲット・セルが、ターゲット・セル・スプ レッドシートに定義されたターゲット・セルにリンクされている場合、複製したセ ル・コードが発生しないように、フローチャートの新規コピーのセルに対して新規 セル・コードが生成されます。ターゲット・セルがフローチャートで定義されてお り、コンタクト・プロセスの「セル・コードを自動生成」オプションがオフになっ ている場合、コピーされたフローチャートを貼り付けても、新しいセル・コードは 生成されません。

注:フローチャートをコピーする際に、古いフローチャートのセル・コードを参照 するユーザー定義フィールドがフローチャート・ロジックで使用されていると、新 しいフローチャート内でこのロジックが破損します。

プロセス構成設定は新規フローチャートにコピーされます。ただし、オリジナルの フローチャートの実行結果として作成された一時ファイルや一時テーブルは、新規 フローチャートにはコピーされません。

#### フローチャートをコピーするには

1. コピーするフローチャートを表示します。

例えば、キャンペーンを表示しているときに、フローチャートのタブをクリック することができます。

2. 「コピー」アイコンをクリックします。

「フローチャートの複製」ウィンドウが表示されます。

3. フローチャートのコピー先のキャンペーンを選択します。

フォルダーの横にある + 記号をクリックして展開し、リスト内を移動します。

4. 「このロケーションを受け入れる」をクリックします。

**注:** フォルダーをダブルクリックすると、場所の選択と受け入れを 1 回の手順 で行うこともできます。

選択したキャンペーンにフローチャートが移動します。

#### フローチャートの表示

フローチャートの「表示」権限を持っている場合、そのフローチャートを読み取り 専用モードで開いて表示できます。これにより、フローチャート構造を表示するこ とはできますが、プロセス構成ダイアログを開いたり、変更を加えたりすることは できません。読み取り専用モードでは、プロセスおよびプロセス間の接続を表示し て、フローチャートの目的を素早く確認できます。

フローチャートが表示用に開かれたときに、ズームアウトしてさらに多くのプロセ スを一度に表示したり、ズームインしてフローチャートの一部を拡大してより詳細 に表示することもできます。

フローチャートの詳細 (フローチャート内のプロセスの構成方法など)をさらに表示 するには、フローチャートを確認または編集用に開く必要があります。

## フローチャートを表示するには

以下の3つの方法で、フローチャートを表示することができます。

- 「キャンペーン」ページで、キャンペーンの横にある「タブを表示」アイコンを クリックし、表示するフローチャートをメニューから選択します。
- キャンペーンから直接フローチャート・タブを開きます。
- キャンペーンの「分析」タブを開き、次に、フローチャートのリストからフロー チャート名をクリックします。

ズームインおよびズームアウトするには

「ズームイン」および「ズームアウト」アイコンをクリックします。

#### フローチャートの確認

ユーザーがフローチャートの「確認」権限(「編集」権限ではなく)を持っている場合は、「確認」モードでのみフローチャートを開くことができます。「確認」モードでは、プロセス構成の表示およびフローチャートの変更を行うことはできますが、変更を保存したり、フローチャートまたはそのいずれかのプロセスの実稼働実行を行ったりすることはできません。これにより、不注意によるフローチャートの変更を心配することなく、フローチャートの内容を安全に検査したり、フローチャート内のプロセスを安全にコピーおよび再使用することができます。

**重要:** テスト実行は出力を書き出したり、トリガーを実行したりする場合があるこ とに注意してください。また、「確認」モードの場合でも、ユーザーが適切な権限 を持っている場合はフローチャートでカスタム・マクロやトリガーを編集できるた め、フローチャートが変更される場合があります。

「確認」モードで実行可能な他のアクションは以下のとおりです。

- ・ テストの実行 (適切な権限を持っている場合)
- 確認中のプロセスまたはフローチャートのテンプレートとしての保存

**重要:**「確認」モードでは、フローチャートの自動保存オプションは無効になって おり、使用可能にすることはできません。フローチャートへの変更を保存するに は、「編集」権限を持っている必要があります。

#### フローチャートのプロセスを確認するには

注: フローチャートを「編集」モードで開いたときと同じようにして、「確認」モードでフローチャートを開きます。ユーザーが編集権限を持っていない場合は、権限の設定により、「確認」モードでのみフローチャートへのアクセスが可能になるように自動的に設定されます。

以下のいくつかの方法で、フローチャートを確認用に開くことができます。

- 「キャンペーン」ページで、キャンペーンの横にある「タブを編集」アイコンを クリックし、確認するフローチャートをメニューから選択します。
- キャンペーンを開いてから、フローチャート・タブをクリックします。フローチャート・ページで、「編集」アイコンをクリックします。

**Ctrl** を押しながら、フローチャート・タブをクリックして、フローチャートを 「確認」モードで直接開くこともできます。

キャンペーンの「分析」タブを開き、確認するフローチャートへのリンクをクリックしてから、「編集」アイコンをクリックします。

「分析」タブで、Ctrl を押しながら、フローチャート・リンクをクリックして、 フローチャートを「確認」モードで直接開くこともできます。

「確認」モードでフローチャートを開くと、フローチャートは確認モードで表示されており、変更を加えても保存できないことを示すメッセージが表示されます。ページ見出しに「確認中 (Reviewing)」と示され、「キャンセル」オプションのみが表示されます。

## フローチャートの編集

プロセスを追加または削除したり、プロセスを構成したりするためにフローチャー トを編集します。フローチャートの名前および説明を編集することもできます。

重要:他の人が既に編集しているフローチャートを編集する場合は、Campaignから、フローチャートが他のユーザーによって開かれていることを示す警告が出されます。そのままフローチャートを開き続けると、他のユーザーによる変更が即時に完全に失われます。作業の損失を防ぐため、他のユーザーが開いているかどうかを最初に確認せずにフローチャートを開き続けないようにしてください。

#### 編集用にフローチャートを開くには

以下のいくつかの方法で、フローチャートを編集用に開くことができます。

- 「キャンペーン」ページで、キャンペーンの横にある「タブを編集」アイコンを クリックし、メニューからフローチャートを選択します。
- キャンペーンを開いてから、フローチャート・タブをクリックします。フローチャート・ページで、「編集」アイコンをクリックします。

Ctrl を押しながら、フローチャート・タブをクリックして、フローチャートを 「編集」モードで直接開くこともできます。

キャンペーンの「分析」タブを開き、編集するフローチャートへのリンクをクリックしてから、「編集」アイコンをクリックします。

Ctrl を押しながら、フローチャート名をクリックして、フローチャートを「編 集」モードで直接開くこともできます。

#### フローチャートのプロパティーを編集するには

- 1. フローチャートを編集用に開きます。
- 2. 「フローチャート」ツールバーの「**プロパティー**」アイコンをクリックします。

「フローチャート・プロパティーの編集」ページが表示されます。

3. フローチャートの名前または説明を変更します。

注:フローチャート名には、文字に関する特定の制限があります。265ページの 『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

4. 「変更の保存」をクリックします。

変更したフローチャート詳細が保存されます。

## フローチャートの検証

「フローチャートの検証」機能を使用して、フローチャートの妥当性をいつでも (フローチャートの実行時は除く)確認できます。フローチャートで検証を実行する ために、そのフローチャートを保存しておく必要はありません。

検証では、フローチャートについて以下の検査を行います。

- フローチャート内のプロセスが構成されているかどうか。
- セル・コードがフローチャート内で固有であるかどうか。ただし、これは、 AllowDuplicateCellCodes 構成パラメーターが「いいえ」 に設定されている場合の みです。このパラメーターが「はい」に設定されている場合は、フローチャート 内で複製するセル・コードが許可されます。
- セル名がフローチャート内で固有であるかどうか。
- コンタクト・プロセスによって参照されるオファーおよびオファー・リストが有効であるかどうか(すなわち、それらが回収されたり、削除されたりしていないかどうか)。参照されるが、空であるオファー・リストはエラーを生成せず、警告のみ出されます。
- ターゲット・セル・スプレッドシートからトップダウン・エントリーにリンクされるセルが、引き続き接続されているかどうか。

検証ツールは、フローチャートで検出された最初のエラーを報告します。検証ツー ルを何度か連続して実行し(表示された各エラーを修正した後で)、検出されたすべ てのエラーが修正されたことを確認することが必要になる場合もあります。

**注:**最良の方法は、実稼働実行を行う前にフローチャートで検証を実行することで す。これは、バッチ・モードでフローチャートを実行する場合、または実行をアク ティブにモニターしない場合は特に推奨されます。

#### フローチャートを検証するには

1. 「編集」モードのフローチャート・ページで、「実行」アイコンをクリックし、 「**フローチャートの検**証」を選択します。

Campaign によって、フローチャートが検査されます。

フローチャートにエラーがあると、メッセージ・ボックスが表示され、最初に見つかったエラーが表示されます。それぞれのエラーを修正し、検証ツールを再実行すると、残りのエラーが引き続き表示されます。

## フローチャートのテスト

データを出力したり、テーブルやファイルを更新したりしたくない場合は、フロー チャートまたはブランチでテスト実行を行うことができます。ただし、テスト実行 および実稼働実行の両方の完了時にトリガーが実行されることに注意してくださ い。

プロセス、ブランチ、またはフローチャートをテストする場合は、グローバル抑制 が適用されることに注意してください。

**注:** フローチャートの作成時にプロセスおよびブランチでテスト実行を行うことが 推奨されます。これにより、エラーが発生した場合はそれらをトラブルシューティ ングすることができます。また、フローチャートを実行またはテストする前に、各 フローチャートを必ず保存してください。

## フローチャートをテスト実行するには

- 1. フローチャートを「**編集**」モードで開きます。フローチャートは実行前に保存す ることがベスト・プラクティスです。
- 2. 「実行」アイコンをクリックし、「フローチャートのテスト実行」を選択しま す。

フローチャートはテスト・モードで実行されるので、どのテーブルにもデータは 書き込まれません。

正常に実行されたプロセスのそれぞれに、チェック・マークが表示されます。エ ラーがある場合、プロセスには赤色の X が表示されます。

3. ツールバーの「保存」オプションのいずれかを使用します。

フローチャートの実行が終了する前に「**保存して終了**」をクリックすると、フロ ーチャートは実行を継続し、終了した時点で保存されます。まだ実行中のフロー チャートが再オープンされると、そのフローチャートに対して行われた変更はす べて失われます。このため、フローチャートは実行前に必ず保存してください。

実行を一時停止するには、プロセス・ボックスを右クリックして、「実行」> 「一時停止」を選択します。実行を停止するには、プロセス・ボックスを右クリ ックして、「実行」>「停止」を選択します。

 フローチャート実行でエラーがあったかどうかを確認するには、Campaign ツー ルバーの「分析」タブをクリックして、「Campaign フローチャート・ステータ ス・サマリー」レポートを表示します。
### フローチャート・ブランチをテスト実行するには

- 1. 「編集」モードのフローチャート・ページで、テストするブランチ上のプロセス をクリックします。
- 2. 「実行」アイコンをクリックし、「選択したブランチのテスト実行」を選択しま す。

フローチャートがテスト・モードで実行されます。データはどのテーブルにも書き 込まれません。

各プロセスは、正常に実行されると、チェック・マークが表示されます。エラーが ある場合、プロセスには赤色の X が表示されます。

## フローチャートの実行

フローチャート内で、フローチャート全体、ブランチ、または個別のプロセスを実 行することを選択できます。最良の結果を得るために、フローチャートの作成時に テスト実行を行って、エラーの発生時にエラーをトラブルシューティングできるよ うにします。また、各フローチャートをテストまたは実行する前に、そのフローチ ャートを必ず保存します。

重要: コンタクト・プロセスを含むフローチャートの場合、フローチャートの実稼 働実行ごとに生成できるコンタクト履歴は 1 回のみであることに注意してくださ い。ID の同一リストから複数のコンタクトを生成するには、ID のリストのスナッ プショットを取り、フローチャートを実行するたびにそのリストから読み取りま す。

注:管理者権限を持つユーザーは、「モニター」ページにアクセスできます。この ページは、実行中のすべてのフローチャートおよびそのステータスを表示し、フロ ーチャートの実行を中断、再開、または停止するための制御を提供します。

#### フローチャートを実行するには

1. フローチャートを表示している場合は、「実行」アイコンをクリックし、「実 行」を選択することにより、そのフローチャートを実行することができます。

フローチャートを編集している場合は、「実行」アイコンをクリックし、「フロ ーチャートを保存して実行」を選択します。

2. フローチャートが既に実行されている場合は、確認ウィンドウで「**OK**」をクリックします。

実行から得られたデータが、該当するシステム・テーブルに保存されます。正常 に実行されたプロセスのそれぞれに、チェック・マークが表示されます。エラー がある場合、プロセスには赤色の X が表示されます。

3. 「保存して終了」をクリックして、フローチャートを保存します。

「保存」をクリックしてフローチャートを保存し、編集用に開いたままにしてお くこともできます。 実行後はすぐにそのフローチャートを保存して、実行の結果を任意のレポートで 表示する必要があります。フローチャートを保存すると、繰り返された実行の結 果がすぐに使用可能になります。

注:フローチャートの実行が終了する前に「保存して終了」をクリックすると、 フローチャートは実行を継続し、終了した時点で保存されます。

Campaign ツールバーの「分析」タブをクリックし、「Campaign フローチャート・ステータス・サマリー」レポートを表示して、フローチャート実行でエラーがあったかどうかを確認します。

## フローチャート・ブランチを実行するには

- 1. 「編集」モードのフローチャート・ページで、実行するブランチ上のプロセスを クリックします。
- 2. 「実行」アイコンをクリックし、「選択したブランチを保存して実行」を選択し ます。

注: フローチャートのプロセスのみまたはブランチのみを実行しても、フローチャートの実行 ID は増分されません。プロセスのみまたはブランチのみ実行するときに、コンタクト履歴レコードが存在する場合は、処理を続行する前に実行履歴オプションを選択するようプロンプトが出されます。詳しくは、33ページの『実行履歴オプションについて』を参照してください。

正常に実行されたプロセスのそれぞれに、チェック・マークが表示されます。エ ラーがある場合、プロセスには赤色の X が表示されます。

# プロセスを実行またはテスト実行するには

構成が正常に行われて結果が予期したとおりになることを確認するため、設定および接続を行ったら、すぐに各プロセスをテスト実行してください。

注:プロセスを実行すると、前の実行の結果はすべて失われます。

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. 実行するプロセスをクリックします。

プロセスでソース・プロセスからのデータが必要な場合は、そのデータが使用で きるように、ソース・プロセスが既に正常に実行されていることを確認してくだ さい。

- 3. ツールバーの「実行」アイコンをクリックするか、またはプロセス・ボックスを 右クリックしてから、次のオプションのいずれかを選択します。
  - ・ 選択したプロセスのテスト実行: このオプションは、エラーの発生時にそのエ ラーをトラブルシューティングできるように、フローチャートの作成時に使用 します。テスト実行では、データの出力も、テーブルまたはファイルの更新も 行いません。(ただし、テスト実行の完了時にトリガーが実行され、またグロ ーバル抑制が適用されます。)
  - ・ 選択したプロセスを保存して実行:実稼働実行を行います。コンタクト・プロ セスであるメール・リストとコール・リストは、「コンタクト履歴」にエント リーを書き込みます。それぞれの実稼働実行では、コンタクト履歴を一度だけ 生成できます。ある実稼働実行に対して既に実行されているコンタクト・プロ

セスは、現在の実行からのコンタクト履歴が最初に削除された場合にのみ再実 行できます。トリガーは、実稼働実行の完了時に実行されます。

注: フローチャートのプロセスのみまたはブランチのみを実行しても、フローチャートの実行 ID は増分されません。プロセスのみまたはブランチのみ実行するときに、コンタクト履歴レコードが存在する場合は、処理を続行する前に実行履歴オプションを選択するようプロンプトが出されます。詳しくは、『実行履歴オプションについて』を参照してください。

4. プロセスで実行が完了されたら、確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

プロセスで実行が成功すると、そのプロセスにチェック・マークが表示されます。 エラーがある場合は、プロセスには赤の「X」が表示されます。

## 実行履歴オプションについて

注: 「実行履歴オプション」ウィンドウは、現在の実行 ID のコンタクト履歴を既 に生成しているブランチまたはプロセスを実行する際にのみ表示されます。新規実 行インスタンスが特定の再実行ブランチまたは再実行プロセスに存在しない場合、 「実行履歴オプション」ウィンドウは表示されません。

「実行履歴オプション」ウィンドウを使用して、生成する新規コンタクト履歴をコ ンタクト履歴テーブルに書き込む方法を選択します。

#### 実行履歴オプションのシナリオ

2 つのブランチ、およびコンタクト履歴にログを記録するように構成されている、2 つのコンタクト・プロセス A と B を持つフローチャートがあります。

このフローチャート全体を(「フローチャートの実行」コマンドを使用して先頭から)一度実行します。これによって、新規の実行 ID (例えば、実行 ID = 1) が作成され、この実行 ID 用のコンタクト履歴も生成されます。

このフローチャート全体の最初の正常な実行の後に、最初のオファーを受け取った 個人と同じ個人にフォローアップ・オファーを提供するためのコンタクト・プロセ ス A を編集します。したがって、コンタクト・プロセス A を再実行します。現在 の実行 ID は「1」で、コンタクト履歴がプロセス A および実行 ID=1 に対して既 に存在しています。

コンタクト・プロセス A を選択して「プロセスの実行」をクリックすると、「実行 履歴オプション」ウィンドウが表示されます。実行 ID を変更せずにそのまま (実 行 ID=1) にしておくことを選択し、この実行 ID に関連付けられている既存のコン タクト履歴を置き換えることができます。あるいは、新規の実行インスタンスを作 成 (つまり、実行 ID を 2 にインクリメントする) し、実行 ID=1 に関連付けられ ているコンタクト履歴を元のままにしておいて、実行 ID=2 に関連付けられた新規 のコンタクト履歴を追加することもできます。

フォローアップ・オファーを送付し、最初のオファーに関連付けられているコンタ クト履歴を失わないようにするため、「新しい実行インスタンスの作成」を選択し ます。これによって、実行 ID が「2」に変更され、最初のオファーを受け取った ID と同じ ID のコンタクト履歴レコードがコンタクト履歴テーブルに追加されま す。 ここでコンタクト・プロセス B を編集して実行すると、「実行履歴オプション」ウ ィンドウは表示されません。これは、現在の実行 ID が 2 で実行 ID=2 に関連付け られているコンタクト履歴がコンタクト・プロセス B に対して存在しないためで す。コンタクト・プロセス B のみを実行すると、実行 ID = 2 の追加のコンタクト 履歴レコードが生成されるだけです。

### 「実行履歴オプション」ウィンドウのリファレンス

「実行履歴オプション」ウィンドウには、次のオプションがあります。

表 5. 「実行履歴オプション」ウィンドウのオプション

オプション	説明
新しい実行インスタンスの 作成	フローチャートの特定のブランチまたはプロセスを新規の実行 ID を使用して再実行します。新規の実行 ID に関連付けられた 結果をコンタクト履歴テーブルに追加します。既存のコンタク ト履歴は元の状態のままです。
以前の実行のコンタクト履 歴を置換	以前の実行 ID を再利用して、その実行 ID に対して前に生成 されたコンタクト履歴を置き換えます (実行されているプロセ スまたはブランチについてのみ)。フローチャートの他のブラン チまたはプロセスに対して前に生成されたコンタクト履歴レコ ードは、元の状態のままです。
キャンセル	ブランチまたはプロセスの実行を取り消します。既存のコンタ クト履歴に対しては何も実行されません。フローチャートは 「編集」モードで開いたままです。

関連付けられたレスポンス履歴が存在する場合は、コンタクト履歴を置換すること はできません。したがって、「**以前の実行のコンタクト履歴を置換**」を選択し、関 連付けられたレスポンス履歴レコードが存在していた場合は、次の 2 つのオプショ ンのいずれかを選択することができます。

- 関連付けられたレスポンス履歴レコード、およびコンタクト履歴レコードをクリ アする場合は、「OK」をクリックします。レスポンス履歴が存在し、前の実行の コンタクト履歴を置き換えたい場合は、これが唯一のオプションです。
- コンタクト履歴レコードのクリアを取り消す場合は、「キャンセル」をクリック します。現在のコンタクト・プロセスを実行するために新規の実行インスタンス を作成する場合は、代わりに「新しい実行インスタンスの作成」を選択すること ができます。

### フローチャートの実行を一時停止するには

実行中のフローチャート、ブランチ、またはプロセスを一時停止すると、サーバー により実行は停止されますが、既に処理されたデータはすべて保存されます。実行 を一時停止して、サーバー上のコンピューター・リソースを解放することができま す。

実行を一時停止した後、その実行を継続するか、停止することができます。

フローチャート・ページで、「実行」アイコンをクリックし、「一時停止」を選択 します。 **注:** 適切な権限を持っている場合は、「モニター」ページからフローチャートを制 御することもできます。

## 一時停止されたフローチャートの実行を継続するには

一時停止された実行を継続する場合、その実行は、停止した場所と正確に同じ場所 で再開されます。例えば、選択プロセスが 10 個のレコードを処理した後で一時停 止した場合、11 番目のレコードを処理することにより、その実行が再開されます。

フローチャート・ページで、「実行」アイコンをクリックし、「続行」を選択しま す。

注:適切な権限を持っている場合は、「モニター」ページからフローチャートを制 御することもできます。詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してくださ い。

## フローチャートの実行を停止するには

フローチャート・ページで、「実行」アイコンをクリックし、「停止」を選択しま す。

現在実行中のプロセスの結果が失われ、それらのプロセス上に赤色の X が表示されます。

**注:** 適切な権限を持っている場合は、「モニター」ページからフローチャートを制 御することもできます。

#### 停止されたフローチャートの実行を継続するには

フローチャートが停止されたプロセスから始まるフローチャート・ブランチを実行 することにより、停止されたフローチャートの実行を継続することができます。そ のプロセスは、すべてのダウンストリーム・プロセスと一緒に再実行されます。

- 1. 「編集」モードのフローチャート・ページで、赤色の X が表示されているプロ セスをクリックします。
- 2. 「実行」アイコンをクリックし、「選択したブランチを保存して実行」を選択し ます。

注:適切な権限を持っている場合は、「モニター」ページからフローチャートを 制御することもできます。詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してく ださい。

## ランタイム・エラーのトラブルシューティング

正しく構成されたプロセスは、色付きで表示されます(特定の色によってプロセスのタイプが表されます)。名前がイタリック体で示された灰色のプロセスには、構成 エラーがあります。エラーについての詳細情報を確認するには、プロセス上にマウ スオーバーした状態で、エラー・メッセージの説明を表示します。 フローチャートがエラーのため実行を停止する場合、実行されていたプロセスには 赤色の X が表示されます。そのプロセス上にマウスオーバーした状態で、エラー・ メッセージを表示します。

注:システム・テーブルがデータベースに保管されるように Campaign が構成され ており、ユーザーがフローチャートを表示していない場合に、データベース接続障 害のために実行が停止すると、プロセスには赤色の X は表示されません。代わり に、フローチャートが、最後に保存されたときと同じ状態で表示されます。

また、システム・エラー情報についてログ・ファイルを参照し、キャンペーンの 「分析およびパフォーマンス/収益性 (Analysis and Performance/Profitability)」レポー トをレビューして、結果が予期されたものかどうかを確認する必要もあります。

# フローチャートの削除

フローチャートを完全に削除すると、フローチャートおよびそれに関連するすべて のファイル (ログ・ファイルも含む) が除去されます。フローチャートの一部を再使 用するために保管する必要がある場合は、保管オブジェクトとして当該部分を保存 できます。

出力ファイル (スナップショット、最適化、またはコンタクトの各プロセスによっ て作成されたファイル) は削除されず、コンタクト履歴およびレスポンス履歴の情 報も保持されます。

重要:他のユーザーによって編集中のフローチャートを削除しようとすると、 Campaign によって、フローチャートが他のユーザーによって開かれていることを示 す警告が出されます。そのままフローチャートを削除を続行すると、他のユーザー による変更が完全に失われます。作業の損失を防ぐため、フローチャートの削除を 続行するには、まず、他のユーザーが開いているかどうかを確認してください。

### フローチャートを削除するには

1. 削除するフローチャートを「表示」モードで開きます。

フローチャート・タブが表示されます。

- 2. 「**フローチャートの削除**」アイコンをクリックします。
- 3. 確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

フローチャートおよびそれに関連するすべてのファイルが削除されます。

## フローチャートを印刷するには

フローチャートのハードコピーを Campaign から印刷できます。

**注:** Web ブラウザーの「**ファイル**」>「印刷」コマンドは使用しないでください。フ ローチャートが正しく印刷されない場合があるためです。

- 1. 印刷するフローチャートを、「表示」または「編集」モードで開きます。
- 2. 「印刷」アイコンをクリックします。

「ページ・セットアップ」ウィンドウが表示されます。

3. 「**OK**」をクリックします。

「印刷」ウィンドウが表示されます。

4. 「OK」をクリックして、現在のフローチャートを印刷します。

フローチャートが印刷中であることを示す Campaign ウィンドウが表示されます。

# データベース内最適化によるフローチャート・パフォーマンスの向上

データベース内最適化をグローバルにまたは個々のフローチャートに対してオンに することによって、フローチャート・パフォーマンスを向上させることができま す。ベスト・プラクティスは、グローバル設定をオフにし、フローチャート・レベ ルでオプションを設定することです。フローチャート・レベルのオプションは、グ ローバル設定を上書きします。

注: データベース内最適化は、一部のデータベースではサポートされません。 Campaign 管理者は、このオプションがご使用のデータ・ソースで使用可能かどうか を確認することができます。

データベース内最適化オプションでは、以下について判断します。

- データベース・レベルまたはローカルの Campaign サーバー・レベルでどんな操 作が実行されるか。
- 操作の結果に起こること。

データベース内最適化がオンのときは、以下のようになります。

- データベース内最適化は、データベースにある ID が処理のために不必要に Campaign サーバーにコピーされないようにします。
- データのソート、結合、およびマージなどのタスクの処理は、可能な限りデータ ベース・サーバー上で実行されます。
- プロセスの出力セルは、データベース・サーバー上の一時テーブル内に保管されます。
- この場合でも、一部の機能は必要に応じて Campaign サーバー上で実行されます。例えば、ユーザー定義フィールドを計算するために、Campaign はまずユーザー定義フィールドの式を評価して、計算の一部を SQL を使用して実行できるかどうかを調べます。単純な SQL ステートメントを使用して計算を実行できる場合、計算は「データベース内」で行われます。その計算を実行できない場合は、その計算を処理し、フローチャート内の各プロセスでその結果を保持するためにCampaign サーバー上に一時テーブルが作成されます。

**重要:**出力セル・サイズに何らかの制限を指定した場合、またはプロセスに対し て一時テーブルが使用不可になっている場合、データベース内処理は実行できま せん。

未加工 SQL ステートメントから成るカスタム・マクロは、次の制限付きでデータ ベース内で処理できます。

すべての未加工 SQL カスタム・マクロが select で始まり、またテキストの残りに from が 1 つだけ含まれていなければなりません。

 insert into <TempTable> 構文のみサポートするデータベースの場合、少なくとも 1 つのベース・テーブルを、未加工 SQL カスタム・マクロと同じオーディエン ス・レベルの同じデータ・ソースにマップすることが必要です。未加工 SQL カ スタム・マクロによって選択されたフィールドが一時テーブルのフィールドにと ってサイズが大き過ぎる場合、実行時エラーが発生します。

**重要:** データベース内最適化で未加工 SQL を使用する場合は、上流プロセスからの 一時テーブルと結合するように未加工 SQL をコーディングする必要があります。 そうしないと、結果の有効範囲が上流プロセスの結果で限定されないことになりま す。

# データベース内最適化を使用してフローチャートのパフォーマンス を改善するには

フローチャートのパフォーマンスを改善するために、データベース内最適化の設定を次のように調整できます。

- システム全体でグローバルに
- フローチャートごとに個別に

ベスト・プラクティスは、グローバル設定をオフにし、フローチャート・レベルで オプションを設定することです。フローチャート・レベルのオプションは、グロー バル設定を上書きします。

- 1. オプションをグローバルに調整するには、以下のようにします。
  - a. 「設定」>「構成」を選択します。
  - b. Campaign > partitions > partition[n] > server > optimization を選択し て、useInDbOptimization を TRUE (オン) または FALSE (オフ) に設定しま す。

「構成」ページの使用方法について詳しくは、「*IBM Marketing Platform 管理者* ガイド」を参照してください。

- 2. 個別のフローチャートについてこのオプションをオンまたはオフにするには、以下のようにします。
  - a. 「編集」モードのフローチャート・ページで、「システム管理」アイコンを クリックして「拡張設定」を選択します。
  - b. 「フローチャート実行中にデータベース内最適化を使用する」を選択しま す。
  - c. 「**OK**」をクリックします。

フローチャートを保存して実行すると、可能なときにはデータベース内処理が使 用されます。

# トラブルシューティング用のフローチャート・ファイルのパッケージ化

フローチャートをトラブルシューティングするために IBM の支援を必要とする場合は、関連するデータを自動的に収集して、IBM テクニカル・サポートに送信することができます。含める項目のリストから項目を選択して、データを制限するための日付範囲を指定できます。データは、ユーザーが選択したフォルダーに書き込まれます。データの内容を圧縮して、IBM テクニカル・サポートに送信することができます。

Campaign は、選択したデータ項目に加えて、以下を識別するサマリー・ファイルも 作成します。

- 現在の日付と時刻
- ソフトウェアのバージョンおよびビルド番号
- ユーザー名
- パッケージに含めた選択内容

# トラブルシューティング用のフローチャート・ファイルをパッケー ジ化するには

この手順を実行できるのは、フローチャート (テスト実行または実稼働実行のいず れか)の編集または実行を行う権限を持つユーザーのみです。「ログの表示」権限 を持っていない場合は、選択ウィンドウでログ関連のエントリーを選択することは できません。

このタスクを使用して、フローチャート・データ・ファイルを自動的にパッケージ 化し、フローチャートのトラブルシューティングで支援が必要な場合に、それらの ファイルを IBM テクニカル・サポートに送ることができるようにします。

- 1. 「編集」モードのフローチャート・ページから、「システム管理」>「フローチ ャート・データの収集」を選択します。「トラブルシューティングのためにデー タ・パッケージを作成」ウィンドウが表示されます。
- パッケージの名前を入力するか、デフォルト名のままにします。 このパッケージ名は、選択されたデータ項目が作成されるサブフォルダーを作成するために使用されます。
- 3. 「参照」をクリックして、データ・パッケージが保存されるフォルダーを選択し ます。
- パッケージに含める各項目のチェック・ボックスを選択します。一部の項目では、抽出データをフィルターに掛けるために使用する追加情報を選択時に入力できます。

または、「デフォルトの項目を選択」チェック・ボックスをチェックすることが できます。このチェック・ボックスは、フローチャートのトラブルシューティン グで通常必要になるすべてのデータを自動的に選択します。これには、リストさ れたすべての項目 (ただし、ログ・ファイルは除く)、およびユーザー・テーブ ル、コンタクトおよびレスポンス履歴テーブル、戦略的セグメント、およびスタ ック・トレース・ファイルの内容が含まれています。

5. 「OK」をクリックして、パッケージを作成します。

# フローチャート・データ・パッケージの IBM テクニカル・サポー トへの送信

E メール、またはサポート担当者が推奨する方法を使用して、データ・パッケージ を IBM テクニカル・サポートに送信することができます。IBM テクニカル・サポ ートは、圧縮されていないデータ (パッケージ・サブディレクトリー全体) を受け入 れますが、オプションで、IBM に送信する前にこれらのファイルを圧縮および暗号 化して、単一のファイルにパッケージ化することができます。

# フローチャート・データのパッケージ化のオプション

表6. フローチャート・データのパッケージ化のオプション

項目	含まれている内容の説明	設定可能な追加の指定
「 <b>デフォルトの項目を</b> <b>選択」</b> チェック・ボッ クス	フローチャートのトラブルシューティングに 通常必要とされるすべてのデータ。これに は、リストされたすべての項目 (ただし、ロ グ・ファイルは除く)、およびユーザー・テー ブルおよびコンタクト履歴テーブルの内容が 含まれています。	
フローチャート	フローチャート .ses ファイル。	実行結果を含めるかどうか オプションで、 ランタイム・データ・ファイル (「アンダー スコアー」ファイルとも呼ばれる)を組み込 むか除外するかを指定します。
フローチャート・ログ	フローチャート .log ファイル。	オプションで、開始と終了のタイム・スタン プを設定します。これらを設定しない場合、 デフォルトはログ・ファイル全体です。
リスナー・ログ	unica_aclsnr.log ファイル。	オプションで、開始と終了のタイム・スタン プを設定します。これらを設定しない場合、 デフォルトはログ・ファイル全体です。
起動ログ	AC_sess.log ファイル。	オプションで、開始と終了のタイム・スタン プを設定します。これらを設定しない場合、 デフォルトはログ・ファイル全体です。
Web メッセージ・ロ グ	AC_web.log ファイル。	オプションで、開始と終了のタイム・スタン プを設定します。これらを設定しない場合、 デフォルトはログ・ファイル全体です。
Campaign 構成	<ul> <li>.config ファイル。フローチャートのトラブ ルシューティングに役立つように、Campaign 環境の構成プロパティーおよび構成設定をリ ストします。</li> </ul>	
キャンペーン・カスタ ム属性	customcampaignattributes.dat ファイル。 これは、Campaign カスタム属性の属性名と 値のペアをリストします。現在のキャンペー ンに関連するエントリーのみ含まれます。	
セル・カスタム属性	customcellattributes.dat ファイル。これ は、Campaign セル・カスタム属性の属性名 と値のペアをリストします。現在のキャンペ ーンに関連するエントリーのみ含まれます。	

表 6. フローチャート・データのパッケージ化のオプション (続き)

項目	含まれている内容の説明	設定可能な追加の指定
オファーの定義	以下のオファー関連の各システム・テーブル のすべての行が含まれています。 UA_AttributeDef.dat、UA_Folder.dat、 UA_Offer.dat、UA_OfferAttribute.dat、	
	UA_OfferList.dat、 UA_OfferListMember.dat、 UA_OfferTemplate.dat、 UA_OfferTemplAttr.dat、 UA_OfferToProduct.dat、UA_Product.dat、	
ターゲット・セル・ス プレッドシート・デー タ	targetcellspreadsheet.dat ファイル。この ファイルには、ターゲット・セル・スプレッ ドシート全体用の UA_TargetCells のデータ が含まれています。現在のキャンペーンのデ ータが、列/行で区切られたテキスト形式で含 まれています。	
カスタム・マクロの定 義	custommacros.dat ファイル。このファイルに は、UA_CustomMacros の以下のフィールドが 列/行形式で含まれています。Name、 FolderID、Description、Expression、 ExpressionType、DataScrName、 DataVarType、DataVarNBytes、CreateDate、 CreatedBy、UpdateDate、UPdateBy、 PolicyIS、ACLID	
システム・テーブル・ マッピング	systablemapping.xml ファイル。データ・ソ ースを含む、すべてのシステム・テーブル・ マッピングが含まれています。	
+ システム・テーブル の内容を含める	このオプションを選択すると、オプションが 展開されて、すべてのシステム・テーブルが リストされます。	含めるシステム・テーブルをそれぞれ選択し ます。テーブル全体 (すべての行およびすべ ての列) が組み込まれます。 サブオプションを選択しない場合、パッケー ジにはシステム・テーブルは含まれません。
+ コンタクト履歴テー ブルを含める	このオプションを選択すると、オプションが 展開されて、コンタクト履歴およびオーディ エンス・レベルごとの詳細なコンタクト履歴 テーブルが表示されます。	選択するセットごとに、パッケージにはコン タクト履歴、およびそのオーディエンス・レ ベルの詳細なコンタクト履歴レコードが含ま れます。 オプションで、開始と終了のタイム・スタン プを設定できます。それらを設定しない場 合、デフォルトはすべてのレコードです。 サブオプションを選択しない場合、パッケー ジにはコンタクト履歴テーブルの情報は含ま れません。

表 6. フローチャート・データのパッケージ化のオプション (続き)

項目	含まれている内容の説明	設定可能な追加の指定
+ レスポンス履歴テー ブルを含める	このオプションを選択すると、オプションが 展開されて、すべてのオーディエンス・レベ ルのレスポンス履歴テーブルが表示されま す。	選択するテーブルごとに、パッケージにはそ のオーディエンス・レベルのレスポンス履歴 レコードが含まれます。 選択するテーブルごとに、オプションで開始 と終了のタイム・スタンプを設定できます。 それらを設定しない場合、デフォルトはすべ てのレコードです。 テーブルを選択しない場合、パッケージには レスポンス履歴テーブルの情報は含まれませ
+ ユーザー・テーブル の内容を含める	このオブションを選択すると、オブションが 展開されて、当該パッケージに対して選択で きるユーザー・テーブルの内容が表示されま す。	含めるユーザー・テーブルをフローチャート から選択します。 何も選択しない場合、パッケージにはユーザ ー・テーブルの内容は含まれません。 選択するユーザー・テーブルごとに、含める 最大行数をオプションで設定できます。最大 行数を設定しない場合、パッケージにはテー ブル全体が含まれます。
+ 戦略的セグメントを 含める	このオプションを選択すると、オプションが 展開されて、当該パッケージに対して選択で きるすべての戦略的セグメントが表示されま す。	
+ スタック・トレー ス・ファイルを含める	UNIX バージョンでのみ使用可能なオプショ ンです。 このオプションを選択すると、オ プションが展開されて、unica_aclsnr.log と同じディレクトリーにスタック・トレー ス・ファイル (*.stack) のリストが表示され ます。	パッケージに含めるスタック・トレース・フ ァイルを選択します。サブオプションを選択 しない場合、パッケージにはスタック・トレ ース・ファイルは含まれません。

# 第 5 章 Campaign プロセスの概要

この章では、プロセスに関する概念を紹介し、Campaign プロセスを扱うための一般 的手順について説明します。

フローチャート内のプロセスを構成するには、73 ページの『第 6 章 Campaign プ ロセスの構成』を参照してください。

# プロセスについて

プロセスは、フローチャートの構成要素です。特定のタスクを実行するようにプロ セスを構成し、構成済みプロセスを接続してフローチャートを作成します。例え ば、選択プロセスは、見込み顧客 (ID)のセットを選択するために使用できます。マ ージ・プロセスは、互いに異なる 2 つのオーディエンス・グループをマージするた めに使用できます。また、コンタクト・プロセス (コール・リストまたはメール・ リスト)は、キャンペーン全体の結果を書き出すために使用することができます。

通常、フローチャート内の各プロセスは、1 つ以上のセルを入力として使用し、そ のデータを変換し、1 つ以上のセルを出力として生成します。セル とは、マーケテ ィング・メッセージ受信者の ID (顧客 ID や見込み顧客 ID など) のリストのこと です。

Campaign プロセスは、フローチャート・プロセス・パレットに表示されます。フロ ーチャートを作成するには、パレットにあるプロセスをフローチャート・ワークス ペースに移動します。ワークスペースでプロセスを構成および接続して、フローチ ャートを作成します。

# プロセスのタイプ

Campaign の各プロセスは、機能によって 3 つのタイプに分類されます。これらの タイプは、フローチャート・プロセス・パレット内で次のように色によって識別さ れます。

- ・ データ操作プロセス 青
- 実行プロセス 紫
- 最適化プロセス 緑

注: Campaign の各プロセスに加えて、Interact、Contact Optimization、および eMessage では、キャンペーン・フローチャートでの使用のための追加のプロセスが 提供されています。それらのプロセスについて詳しくは、それらの製品用の個別の 文書を参照してください。

# データ操作プロセス

データ操作プロセスを使用して、データ・ソースから顧客 ID を選択し、それらの ID をさまざまな方法で操作して、意味のあるグループまたは対象オーディエンスを 作成します。

データ操作プロセスを使用すれば、一組の基準に基づく顧客の選択、包含または除 外のための顧客のリストのマージ、意味のあるグループへの顧客のセグメント化、 テスト・グループまたはコントロール・グループに対するサンプリング、またはキ ャンペーンの対象オーディエンスの指定などのタスクを行うことが可能になりま す。

次のようなデータ操作プロセスがあります。

- 74ページの『選択』
- 79ページの『マージ』
- 80ページの『セグメント』
- 87 ページの『サンプル』
- 91ページの『オーディエンス』
- 103 ページの『抽出』

### 実行プロセス

必要なオーディエンスを選択するためのキャンペーンの作成が完了したら、実行プロセスを使用して使用可能な方法で結果を出力する必要があります。実行プロセスは、フローチャートの実行を制御し、実際の顧客コンタクトをトリガーします。

実行プロセスは、完成したキャンペーンの実際の実行を制御します。この実行に は、コンタクト・リストの管理と出力、対象オーディエンスの処理、レスポンスと コンタクトのトラッキング、データのログ、およびキャンペーンまたはセッション の実行のスケジュールが含まれます。

次のような実行プロセスがあります。

- 109 ページの『スナップショット』
- 111 ページの『スケジュール』
- 117ページの『キューブ』
- 118ページの『セグメントの作成』
- 120ページの『メール・リスト』
- 126ページの『コール・リスト』

注: メール・リスト・プロセスおよびコール・リスト・プロセスは、コンタクト・ プロセスとも呼ばれます。

#### 最適化プロセス

最適化プロセスを使用すれば、効果を最大化するようにキャンペーンを微調整する ことができます。最適化プロセスを使用してスコアを生成し、オーディエンスの選 択を詳細化します。最適化プロセスによって、コンタクトとレスポンスをトラッキ ングでき、また PredictiveInsight などのデータ・マイニング製品、または Campaign からの予測モデル化の結果を使用して、オーディエンスの選択を詳細化して ROI を 最大化することもできます。また、最適化プロセスでは、個々の見込み顧客へのコ ンタクトに使用するための、組織全体にわたる最も効果的なキャンペーン、オファ ー、およびチャネルを判断するための機能を提供することもできます。

次のような最適化プロセスがあります。

- 127 ページの『トラッキング』
- 130ページの『レスポンス』
- 132 ページの『モデル』
- 134 ページの『スコア』

# プロセス・ボックスに関する作業

キャンペーン・フローチャートを作成するには、パレットにあるプロセス・ボック スをワークスペースにドラッグして追加します。各プロセス・ボックスが、メール 配信の対象となる顧客の選択など、特定の操作を実行するように構成します。ボッ クスからボックスにコネクター線をドラッグすることにより、ワークスペース内の プロセス・ボックスを接続します。論理フローの中でプロセス・ボックスを接続す ることにより、イベントの順序を決定します。例えば、顧客の特定のセットを選択 する「選択」プロセスで開始し、電話で顧客にコンタクトするための「コール・リ スト」プロセスで終了することができます。さまざまなフローチャート・シナリオ を試す際に、プロセス・ボックスを移動したり削除したりすることができます。フ ローチャートが正常に進行していることを確認するために、フローチャートを作成 しながら各プロセスをテスト実行することができます。作業する際は、フローチャ ートを高い頻度で保存してください。

# プロセスをフローチャートに追加するには

パレットにあるプロセス・ボックスをワークスペースにドラッグすることにより、 フローチャートにプロセスを追加します。

既存のプロセスもコピーでき、またテンプレート・ライブラリーからテンプレート を貼り付けることもできます。テンプレートには、1 つ以上の設定済みプロセスと 接続が含まれています。

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- パレットにあるプロセス・ボックスをフローチャートにドラッグします。プロセス・ボックスが緑になって正符号が表示されたら、ボックスをワークスペースにドロップできます。



キャンペーンのフローに基づいて、フローチャートに各プロセス・ボックスを論 理順序で配置します。ワークスペース内では、各プロセス・ボックスを重ねて配 置することは避けてください。ボックスの重なり合いを修正するには、上にある プロセス・ボックスをクリックして新しい位置にドラッグします。

新しく追加したプロセス・ボックスは、構成されるまで透明です。



構成されたプロセス・ボックスは、背景が塗りつぶされて実線の枠ができます。 プロセスを実行するまでは、円形のステータス・アイコンはブランクのままで す。



3. 選択可能なアクションのリストを表示するには、ワークスペース内のプロセス・ ボックスを右クリックします。

通常、次のステップはプロセスの構成になります。その場合は、ワークスペース内 のプロセスをダブルクリックして構成ダイアログを開きます。各プロセス・ボック スを接続してワークフローを決定する必要があります。(一部のプロセスでは、ソ ース・プロセスからの入力を必要とするため、構成する前に接続する必要がありま す。)例えば、特定の所得層の世帯を選択するように選択プロセスを構成した後、 その選択プロセスをオーディエンス・プロセスまたはマージ・プロセスに接続しま す。最後に、プロセスまたはブランチをテスト実行します。作業する際は、フロー チャートを高い頻度で保存してください。

プロセスの設定、接続、および実行については、利用できる他のトピックを参照し てください。

# プロセスのステータスの判別

フローチャート内の各プロセス・ボックスには、そのプロセスのステータスを示す アイコンが表示されます。

0	プロセスは開始されていない (未実行)
8	プロセス実行中
<b>~</b>	プロセス実行完了
•	警告
8	エラー
•	スケジュール・プロセスは後続プロセス開始可能状態。 (このアイコン は、フローチャート実行後にスケジュール・プロセスにのみ表示されま す。)

プロセス実行完了アイコンのあるプロセス・ボックスを次に示します。



# 2 つのプロセスの接続

データ・フローの方向とプロセスの実行順序を指定するには、フローチャート内の 各プロセスを接続します。ワークスペース内でプロセスを移動すると、既存の接続 はそのまま残り、新しい位置に視覚的に調整されます。この視覚上の調整はデー タ・フローに影響を与えません。データ・フローが影響を受けるのは、プロセスか らプロセスへ接続を追加または削除する場合だけです。

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. 別のボックスに接続するプロセス・ボックスの上にカーソルを置きます。

4 つの矢印がボックスの周囲に表示されます。

3. いずれかの矢印を宛先のプロセス・ボックスにドラッグします。

ソースからターゲットに接続線が描画されて、それらのプロセスが現在接続され ていることを示します。矢印はデータ・フローの方向を示します。

ソース・プロセスと宛先プロセスが、データ・フローの方向を示す矢印で接続され ます。ソース・プロセスは、宛先プロセスより先に実行されます。これで、ソー ス・プロセスから出力されたデータが、宛先プロセスへの入力として使用可能にな ります。例えば、2 つの「選択」プロセスはどちらも「マージ」プロセスへの入力 を提供できます。

#### 接続線の外観

宛先プロセスがソース・プロセスからデータを受け取る場合、接続は実線で示されます。

宛先プロセスがソース・プロセスに依存していながら、そこからデータを受け取ら ない場合、接続は点線で示されます。点線は、ソース・プロセスが完了するまで宛 先プロセスが正常に実行できないことを示します。

接続線は、角度を付ける (斜線にする) ことも、水平垂直にする (直角のみ) ことも できます。線の外観を変更するには、それをフローチャート・ワークスペースで右 クリックして、「表示」を選択し、「直線コネクター」をオンまたはオフにしま す。

## 例: プロセスの接続

次のフローチャートは、毎晩自動実行するようにスケジュールされています。スケ ジュール・プロセスと3つの選択プロセスとの間の点線の接続は、スケジュール・ プロセスが実行を完了するまで各選択プロセスが実行されないが、スケジュール・ プロセスから選択プロセスにデータは渡されないことが示されています。



# プロセスをコピーして貼り付けるには

既に構成済みのプロセスをコピーすると、フローチャートを作成する際の時間を短 縮することができます。コピーしたプロセスは、ワークスペース内の別の場所か、 または別のフローチャートに貼り付けることができます。

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. ワークスペース内で、コピーしたいプロセスをクリックします。

注: プロセスを複数選択するには、プロセスを Ctrl キーを押しながらクリック するか、プロセスの周りに選択ボックスをドラッグできます。または、Ctrl+A を使用してフローチャート内のプロセスをすべて選択できます。

3. 「**コピー**」アイコンをクリックします。

メニューから「**コピー**」を選択するか、Ctrl + C を押すこともできます。

4. 「貼り付け」アイコンをクリックします。

メニューから「貼り付け」を選択するか、Ctrl + V を押すこともできます。

プロセスのコピーがワークスペース内に表示されます。

5. コピーしたプロセスをクリックして、目的の場所までドラッグします。

# プロセスを切り取るには

1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。

プロセス・パレットとワークスペースが表示されます。

2. ワークスペース内に既に存在するプロセスの中から、切り取るプロセスを選んで クリックします。

注: プロセスを複数選択するには、プロセスを Ctrl キーを押しながらクリック するか、プロセスの周りに選択ボックスをドラッグできます。または、Ctrl+A を使用してフローチャート内のプロセスをすべて選択できます。

3. 「フローチャート」のツールバーの「切り取り」アイコンをクリックします。

「切り取り」はメニューでクリックすることもでき、また Ctrl+X を押して行う こともできます。 プロセスがフローチャートから削除されて、クリップボード上に保存されました。 これで、このプロセスを現在のフローチャートまたは別のフローチャート内に貼り 付けることができます。

# プロセスをテンプレート・ライブラリーから貼り付けるには

フローチャートの作成時に、テンプレート・ライブラリーからのテンプレートを使 用すると時間を節約することができます。テンプレートには、1 つ以上の設定済み プロセスと接続が含まれています。

1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。

プロセス・パレットとワークスペースが表示されます。

2. 「オプション」アイコンをクリックして、「テンプレート」を選択します。

「テンプレート」ウィンドウが選択可能なテンプレートをリストして表示されま す。

- 3. フローチャートに貼り付けるテンプレートを「項目リスト」から選択します。
- 4. 「**テンプレートの貼り付け**」をクリックします。

選択したテンプレート内の 1 つ以上のプロセスがフローチャートに貼り付けら れます。

1 つ以上のプロセス・ボックスがフローチャート・ワークスペース内の別のプロ セス・ボックスの上に貼り付けられると、それらは積み重なった状態で表示され ます。積み重なって表示されていない次のボックスを表示するには、一番上のプ ロセス・ボックスをクリックして移動します。

## プロセスを移動するには

編集中のフローチャート内のプロセスは、すべて移動することができます。この移 動は、対象のプロセスをワークスペース上の別の位置にドラッグすることによって 行います。

Campaign では、あるプロセスを別のプロセスの上に重ねて配置することができま す。ただし、多数のプロセスがある規模の大きいフローチャートの場合、すべての プロセスを確認できるように、それらを重ね合わせるのではなく、ズーム機能を使 用する方が操作がより簡単な場合があります。

1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。

プロセス・パレットとワークスペースが表示されます。

2. ワークスペース内で、新しい位置に移動するプロセスをクリックしてからドラッ グします。

マウス・ボタンを放すと、そのプロセスが新しい位置に移動されます。移動して いるプロセスとの間の既存の各接続は残り、新しい位置に対して線が引き直され ます。

# プロセスを削除するには

フローチャートを設計して作成している際に、追加していたプロセスを削除するこ とが必要になる場合があります。

1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。

プロセス・パレットとワークスペースが表示されます。

ワークスペース内で、削除するプロセスを右クリックしてから、メニューの「削除」を選択します。

注: Ctrl キーを押したままにすることにより、複数のプロセスを同時に選択できます。

選択した項目を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 3. 「OK」をクリックします。
- 4. 選択した 1 つ以上のプロセスがワークスペースから削除されます。また、各プ ロセス間の接続もすべてフローチャートから削除されます。

### 2 つのプロセスの間の接続を削除するには

1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。

プロセス・パレットとワークスペースが表示されます。

- 2. 削除する接続をクリックします。
- 3. 以下のいずれかを実行します。
  - 接続を右クリックして、メニューから「削除」を選択します。
  - Delete キーを押します。
  - 「フローチャート」のツールバーの「切り取り」アイコンをクリックします。
  - Ctrl+X を押します。

接続が削除されました。

#### フローチャートの外観の変更

プロセス・ボックスの位置および配置を調整して、フローチャートの外観を改良で きます。

#### フローチャート・レイアウトの調整

プロセス・ボックスを追加して接続するときに、ボックスを新しい場所にドラッグ することによって、ボックスの位置変更を行えます。

ボックスを自動的に位置変更するには、ツールバーから以下の「**レイアウトの変** 更」オプションを使用します。

- ・ ツリー: プロセス・ボックスをツリー形式に編成します。各プロセス・ボックスの入力が単一のときに有用です。
- 組織図: 単純なフローチャートを編成します。入力が始めから単一であるフロー チャートに有効です。

- 円形:プロセス・ボックスを放射状に表示します。出力が1つになる単一接続ベースのフローチャートに有用です。
- 階層:プロセス・ボックスを左右または上下の階層で編成します。その結果、ほとんどのリンクが一様に同じ方向に流れるようになります。多くの場合、このレイアウトは最も単純で視覚的にすっきりしたものになります。

左右または上下のレイアウトにすべてのプロセス・ボックスを位置変更するには、 以下のようにします。

- 1. フローチャート・ワークスペースを右クリックします。
- 2. 「表示」>「左右 / 上下」を選択します。

このオプションを選択して接続線が重なり合う場合は、「表示」>「直線コネクター」を 2 回選択して、接続線が適切に再描画されるようにします。

このオプションを選択してプロセス・ボックスが重なり合う場合は、「左右 / 上 下」をもう一度選択してそれまでの方向に戻るか、ボックスを手動で移動して重な り合わないようにします。

#### プロセス・ボックスの位置合わせ

複数のプロセス・ボックスを位置合わせするには、以下のようにします。

- 1. 周りに選択ボックスをドラッグすることにより、少なくとも 2 つのプロセス・ ボックスを選択します。
- 2. フローチャート・ツールバーにある配置アイコンを、以下のように使用します。
  - ボックスを横列に揃えるには、「上揃え」、「下揃え」、または「中央揃え (上下)」を使用します。
  - ボックスを縦列に揃えるには、「左揃え」、「右揃え」、または「中央揃え (左右)」を使用します。

不適当な配置を選択した場合は、「レイアウトの変更」メニューからオプションを 選択してレイアウトを復元してください。多くの場合、重なり合っているプロセ ス・ボックスは、階層レイアウトを使用することによってうまく修正できます。個 々のプロセス・ボックスを選択して、新しい場所にドラッグすることもできます。

# プロセスを実行またはテスト実行するには

構成が正常に行われて結果が予期したとおりになることを確認するため、設定および接続を行ったら、すぐに各プロセスをテスト実行してください。

注:プロセスを実行すると、前の実行の結果はすべて失われます。

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. 実行するプロセスをクリックします。

プロセスでソース・プロセスからのデータが必要な場合は、そのデータが使用で きるように、ソース・プロセスが既に正常に実行されていることを確認してくだ さい。

3. ツールバーの「実行」アイコンをクリックするか、またはプロセス・ボックスを 右クリックしてから、次のオプションのいずれかを選択します。

- 選択したプロセスのテスト実行: このオプションは、エラーの発生時にそのエ ラーをトラブルシューティングできるように、フローチャートの作成時に使用 します。テスト実行では、データの出力も、テーブルまたはファイルの更新も 行いません。(ただし、テスト実行の完了時にトリガーが実行され、またグロ ーバル抑制が適用されます。)
- ・選択したプロセスを保存して実行:実稼働実行を行います。コンタクト・プロ セスであるメール・リストとコール・リストは、「コンタクト履歴」にエント リーを書き込みます。それぞれの実稼働実行では、コンタクト履歴を一度だけ 生成できます。ある実稼働実行に対して既に実行されているコンタクト・プロ セスは、現在の実行からのコンタクト履歴が最初に削除された場合にのみ再実 行できます。トリガーは、実稼働実行の完了時に実行されます。
- 注: フローチャートのプロセスのみまたはブランチのみを実行しても、フローチャートの実行 ID は増分されません。プロセスのみまたはブランチのみ実行する ときに、コンタクト履歴レコードが存在する場合は、処理を続行する前に実行履 歴オプションを選択するようプロンプトが出されます。詳しくは、33ページの 『実行履歴オプションについて』を参照してください。
- 4. プロセスで実行が完了されたら、確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

プロセスで実行が成功すると、そのプロセスにチェック・マークが表示されます。 エラーがある場合は、プロセスには赤の「X」が表示されます。

# 実行履歴オプションについて

注: 「実行履歴オプション」ウィンドウは、現在の実行 ID のコンタクト履歴を既 に生成しているブランチまたはプロセスを実行する際にのみ表示されます。新規実 行インスタンスが特定の再実行ブランチまたは再実行プロセスに存在しない場合、 「実行履歴オプション」ウィンドウは表示されません。

「実行履歴オプション」ウィンドウを使用して、生成する新規コンタクト履歴をコ ンタクト履歴テーブルに書き込む方法を選択します。

#### 実行履歴オプションのシナリオ

2 つのブランチ、およびコンタクト履歴にログを記録するように構成されている、2 つのコンタクト・プロセス A と B を持つフローチャートがあります。

このフローチャート全体を(「フローチャートの実行」コマンドを使用して先頭から) 一度実行します。これによって、新規の実行 ID (例えば、実行 ID = 1) が作成され、この実行 ID 用のコンタクト履歴も生成されます。

このフローチャート全体の最初の正常な実行の後に、最初のオファーを受け取った 個人と同じ個人にフォローアップ・オファーを提供するためのコンタクト・プロセ ス A を編集します。したがって、コンタクト・プロセス A を再実行します。現在 の実行 ID は「1」で、コンタクト履歴がプロセス A および実行 ID=1 に対して既 に存在しています。

コンタクト・プロセス A を選択して「プロセスの実行」をクリックすると、「実行 履歴オプション」ウィンドウが表示されます。実行 ID を変更せずにそのまま (実 行 ID=1) にしておくことを選択し、この実行 ID に関連付けられている既存のコン タクト履歴を置き換えることができます。あるいは、新規の実行インスタンスを作成 (つまり、実行 ID を 2 にインクリメントする) し、実行 ID=1 に関連付けられ ているコンタクト履歴を元のままにしておいて、実行 ID=2 に関連付けられた新規 のコンタクト履歴を追加することもできます。

フォローアップ・オファーを送付し、最初のオファーに関連付けられているコンタ クト履歴を失わないようにするため、「新しい実行インスタンスの作成」を選択し ます。これによって、実行 ID が「2」に変更され、最初のオファーを受け取った ID と同じ ID のコンタクト履歴レコードがコンタクト履歴テーブルに追加されま す。

ここでコンタクト・プロセス B を編集して実行すると、「実行履歴オプション」ウ ィンドウは表示されません。これは、現在の実行 ID が 2 で実行 ID=2 に関連付け られているコンタクト履歴がコンタクト・プロセス B に対して存在しないためで す。コンタクト・プロセス B のみを実行すると、実行 ID = 2 の追加のコンタクト 履歴レコードが生成されるだけです。

#### 「実行履歴オプション」ウィンドウのリファレンス

「実行履歴オプション」ウィンドウには、次のオプションがあります。

オプション	説明
新しい実行インスタンスの	フローチャートの特定のブランチまたはプロセスを新規の実行
作成	ID を使用して再実行します。新規の実行 ID に関連付けられた
	結果をコンタクト履歴テーブルに追加します。既存のコンタク
	ト履歴は元の状態のままです。
以前の実行のコンタクト履	以前の実行 ID を再利用して、その実行 ID に対して前に生成
歴を置換	されたコンタクト履歴を置き換えます (実行されているプロセ
	スまたはブランチについてのみ)。フローチャートの他のブラン
	チまたはプロセスに対して前に生成されたコンタクト履歴レコ
	ードは、元の状態のままです。
キャンセル	ブランチまたはプロセスの実行を取り消します。既存のコンタ
	クト履歴に対しては何も実行されません。フローチャートは
	「編集」モードで開いたままです。

表7. 「実行履歴オプション」ウィンドウのオプション

関連付けられたレスポンス履歴が存在する場合は、コンタクト履歴を置換すること はできません。したがって、「**以前の実行のコンタクト履歴を置換**」を選択し、関 連付けられたレスポンス履歴レコードが存在していた場合は、次の 2 つのオプショ ンのいずれかを選択することができます。

- 関連付けられたレスポンス履歴レコード、およびコンタクト履歴レコードをクリ アする場合は、「OK」をクリックします。レスポンス履歴が存在し、前の実行の コンタクト履歴を置き換えたい場合は、これが唯一のオプションです。
- コンタクト履歴レコードのクリアを取り消す場合は、「キャンセル」をクリック します。現在のコンタクト・プロセスを実行するために新規の実行インスタンス を作成する場合は、代わりに「新しい実行インスタンスの作成」を選択すること ができます。

### プロセス用のデータ・ソースの選択

オーディエンス、セグメントの作成、キューブ、抽出、モデル、レスポンス、セグ メント、および選択などの多くのプロセスでは、プロセスが作用するデータのソー スを指定する必要があります。プロセス用のデータ・ソースは、着信セル、セグメ ント、テーブル、または複数のテーブルの場合があります。

プロセス用のデータ・ソースは、多くの場合、構成ウィンドウの最初のタブ上の 「入力」フィールドに「入力」ドロップダウン・リストを使用して指定します。手 順については、各プロセスの構成の説明を参照してください。例えば、74ページの 『選択プロセスを構成するには』を参照してください。

# 着信セル、セグメント、またはテーブルをプロセスへの入力として 選択するには

プロセス構成ダイアログの最初のタブで、「入力」ドロップダウン・リストから着 信セル、セグメント、またはテーブルを選択します。「入力」ドロップダウン・リ ストには、テーブル・カタログ内で現在マップされているベース・テーブルのすべ てが、それらのオーディエンス・レベルと共に表示されます。着信セルがある場 合、セルと同じオーディエンス・レベルを持つテーブルのみが表示されます。

# 複数のテーブルをプロセスへの入力として選択するには

複数のテーブルをプロセスへの入力として選択することができます。

プロセス構成ダイアログで、「入力」ドロップダウン・リストから「テーブル」
 「複数のテーブル」を選択します。

**注:** 複数のテーブルを選択する場合、各テーブルのオーディエンス・レベルが同 じである必要があります。

省略符号ボタンをクリックすることもできます。「テーブルの選択」ウィンドウ には、キャンペーンのテーブル・カタログ内のベース・テーブルがすべて表示さ れます。

- 2. 選択する各テーブルの横にあるボックスにチェック・マークを付けます。
- 3. 「OK」をクリックして、プロセス構成ダイアログに戻ります。「入力」フィー ルドには「複数のテーブル」が表示されます。これは、省略符号ボタンをクリッ クして表示できます。

#### 新規テーブルをソースとして選択するためにマップするには

プロセス構成ダイアログで、「入力」ドロップダウン・リストから「**テーブル」>** 「新規テーブル」を選択します。

「新規テーブル定義」ウィンドウでは、「ベース・レコード・テーブル」タイプが 事前選択されています。プロセス構成ダイアログで、「テーブル・マッピング」ダ イアログからテーブルをマップするのと同じ方法で新規ベース・テーブルをマップ します。 注: テーブルのマップを行える、適切な権限が必要です。テーブルのマッピングについて詳しくは、「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

# フィールドのプロファイル

「プロファイル」機能を使用すれば選択されたフィールドの個別の値リストとそれ らの出現の頻度をプレビューすることができます。セグメント・プロセスの「デー タ・フィールドで作成」ドロップダウン・リスト、または他の各プロセス構成ダイ アログの「選択可能なフィールド」のリストなどの、「プロファイル」ボタンが表 示されるプロセスすべてで使用可能なフィールドすべてをプロファイルすることが できます。カウントが事前集計されていない限り、現在のセル内にあるレコードだ けがカウントに含められます。

**注:**フィールドをプロファイルするための適切な権限が必要です。この機能へのア クセスに関する疑問点がある場合は、担当のシステム管理者に確認してください。

# フィールドをプロファイルするには

リスト内の任意のフィールドを選択して「プロファイル」ボタンをクリックする と、Campaign によってそのフィールドがプロファイルされます。任意のマップされ たデータ・ソース内の任意のフィールドをプロファイルできます。ユーザー定義フ ィールドをプロファイルすることもできます。

- 1. 「**プロファイル**」ボタンが用意されているプロセスの構成ウィンドウで、プロフ ァイルしたいフィールドを選択します。
- 2. 「プロファイル」をクリックします。

「プロファイル」ウィンドウが開きます。

Campaign によって、選択したフィールド内のデータがプロファイルされます。プロファイル処理の進行に伴い、カテゴリーと頻度のカウントが更新されます。

**注:** すべてのカテゴリーが処理されてカウントが完了するように、プロファイル処理が終了するまで待ってから、処理結果を使用してください。

プロファイル処理が完了すると、「プロファイル」ウィンドウには以下の情報が表 示されます。

• 選択されたフィールドの値のリスト (「カテゴリー」列に表示) と、その値を持つ ID の対応する件数。

注: Campaign は、値をカテゴリー別にまとめてグループ化し、サイズがほとんど 同じである複数のセグメントを作成します。カテゴリーのデフォルトの最大表示 数 (値ごとの階級) は 25 です。カテゴリーの最大数は変更できます。

- 右側の「統計情報」ペインには、ID の合計件数と、そのフィールドのデータに関 する以下のような詳細情報が表示されます。
  - 検出された NULL 値の数
  - そのフィールドのカテゴリー、つまり値の総数
  - そのデータの統計的な値 (平均値、標準偏差値、最小値、最大値など)。

注:「平均値」、「標準偏差」、「最小」、「最大」は、ASCII フィールドで は使用できません。テキスト・フィールドをプロファイルすると、これらの値 はすべてゼロで表示されます。

# プロファイルでの入力の制限

Campaign は、フィールドをプロファイルするときに、プロファイル作成が行われる プロセスの入力で使用できるセグメントだけを作成します。

言い換えると、セグメント・プロセスの入力を制限して、その制限された入力に基づいてフィールドをプロファイルすれば、制限された入力で使用できたセグメントだけがプロファイルに表示されることになります。

次の例を考えてみます。

- 1. レコードを 354 だけ返す照会を行う選択プロセスを構成します。
- 2. その選択プロセスをセグメント・プロセスの入力として使用します。
- 3. 「セグメント・プロセス構成」ダイアログで、「**プロファイル**」機能を使用して、さまざまなフィールドで使用できる値を調べます。
- 「プロファイル」ダイアログの「入力」リストで行う選択は、プロファイルされ るレコードの数を決定します。「なし」を選択した場合、Campaign はすべての レコードをプロファイルします。「入力」として着信選択ボックスを選択した場 合、Campaign はそのプロセスによって選択されたレコードだけをプロファイル します。選択プロセスの照会結果が 354 レコードだけになった場合、Campaign はそれらのレコードだけをプロファイルします。

次の例は、制限されたプロファイルを示しています。ここでは、「入力」は Select1 に設定されています。

Segment Extra	ct General				
and the second second	Profile Selected F	Field			
nput: Select1					
Segment by Field:	Field:	Preferred_Channel	* R	compute	
Segment by Query	Input:	Select 1		ished Profiling	
# of Segments: 3		-	St	atistics:	
	Category	Count		int:	
Segment Name	6	125	× 00	354	
Segment1	41	96	#1	ULLS: 0	
Segment2	'2'	98			
Comment2	2021		Ca	tegories:	

# プロファイルの不許可

リアルタイム・プロファイルを使用すれば、選択済みフィールドの特性を表示およ び使用することができます。ただし、この機能は、大規模なデータベースで処理し た場合にパフォーマンスに影響を与える可能性があります。このため、Campaign で は、このオプションを無効にできます。 リアルタイム・プロファイルが無効になっている状態で「プロファイル」をクリッ クすると、リアルタイム・プロファイルは許可されていないことを示すメッセージ が「プロファイル」ウィンドウの下部に表示されます。

プロファイルが許可されておらず、フィールドが事前集計されるように構成されて いない場合、「プロファイル」ウィンドウにはデータが使用可能ではないことが示 され、カウントもカテゴリーも表示されず、また「統計情報」の各カウントはすべ てゼロです。

事前に計算された値がフィールドで使用可能な場合、プロファイルを実行すると、 実際の値ではなく、これらの事前に計算された値が表示されます。「プロファイ ル」ウィンドウには、データ・ソースが「インポート済み」であることが表示さ れ、これらの値が最後に計算された日時が表示されます。

リアルタイム・プロファイルの不許可について詳しくは、「*IBM Campaign 管理者* ガイド」を参照してください。

# プロファイル・オプションの設定

次のことを行って、プロファイル機能の実行方法に反映することができます。

- 56 ページの『プロファイルでの入力の制限』
- 56ページの『プロファイルの不許可』

また、「プロファイル・オプション」ウィンドウで次の各オプションを設定することもできます。

- 『プロファイル・セグメントの最大数の指定』
- 58 ページの『メタタイプによるプロファイル』

#### 「プロファイル・オプション」ウィンドウにアクセスするには

 「プロファイル」オプションが選択できる、任意のプロセス構成ダイアログで、 プロファイル用のフィールドを選択するか、または「プロファイル」をクリック します。

「プロファイル」ウィンドウが表示されます。

2. 「プロファイル」ウィンドウで、「オプション」をクリックします。

「プロファイル・オプション」ウィンドウが表示されます。

#### プロファイル・セグメントの最大数の指定

フィールドを**プロファイル**する際に、Campaign によって、「プロファイル・オプシ ョン」ウィンドウで設定されたセグメントの最大数までセグメントが自動的に作成 されます。デフォルトでは、最大 25 のセグメントが許可されます。

プロファイルで使用するセグメントの最大数は変更できます。この設定が変更され ると、その新規設定は、リセットされるまで後続のすべてのプロファイルで使用さ れます。

注: プロファイル対象のフィールド内の個別の値の数が、セグメントの許可された 最大数を超えると、プロファイルによって、ほぼ等しいサイズのセグメントに値が まとめられて、セグメントの最大数を超えないようにされます。

#### プロファイル用のセグメントの最大数を設定するには

1. 「プロファイル」ウィンドウで、「オプション」をクリックします。

「プロファイル・オプション」ウィンドウが表示されます。

- 2. 「**セグメント数**」フィールドに整数を入力して、各フィールド値をまとめて分類 するためのセグメントの最大数を指示します。デフォルト値は 25 です。
- 3. 「**OK**」をクリックします。

プロファイルが、セグメント設定の新しい最大数を使用して再計算されます。

#### メタタイプによるプロファイル

プロファイルを行う際に、メタデータ・タイプの情報を使用するかどうかを指定す ることができます。これは、「プロファイル・オプション」ウィンドウの「**メタタ** イプ別プロファイル」チェック・ボックスを有効または無効にすることによって行 います。

「メタタイプ別プロファイル」を有効にしておくことが、通常望ましい動作です。 日付、金額、電話番号、およびその他の数値情報が含まれているフィールドに関連 付けられたデータ型は、ASCII テキストに基づいて単にソートされるのではなく、 メタデータ情報を使用して正しくソートされて階級化されます。

例えば、次の表は、日付フィールドのソートでメタタイプ情報を使用した場合と使 用しなかった場合を示しています。メタタイプを使用せずに実行されたプロファイ ルでは、単に数値的にソートされた結果が生成されますが、メタタイプを使用して 実行されたプロファイルでは、データが日付としてフォーマット設定されているこ とが認識され、それに応じてデータがソートされます。

メタタイプによるプロファイル	メタタイプを使用しないプロファイル
25-DEC-2006	20-FEB-2007
20-FEB-2007	20-MAR-2007
20-MAR-2007	25-DEC-2006

# プロファイル・カウントのリフレッシュ

結果を変更する可能性がある何かが発生した場合 (例えば、新しい値がフィールド に追加された場合)、またはデータベース表がリフレッシュされている可能性がある 場合は常に、プロファイル・カウントをリフレッシュすることができます。

「プロファイル」ウィンドウでフィールドのプロファイル結果をリフレッシュする には、「**再計算**」をクリックします。

注: ディメンション・テーブルからのあるフィールドを最初にプロファイルする際 に、ディメンション・テーブル内のそのフィールドに一致するカウントが Campaign によって返されます。プロファイル結果をリフレッシュするために「再計算」をク リックすると、ディメンション・テーブルにリンクされたベース・テーブルとの、 生成された結合からのカウントが、Campaign によって返されます。ベース・テーブ ルへの結合なしでディメンション・テーブル・フィールドをプロファイルしたい場 合、ディメンション・テーブルをベース・テーブルとしてマップします。

# プロファイル・カテゴリーを照会に挿入するには

プロセス構成ダイアログでの照会式の作成中は、照会式にフィールド値を挿入する ことができます。

- 1. 選択したフィールドに対してプロファイルを実行します。
- プロファイルが完了したら、「プロファイル」ウィンドウでカテゴリーを1つ ダブルクリックして、照会テキスト・ボックス内の現在のカーソル位置にその値 を挿入します。

注: 必要な値が表示されない場合、これは 1 つのプロファイル・セグメントに まとめられた複数の値のためである可能性があります。プロファイル・セグメン トの最大数をカテゴリーの数 (「プロファイル」ウィンドウで報告される) より 大きい数に設定した場合、各フィールド値は別のカテゴリーとしてリストされま す。これによって、既存のすべてのカテゴリーにアクセスすることが可能になり ます。

## プロファイルの結果を印刷するには

1. 「プロファイル」ウィンドウで「印刷」をクリックします。

「ページ・セットアップ」ページが表示されます。このページでは、プリンター と印刷オプションを指定できます。

2. 「OK」をクリックして、印刷ジョブのプリンターへの送信を確認します。

### プロファイル・データをエクスポートするには

フィールドのプロファイルを作成した後、プロファイル・データをコンマ区切り値 (CSV) テキスト・ファイルにエクスポートできます。 CSV ファイルは、どのよう なテキスト・エディターでも開くことができます。 Microsoft Excel でファイルを開 く場合、データがどのように表示されるかは、Excel の設定で決まります。例えば、 「1-5」などの範囲値を Excel が日付(1月5日)と解釈する場合もあります。

1. 「プロファイル」ダイアログで、「**エクスポート**」をクリックします。

注:「エクスポート」ボタンは、プロファイルの完了時にのみ有効になります。 「エクスポート」ダイアログが開きます。「ファイル名」フィールドにファイル 名を入力するか、またはデフォルト値を受け入れます。パスや拡張子は指定しな いでください。ファイルが作成されるとき、拡張子.csv が使用されます。

- (オプション) 各フィールドを識別するためにファイルに列ヘッダー含めるには、 「先頭行に項目名を出力」を選択します。
- 3. 「**エクスポート**」をクリックします。(このボタンが無効になっている場合、最 初にファイル名を入力する必要があります。)
- 4. 結果として表示されるダイアログ・ボックスを使用して、.csv ファイルを開くか または保存します。
- 5. ファイルを保存する場合、場所を指定するためのプロンプトが出されます。その ときにファイル名を変更することもできます。

# プロセスでの照会の作成

特定のプロセスを構成する際に、照会を使用してデータ・ソースから特定のデータ を返すことができます。 Campaign を使用すれば、次のいずれかの方法を使用した 照会の作成が容易になります。

- 『「ポイント & クリック」を使用して照会を作成するには』
- 61ページの『「テキスト・ビルダー」を使用して照会を作成するには』
- 62ページの『「式ヘルパー」を使用して照会を作成するには』
- 64 ページの『SQL を使用した照会の作成』

#### 「ポイント & クリック」を使用して照会を作成するには

ここでは、プロセス構成ダイアログにあるデフォルトの「ポイント & クリック」 方式を使用して照会を作成する方法について説明します。これらの指示に従うこと により、照会を編集することもできます。「選択基準」ドロップダウン・リストか ら新規項目を選択すると、既存の照会が削除されます。

1. セグメント、選択、抽出などの、照会を使用するプロセスの構成を開始します。

- 2. プロセスに応じて照会オプションにアクセスします。
  - 選択プロセスの場合、「条件を指定して <オーディエンス> ID を選択」を選 択します。
  - セグメント・プロセスの場合、「照会で作成」を使用し、セグメントを編集するためにダブルクリックしてから、「条件を指定して ID を選択」を使用します。
  - ・ 抽出プロセスの場合、「条件を指定してレコード選択」を使用します。

「ポイント & クリック」照会ビルダーが表示されます。

- 3. 以下のようにして、式を作成して照会を構成します。
  - a. 照会するフィールドを指定するには、「フィールド名」セルをクリックしま す。「選択可能なフィールド」リストが表示されます。リストが表示されな い場合は、「フィールド名」セルを再びクリックします。使用可能なフィー ルドを、ダブルクリックするか、または強調表示して「使用」をクリックす ることにより、選択します。使用可能なフィールドの中からどれを使用する かを決める際に、フィールドを強調表示して「プロファイル」をクリックす ると、フィールド値のリストを表示することができます。
  - b. 照会のために変数を作成するか、または既存の変数を選択する場合は、「ユ ーザー定義フィールド」ボタンを使用できます。
  - c. 「**演算子**」セルをクリックしてから、「**演算子**」リスト内の比較演算子 (=、<、>、Between など) をダブルクリックします。
  - d. 「値」セルをクリックしてから、値をダブルクリックします。値が表示されない場合は、「プロファイル」をクリックしてフィールド値のリストを表示します。「値」セルをダブルクリックして、値を直接編集することもできます。

注:予期されるリスト(「選択可能なフィールド」、「演算子」、「値」、 「選択された式に対する操作」)が表示されない場合は、「式」領域内のセ ルをシングルクリックまたはダブルクリックしてみてください。 これで、フィールド名、演算子、値かこれで、フィールド名、演算子、および値 から構成される式 (Status=Active など) ができました。

- 4. 複数の式を追加して結合するには、以下のガイドラインに従います。
  - a. 別の式を追加するには、「AND/OR」セルをクリックし、次に「値」リスト 内の「AND」または「OR」をダブルクリックして、式の結合方法を指定しま す。
  - b. フィールド名、演算子、および値で構成される、次の式を作成します。
  - c. 評価の順序を制御するために括弧を追加するには、いずれかの行の「フィールド名」をダブルクリックして「選択された式に対する操作」リストを表示します。式のリストで、括弧のセットを追加するには「追加 (...)」、1 組の括弧を削除するには「削除 (...)」、選択した式内の括弧をすべて削除するには「すべてクリア (...)」をダブルクリックします。括弧を使用すると、複雑な照会を定義する場合に複数の式をグループ化することができます。例えば、(AcctType = 'Gold' AND Rank = 'A') OR NewCust = 'Yes' と AcctType = 'Gold' AND (Rank = 'A' OR NewCust = 'Yes') では意味が異なります。
  - d. 選択した式の順序を変更するには、「上へ移動」または「下へ移動」をダブ ルクリックします。
  - e. 選択した式の下に空白行を追加するには、「挿入」をダブルクリックしま す。
  - f. 選択した式を削除するには、「削除」をダブルクリックします。
- 5. 「**構文チェック**」をクリックして、照会の構文が正しいかどうかを確認します。 構文の確認によってデータベース・サーバーにロードがかかることはありません。

Campaign により、構文エラーがあるかどうかが表示されます。

6. (オプション) 「件数確認」を使用して、照会が返す ID の数を調べます。

照会のテスト中は、進行状況表示バーが表示されます。テストをキャンセルする には、進捗状況ウィンドウを閉じます。テストが終了すると、照会から返された 行数が Campaign によって表示されます。

**重要:** グローバル抑制およびセル・サイズ制限は、「件数確認」の数には適用されません。テスト照会は、正規化されていないデータを返す場合もあります。実行結果の正確な件数を取得するには、プロセスのテスト実行を行います。

7. 「**OK**」をクリックします。

#### 「テキスト・ビルダー」を使用して照会を作成するには

以下の説明では、プロセス構成ダイアログの「テキスト・ビルダー」機能を使用し た照会の作成方法について記述しています。

既存の照会を編集するには、「**テキスト・ビルダー**」ボタンをクリックした後に、 照会テキスト・ボックス内で照会テキストを直接編集します。

- 1. セグメント、選択、抽出などの、照会を使用するプロセスの構成を開始します。
- 2. プロセスに応じて照会オプションにアクセスします。

- 選択プロセスの場合、「条件を指定して <オーディエンス> ID を選択」を選 択します。
- セグメント・プロセスの場合、「照会で作成」を使用し、セグメントを編集するためにダブルクリックしてから、「条件を指定して ID を選択」を使用します。
- ・ 抽出プロセスの場合、「条件を指定してレコード選択」を使用します。
- 3. 「**テキスト・ビルダー**」をクリックして、デフォルトの「ポイント & クリッ ク」照会方式から変更します。

「ポイント & クリック」照会列が、照会テキスト・ボックスに置き換えられま す。既存の照会は、すべてテキスト・ボックス内に表示されます。

- 「入力」のデータ・ソースおよび照会するデータ・ソースを「選択基準」 リストから選択します。この選択により、照会の作成にどのフィールドを使用できるかが決まります。
- 5. 照会は次のようにして作成します。
  - 「選択可能なフィールド」リストからフィールド名またはテーブル名を選択し、ダブルクリックして照会テキスト・ボックスにそれらを入力します。また、一度クリックしてから、「<-使用」をクリックして照会テキスト・ボックスにそれを移動することもできます。</li>
  - 必要な演算子と値を入力します。選択したフィールドの値を表示するために、
     「プロファイル」をクリックできます。

注:フィールド名とテーブル名は照会テキスト・ボックスに直接入力できます が、リストからそれらの名前を選択することが構文エラーの発生を防ぐために役 立ちます。

- 6. 照会の構文を検査するには、「**構文チェック**」をクリックします。構文の確認に よってデータベース・サーバーにロードがかかることはありません。
- 7. (オプション) 「件数確認」を使用して、照会が返す ID の数を調べます。

照会のテスト中は、進行状況表示バーが表示されます。テストをキャンセルする には、進捗状況ウィンドウを閉じます。テストが終了すると、照会から返された 行数が Campaign によって表示されます。

**重要:** グローバル抑制およびセル・サイズ制限は、「件数確認」の数には適用されません。テスト照会は、正規化されていないデータを返す場合もあります。実行結果の正確な件数を取得するには、プロセスのテスト実行を行います。

8. 照会を作成し終わったら、「OK」をクリックします。

プロセス構成ボックスが閉じて、「**編集**」モードのフローチャート・ページに戻ります。

#### 「式ヘルパー」を使用して照会を作成するには

式ヘルパーを使用して、事前定義されたリストからマクロと関数を選択することに より、照会を作成します。提供されるボタンを使用して、演算子と句読点を挿入し ます。

1. セグメント、選択、抽出などの、照会を使用するプロセスの構成を開始します。

- 2. プロセスに応じて照会オプションにアクセスします。
  - 選択プロセスの場合、「条件を指定して <オーディエンス> ID を選択」を選 択します。
  - セグメント・プロセスの場合、「照会で作成」を使用し、セグメントを編集するためにダブルクリックしてから、「条件を指定して ID を選択」を使用します。
  - ・ 抽出プロセスの場合、「条件を指定してレコード選択」を使用します。
- 3. 「テキスト・ビルダー」をクリックして、デフォルトの「ポイント & クリッ ク」照会方式から変更します。
- 4. 「**式ヘルパー**」をクリックします。

「式ヘルパー」ウィンドウが開きます。そこには、よく使用される演算子を挿入 するためのボタン一式、およびマクロと関数のリストが含まれています。

- 5. (オプション) SQL の演算子と関数だけで作業する場合、「SQL」にチェック・ マークを付けます。
- 通常の場合と同じ方法で「選択可能なフィールド」リストから選択することにより、照会を作成します。さらに、「式ヘルパー」ウィンドウを使用して以下を行います。
  - a. マクロや関数のリストを展開して、使用するアイテムを見つけます。アイテ ムを選択すると、説明と構文例が表示されます。アイテムをダブルクリック すると、それが照会テキスト・ボックスに追加されます。

注: カスタム・マクロを選択した場合、この説明と構文規則はそのマクロを記述した人によって作成されています。

- b. 「式ヘルパー」のボタンを使用して、演算子と句読点を追加します。「クリ ア」ボタンは、バックスペース (削除) キーとして機能します。
- c. 照会を直接編集することもできます。ただし、フィールドやテーブル名などのアイテムを提供されたリストから選択すれば、構文エラーを避けることができます。
- d. 「閉じる」をクリックします。
- 7. 「**構文チェック**」を使用して、エラーを検出します。構文の確認によってデータ ベース・サーバーに負荷がかかることはありません。
- 8. (オプション) 「件数確認」を使用して、照会が返す ID の数を調べます。

照会のテスト中は、進行状況表示バーが表示されます。テストをキャンセルする には、進捗状況ウィンドウを閉じます。テストが終了すると、照会から返された 行数が Campaign によって表示されます。

**重要:** グローバル抑制およびセル・サイズ制限は、「件数確認」の数には適用されません。テスト照会は、正規化されていないデータを返す場合もあります。実行結果の正確な件数を取得するには、プロセスのテスト実行を行います。

### SQL を使用した照会の作成

経験豊富な SQL ユーザーは、独自の SQL 照会を記述したり、他のアプリケーションから SQL 照会をコピー・アンド・ペーストしたりすることができます。未加工 SQL を記述することは、高度な操作です。正しい構文と照会結果に対して責任はユーザーにあります。

未加工 SQL を使用するときは、以下のガイドラインに従ってください。

- SQL 照会では、ベース・テーブル上のキーで定義された一意の ID のみからなる リストを返す必要があります。
- SQL 照会では、次の構文を使用する必要があります。

SELECT DISTINCT(<key1> [<key2>,...]) FROM WHERE <condition>
ORDERBY <unique id>

この照会は、ソートとデータ重複解消を実行するようデータベースに指示しま す。 DISTINCT 節または ORDERBY 節を省略した場合、Campaign はアプリケーシ ョン・サーバー上でデータのソートと重複解消を行うので、受け取る結果は正し くなりますが、パフォーマンスが低下することになります。

- データベース内最適化が有効になっていて、選択プロセスへの入力セルがある場合、正しいオーディエンス ID リストを取得するには、<TempTable> トークンを 使用する必要があります。 65ページの『TempTable トークンおよび OutputTempTable トークンの未加工 SQL 照会での使用』を参照してください。
- 大きいテーブルでパフォーマンスを大幅に向上させるためには、データベース内 最適化を使用しない場合でも <TempTable> トークンを使用してください。
- ご使用のデータベースで複数のコマンドの受け渡しが可能な場合、以下の規則に 従って、有効な SQL コマンドを必要なだけ入力します。
  - 適切な区切り文字でコマンドを区切る。
  - 最後のコマンドが select コマンドである必要がある。
  - この select コマンドでは、オーディエンス・レベルを定義する際に必要な関 連するフィールドすべてを、オーディエンス・レベルを定義する順序と同じ順 序で選択する必要がある。
  - その他に select ステートメントが使用されていない。

#### 未加工 SQL 照会を作成するには

- 1. 選択プロセスまたはセグメント・プロセスの構成を開始します。
- 2. 選択プロセスの場合、以下のように「テキスト・ビルダー」に切り替えて SQL 照会を記述する必要があります。
  - a. 「条件を指定して <オーディエンス> ID を選択」を選択します。
  - b. (デフォルトの「ポイント & クリック」方式の代わりに)「**テキスト・ビルダ** ー」に変更します。
  - c. 「拡張」をクリックします。
  - d. 「拡張設定」ダイアログで、「未加工 SQL を利用してレコード選択」にチ ェック・マークを付けます。このオプションは、選択基準を指定する際に、

テキスト・ビルダーで未加工 SQL の使用を可能にします。このオプション を選択しない場合は、IBM EMM の式とカスタム・マクロだけを使用できま す。

- e. 「**データベース**」リストから、照会するデータ・ソースを選択します。「**オ** ーディエンス・レベル」リストから対象オーディエンスを選択します。
- f. 選択プロセスの前か後に SQL コマンドを実行する場合、「前処理」または 「後処理」領域に未加工 SQL を指定できます。 67 ページの『前処理または 後処理の SQL ステートメントを指定するには』を参照してください。
- g. 「OK」をクリックして、「拡張設定」ダイアログを閉じます。
- h. テキスト入力域に未加工 SQL を入力します。「式ヘルパー」を使用する と、SQL の構築に役立ちます。式ヘルパーで「SQL」にチェック・マークを 付けて、演算子と関数のリストに、SQL 固有のオプションだけが表示される ようにします。
- 3. セグメント・プロセスの場合は、以下のようにします。
  - a. 「照会で作成」を選択してから、セグメントを作成または編集します。
  - b. 「条件を指定して ID を選択」を選択し、「テキスト・ビルダー」をクリックしてから、「拡張」をクリックします。
  - c. 「拡張設定」ダイアログで、「未加工 SQL を使用する」にチェック・マー クを付けてから、データ・ソースを選択して、「OK」をクリックします。
  - d. テキスト入力域に未加工 SQL を入力します。オプションで、「式ヘルパー」を使用すると、SQL の構築に役立ちます。式ヘルパーで「SQL」にチェック・マークを付けて、演算子と関数のリストに、SQL 固有のオプションだけが表示されるようにします。

## TempTable トークンおよび OutputTempTable トークンの未加工 SQL 照会での使用

- 最高のパフォーマンスを得るためには、未加工 SQL 照会で <TempTable> トーク ンを使用してください。大きなテーブルを照会するときには、特にそうします。
- データベース内最適化を使用していて、入力セルがある「選択」プロセスで未加 工 SQL 照会を指定する場合、正確な動作を保証するために <TempTable> トーク ンが必要です。詳しくは、下記を参照してください。
- データベース内最適化を使用している場合、<OutputTempTable> トークンも使用 して、データベース内最適化を保持し、オーディエンス ID が取得されてデータ ベースから Campaign サーバーに戻されることのないようにします。

入力セルがある「選択」プロセスで未加工 SQL 照会を使用する場合、処理動作は データベース内最適化が使用されているかどうかによって次のように異なります。

- 「データベース内最適化の使用」がオフの場合:未加工 SQL 照会からの ID の リストは入力セルからの ID リストに対して自動的に突き合わされます。結果と して生成される ID のリストは、予期どおりにそのセルのサブセットです。
- 「データベース内最適化の使用」がオンの場合: Campaign は、「選択」プロセス から生成される ID リストが最終リストであると見なします。 Campaign は、入 カセルの ID リストに対して、このリストを突き合わせません。そのため、中間 的な「選択」プロセス (入力セルのある「選択」プロセス) に対して書き込まれる 未加工 SQL 照会で、入力セルに対して正しく結合するために <TempTable> トー

クンを使用することが必要です。入力セルに対して結合することによって、正しい結果が保証され、入力セル内に存在しないオーディエンス ID のための本来必要のない処理が発生しないので、パフォーマンスが向上します。

データベース内最適化で未加工 SQL を使用することに関する重要な情報は、 37 ページの『データベース内最適化によるフローチャート・パフォーマンスの向上』 を参照してください。

例: TempTable トークンおよび OutputTempTable トークンの使用: 「ゴールド」 の顧客 (例えば、Indiv.AcctType = 'ゴールド') である 1 万人の顧客を選択する Select1 というプロセスがあるとします。そして、次の未加工 SQL 照会を使用し て、第 2 の選択プロセス (「Select2」) に Select1 を接続します。

Select p.CustID from Indiv p, <TempTable> where p.CustID =
<TempTable>.CustID group by p.CustID having sum(p.PurchAmt) > 500

この例では、入力セル内に存在する、購入額の合計が 500 ドルを超える顧客 (言い 換えると、「ゴールド」の顧客タイプの顧客) を選択します。

これに対して、次の未加工 SQL 照会では <TempTable> トークンと結合を省略して います。

Select p.CustID from Purchases p group by p.CustID having sum(p.PurchAmt) >
500

最初に Purchases テーブル内の顧客すべて (何百万もの顧客になる可能性がある) に ついて個々の購入額の合計を算出してから、その顧客が「ゴールド」の顧客である かどうかに関係なく、購入額が 500 ドルを超える顧客すべてを選択します。

したがって、最良のパフォーマンスを得るためには、データベース内最適化が無効の場合でも入力セルが存在するときは、<TempTable>トークンを使用して未加工 SQL 照会を作成します。

この例では、話を単純化するために <OutputTempTable> トークンを使用していませ んが、データベース内最適化を維持して、オーディエンス ID がデータベースから Campaign サーバーに取得し戻されないようにするために、作成する未加工 SQL 照 会には <OutputTempTable> トークンを組み込む必要があります。以下に例を示しま す。

Create table <OutputTempTable> as Select p.CustID from Purchases p, <TempTable> where p.CustID = <TempTable>.CustID group by p.CustID having sum(p.PurchAmt) > 500

#### 未加工 SQL 照会での抽出テーブルの参照

<Extract> トークンを使用して、未加工 SQL によって下流のプロセス内の抽出テ ーブルを参照することができます。このトークンを使用して後続の処理用のデータ のサブセットを指定します。これによって、大きいテーブルで処理する場合にパフ ォーマンスが向上する可能性があります。

次の例では、勘定残高が 1,000 ドルを超えている顧客すべての顧客 ID を選択する ために抽出テーブルを照会します。
Select p.CUSTOMERID from USER\_TABLE p, <Extract> where p.CUSTOMERID =
<Extract>.CUSTOMERID group by p.CUSTOMERID having sum(p.BALANCE) > 1000

複数の抽出プロセスが含まれたフローチャートの場合、<Extract> トークンでは最 新の使用可能な抽出テーブルを必ず参照します。

注:マージ後は、<Extract>トークンは有効な場合も無効な場合もあります。トークンが予期どおりに処理するかどうかを判別するには、フローチャートをテスト実行します。

### 前処理または後処理の SQL ステートメントの指定

選択プロセスまたは抽出プロセスを使用する場合は、プロセスの前または後で実行 する未加工 SQL ステートメントを必要に応じて組み込むことができます。

- 「前処理」: 照会が実行される前に処理される未加工 SQL を入力する
- 「後処理」: 照会が実行された後に処理される未加工 SQL を入力する

この機能は、SQL プロシージャーをプロセス実行の一部として組み込む場合に使用 し、ETL、ルーチン・データマート更新、パフォーマンス・チューニング、および セキュリティーに役立ちます。例えば、前処理 SQL ステートメントおよび後処理 SQL ステートメントを使用して、以下の処理を行えます。

- データベースのストアード・プロシージャーを実行する
- テーブルとインデックスの作成、ドロップ、および再作成
- 他のユーザーまたはグループに対して権限を付与したり、権限を変更したりする
- 複数ステップのデータベース・コマンドを編成する
- 複雑なデータベース・ルーチンの実行 (データベースへの接続に外部スクリプトの使用を必要としない)

注: 重要情報について、64 ページの『SQL を使用した照会の作成』を参照してくだ さい。データベース内最適化を使用する場合は、37 ページの『データベース内最適 化によるフローチャート・パフォーマンスの向上』を参照してください。

#### 前処理または後処理の SQL ステートメントを指定するには:

1. 選択プロセスまたは抽出プロセスの構成を開始します。

すべてのレコードを選択することも、照会を使用して特定の ID を選択すること もできます。選択プロセスの場合、照会のタイプ (標準照会または「未加工 SQL を利用してレコード選択」) に関係なく、前処理や後処理を適用できま す。

2. 「拡張」ボタンをクリックします。

「拡張設定」ウィンドウが表示されます。

- 3. 「前処理」領域内をダブルクリックして、プロセスの前に実行する未加工 SQL ステートメントを入力します。
- 4. 「**データベース**」セル内でクリックし、このステートメントの実行対象のデータ ベースを選択します。

「データベース」リストには、使用できるデータベース (データ・ソースのカテ ゴリーが Marketing Platform 内の「構成」ページで構成されているデータベー ス)がすべて示されます。リスト内にデータベースが表示されない場合は、
 Campaign のシステム管理者に問い合わせてください。データベースを選択する
 には、その前に SQL ステートメントを入力する必要があります。

SQL ステートメントは出現する順番に処理されます。

5. プロセスの後に実行する「後処理」 SQL ステートメントを入力するには、この 同じ手順に従います。

SQL ステートメントは出現する順番に処理されます。

注:「拡張設定」ダイアログの「未加工 SQL を利用してレコード選択」オプションについて詳しくは、 64 ページの『未加工 SQL 照会を作成するには』を参照してください。

## Campaign プロセスでの照会の評価方法

Campaign プロセス内の照会は、数学の規則を使用して左から右に評価されます。

例えば、ステートメントの

[UserVar.1] < PDF < [UserVar.2]

は、次のように評価されます。

([UserVar.1] < PDF) < [UserVar.2]

つまり、次に示すように、ステートメントの最初の部分 ([UserVar.1] < PDF) が true または false (1 または 0) と評価されてから、その結果が 2 番目のステートメ ントに渡されます。

[1 | 0 ] < [UserVar.2]

この例で PDF が [UserVar.1] より大きく [UserVar.2] より小さいと評価されるため には、次の照会を構成する必要があります。

[UserVar.1] < PDF AND PDF < [UserVar.2]</pre>

このステートメントは次のステートメントと同等です。

([UserVar.1] < PDF) AND (PDF < [UserVar.2])</pre>

### コンタクト・ログの出力ファイルまたはテーブルの指定

メール・リストやコール・リストなどのコンタクト・プロセスでは、以下に結果を 書き込むことができます。

- システム・テーブル
- 指定した、新規または既存の外部ファイル
- マップ解除されたデータベース表

### 出力ファイルをコンタクト・ログに指定するには

 「編集」モードのフローチャートで、プロセス構成ダイアログの「エクスポート 先」または「保存先」ドロップダウン・リストから、「ファイル」を選択しま す。「ファイル」オプションは、通常リストの下部の、マップ・テーブルのリス トの次に表示されます。

「出力ファイルの指定」ウィンドウが表示されます。

- 2. 書き込むファイルのタイプを選択します。
  - データ・ディクショナリー付きフラット・ファイル 新規固定幅ファイルと
     新規データ・ディクショナリー・ファイルを作成します。
  - 既存のデータ・ディクショナリーに基づくフラット・ファイル 新規固定幅 ファイルを作成し、既存のデータ・ディクショナリー・ファイルを選択しま す。
  - 区切り記号付きファイル フィールド値がタブ、コンマ、または他の文字で 区切られている、新規ファイルを作成します。
- 3. 「区切り記号付きファイル」を選択した場合は、次のようにします。
  - オプションの「タブ」、「コンマ」、または「その他」を選択します。「その 他」を選択した場合、区切り文字として使用する文字を「その他」フィールド に入力します。
  - ファイルの最初の行にデータの列ごとのラベルを含める場合は、「先頭行のラベルを含める」にチェック・マークを付けます。
- 「ファイル名」フィールドにファイルの完全なパスと名前を入力します。「参照」をクリックして任意のディレクトリーにナビゲートし、既存のファイルを選択することもできます。

注:出力ファイル名には、ユーザー変数を使用できます。例えば、ファイル名として MyFile<UserVar.a>.txt を指定し、プロセス実行時のユーザー変数「a」の値が「ABC」の場合、MyFileABC.txt という名前のファイルに出力が書き込まれます。フローチャートを実行する前に、ユーザー変数の「初期値」と「現在の値」を設定する必要があることに注意してください。

- 5. Campaign では、入力したファイルと同じ名前の .dct ファイル、および同じ場所 で「データ・ディクショナリー」フィールドを自動的に埋め込みます。
- 別のデータ・ディクショナリーを使用するか、またはデータ・ディクショナリーの名前を変更したい場合、「データ・ディクショナリー」フィールドにそのデータ・ディクショナリー・ファイルの完全なパスと名前を入力します。
- 7. 「**OK**」をクリックします。

「出力ファイルの指定」ウィンドウが閉じます。プロセス構成ダイアログに戻り、入力したパスとファイル名が「**エクスポート先」/「保存先」**フィールドに表示されます。

### データベース表をコンタクト・ログに指定するには

プロセス構成ダイアログで、「エクスポート先」または「保存先」ドロップダウン・リストから「新規テーブル」または「データベース表」を選択します。このオプションは、通常リストの下部の、マップ・テーブルのリストの次に表示されます。

「データベース表の指定」ウィンドウが表示されます。

2. テーブル名を指定します。

注: テーブル名には、ユーザー変数を使用できます。例えば、テーブル名として MyTable<UserVar.a> を指定し、ユーザー変数「a」の値がプロセスの実行時に 「ABC」の場合、出力は MyTableABC という名前のテーブルに書き込まれま す。フローチャートを実行する前に、ユーザー変数の「初期値」と「現在の値」 を設定する必要があります。

- 3. ドロップダウン・リストからデータベース名を選択します。
- 4. **「OK」**をクリックします。

「データベース表の指定」ウィンドウが閉じます。プロセス構成ダイアログに戻り、入力したデータベース表の名前が「**エクスポート先」/「保存先」**フィールドに表示されます。

- 5. 指定した名前のテーブルが存在する場合、次の出力データの書き込み用のオプションを選択します。
  - データ追記 このオプションを選択する場合、出力データと互換性のあるス キーマが既存のテーブルに保持されている必要があります。言い換えると、フ ィールド名とフィールド・タイプが一致する必要があり、また書き込まれる出 カデータをフィールド・サイズで考慮する必要があります。
  - レコード置換 このオプションを選択した場合、テーブル内の既存の行が新 規出力行で置換されます。

### 乱数選択用のシードの変更

ランダム・シードは、Campaign でレコードをランダムに選択するために使用する開 始点を表します。レコードをランダムに選択する場合、次のようなシチュエーショ ンでランダム・シードを変更できます。

- 同数のレコードが同じ順序で存在し、このプロセスを実行するごとに同じシード 値を使用すると、結果的に同じサンプルに作成されるレコードになる場合。
- 使用している現在のランダム・サンプルが非常に偏った結果を生成する場合(例 えば、データ内のすべての男性が1つのグループに属し、すべての女性が別のグ ループに属す場合)。

### レコードを選択するためのランダム・シードを変更するには

プロセス構成ダイアログの「**セル・サイズの制限**」タブで、次の方法のいずれかで 乱数選択の開始点を変更します。

- 「ランダム・シード」テキスト・ボックスに数値を入力する。または
- 入力する代わりに、「選択」をクリックして、Campaign に新しいシード値をラン ダムに選択させる。

## プロセス出力での重複 ID の除外

抽出、コール・リスト、メール・リスト、スナップショットの各プロセスを使用す ると、プロセス出力での重複 ID の処理方法を指定することができます。デフォル トでは、出力で重複 ID を許可します。重複 ID を持つレコードを出力から除外す るには、以下の手順を実行します。

1. プロセスの構成ウィンドウで、「詳細」をクリックします。

「拡張設定」ウィンドウが表示されます。

a. 「重複 ID のレコードを除外」を選択し、重複 ID が返された場合にどのレ コードを残すかを決定するための基準を指定します。例えば、最も高い世帯 収入を持つ ID だけをエクスポートするには、「最大値選択」と 「Household Income」を選択します。

注: このオプションでは、同じ入力フィールド内の重複を除去するだけです。 同じ ID が複数のフィールドで出現する場合、データには引き続き重複 ID を含めることができます。重複 ID をすべて除去する場合は、抽出プロセス の上流プロセスであるマージ・プロセスまたはセグメント・プロセスを使用 して重複 ID を消去するか、相互に排他的なセグメントを作成する必要があ ります。

2. 「OK」をクリックして、「拡張設定」ウィンドウを閉じます。

重複 ID の設定が構成ウィンドウに表示されます。

注:「メール・リスト」プロセス・ボックスまたは「コール・リスト」プロセ ス・ボックスの「重複 ID のレコードを除外」 オプションは、プロセスで作成 されたフルフィルメント・テーブルにのみ関連し、コンタクト履歴に書き込まれ たレコードには関連しません。コンタクト履歴テーブルでは、固有の ID だけが 処理されます。フローチャートの設計者は、正しいレコードが結果セットに取り 込まれることを確認してから、コンタクト履歴テーブルでの処理を行う必要があ ります。「メール・リスト」プロセス・ボックスまたは「コール・リスト」プロ セス・ボックスを表示する前に、抽出プロセスを使用して、結果セットから重複 ID を除外します。これにより、フルフィルメント・テーブルとコンタクト履歴 の両方に、正しいレコードが書き込まれるようになります。

# 第 6 章 Campaign プロセスの構成

この章では、各 Campaign プロセスの構成方法と使用法について説明します。

プロセスに関する一般的な概念と手順については、43ページの『第 5 章 Campaign プロセスの概要』を参照してください。

# プロセスのリスト

Campaign には、フローチャートで使用される以下のプロセスが用意されています。 一連のプロセスを構成して接続することで、マーケティング・キャンペーンの目標 を達成できます。

注: Interact、Contact Optimization、および eMessage には、キャンペーン・フローチャートで使用される追加プロセスが用意されています。それらのプロセスについて 詳しくは、それらの製品用の個別の文書を参照してください。

表 8. Campaign プロセスのリスト

プロセス	目的
74 ページの『選択』	
79 ページの『マージ』	コンタクトをマージまたは抑止します。
80ページの『セグメント』	データを互いに異なるグループにセグメント化します。
87 ページの『サンプル』	コントロールで使用されるデータからサンプルを作成し、シナリオをテストします。
91 ページの『オーディエン ス』*	オーディエンス・レベルを切り替え、類似オーディエンスに基づいてデータをフィル ターに掛けます。
103 ページの『抽出』	さらに下流の処理および操作のためにデータのサブセットを抽出します。
109 ページの『スナップショ ット』	テーブルまたはファイルへのエクスポートのために ID と関連データのリストを取得 します。
111ページの『スケジュー ル』	実行中のフローチャート内の 1 つ以上のプロセスを開始します。
117 ページの『キューブ』	管理者は、複数のソースからデータをユーザーがドリリングできるように、属性のマ ルチディメンション・キューブを定義できます。詳しくは、以下を参照してくださ い。
	<ul> <li>241 ページの『キューブについて』</li> </ul>
	・ 238 ページの『ディメンション階層について』
118 ページの『セグメントの 作成』	管理者は、グローバル使用のためのセグメントを作成できます。詳しくは、以下を参 照してください。
	<ul> <li>13ページの『戦略的セグメントのキャンペーンとの関連付け』</li> </ul>
	<ul> <li>229 ページの『戦略的セグメントについて』.</li> </ul>
120ページの『メール・リス ト』*	ダイレクト・メール・キャンペーンのためのコンタクト・リストを生成し、オファー を割り当て、コンタクト履歴を記録します。
126 ページの『コール・リス ト』*	テレマーケティング・キャンペーンのためのコンタクト・リストを生成し、オファー を割り当て、コンタクト履歴を記録します。

表 8. Campaign プロセスのリスト (続き)

プロセス	目的
127 ページの『トラッキン グ』*	コンタクト履歴を更新します。
130 ページの『レスポンス』 *	コンタクト・レスポンスを評価し、情報をレスポンス履歴システム・テーブルに記録 します。
132 ページの『モデル』*	レスポンダーと非レスポンダーをモデル化します。その結果のランタイム・モデル・ ファイルをスコア・プロセスで使用して、最も見込みのあるレスポンダーを判別しま す。
134 ページの『スコア』	データ・モデルに基づいてコンタクトをスコアリングします。
* 詳しくは、187 ページの『纾	<b>9 章 コンタクト履歴およびレスポンス・トラッキング』を参照してください。</b>

### 選択

選択プロセスを使用して、顧客、口座、世帯などのコンタクトのリストをマーケティング・データから作成するための基準を定義します。選択プロセスは、Campaign で最も頻繁に使用されるプロセスです。ほとんどのフローチャートは 1 つ以上の選択プロセスから始まります。選択プロセスは、他のプロセスによって変更および詳細化が可能な、顧客 ID などの ID のリストを含むセルを出力します。

## 選択プロセスを構成するには

選択プロセスを定義して、マーケティング・データからコンタクトのリストを作成 します。セグメントまたはテーブルにすべての ID を指定するか、照会を使用して 特定の ID を選択できます。その後、1 つ以上の選択プロセスを別のプロセスへの 入力として使用することができます。例えば、すべての上顧客 (Loyal Customer) を 選択し、次にすべてのオプトアウト顧客 (Opt-Out) について別の選択を行い、それ らをマージして 1 つのリストにすることができます。

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. パレットにある選択プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 3. フローチャートで「選択」プロセス・ボックスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが開きます。

「ソース」タブで、「入力」リストを開き、プロセスにデータ・ソースを提供するセグメントまたはテーブルを選択します。 テーブルを複数選択するには、フィールドの横にある省略符号ボタンを使用します。

注: IBM Digital Analytics を Campaign に統合すると、 IBM Digital Analytics を入力として選択することができます。手順については、76ページの『 IBM Digital Analytics セグメントを選択プロセスで使用するには』を参照してください。

- 「選択」オプションの中から1 つ選択します。オプション名は、入力データ・ ソースで指定されたオーディエンス・レベル (例えば、顧客) によって異なりま す。
  - <オーディエンス> ID の選択:前のステップで選択したセグメントまたはテーブルのすべての行を含めます。

- 条件を指定して <オーディエンス> ID を選択: 定義する照会に基づいて ID を選択します。
- 6. 「条件を指定して <オーディエンス> ID を選択」を選択した場合は、以下のいずれかの方法で照会を作成します。

注: 照会の作成方法について詳しくは、60ページの『プロセスでの照会の作 成』を参照してください。

- ポイント & クリック:「フィールド名」、「演算子」、および「値」セルを クリックして、式を作成するための値を選択します。式を結合するには、 「AND/OR」を使用します。これは、照会を作成する最も簡単な方法で、構文 エラーの回避にも役立ちます。
- テキスト・ビルダー: この方法を使用して未加工 SQL を作成するか、提供されたマクロを使用します。テキスト・ビルダー内の「式ヘルパー」を使用して、提供されたマクロ (論理演算子およびストリング関数を含む)を選択できます。

どちらの方法でも、「選択可能なフィールド」リスト (IBM Campaign 生成フィ ールドとユーザー定義フィールドを含む) からフィールドを選択することができ ます。

注: Campaign 生成フィールドと同じ名前を持つテーブル・フィールドが照会に 含まれている場合は、フィールド名を修飾する必要があります。構文として <table\_name>.<field\_name> を使用します。

- プロセスによって生成される ID の数を制限する場合は、「セル・サイズの制限」タブを使用します。 165 ページの『出力セル・サイズの制限』を参照してください。
- 8. 「全般」タブを以下のように使用します。
  - a. プロセス名: 記述名 (Select\_Gold\_Customers など) を割り当てます。プロセス 名は、フローチャートでボックス・ラベルとして使用されます。また、さま ざまなダイアログやレポートでプロセスを識別するためにも使用されます。
  - b. 出力セル名: この名前は、デフォルトで「プロセス名」と一致します。さまざ まなダイアログやレポートで出力セル (プロセスが取得する ID のセット) を 識別するために使用されます。
  - c. (オプション)「ターゲット・セルへのリンク」をクリックして、(現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートで定義された)ターゲット・セルのリストを表示すれば、ターゲット・セルを1つ選択できます。これで、TCSからのセル名が「出力セル名」フィールドに表示されるようになります。176ページの『ターゲット・セル・スプレッドシートについて』を参照してください。さらに、174ページの『プロセス構成ダイアログを使用してフローチャート・セルをターゲット・セルにリンクする方法』も参照してください。
  - d. セル・コード: セル・コードには標準形式があり、システム管理者によって決定されます。生成されたセル・コードは固有です。 171ページの『セル・コードの変更』を参照してください。
  - e. 説明: 選択プロセスの目的を説明します。一般的な方法としては、選択基準を 参照します。
- 9. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうか を確認するために、プロセスの実行をテストできます。

## **IBM Digital Analytics セグメントを選択プロセスで使用するには**

選択プロセスを構成するときに、 **IBM Digital Analytics セグメント**をデータ・ソースとして選択し、 IBM Digital Analytics 製品からエクスポートされたセグメント をキャンペーンで使用することができます。

注: 「 IBM Digital Analytics セグメント」オプションを選択できるのは、 IBM Digital Analytics と Campaign が統合されている場合のみです。統合の構成について は、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」で説明されています。

1. Campaign フローチャートの選択ボックスをダブルクリックして、「選択プロセ ス構成」ダイアログを開きます。

前に定義した IBM Digital Analytics セグメントを含む選択ボックスを変更する 場合は、「ソース」タブの「入力」ボックスに既存のセグメント名が表示されま す。

2. 「入力」リストを開き、「 IBM Digital Analytics セグメント」をクリックしま す。

Segment Name	Category	Description	Application	туре	Start Date	End Date	
Analytics_One	Sanity	Analytics One time segment	Analytics	One Time	Tue May 01 2012	Wed May 02 2012	Â
segment_per	Sanity		Analytics	Persistent	Tue May 15 2012	Wed Sep 26 2012	
Explore report	Sanity	Explore report	Explore	Same Session	Tue Aug 23 2011	Wed Sep 26 2012	
Lifecyde	Sanity	standard lifecycle	Explore	Lifecyde	Tue Aug 23 2011	Wed Sep 26 2012	
0-2 Mins / Session	Sanity	Explore standard segments	Explore	Same Session	Tue Aug 23 2011	Wed Sep 26 2012	-
egment range	2						
art Date: L	ast N Days		whe	re N is: 5			days.

「 IBM Digital Analytics セグメントの選択 (IBM Coremetrics Segment Selection)」ダイアログが開きます。

- 3. 「 IBM Digital Analytics セグメントの選択 (IBM Coremetrics Segment Selection)」ダイアログで、以下のように操作します。
  - リストから「クライアント ID」を選択し、その特定の IBM Digital Analytics クライアントに関連付けられている公開済みのすべてのセグメントのリストを 表示します。
  - 「セグメントの選択」リストに、 IBM Digital Analytics で定義されているセ グメントが表示され、セグメントが作成されたアプリケーション、セグメント のタイプ、および開始日と終了日も併せて表示されます。
  - 「説明」を参照すると、セグメントの目的を確認できます。セグメントに関する詳細が必要な場合は、そのセグメントをダブルクリックすると、セグメントの式、および IBM Digital Analytics で定義されているその他の情報が表示されます。
  - 各セグメントの横に表示されている「開始日」と「終了日」は、セグメントの 条件と一致する訪問者を検出するための、 IBM Digital Analytics 定義の日付 範囲を示しています。例えば、あるセグメントでは、2012 年 1 月 12 日から 2012 年 4 月 12 日までの間に少なくとも 3 回特定のサイトを訪問したすべ ての訪問者を検出し、別のセグメントでは別の日付範囲に該当する訪問者を検 出する、ということが考えられます。 IBM Digital Analytics 定義の日付範囲 をここで変更することはできません。ただし、ダイアログの下部にある「セグ メントの範囲」という日付制御を使用して、 IBM Digital Analytics で定義さ れた範囲内で日付の範囲を定義することは可能です。
- 4. リストでセグメントを選択します。 選択プロセスを変更 (作成ではなく) する場合は、既存のセグメント範囲が表示されます。
- 5. ダイアログの下部にある「セグメント範囲」という日付とカレンダーの制御を使 用して、選択したセグメントに関するデータを取得する日付範囲を指定します。
  - 指定する範囲は、 IBM Digital Analytics でそのセグメントに対して定義され た開始日から終了日まで (リストの各セグメントの横に示されている日付)の 範囲内でなければなりません。
  - Campaign は、開始日と終了日だけでなく、日付制約(指定されている場合) も考慮します。日付制約は IBM Digital Analytics で定義されますが、セグメ ントの選択ダイアログには表示されません。日付制約は、1 つのセグメントに 関してプルするデータの日数を制限することにより、大規模なデータ・セット のエクスポートが原因で IBM Digital Analytics が過負荷になることがないよ うにします。

例えば、3 カ月の期間 (開始日から終了日まで) と 7 日間の日付制約を指定し て IBM Digital Analytics で定義されたセグメントがあるとします。 Campaign で定義する日付範囲では、両方の制約を考慮します。 3 カ月の期間を超える 日付範囲を指定した場合、そのセグメント定義は保存できません。同様に、7 日間を超える日数を指定した場合も、そのセグメント定義は保存できません。

- IBM Digital Analytics 定義の範囲と日付制約の範囲に収まっていれば、絶対 的な日付と相対的な日付のいずれでも指定することができます。
- 絶対的な開始日を指定した場合は、終了日も指定する必要があります。例えば、 IBM Digital Analytics 定義のセグメントで3カ月の期間が指定されている場合、その期間内の1日、1カ月、または1週間の間に情報が収集された訪問者を、キャンペーンのターゲットにすることができます。

- 相対的な日付の例:
  - IBM Digital Analytics 定義のセグメントで3カ月の期間が指定されている場合、「昨日」や「最近7日」などの相対的な日付を指定して、最近の訪問者を継続的に検出することができます。キャンペーンは、IBM Digital Analytics 定義の終了日に達するまで問題なく実行されます。
  - 「今月」を指定する場合、この相対日付が使用される前日までの、その月のすべてのデータが使用可能になっている必要があります。例えば、今日が3月28日だとすると、選択したセグメントについて、3月1日から3月27日までのデータが使用可能になっている必要があります。
  - 「先月」を指定する場合、先月分のすべてのデータが使用可能になっている必要があります。例 #1: IBM Digital Analytics 定義のセグメントで、開始日が3月1日、終了日が3月31日と指定されている場合、4月1日から4月30日までの期間内で(4月30日を含む)、「先月」を使用して3月のデータを取得することができます。例 #2: IBM Digital Analytics定義のセグメントで、開始日が3月1日、終了日が3月30日と指定されている場合は、完全な1カ月分のデータが存在していないため、「先月」を使用することはできません。例 #3: IBM Digital Analytics定義のセグメントで、開始日が3月2日、終了日が3月31日と指定されている場合も、完全な1カ月分のデータが存在していないため、「先月」を使用することはできません。例2と例3の場合、「先月」がセグメントの日付の範囲内に収まっていないことを通知するメッセージが表示されます。その場合、相対日付ではなく絶対日付を使用する必要があります。
- 6. 「OK」をクリックして、「選択プロセス構成 (Select Process Configuration)」ダ イアログに戻ります。

選択プロセスを実行すると、指定された日付範囲および日付制約の範囲内におけ るセグメントに関するデータが IBM Digital Analytics からプルされます。フロ ーチャートで使用されているマッピング・テーブルにより、 IBM Digital Analytics の ID を Campaign のオーディエンス ID に変換する方法が Campaign に通知されます。これで、これらのオーディエンス ID をダウンストリーム・プ ロセスで使用できます。この仕組みに関する技術情報については、「*Campaign* 管理者ガイド」を参照してください。

まれに、フローチャートの実行時に、選択したセグメントの IBM Digital Analytics の ID の数が、Campaign で検出されたオーディエンス ID の数と一致 しない場合があります。例えば、100 個の IBM Digital Analytics キーがあるの に対し、Campaign で一致する ID が 95 個しかない場合があります。Campaign ではこの状況について警告が出されますが、フローチャートの実行は続行されま す。マップされた変換テーブルに更新されたレコードがあるか確認するように求 めるメッセージが、そのフローチャートのログ・ファイルに書き込まれます。管 理者は、その企業のポリシーに従ってオンライン・キーおよびオフライン・キー を(再) 照合し、変換テーブルに最新データを再挿入することにより、この状況 を解決できます。マップされた変換テーブルが更新されたら、フローチャートを 再実行する必要があります。 マージ

マージ・プロセスを使用して、どの入力セルを含めて結合するか、およびどの入力 セルを除外(抑制)するかを指定します。これにより、フローチャート内の以降のプ ロセスに対して、セルを含めたり除外したりできるようになります。例えば、マー ジ・プロセスを使用して、マーケティング資料を受け取らないことを要求した「オ プトアウト」顧客を抑制します。

## マージ・プロセスを構成するには

マージ・プロセスは、1 つ以上の入力セルを受け入れて、1 つの出力セルを生成し ます。ユーザーは、どの入力セルを含めて結合するか、またはどの入力セルを出力 から除外するかを指定します。

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. パレットにあるマージ・プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 3.1 つ以上の構成済みプロセスをマージ・プロセスへの入力として接続します。

注: すべての入力セルのオーディエンス・レベルは同じでなければなりません。

4. フローチャート内のマージ・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが開きます。マージ・プロセスに接続されたプロセスの セルは、「**入力**」リストに表示されます。

- 5. 「操作」タブを使用して、マージの際に入力セルを含めるか除外するかを指定し ます。「入力」リストでセルを選択し、以下のいずれかのリストに追加します。
  - 選択するレコード: このリストに追加するセル内の ID は、固有 ID の 1 つ のリストにまとめられます。
  - 除外するレコード: このリストに追加するセル内の ID は、マージ出力に含められません。例えば、オプトアウトを除外する場合は、このオプションを使用します。
- 6. 「**選択するレコード**」リスト内の入力セルにあるリストをマージする方法を指定 します。
  - 組み込み時にマージ/消去: このオプションは、少なくとも 1 つの入力セルに 存在する固有 ID のリストを生成します。重複 ID は 1 回だけ含められま す。この方法では、論理「OR」または「ANY」が使用されます。例: 顧客 A が Gold.out セルか Platinum.out セルのどちらかに 存在すれば、その顧客 A を含めます。
  - 組み込み時に照合 (AND): すべての入力セルにわたって存在する ID のみを含めます。この方法では、論理「AND」または「ALL」が使用されます。例: 顧客 Aの IDが Gold.out セルと LoyaltyProgram.out セルの両方に存在する場合にのみ、その顧客 Aを含めます。このオプションは、複数の基準を満たす顧客を含める場合に有用です。マージ・プロセスのすべての入力セルに ID が存在するのでない場合、その ID は含められません。
- 7. プロセスによって生成される ID の数を制限する場合は、「セル・サイズの制限」タブをクリックします。
- 8. 「全般」タブを以下のように使用します。

- a. プロセス名: 記述名を割り当てます。プロセス名は、フローチャートのボック ス・ラベルとして使用されます。また、さまざまなダイアログやレポートで プロセスを識別するためにも使用されます。
- b. 出力セル名: この名前は、デフォルトで「プロセス名」と一致します。さまざ まなダイアログやレポートで出力セル (プロセスが生成する ID のセット) を 識別するために使用されます。
- c. (オプション) 「ターゲット・セルへのリンク」をクリックして、(現在のキャ ンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートで定義された) ターゲット・ セルのリストを表示すれば、ターゲット・セルを 1 つ選択できます。これ で、TCS からのセル名が「出力セル名」フィールドに表示されるようになり ます。 176 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシートについて』を参 照してください。さらに、174 ページの『プロセス構成ダイアログを使用し てフローチャート・セルをターゲット・セルにリンクする方法』も参照して ください。
- d. セル・コード: セル・コードには標準形式があり、システム管理者によって決定されます。生成されたセル・コードは固有です。 171ページの『セル・コードの変更』を参照してください。
- e. 説明: プロセスの目的や結果を記述します。例えば、含めるレコードや除外す るレコードを示します。
- 9. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを 確認するために、プロセスの実行をテストできます。

## セグメント

セグメント・プロセスを使用して、データを個別のグループ (セグメント) に分割 し、さまざまな処理またはオファーを受け取ります。セグメントが作成された後 に、セグメント・プロセスをコンタクト・プロセス (コール・リストやメール・リ ストなど) に接続し、処理やオファーをセグメントに割り当てます。作成できるセ グメントの数に制限はありません。

例えば、顧客の以前の購買履歴に基づいて、顧客を高価値、中価値、および低価値 のセグメントに分割することができます。これらの各セグメントは、コンタクト・ プロセスに接続されると、異なるオファーを受け取ることができます。

データは 2 つの方法でセグメント化することができます。すなわち、フィールドで 個別の値を使用する方法、および照会を使用してフィールドのデータをフィルター 処理する方法です。データベース表フィールドに加えて、ユーザー定義フィールド を使用してデータをセグメント化することができます。これにより、カスタムの階 級付けを実行できます。

**重要:** セグメント・プロセスによって作成されるセグメントは、セグメントの作成 プロセスで作成され、任意のセッションまたはキャンペーンで使用できるグローバ ルに永続的な戦略的セグメントと同じものではありません。

## フィールドによるセグメント化

データベース表のフィールドによりデータをセグメント化する場合、そのフィール ド内の個別の各値によって別個のセグメントが作成されます。このオプションは、 フィールド内の値が、作成するセグメントに対応している場合に非常に便利です。

例えば、10 個の各地域の顧客に別々のオファーを割り当てるとします。ご使用の顧 客データベースには、各顧客が属している地域を示す regionID という名前のフィ ールドが含まれています。regionID フィールドでセグメント化し、10 個の地域セ グメントを作成します。

## 照会によるセグメント化

「照会で作成」オプションは、ユーザーが作成した照会の結果に基づいてデータを セグメント化します。このオプションは、必要なセグメントを作成するためにフィ ールド内のデータをフィルターに掛ける必要がある場合に非常に便利です。

例えば、過去1年間の顧客の購買履歴に基づいて、顧客を高価値(\$500超)、中価値(\$250から\$500)、および低価値(\$250未満)のセグメントに分割すると仮定します。ご使用の顧客データベースのPurchaseHistoryフィールドには、各顧客の購買金額の合計が格納されています。別個の照会を使用して、それぞれのセグメントを作成し、PurchaseHistoryフィールドでセグメントの条件を満たす値を持つレコードを選択します。

注: 未加工 SQL を使用してデータをセグメント化することもできます。

## 別のセグメント・プロセスへの入力としてのセグメントの使用

セグメントは、別のセグメント・プロセスへの入力セルとして使用することもでき ます。例えば、顧客を 6 つの年齢範囲にセグメント化するとします。データベース には、6 つの年齢範囲のいずれかを各顧客に割り当てる AgeRange という名前のフ ィールドが含まれています。AgeRange フィールドによってセグメント化し、6 つの セグメントを作成します。

その後、別のフィールドまたは照会によってさらに顧客を分割する別のセグメン ト・プロセスへの入力として、これらの 6 つのセグメントを使用することができま す。例えば、データベースに PreferredChannel という名前のフィールドが含まれ ているとします。このフィールドは、各顧客の優先コンタクト・チャネル (ダイレ クト・メール、テレマーケティング、FAX、E メール)を指定します。 6 つの年齢 範囲セグメントを入力として使用して、2 番目のセグメント・プロセスを作成し、 PreferredChannel フィールドによってセグメント化することができます。6 つの年 齢範囲セグメントの各セグメントが、さらに 4 つの優先チャネル・セグメントにセ グメント化され、合計で 24 個の出力セグメントが作成されます。

### セグメント化の考慮事項

データをセグメント化する場合は、以下のオプションおよびガイドラインを検討し てください。

- 82ページの『セグメント化方式の選択』
- 82ページの『セグメントを相互排他的にする』
- 82ページの『セグメント・サイズの制限』

『ソース・セルの選択』

### セグメント化方式の選択

場合によっては、フィールドまたは照会によってセグメント化したときに、同じ結 果が得られることがあります。例えば、ご使用のデータベースの AcctType フィー ルドによって、顧客の口座が「標準 (Standard)」、「優先 (Preferred)」、および「プ レミア (Premier)」の 3 つのレベルに分割されているとします。AcctType フィール ドによるセグメント化によって、これらの口座タイプ用に 3 つのセグメントが作成 されます。照会を使用しても同じ結果を得ることができますが、セグメントを作成 するには、3 つの別個の照会を作成する必要があります。セグメント化するデータ に基づいて、最も効率的な方法を判断してください。

### セグメントを相互排他的にする

セグメントが相互に排他的になるように指定できます。すなわち、条件を満たす各 レコードが1つのセグメントにのみ配置されることが保証されます。これにより、 セグメントがオファーに割り当てられると、各顧客がオファーを1つのみ受け取る ことが保証されます。

レコードは、ユーザーが定義した優先順位に基づいて、そのレコードが満たす基準 を持つ最初のセグメントに配置されます。例えば、顧客が1 および3 のセグメン トに適格であり、優先順位でセグメント1 がセグメント3 より前にある場合、そ の顧客はセグメント1 にのみ出現します。

### セグメント・サイズの制限

1 セグメントごとのレコード数のデフォルト・サイズは「無制限」です。例えば、 フローチャートまたはプロセスのテスト実行を行う場合など、作成されるセグメン トのサイズを制限することができます。

セグメント・サイズは任意の正整数に制限できます。指定するセグメント・サイズ が、生成されるレコードの総数より小さい場合、セグメントはランダムに選択され た適格なレコードで構成されます。

#### ソース・セルの選択

選択されたセルはすべて、同じオーディエンス・レベルで定義されていなければな りません。複数のソース・セルが選択されている場合、各ソース・セルで同じセグ メンテーションが実行されます。

### フィールドでセグメント・プロセスを構成するには

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. パレットにあるセグメント・プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 3. 1 つ以上の構成済みプロセスをセグメント・プロセスへの入力として接続しま す。
- 4. フローチャート内のセグメント・プロセスをダブルクリックします。

「セグメント・プロセス構成」ダイアログが表示されます。セグメント・プロセ スに接続されたプロセスのセルは「**入力**」リストに表示されます。

- 5. 「**セグメント**」タブで、「入力」ドロップダウン・リストを開き、セグメント・ プロセスへの入力を選択します。セルを複数選択するには、「入力」リストの横 にある省略符号ボタンを使用します。
- 6. 「**データ・フィールドで作成**」を選択し、ドロップダウン・リストを使用して、 セグメントの作成に使用するフィールドを選択します。

「**プロファイル**」ウィンドウが開き、選択されたフィールドのプロファイルが自動的に開始されます。

 すべてのセグメントが適切に作成されるように、プロファイル作成が終了するの を待ちます。次に「OK」をクリックします。

セグメントのリストおよび「**セグメント数**」フィールドは、選択されたフィール ドのプロファイル結果に基づいて更新されます。フィールドを最初に選択した後 に任意の時点でそのフィールドを再プロファイルするには、「プロファイル」を クリックします。

- 8. 以下の残りの構成オプションを設定します。
  - 84ページの『セグメント・プロセス構成: 「セグメント」タブ』
  - 85ページの『セグメント・プロセス構成:「抽出」タブ』
  - 86ページの『セグメント・プロセス構成:「全般」タブ』
- 9. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうか を確認するために、プロセスをテストできます。

### 照会でセグメント・プロセスを構成するには

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. パレットにあるセグメント・プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 3. 1 つ以上の構成済みプロセスをセグメント・プロセスへの入力として接続しま す。
- 4. フローチャート内のセグメント・プロセスをダブルクリックします。

「セグメント・プロセス構成」ダイアログが表示されます。セグメント・プロ セスに接続されたプロセスのセルは「**入力**」リストに表示されます。

- 5. 「**セグメント**」タブで、「入力」ドロップダウン・リストを開き、セグメン ト・プロセスへの入力を選択します。セルを複数選択するには、「入力」リス トの横にある省略符号ボタンを使用します。
- 6. 「照会で作成」を選択します。
- 7. 作成するセグメントの数を決定し、「**セグメント数**」フィールドに数値を入力 します。
- セグメントごとに照会を構成するには、セグメントを選択し、編集をクリックして、「セグメントの編集」ウィンドウにアクセスします。詳しくは、86ページの『「新規セグメント」および「セグメントの編集」ダイアログ』を参照してください。
- 9. 以下の残りの構成オプションを設定します。
  - 84ページの『セグメント・プロセス構成: 「セグメント」タブ』

- 85ページの『セグメント・プロセス構成:「抽出」タブ』
- 86ページの『セグメント・プロセス構成:「全般」タブ』
- 10. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを確認するために、プロセスの実行をテストできます。

## セグメント・プロセス構成: 「セグメント」タブ

次の表は、「**セグメント・プロセス構成**」ウィンドウの「セグメント」タブのコン トロールについて説明しています。

表9. 「セグメント」タブ

コントロール	説明
入力	セグメント・プロセスへの入力を指定します。ドロップダウ
	ン・リストには、セグメント・プロセスに接続されたプロセ
	スのすべての出力セルが含まれています。入力を複数選択す
	る場合は、「 <b>複数セル</b> 」を選択します。
データ・フィールドで作成	データのセグメント化に使用するフィールドを指定します。
	データは、選択されたフィールドに存在する個別の値を使用
	してセグメント化されます。フィールド内の個別の各値によ
	って、別個のセグメントが作成されます。
「プロファイル」ボタン	「 <b>プロファイル</b> 」ウィンドウを開きます。このウィンドウで
	は、選択されたフィールド内のレコードの値および配布を計
	算します。フィールドでセグメント化する場合にのみアクテ
	ィブです。
「ユーザー定義フィールド」	「 <b>ユーザー定義フィールドの作成</b> 」ウィンドウを開きます。
ボタン	フィールドでセグメント化する場合にのみアクティブです。
照会で作成	作成した照会に基づいてデータをセグメント化します。
セグメント数	作成するセグメントの数を指定します。照会でセグメント化
	する場合にのみアクティブです。デフォルトでは、
	「Segment1」、「Segment2」、および「Segment3」というデ
	フォルト名を使用して 3 つのセグメントが作成されます。
	   フィールドでセグメント化する場合、「 <b>セグメント数</b> 」フィ
	ールドは、選択されたフィールドのプロファイル結果に基づ
	いて更新されます。
データの重複を許可しない	セグメントを相互に排他的にするかどうかを指定します (す
	なわち、条件を満たす各レコードが 1 つのセグメントにの
	み配置されることが保証されます)。

表9. 「セグメント」タブ (続き)

コントロール	説明
抽出テーブルの作成	セグメントが出力セルごとに抽出テーブルを作成すべきかど うかを指定します。このオプションを選択すると、 Campaign は、セグメント全体で複製する対象オーディエン スを追跡するために必要な情報を後のプロセスに提供できる ようになります。 このチェック・ボックスを選択すると、「抽出」タブのオプ ションが有効になります。
	このチェック・ボックスは、「 <b>データの重複を許可しない」</b> が選択されている場合は無効になります。
セグメント名	すべてのセグメントを名前別にリストします。デフォルトでは、「Segment1」、「Segment2」、および「Segment3」というデフォルト名を使用して 3 つのセグメントが作成されます。
	フィールドでセグメント化する場合、「セグメント名」は、 選択されたフィールドのプロファイル結果に基づいて更新さ れます。例えば、「A」および「B」という 2 つの個別の値 を持つ「Acct_Status」という名前のフィールドでセグメント 化を行う場合、「Acct_Status_A」および「Acct_Status_B」 という名前の 2 つのセグメントが作成されます。
最大データ件数	各セグメントで許可された最大レコード数。
サイズ	セグメントの条件を満たすレコードの数。プロセスが実行さ れる前に、この数はデフォルトで出力セル内のレコードの総 数に設定されます。
照会	このセグメントの条件を定義する照会。照会でセグメント化 する場合にのみ表示されます。
1 つ上へ、1 つ下へ	選択したセグメントの順番を変えます。セグメントは、テー ブルにリストされている順に処理されます。
「新規セグメント」ボタン	「新規セグメント」ウィンドウを開きます。照会でセグメン ト化する場合にのみアクティブです。
「編集」ボタン	選択されたセグメントを編集するために「 <b>セグメントの編</b> 集」ウィンドウを開きます。
削除	選択されたセグメントを削除します。セグメントが削除され ると、「 <b>セグメント数</b> 」フィールドが自動的に更新されま す。
0件のセグメントは後続処理 を行わない	このプロセスの下流のプロセスが、空のセグメントについて 実行されないようにします。

# セグメント・プロセス構成: 「抽出」タブ

「セグメント・プロセス構成」ウィンドウの「抽出」タブを使用して、セグメン ト・プロセスから指定する出力が、フローチャート内のメール・リスト・プロセス またはコール・リスト・プロセスへの入力として利用できるようにします。次の表 は、「抽出」タブのフィールド、ボタン、および制御について説明しています。

表 10. 「抽出」タブ

フィールド	説明
ターゲット・データ・ソース	このプロセスの出力が書き込まれる場所。 Campaign Server
	および接続先のその他の任意のデータ・ソースが「ターゲッ
	ト・データ・ソース」ドロップダウン・リストから選択可能
	です。
選択フィールド	入力データ・ソースに基づいて抽出可能なフィールドのリス
	トで、フィールド名およびデータ型を含みます。
	入力ソースが eMessage のランディング・ページの場合、各
	フィールド名はランディング・ページの属性です。その属性
	に特殊文字またはスペースが含まれている場合は、有効なフ
	ィールド名に変換されます。すべてのランディング・ページ
	属性のデータ型は、テキストとしてリストされます。
	注: スキーマ・オブジェクト名は 30 文字までに制限されま
	す。ご使用の属性名を 30 文字以下に制限して、抽出された
	出力の有効な列名を作成してください。
抽出フィールド	「選択フィールド」リストから抽出することを選択したフィ
	ールド。「フィールド名」はデフォルトで「抽出フィール
	ド」列のフィールド名に設定されます。
「プロファイル」ボタン	「プロファイル」ウィンドウを開きます。このウィンドウで
	は、選択されたフィールド内のレコードの値および配布を計
	算します。フィールド名が「選択フィールド」リストで選択
	されている場合にのみアクティブになります。
「ユーザー定義フィールド」	「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウを開きます。
ボタン	
「詳細」ボタン	「拡張設定」ウィンドウを開きます。このウィンドウには、
	複製レコードをスキップし、Campaign が複製を識別する方
	法を指定するためのオプションが含まれています。

# セグメント・プロセス構成:「全般」タブ

「セグメント・プロセス構成」の「全般」タブでは、「**プロセス名」、「出力セ** ル」の名前、または「セル・コード」を変更したり、プロセスについての「説明」 を入力したりできます。 これらのオプションについて詳しくは、以下のトピックを 参照してください。

- 168ページの『セル名の変更』
- 169ページの『セル名のリセット』
- 170ページの『グリッド内のすべてのセルをコピーおよび貼り付けする方法』
- 171ページの『セル・コードの変更』

# 「新規セグメント」および「セグメントの編集」ダイアログ

次の表では、「新規セグメント」および「セグメントの編集」ダイアログのコント ロールについて説明します。「セグメントの構成 (Segment Configuration)」ダイアロ グからこれらのダイアログにアクセスすることができます。 注:「新規セグメント」ダイアログは、照会によるセグメント化を行う場合にのみ 利用できます。フィールドでセグメント化する場合は、「セグメントの編集」ダイ アログの「名前」および「最大サイズ」フィールドのみ利用できます。

表11. 「新規セグメント」および「セグメントの編集」ダイアログのコントロール

コントロール	説明
名前	セグメントの名前。
最大データ件数	セグメントで許可された最大レコード数。
選択基準	照会のベースとなるデータ・ソースを指定します。
全レコード選択	「入力」ドロップダウン・リストにあるデータ・ソースの ID をすべて含めます。
条件を指定してレコード選択	定義した基準に基づいて特定の ID のみ選択する照会を作 成するための機能を利用できるようにします。
「拡張」ボタン	「拡張」タブを開きます。このタブには以下のオプションが あります。
	• 未加工 SQL を使用する: 未加工 SQL 照会を使用して、 データをセグメント化します。
	<ul> <li>入力セルの照会スコープを使用する:このセグメント・プロセスへのソース・セルが照会を使用する場合のみ使用可能です。ソース・セルの照会を現在の選択基準と結合(「AND」を使用)させる場合に、このチェック・ボックスを選択します。</li> </ul>
「ユーザー定義フィールド」 ボタン	「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウを開きます。
照会テキスト・ボックスおよ びボタン	照会テキスト・ボックスおよび関連するフィールドおよびボ タンの使用について詳しくは、60ページの『プロセスでの 照会の作成』を参照してください。

# サンプル

サンプル・プロセスを使用して、さまざまな処理、コントロール・グループ、また はモデリング用データのサブセットの1つ以上のセルを作成します。多種多様な構 成がサンプリングで使用可能です。

# サンプル・プロセスを構成するには

- 1. 「編集」モードのフローチャートで、少なくとも 1 つの構成済みプロセス (選 択プロセスなど) をサンプル・プロセス・ボックスに接続します。
- 2. フローチャートでサンプル・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが表示されます。

「入力」ドロップダウン・リストを使用して、サンプリングするセルを選択します。リストには、サンプル・プロセスに接続されたプロセスのすべての出力セルが含まれています。複数のソース・セルを使用するには、「複数セル」オプションを選択します。複数のソース・セルが選択されている場合、それぞれのソース・セルで同じサンプリングが実行されます。

**注:** 選択されたセルはすべて、同じオーディエンス・レベルで定義されていな ければなりません。

- 「サンプル数」フィールドを使用して、入力セルごとに作成するサンプルの数 を指定します。デフォルトでは、入力セルごとに3つのサンプルが作成され、 デフォルト名の「サンプル1」、「サンプル2」、および「サンプル3」が使用さ れます。
- デフォルトのサンプル名を変更するには、「出力名」列でサンプルをダブルク リックしてから、新しい名前を入力します。文字、数字、およびスペースの任 意の組み合わせを使用できます。ピリオド (.) またはスラッシュ (/ または ¥) は使用しないでください。

重要: サンプルの名前を変更する場合は、入力セルとしてこのサンプルを使用 するすべての後続プロセスを更新する必要があります。サンプル名を変更する と、接続された後続のプロセスが構成解除される場合があります。通常、サン プル名の編集は、後続のプロセスを接続する前に行う必要があります。

- 以下のいずれかの方法を使用して、サンプルのサイズを定義します。サンプル・サイズは、パーセンテージかレコード数のいずれかによって定義できます。
  - パーセンテージでサンプル・サイズを定義する場合:「パーセント(%)でサ イズを指定」を選択した後、「サイズ」フィールドをダブルクリックし、各 サンプルで使用するレコードのパーセンテージを指定します。サンプルのサ イズを制限する場合は、「最大データ件数」フィールドを使用します。デフ ォルトは「無制限」です。「出力名」列にリストされているそれぞれのサン プルで繰り返すか、または「残りすべて」チェック・ボックスを使用して、 残りのすべてのレコードをそのサンプルに割り当てます。「残りすべて」が 選択できるのは、1つの出力セルに対してのみです。
  - 各サンプル・サイズにレコード数を指定する場合:「レコード数でサイズを 指定」を選択した後、「最大データ件数」フィールドをダブルクリックし て、最初のサンプル・グループに割り振るレコードの最大数を指定します。 「出力名」列の次のサンプルに「最大データ件数」を指定するか、または 「残りすべて」チェック・ボックスを使用して、残りのすべてのレコードを そのサンプルに割り当てます。「残りすべて」が選択できるのは、1 つの出 カセルに対してのみです。
- 7. 「出力名」リストの各サンプルについて、「サイズ」が定義されているか、または「残りすべて」にチェック・マークが付いていることを確認します。
- (オプション)「サンプル・サイズ計算」をクリックして、キャンペーン結果を 評価する際に、サンプル・サイズの統計的な重みの理解に役立つ計算器を使用 します。エラー限度値を入力して、必要なサンプル・サイズを計算することに より、正確性のレベルを指定できます。あるいは、サンプル・サイズを入力し て、結果として生じるエラー限度値を計算することもできます。報告される結 果の信頼性レベルは 95% です。
- 9. 「**サンプリング方法**」セクションで、以下のいずれかのオプションを使用して、サンプルの作成方法を指定します。
  - ランダム・サンプル:統計的に有効なコントロール・グループまたはテスト・セットを作成する場合に、このオプションを使用します。このオプションは、指定されたシードに基づいて乱数発生ルーチンを使用して、サンプ

ル・グループにレコードをランダムに割り当てます。シードについては、こ れらのステップの後半で説明しています。

- レコードをソート順に各サンプルに配分: このオプションは、最初のレコードを最初のサンプルに、2番目のレコードを2番目のサンプルに配置するという方法で、指定されたサンプル数になるまでレコードを順番に配置します。このプロセスは、すべてのレコードがサンプル・グループに割り当てられるまで繰り返されます。このオプションを使用するには、「ソート条件」オプションを指定して、グループへのレコードのソート方法を決定する必要があります。「ソート条件」オプションについては、これらのステップの後半で説明しています。
- レコードをソート順に分割: このオプションは、最初の N 件のレコードを最初のサンプルに、次のレコードのセットを 2 番目のサンプルに割り振るという方法で、レコードを順番に割り振ります。このオプションは、ソートされた何らかのフィールド (例えば、累積の購買額またはモデル・スコアなど) に基づくトップ十分位数 (またはその他の何らかのサイズ)をベースとしてグループを作成する場合に有用です。このオプションを使用するには、「ソート条件」オプションを指定して、グループへのレコードのソート方法を決定する必要があります。「ソート条件」オプションについては、これらのステップの後半で説明しています。
- 10. 「**ランダム・サンプル**」を選択した場合は、ほとんどの場合にデフォルトのシ ードを受け入れるだけ済みます。

まれなケースとして、「**選択**」をクリックして、新規シード値をランダムに生成したり、「シード」フィールドに数値を入力することが必要になる場合があります。新規シード値を使用する必要がある場合の例は次のとおりです。

- 全く同じ数のレコードが同じシーケンスに存在し、同一のシード値を使用すると、レコードが毎回同じサンプルに作成される場合。
- ランダム・サンプルが望ましくない結果をもたらすことが分かった場合(例 えば、すべての男性が1つのグループに割り振られ、すべての女性が別のグ ループに割り振られるなど)。
- 11. 「レコードをソート順に各サンプルに配分」または「レコードをソート順に分割」を選択した場合、レコードのソート方法を指定する必要があります。以下のとおり、ソート順はレコードがサンプル・グループに割り振られる方法を決定します。
  - a. ドロップダウン・リストから「**ソート条件**」フィールドを選択するか、「ユ ーザー定義フィールド」をクリックして、ユーザー定義フィールドを使用し ます。
  - b. 「昇順」を選択して、数値フィールドを昇順(低から高へ)でソートする か、英字フィールドをアルファベット順にソートします。「降順」を選択す ると、ソート順が逆になります。
- デフォルトの「プロセス名」および「出力セル名」を変更する場合は、「全般」タブをクリックします。デフォルトでは、出力セル名は、プロセス名、およびその後続のサンプル名と1桁の数字から構成されます。デフォルトの「セル・コード」を受け入れるか、「セル・コードを自動生成」ボックスのチェック・マークを外して、コードを手動で割り当てることができます。「説明」に、サンプル・プロセスの目的について明確な説明を入力します。

13. 「**OK**」をクリックします。

プロセスが構成され、フローチャートで使用可能になります。予期される結果をプロセスが返すかどうかを確認するために、プロセスの実行をテストできます。

### サンプル・サイズ計算器について

Campaign には、キャンペーン結果を評価する際に、サンプル・サイズの統計的な重みの理解に役立つようにサンプル・サイズ計算器が用意されています。エラー限度 値を入力して、必要なサンプル・サイズを計算することにより、必要な正確性のレ ベルを指定することができます。また、サンプル・サイズを入力し、結果として生 じるエラー限度値を計算することができます。報告される結果の信頼性レベルは 95%です。

### サンプル・サイズ計算器を使用するには

 「サンプル・プロセス構成」ダイアログの「サンプル」タブで、「サンプル・サ イズ計算」をクリックします。

「サンプル・サイズ計算」ウィンドウが表示されます。

2. 「**予想レスポンス率**」で、マーケティング・キャンペーンから予測される最小お よび最大のレスポンス率の推定を入力します。

これらの 2 つの値は、0 から 100 までの間のパーセント値でなければなりません。予想レスポンス率が低いほど、同レベルの正確性を実現するために、サンプル・サイズを大きくする必要があります。

- 3. 「モデルによる推定」で、モデリングの推定についての情報を入力します。
  - モデルを使用しない場合、「モデルなし」を選択します。
  - モデルを使用する場合、「モデル・パフォーマンス」を選択してから、適切な
     モデル・パフォーマンスのパーセントを入力します。これは、リフト曲線の下の領域を表し、「モデル・パフォーマンス」レポートで報告されます。
- 特定のエラー限度値を達成するために必要なサンプル・サイズを計算するには、 以下を実行します。
  - a. 「エラー限度値 (+ または -)」フィールドで、許容できるエラー限度値として 0 から 100 までのいずれかの値を入力します。
  - b. 「サンプル・サイズの計算」をクリックします。 指定されたエラー限度値を 達成するために必要な最小サンプル・サイズが「最小サンプル・サイズ」テ キスト・ボックスに表示されます。
- 5. 特定のサンプル・サイズで予期されるエラー限度値を計算するには、以下を実行 します。
  - a. 「最小サンプル・サイズ」テキスト・ボックスにサンプル・サイズを入力し ます。
  - b. 「**エラー限度値の**計算」をクリックします。

エラー限度値が「**エラー限度値 (+ または -)**」テキスト・ボックスに表示されます。

6. 作業が終了したら、「完了」をクリックします。

「サンプル・サイズ計算」ウィンドウが閉じます。

**注:** 計算されたサンプル・サイズをコピー・アンド・ペーストして、「サンプ ル・プロセス構成」ダイアログで使用することができます。

# オーディエンス

オーディエンス・レベルは、口座、顧客、世帯、製品、ビジネス部門など、使用す るターゲット・エンティティーを定義します。これらのレベルは、テーブル・マッ ピング・プロセス中にシステム管理者によって定義されます。

オーディエンス・プロセスをフローチャートで使用して、オーディエンス・レベル 間を切り替えたり、オーディエンス・レベルによって ID をフィルターで除外した りします。このプロセスを使用して、すべての、いくつかの、または単一のエンテ ィティーを、別のレベルと関連したあるレベルで選択することができます。

例えば、オーディエンス・プロセスを使用して、以下の操作を行うことができま す。

- 何らかのビジネス・ルールに基づいて、世帯ごとに1人の顧客を選択する(例えば、最も年上の男性、あるいは口座残高が最も多い人など)。
- 特定の顧客群に属するすべての口座を選択する。
- 特定の顧客群に属する、残高がマイナスの口座をすべて選択する。
- 当座預金口座を持っている人がいる世帯をすべて選択する。
- ・ 指定された時間フレーム内に 3 回以上の購買を行った顧客を選択する。

注:オーディエンス・プロセスは定義された任意のテーブルから選択できるため、 フローチャートの最上位プロセスとしてこのプロセスを使用して、データを最初に 選択することもできます。

### オーディエンス・レベル

オーディエンス・レベルは、口座、顧客、世帯、製品、またはビジネス部門など、 キャンペーンのさまざまな見込みターゲットを表すために、Campaign 管理者によっ て定義されます。オーディエンス・レベルは、多くの場合(ただし、常にそうとは 限りません)、階層的に編成されます。以下は、顧客のマーケティング・データベー スで一般的に見られる階層オーディエンス・レベルの例です。

- 世帯 > 顧客 > 口座
- 企業 > 部門 > 顧客 > 製品

組織で定義および使用できるオーディエンス・レベルの数に制限はありません。複数のオーディエンス・レベルを使用する場合 (例えば、顧客と世帯など)、オーディエンス・プロセスをどのように使用すればビジネス目標を最も効果的に達成できるかを理解することが重要です。

オーディエンス・レベルは、Campaign 管理者によって作成および保守されます。あ るオーディエンス・レベルから別のオーディエンス・レベルに移動する場合、使用 するすべてのオーディエンス・レベルが、同じテーブル内で定義されたキーを持っ ている必要があります。これにより、あるレベルから別のレベルに切り替えるため の「ルックアップ」メカニズムが実現します。 オーディエンス・レベルはグローバルであり、マップされた各ベース・テーブルに 添付されています。このため、フローチャートがロードされるときに、オーディエ ンス・レベルはそのフローチャート内のテーブル・マッピングと共にロードされま す。

Campaign 内のテーブルをマップする権限を持っている場合、新規テーブルを 1 つ 以上の既存のオーディエンス・レベルにマップできますが、新規のオーディエン ス・レベルを作成することはできません。適切な権限を持つユーザー (通常は、シ ステム管理者)のみ、オーディエンス・レベルを作成することができます。

オーディエンス・プロセスでは、入力オーディエンス・レベルと出力オーディエン ス・レベルを指定します。入力と出力のオーディエンス・レベルは、同じものにす る (例えば、顧客) ことも、異なるものにする (例えば、顧客および世帯) こともで きます。 オーディエンス・プロセスを使用して、同じオーディエンス・レベル内に とどまるか、オーディエンス・レベルを切り替えます。

## ハウスホールディング

「ハウスホールディング」は、別のオーディエンス・レベルを使用して範囲設定す ることにより、現在のオーディエンス・レベルのメンバー数を削減することを表す 一般用語です。ハウスホールディングの最も一般的な例の1つは、各世帯内でター ゲットとする単一の個人を特定することです。以下のようなマーケティング・ビジ ネス・ルールに従って、世帯ごとに1人の個人を選択することができます。

- すべての口座内で金銭価値が最も高い口座を持つ個人
- 特定の製品カテゴリーにおける購買数が最も多い個人
- 在職期間が最も長い個人
- ・ 世帯内の 18 歳以上の最も若い男性

オーディエンス・プロセスを使用して、オーディエンス・レベルを変更し、ユーザ ー指定の基準に従って ID をフィルターに掛けることができます。

### レベルの切り替え

一部の複雑なキャンペーンでは、最終的なターゲット・エンティティーのリストに 到達するために異なるオーディエンス・レベルでの処理が必要になります。このた め、あるオーディエンス・レベルで開始し、いくつかの計算を実行してその出力を 取得してから、別のオーディエンス・レベルに移動して、他の計算を行うことが必 要になる場合があります。

例えば、異なるレベルの複雑な抑制をサポートする必要があるとします。その結果、顧客と口座の間に 1 対多または多対多の関係があるデータ・モデルで、マーケティング・アナリストは以下を実行するキャンペーンを構築することになります。

- 一定の条件を満たす顧客のすべての口座の除去(例えば、債務不履行の口座の除去)。
- 一定の条件を満たす特定の口座の除去 (例えば、収益性が低いすべての口座の除去)。

この例では、キャンペーンは顧客レベルで開始して顧客レベルの抑制を実行し(債務不履行の口座の抑制)、口座レベルに切り替えて口座レベルの抑制を適用し(収益性が低い口座の抑制)、その後、顧客レベルに再度切り替えて、最終的なコンタクト情報を取得します。

## オーディエンス・プロセスの構成

オーディエンス・プロセスを使用するには、複数のオーディエンス・レベルが定義 されている複数のテーブルで作業しなければなりません。これらのレベルは、単一 のテーブルで定義され、あるレベルから別のレベルに「変換」するための関係を提 供します。

- 1 つのキーがテーブルの「1 次」キーまたは「デフォルト」キーとして定義されています。(このデフォルト・キーは、このデータ・ソースで最も頻繁に使用されるオーディエンスを表します。)
- 他のキーは、オーディエンス・レベルの切り替えに使用可能な「代替」キーです。

オーディエンス・レベルを切り替えると、Campaign は、同じオーディエンス・レベ ルで定義されているデフォルト・キーを持つテーブルのみを表示します。異なるオ ーディエンス・レベルで定期的に作業する場合、Campaign 内で同じテーブルを複数 回マップし、マップするたびに異なる 1 次/デフォルト・キーを使用することが必要 になる場合があります。テーブルに関連付けられたデフォルト・レベルは、テーブ ル・マッピング・プロセス中に指定されます。テーブルのマッピングについて詳し くは、「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

「オーディエンス・プロセス構成」ダイアログで使用可能なオプションは、以下に 示すような、ユーザーが行うさまざまな選択に応じて異なります。

- 入力と出力のオーディエンス・レベルを同じレベルにするか、違うレベルにするか。
- オーディエンス・レベルの値がこれらのテーブルで正規化されるかどうか。
- 選択されたテーブルに対して定義された複数のオーディエンス・レベルがあるか どうか。

このため、以下のセクションで説明するすべてのオプションが、入力と出力のテー ブル選択のすべてのペアで使用可能とは限りません。

### オーディエンス・プロセスを構成するには

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. パレットにあるオーディエンス・プロセスをフローチャートにドラッグします。

オーディエンス・プロセスは定義された任意のテーブルから選択できるため、フ ローチャートの最上位プロセスとしてこのプロセスを使用して、データを最初に 選択することができます。1つ以上の構成済みプロセス(選択プロセスやマー ジ・プロセスなど)をオーディエンス・プロセスに入力として接続することもで きます。

3. フローチャートでオーディエンス・プロセスをダブルクリックします。

 「ソース」タブで「入力」リストを開き、プロセスのデータ・ソースを指定します。オーディエンス・プロセスにプロセスが接続されていれば、その出力セルが リストされるので、それを入力として選択できます。セグメントまたはテーブル を選択することもできます。

これで、選択した入力に対応するオーディエンス・レベルが「入力」フィールド の横に表示されます。入力がない場合は、オーディエンス・レベルは「選択され ていません」と表示されます。

「選択」オプションにも、入力オーディエンス・レベルが示されます。例えば、 オーディエンス・レベルが顧客の場合、「1 エントリー (顧客単位)」を選択でき ます。

5. 「オーディエンスの選択」リストから出力オーディエンスを選択します。入力デ ータ・ソースと同じオーディエンス・レベルで定義されたキーを含むテーブルに 対して定義されたオーディエンス・レベルが、リストに表示されます。表のオー ディエンス・レベルが複数ある場合は、各レベルを「オーディエンスの選択」リ ストのエントリーとして使用できます。

**注:**予期されるオーディエンス・レベルが表示されない場合は、テーブルの再マップを試してみることができます。

「**選択**」オプションは現在、入力と出力の両方のオーディエンス・レベルを反映 しています。

例えば、入力のオーディエンス・レベルが「世帯」であるときに、出力オーディ エンス・レベルとして「個人」を選択すると、「選択」オプションには、「すべ ての個別 ID エントリー」、「数個の個別 ID エントリー」、「1 つの個別 ID エントリー (世帯 ID 単位)」というラベルが付けられます。これで、あるオーデ ィエンス・レベルから別のオーディエンス・レベルに切り替えるときの ID の選 択方法を指定できるようになります。

- 6. 「選択」および「フィルター」オプションを使用して、レコードが選択される方 法を指定します。選択可能なオプションは、すべての ID を選択するか (この場 合、フィルタリングは不可)、レベルを切り替えるか、同じレベルにとどまるか によって異なります。 オーディエンス・レベルを切り替えるかどうかに基づい て選択およびフィルタリングを行う方法について詳しくは、以下のセクションを 参照してください。
  - 入力と出力で同じオーディエンス・レベルを使用する
  - 入力と出力で異なるオーディエンス・レベルを使用する
- 7. プロセスによって生成される ID の数を制限する場合は、「セル・サイズの制限」タブを使用します。
- 8. 「全般」タブを以下のように使用します。
  - a. プロセス名: 記述名を割り当てます。プロセス名は、フローチャートでボック ス・ラベルとして使用されます。また、さまざまなダイアログやレポートで プロセスを識別するためにも使用されます。
  - b. 出力セル名: この名前は、デフォルトで「プロセス名」と一致します。さまざ まなダイアログやレポートで出力セル (プロセスが生成する ID のセット) を 識別するために使用されます。

- c. (オプション) 「**ターゲット・セルへのリンク**」をクリックして、(現在のキャ ンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートで定義された) ターゲット・ セルのリストを表示すれば、ターゲット・セルを 1 つ選択できます。これ で、TCS からのセル名が「出力セル名」フィールドに表示されるようになり ます。 176ページの『ターゲット・セル・スプレッドシートについて』を参 照してください。さらに、174ページの『プロセス構成ダイアログを使用し てフローチャート・セルをターゲット・セルにリンクする方法』も参照して ください。
- d. セル・コード: セル・コードには標準形式があり、システム管理者によって決定されます。生成されたセル・コードは固有です。 171ページの『セル・コードの変更』を参照してください。
- e. 説明: プロセスの目的や結果を記述します (例えば、「このボックスは 1 世帯につき 1 個人にコンタクトする」など)。
- 9. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうか を確認するために、プロセスの実行をテストできます。

## 例:オーディエンス・プロセス

次の図は、構成されたオーディエンス・プロセスを示しています。

Source Cell Size	Limit General		
Specify selection crite	ria and result audience level		
Input:	DEMO_ACCOUNT	-	(Audience Level: Customer)
Choose Audience: Customer in DEMO_ACCOUNT		~	]
Select			
One Custor	HouseHold	-	
Some Custo	omer Entry per		
For Each C	ustomer		
Based On:	100 MARINE		
MaxOf _ n	EMO_ACCOUNT.HIGHEST_ACC_IND - Der	ived Fields	

- 選択されている入力オーディエンス・レベルは「顧客」です。これは、 DEMO\_ACCOUNT テーブルのデフォルトのオーディエンス・レベルです (このオーディエンス・レベルは、「入力」フィールドの右側に表示されます)。
- 出力オーディエンス・レベルも同じく「顧客」で、DEMO\_ACCOUNT テーブルに定義 されています。DEMO\_ACCOUNT テーブルには、他にも「ブランチ」および「世帯」 という 2 つのオーディエンス・レベルが定義されています。
- このプロセスは、HIGHEST\_ACC\_IND フィールドの最大値に基づいて、「世帯ごとの顧客エントリー (Customer Entry per HouseHold)」を1 つ選択するように構成されています。

### 例: レコードのフィルター処理

カウントまたは統計関数(「最大値選択」、「中央値選択」、「最小値選択」、または「指定なし」)に基づいて ID を選択するようにオーディエンス・プロセスを構成すると、「フィルター」ボタンが使用可能になります。「フィルター」をクリックすると、「選択条件の指定」ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、「基準」計算で使用するレコードを指定するための照会式を入力できます。

**注:** フィルター基準は、「基準」計算が実行される前に適用されるため、レコード を計算の対象から外すことができます。

例えば、操作が実行される日付範囲を制約する必要があるとします。過去 1 年間の 購買トランザクションのみ使用するには、フィルターの照会式を次のように入力し ます。

CURRENT\_JULIAN() - DATE(PURCH\_DATE) <= 365</pre>

これにより、「金額」フィールドの合計を選択する「基準」計算を実行すると、過去1年以内のトランザクションからの金額のみが合計されます。

## 入力と出力で同じオーディエンス・レベルを使用する

同一のオーディエンス・レベルが「**オーディエンスの選択**」リストと「**入力**」リス トで選択されている場合、「**選択**」オプションを使用して、以下の操作を実行でき ます。

- 97ページの『<異なるオーディエンス>ごとに <入力/出力オーディエンス> エントリーを 1 件選択するには』
- 98 ページの『<異なるオーディエンス> ごとに <オーディエンス> レコードを複数件選択するには』
- 99ページの『所定のオーディエンス・レベルのエントリーごとにエントリーを選 択するには』

「**選択**」オプションは、入力および出力の選択されたオーディエンス・レベルの関係に応じて異なります。意味のないオプションは無効になっています。

注: Campaign では、選択されたオーディエンス・レベルの名前が「選択」 オプションのラベルに含まれています。例えば、入力オーディエンス・レベルが「顧客」の場合、「1 エントリーずつ」オプションは「1 顧客エントリーずつ」 のように表示されます。以下のセクションでは、オプション・テキストで動的に変化するこの部分は、必要に応じて <入力/出力オーディエンス> のように示されています。

「選択」オプションには、以下のものがあります。

方式	説明	例
1 つずつ (One	別のオーディエンス・レベルによって範	世帯ごとに 1 人の顧客
Per)	囲指定される、入力と出力のオーディエ	
	ンス・レベルの 1 つのメンバー	
1 つにつき複	別のオーディエンス・レベルによって範	世帯内で購買数が平均を超えて
数 (Some Per)	囲指定される、入力と出力のオーディエ	いるすべての顧客
	ンス・レベルの複数のメンバー	

表 12. 「オーディエンス・プロセス構成」の「選択」オプション

表 12. 「オーディエンス・プロセス構成」の「選択」オプション (続き)

方式	説明	例
個別 (For	選択されたオーディエンス・レベルのメ	アカウント数 > 1、購買数 > 3
Each)	ンバーの数が一定の条件を満たしている	
	場合にメンバーを選択します	

### < 異なるオーディエンス> ごとに <入力/出力オーディエンス> エント リーを 1 件選択するには

入力と出力のオーディエンス・レベルは同じであるが、出力の範囲設定に異なるオ ーディエンス・レベルが使用されている場合に、このオプションを選択します。例 えば、各世帯内で最も古い口座を持つ顧客を1人選択することができます。(入力 オーディエンス・レベルと出力オーディエンス・レベルが両方とも「顧客」であ り、「世帯」レベルで範囲設定し、MinOf(BaseInfo.AcctStartDt)を使用して選択 を行います。)

単一のエンティティーが選択される方法を示すビジネス・ルール (例えば、何らか のフィールドの最小値/最大値/中央値など)を指定するか、「**指定なし**」 (この場 合、フィールド選択は使用できません)を選択します。

1. 「**入力**」に入力ソースを選択し、「オーディエンス」プロセスの出力オーディ エンスに同一のオーディエンス・レベルを選択します。

関連する「選択」オプションが使用可能になります。

2. 「**1 エントリーずつ**」オプションを選択します。

ドロップダウン・リストが、選択されたオプションの隣に表示されます。

3. ドロップダウン・リストからオーディエンス・レベルを選択します。

定義済みの代替オーディエンス・レベルがすべて (入力オーディエンス以外) リ ストに表示されます。

- 4. 使用する値を「選択ルール」ドロップダウン・リストから選択します。
  - 指定なし: 「選択ルール」の値を選択する必要がなくなります
    - ・最大値選択: 選択されたフィールドの最大値を返します
  - 中央値選択: 選択されたフィールドの中央値を返します
  - 最小値選択: 選択されたフィールドの最小値を返します

これらの各関数は、入力オーディエンス・レベルからメンバーを 1 つだけ返し ます。複数のエントリーが、最大値、最小値、または中央値に関連している場 合、最初に検出されたエントリーが返されます。

「指定なし」以外の「選択ルール」基準を選択した場合、関数が動作するフィールドを選択します。このドロップダウン・リストには、「オーディエンスの選択」フィールドで選択されたテーブル、およびマップされたあらゆるディメンション・テーブルのすべてのフィールドが含まれています。「+」記号をクリックして、テーブルを拡張します。作成されたユーザー定義フィールドが下部にリストされます。

例えば、口座残高が最も多い口座保有者を各世帯から選択するには、「**選択ルー** ル」基準に「最大値選択」を選択し、テーブル・フィールドのリストから Acct Balance を選択します。

「**ユーザー定義フィールド**」をクリックして、ユーザー定義フィールドを作成または選択することもできます。

6. (オプション) 選択基準として件数を選択した場合、「フィルター」ボタンが使 用可能になります。

「フィルター」機能を使用して、「選択ルール」の計算に使用可能な ID の数を 減らします。例えば、過去 6 カ月間の平均口座残高に基づいて顧客を選択する 場合、選択を実行する前に、口座が非アクティブなすべての顧客をフィルターで 除外することができます。

「選択ルール」計算を実行する前にレコードをフィルターに掛けるには、「フィ ルター」をクリックします。「選択条件の指定」ウィンドウが表示されます。 「選択ルール」計算で使用するレコードを指定するための照会式を入力できま す。フィルター基準は、「選択ルール」計算を実行する前に適用されるため、レ コードを計算の対象から外すことができます。

- 7. 「OK」をクリックし、照会を保存して、「選択条件の指定」ウィンドウを閉じ ます。
- 8. 残りのタブのフィールドに入力し、プロセスの構成を続行します。

### <異なるオーディエンス> ごとに <オーディエンス> レコードを複数 件選択するには

この選択は、オーディエンスごとに複数のエントリーがあることを示しています。 この場合、入力と出力のオーディエンス・レベルは同じですが、出力の範囲設定に 異なるオーディエンス・レベルが使用されています。このオプションは、例えば、 各世帯内で \$100 を超える購入を行った顧客をすべて選択する場合に選択します (入力オーディエンス・レベルと出力オーディエンス・レベルが両方とも「顧客」で あり、「世帯」レベルで範囲設定し、Maximum Purchase Value>\$100 を使用)。

「選択ルール」基準は、照会の作成に加えて、機能的に同等な GROUPBY マクロ関数を実行できるようにするキーワードもサポートしています。

- 1. 「入力」に入力ソースを選択し、「オーディエンス」プロセスの出力オーディエ ンスに同一のオーディエンス・レベルを選択します。 関連する「選択」オプシ ョンが使用可能になります。
- 2. 「数エントリーずつ…」オプションを選択します。 ドロップダウン・リストが、 選択されたオプションの隣に表示されます。
- ドロップダウン・リストからオーディエンス・レベルを選択します。 定義済み の代替オーディエンス・レベルがすべて (入力オーディエンス以外) リストに表 示されます。
- 4. 「選択ルール」フィールドをクリックして、照会を入力します。 「選択条件の 指定」ウィンドウが開きます。
- 5. 有効な照会式を入力または作成してから、「OK」をクリックしてそれを保存 し、「選択条件の指定」ウィンドウを閉じます。
- 6. 残りのタブのフィールドに入力し、プロセスの構成を続行します。

## 所定のオーディエンス・レベルのエントリーごとにエントリーを選択 するには

この選択は、複数のオーディエンス・レベルからの複数の選択があることを示しています。選択されたオーディエンス・レベルのメンバーの数が、一定の条件を満たしている場合に (例えば、アカウント数 > 1 または 購買数 > 3)、このオプションを選択します。

注: このオプションは、入力オーディエンス・レベルが正規化されていない (すな わち、レコード ID が、選択された「レベルの選択 (Choose Level)」テーブルで固 有ではない) 場合にのみ使用可能で、入力と出力のレベルは同一です。これは、出 カオーディエンス・テーブルに代替キーが定義されていない場合に使用可能な唯一 のオプションです。

1. 「**入力**」に入力ソースを選択し、「オーディエンス」プロセスの出力オーディ エンスに同一のオーディエンス・レベルを選択します。

関連する「選択」オプションが使用可能になります。

2. 「個別 (For Each)」オプションを選択します。

注: このオプションは、入力オーディエンス・レベルが正規化されていない (す なわち、レコード ID が、選択された「レベルの選択 (Choose Level)」テーブル で固有ではない) 場合にのみ使用可能です。

ドロップダウン・リストが、選択されたオプションの隣に表示されます。

3. 「選択ルール」を選択します。

「オーディエンスの選択」 で選択したテーブル (すなわち、出力オーディエン ス) が正規化されていない場合、複製する項目が結果に含まれている場合があり ます。複製が発生しないように、レコードを選択するときに Campaign で使用す るための「選択ルール」方式を使用できます。(例えば、結果に同じ世帯内の複 数の個人が含まれている場合、「選択ルール」を使用して、この機能で構成した 基準に基づいて、その世帯から個人を 1 人だけ選択することができます。)

「件数」または「条件」のいずれかの「選択ルール」方式を選択する必要があり ます。

「選択ルール」で使用する「件数」を指定する場合は、以下のとおりです。

このオプションを使用すると、<入力オーディエンス・レベル> ID を選択できま す。この場合、<入力オーディエンス・レベル> ID の出現数は指定された条件を 満たしています。

異なる関係 (<、<=、>、>=、=) 間を切り替えるには、必要な関係が表示される まで操作ボタンを繰り返しクリックします。

- -- または --
- 「選択ルール」で使用する「条件」を指定する場合は、以下のとおりです。

「条件」の右側のテキスト・ボックスをクリックします。

「選択条件の指定」ウィンドウが表示されます。

有効な照会式を入力または作成してから、「OK」をクリックしてそのエントリーを保存し、「選択条件の指定」ウィンドウを閉じます。

4. (オプション) 選択基準として件数を選択した場合、「フィルター」が使用可能 になります。

「フィルター」機能を使用して、「選択ルール」の計算に使用可能な ID の数を 減らします。例えば、過去 6 カ月間の平均口座残高に基づいて顧客 ID を選択 する場合、選択を実行する前に、口座が非アクティブなすべての顧客をフィルタ ーで除外することができます。

「選択ルール」計算を実行する前にレコードをフィルターに掛けるには、「フィ ルター」をクリックします。「選択条件の指定」ウィンドウが表示されます。 「選択ルール」計算で使用するレコードを指定するための照会式を入力できま す。フィルター基準は、「選択ルール」計算を実行する前に適用されるため、レ コードを計算の対象から外すことができます。

- 5. 「OK」をクリックし、照会を保存して、「選択条件の指定」ウィンドウを閉じます。
- 6. 残りのタブのフィールドに入力し、プロセスの構成を続行します。

### 入力と出力で異なるオーディエンス・レベルを使用する

入力と出力で異なるオーディエンスを「入力」リストと「オーディエンスの選択」 リストで選択した場合、「選択」オプションを使用して、以下の操作を実行できま す。

- 101ページの『すべての <出力オーディエンス・レベル> エントリーを選択する には』
- 101ページの『数個の <異なる出力オーディエンス・レベル> エントリーを選択 するには』
- 102 ページの『<異なる入力オーディエンス> ごとに <出力オーディエンス> を 1 件選択するには』

注: Campaign では、選択されたオーディエンス・レベルの名前が「選択」 オプションのラベルに含まれています。例えば、入力オーディエンス・レベルが「顧客」の場合、「1 エントリーずつ」オプションは「1 顧客エントリーずつ」 のように表示されます。以下のセクションでは、オプション・テキストで動的に変化するこの部分は、必要に応じて <入力/出力オーディエンス> のように示されています。

「選択」オプションには、以下のものがあります。

表 13. 「オーディエンス・プロセス構成」の「選択」オプション (異なる入出力)

方式	説明	例
すべて	別のオーディエンス・レベルによって範囲指	世帯ごとにすべての顧客
	定される、入力オーディエンス・レベルのす	
	べてのメンバーを選択します	
数個	指定された条件を満たす ID のみを保持し	世帯内の 18 歳以上のす
	て、出力オーディエンス・レベルの数個のメ	べての顧客
	ンバーを選択します	

表13. 「オーディエンス・プロセス構成」の「選択」オプション(異なる入出力)(続き)

方式	説明	例
1 つずつ (One	入力オーディエンス・レコードごとに出力オ	世帯ごとに 1 人の顧客
Per)	ーディエンス・レコードを 1 つだけ選択し	
	ます	

### すべての <出力オーディエンス・レベル> エントリーを選択するには

フィルター処理を実行せずに出力オーディエンス・レベルに切り替えるには、この オプションを選択します (例えば、世帯内のすべての顧客、または顧客に属するす べての口座を選択する場合など)。これにより、入力 ID に関連付けられたすべての 出力オーディエンス・レベル・エントリーを持つ出力セルが作成されます。このオ プションは、選択またはフィルター基準を適用せずに、オーディエンス・レベルを 切り替えます。

プライマリー・オーディエンス・レベルから別のオーディエンス・レベルに変更す る場合、後続のプロセスではユーザー定義フィールドは使用できなくなります。

1. 「入力」に入力ソースを選択し、「オーディエンスの選択」に別の出力オーディ エンスを選択します。

「選択」オプションが使用可能になります。

- 2. 「すべての <出力オーディエンス・レベル> エントリー」を選択します。
- 3. 「**OK**」をクリックして、「オーディエンス・プロセス構成」ダイアログを閉 じ、構成を保存します。

### 数個の <異なる出力オーディエンス・レベル> エントリーを選択する には

指定された条件を満たす ID のみを保持して、所定の入力オーディエンス・レベル から異なる出力オーディエンス・レベルに切り替える場合に、このオプションを使 用します。例えば、世帯内の 18 歳以上のすべての顧客を選択したり、残高がプラ スの顧客の口座をすべて選択したりすることができます。

「**選択ルール**」基準を使用して、選択した出力オーディエンス・レベルのエントリーを制限する照会式を入力することができます。

1. 「入力」に入力ソースを選択し、「オーディエンスの選択」に別の出力オーディエンスを選択します。

「選択」オプションが使用可能になります。

2. 「数個の <出力オーディエンス・レベル> エントリー」をクリックして選択します。

「選択ルール」フィールドが使用可能になります。

3. 「選択ルール」フィールドをクリックして、照会を入力します。

「選択条件の指定」ウィンドウが表示されます。

4. 有効な照会式を入力または作成してから、「**OK**」をクリックしてその照会を保存し、「選択条件の指定」ウィンドウを閉じます。

5. 「**OK**」をクリックして、「オーディエンス・プロセス構成」ダイアログを閉 じ、各エントリーを保存します。

### <異なる入力オーディエンス> ごとに <出力オーディエンス> を 1 件 選択するには

入力オーディエンス・レコードごとに出力オーディエンス・レコードを 1 つだけ選 択する (例えば、顧客ごとに 1 つの E メール・アドレスを選択するなど) 場合に、 このオプションを選択します。単一のエンティティーを選択する方法を示すビジネ ス・ルール (何らかのフィールドの最小値/最大値/中央値など) を指定するか、「指 定なし」 (この場合、フィールド選択は使用できません) を選択する必要がありま す。

このオプションは、入力オーディエンス・レベルが正規化されていない (すなわち、レコード ID が、選択された「レベルの選択 (Choose Level)」テーブルで固有ではない) 場合にのみ使用可能です。

「選択ルール」基準は、照会の作成に加えて、機能的に同等な GROUPBY マクロ関数 を実行できるようにするキーワードもサポートしています。

1. 「入力」に入力ソースを選択し、オーディエンス・プロセスに出力オーディエン スを選択します。

「選択」オプションが使用可能になります。

- 2. 「<入力オーディエンス・レベル> ごとに <出力オーディエンス・レベル> を 1 件選択」 を選択します。
- 3. 「選択ルール」ドロップダウン・リストから値を選択します。

(「指定なし」を選択すると、右側のドロップダウン・リストを使用したフィー ルド選択は非アクティブになります。この選択を行う場合は、ステップ 5 まで スキップしてください。)

- 4. 「**選択ルール**」関数が関連する次のドロップダウン・リストでフィールドを選 択します。
  - a. 「選択ルール」テキスト・ボックスをクリックします。

「フィールドの選択 (Select Field)」ウィンドウが表示されます。「オーディ エンスの選択」ドロップダウン・リストで選択したテーブル、およびマップ されたあらゆるディメンション・テーブルのすべてのフィールドが表示され ます。

「+」記号をクリックすると、テーブルを拡張できます。作成されたユーザー 定義フィールドが下部にリストされます。

- b. フィールドを選択し、「OK」をクリックします。
- c. (オプション) 「**ユーザー定義フィールド**」をクリックして、ユーザー定義フィールドを作成します。
- 5. (オプション) 「**選択ルール**」計算を実行する前にレコードをフィルターに掛け るには、「**フィルター**」を使用します。
- 6. 「**OK**」をクリックして、「オーディエンス・プロセス構成」ダイアログを閉 じ、各エントリーを保存します。
### 抽出

抽出プロセスにより、あるテーブルからフィールドを選択し、以降の処理で使用す るために別のテーブルにそれらのフィールドを書き出すことができます。これは、 以降の操作のために大容量のデータを扱いやすいサイズに削減するよう設計されて おり、パフォーマンスの大幅な改善を図ることができます。

抽出プロセスは、セル (例えば、抽出プロセスが「選択」プロセスに接続されてい る場合)、単一テーブル、戦略的セグメント、最適化リスト (Contact Optimization の み)、または eMessage ランディング・ページ (eMessage のみ) から入力を取得でき ます。入力として戦略的セグメントを選択した場合、フィールドを抽出するには、 事前にそのセグメントをテーブルに結合しておく必要があります。

複数の抽出プロセスを連続して使用する場合は、最後の抽出プロセスにあるフィー ルドのみが書き出されます。

複数の抽出プロセスを並行して(すなわち、同じフローチャート内の異なるブラン チで)使用する場合、それらのプロセスは、以下に示すように永続的なユーザー定 義フィールドと同じ方法で動作します。

- 抽出されたフィールドは着信セルに添付されます
- 抽出されたフィールドは、そのプロセス内の照会実行より前に計算されます
- 以降のプロセスでは抽出された複数のフィールドが使用可能です
- 抽出されたフィールドがコンタクト・プロセスに送信される場合は、次のようになります。
  - 抽出されたフィールドがセルに対して定義されていない場合、その値は NULL です
  - 単一の ID が複数のセルに存在する場合、セルごとに 1 つの行が出力となり ます
- 抽出されたフィールドがセグメント・プロセスまたは決定プロセスに送信される 場合、抽出されたフィールドは、照会によるセグメント化で使用できるように、 選択されたすべての入力セルに存在している必要があります。

#### 抽出されたテーブル

データは、Campaign サーバー上のバイナリー・ファイル、またはデータマート内の UAC\_EX 接頭部が付いたテーブルとして抽出されます。

ー時テーブルとは異なり、抽出されたテーブルは、フローチャートの実行の終わり に削除されません。抽出されたテーブルは、ユーザーがそのテーブルで操作を実行 する (例えば、そのフィールドのプロファイルを作成するなど) ために継続してアク セスできるように、存続している必要があります。

抽出されたテーブルは、それに関連する抽出プロセス、フローチャート、キャンペ ーン、またはセッションをユーザーが削除するときにのみ削除されます。

注: データマート内のスペースを節約するために、システム管理者は UAC\_EX 接 頭部が付いたテーブルを定期的に削除することができます。ただし、これらのテー ブルが削除される場合、それらのフローチャートを再実行するか、存在しなくなっ たテーブルでフィールドのプロファイル作成を試みる前に、それらの影響を受ける 抽出プロセスをまず再実行する必要があることに注意してください。再実行しない 場合、Campaign によって、「テーブルが見つかりません」というエラーが生成され ます。

# 例: トランザクション・データの抽出

滞納歴のないすべての顧客(顧客ベースの約 90%)を得るために、過去 3 カ月の購 買トランザクションに基づく選択および計算を実行するキャンペーンを設計し、4 GBのデータが必要になると仮定します。

Campaign でこれらの顧客用の一時テーブルを作成した場合でも、例えば、GROUPBY マクロを実行するために、そのテーブルを購買トランザクション・テーブルに再結 合することにより、4 GB の行の約 90% を取り出す作業 (さらに、過去 3 カ月の トランザクション以外のすべてのトランザクションを廃棄する作業) が必要になり ます。

その代わりに、抽出プロセスを構成し (購買トランザクション・レベルに配置します)、過去 3 カ月以内のすべてのトランザクションを取り出して、それらをデータ ベースのテーブルに置き、その後、複数の GROUPBY マクロおよびその他の計算 (例 えば、最小/最大、平均) をそのテーブルに対して実行することができます。

# eMessage ランディング・ページからデータを抽出する際の前提 条件

eMessage ランディング・ページからの入力を受け入れるように抽出プロセスを構成 するには、以下の前提条件が満たされている必要があります。

- eMessage をインストール、実行、および使用可能にする必要があります。
- eMessage ランディング・ページが適切に構成されている必要があります。
- メール配信を実行して、メール受信者からのレスポンスを受信する必要があります。

eMessage ランディング・ページについて詳しくは、「*eMessage* ユーザー・ガイ ド」を参照してください。

#### 抽出プロセスの構成

抽出プロセスを構成する手順は、以下のどの入力ソースを選択するかによって異な ります。

- 『データをセル、単一テーブル、または戦略的セグメントから抽出するには』
- 106 ページの『eMessage ランディング・ページからのデータの抽出』
- 最適化されたリスト (「Contact Optimization User's Guide」を参照)

# データをセル、単一テーブル、または戦略的セグメントから抽出す るには

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. パレットにある抽出プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 3. フローチャート内の抽出プロセス・ボックスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが開きます。

- 5. 以下のように、入力として使用するレコードを指定します。
  - 入力データ・ソースからのレコードをすべて含めるには、「全レコード選択」を選択します。
  - ・ 照会を行うことによってレコードを選択するには、「条件を指定してレコー ド選択」を選択します。
- 6. 「**条件を指定してレコード選択**」を選択した場合、以下のいずれかの方法を使 用して照会を作成します。

注: 完全な説明については、60ページの『プロセスでの照会の作成』を参照してください。

- ポイント & クリック:「フィールド名」、「演算子」、および「値」セルを クリックして、式を作成するための値を選択します。式を結合するには、 「AND/OR」を使用します。これは、照会を作成する最も簡単な方法で、構 文エラーの回避にも役立ちます。
- テキスト・ビルダー: この方法を使用して未加工 SQL を作成するか、提供されたマクロを使用します。テキスト・ビルダー内の「式ヘルパー」を使用して、提供されたマクロ (論理演算子およびストリング関数を含む)を選択できます。

どちらの方法でも、「選択可能なフィールド」リスト (IBM Campaign 生成フィールドとユーザー定義フィールドを含む) からフィールドを選択することが できます。

注: Campaign 生成フィールドと同じ名前を持つテーブル・フィールドが照会に 含まれている場合は、フィールド名を修飾する必要があります。構文として .<field name> を使用します。

- 7. 「**抽出**」タブの「**ターゲット・データ・ソース**」フィールドを使用して、以下 のように出力場所を選択します。
  - 2 進数形式でデータを保管するには、「IBM Campaign サーバー」を選択し ます。
  - UAC\_EX 接頭部が付いた固有の名前のテーブルにデータを保管するには、使用 可能なデータベースを選択します。
- 「抽出」タブで、「候補フィールド」のリストからフィールドを選択して「抽 出フィールド」リストに追加します。フィールドの削除やフィールドの順序の 変更を行う場合は、各コントロールを使用します。「抽出」タブの使用につい ては、108ページの『「抽出」タブのリファレンス』を参照してください。
- オプションで「セル・サイズの制限」タブを使用して、プロセスで生成される ID の数を制限します。 165 ページの『出力セル・サイズの制限』を参照して ください。
- 10. オプションで、「ディメンション」タブを使用して既存のディメンション・テ ーブルを抽出テーブルに追加し、結合用のキー・フィールドを指定します。こ

の抽出テーブルは、選択されたディメンション・テーブルのベース・テーブル になり、下流のプロセスで使用することができます。

- 11. 「全般」タブを以下のように使用します。
  - a. **プロセス名**: 記述名を割り当てます。プロセス名は、フローチャートでボッ クス・ラベルとして使用されます。また、さまざまなダイアログやレポート でプロセスを識別するためにも使用されます。
  - b. 出力セル名: この名前は、デフォルトで「プロセス名」と一致します。さま ざまなダイアログやレポートで出力セル (プロセスが取得する ID のセット) を識別するために使用されます。

(オプション)「ターゲット・セルへのリンク」をクリックして、(現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートで定義された)ターゲット・セルのリストを表示すれば、ターゲット・セルを1つ選択できます。 これで、TCSからのセル名が「出力セル名」フィールドに表示されるようになります。

176ページの『ターゲット・セル・スプレッドシートについて』を参照して ください。さらに、174ページの『プロセス構成ダイアログを使用してフロ ーチャート・セルをターゲット・セルにリンクする方法』も参照してくださ い。

- c. セル・コード: セル・コードには標準形式があり、システム管理者によって 決定されます。生成されたセル・コードは固有です。 171 ページの『セ ル・コードの変更』を参照してください。
- d. 説明: プロセスの目的や結果を記述します。一般的な方法としては、選択基 準を参照します。
- 12. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを 確認するために、プロセスの実行をテストできます。

## eMessage ランディング・ページからのデータの抽出

eMessage ランディング・ページ・データの抽出を試行する前に、ご使用の IBM 環 境が要件を満たしていることを確認してください。詳しくは、 104 ページの 『eMessage ランディング・ページからデータを抽出する際の前提条件』を参照して ください。

1. フローチャートの編集モードで、フローチャート・ワークスペース内の抽出プロ セスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが表示されます。

- 2. 「ソース」タブで、「eMessage ランディング・ページ」を選択します。
- 3. ポップアップ・ウィンドウで、入力として eMessage ランディング・ページを選 択します。

注: 抽出プロセスへの入力として選択できる eMessage ランディング・ページは 1 つのみです。複数のランディング・ページからデータを抽出するには、複数の 抽出プロセスを構成します。

- ランディング・ページに使用可能なオーディエンス・レベルが複数ある場合、該 当するオーディエンス・レベルをドロップダウン・リストから選択します。使用 可能なオーディエンス・レベルが1つのみの場合は、それが自動的に選択され ます。
- 5. 「OK」をクリックします。
- 6. 「抽出」タブで、出力場所を選択します。
  - 2 進数形式でデータを保管するには、「IBM Campaign サーバー」を選択します。
  - UAC\_EX 接頭部が付いた固有の名前のテーブルにデータを保管するには、使用 可能なデータベースを選択します。
- 7. 抽出するフィールドを「選択フィールド」のリストから選択します。
  - 「追加」をクリックして、選択されたフィールドを「抽出フィールド」のリストに追加します。
  - 「抽出フィールド」のリストからフィールドを削除するには、削除するフィー ルドを選択して、「削除」をクリックします。
  - 「1 つ上へ」および「1 つ下へ」ボタンを使用して、「抽出フィールド」リス ト内のフィールドの順序を変更します。
  - 抽出するフィールドのデフォルトの出力名を変更するには、「抽出フィール ド」リストでフィールドを選択し、「出力名」列で名前をクリックしてから、 新規名を入力します。

「抽出」タブのフィールドについて詳しくは、108ページの『「抽出」タブのリファレンス』を参照してください。

- 8. 以下のオプション・タスクを実行します。
  - ユーザー定義フィールドを候補フィールドのリストに追加します。205ページの『ユーザー定義フィールドについて』を参照してください。
  - 複製 ID が出力から除外されることを指定します。71ページの『プロセス出 力での重複 ID の除外』を参照してください。
  - 出力セルのサイズを制限します(すなわち、プロセスによって生成される ID の数を制限します)。165ページの『出力セル・サイズの制限』を参照してください。
  - 「全般」タブをクリックして、「プロセス名」、「出力セル」の名前、または 「セル・コード」の変更、ターゲット・セルへのリンク、またはプロセスにつ いての「説明」の入力を行います。

ターゲット・セルへのリンクについて詳しくは、174ページの『プロセス構成 ダイアログを使用してフローチャート・セルをターゲット・セルにリンクする 方法』を参照してください。

注: eMessage ランディング・ページ属性ではプロファイリングは使用不可です。 9. 「OK」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを 確認するために、プロセスをテストできます。 注: 抽出プロセス中に、Campaign は、UCC\_LPV 接頭部を使用してシステム・テーブ ル・データベースに中間ビューを作成します。この内部ビューは、プロセス・ボッ クスが削除されるまでデータベース内に残されます。ビューを削除する場合、プロ セスまたはフローチャートを再実行する前に、それに対応する抽出プロセスを再構 成する必要があります。再構成しない場合、Campaign によってテーブルの欠落を示 すエラーが生成されます。

# 「抽出」タブのリファレンス

次の表は、「抽出プロセス構成」ダイアログの「抽出」タブのフィールドについて 説明しています。

表14. 「抽出」タブのフィールド

フィールド	説明
ターゲット・データ・ソース	このプロセスの出力が書き込まれる場所。 Campaign Server
	および接続先のその他の任意のデータ・ソースが「ターゲッ
	ト・データ・ソース」ドロップダウン・リストから選択可能
	です。
選択フィールド	入力データ・ソースに基づいて抽出可能なフィールドのリス
	トで、フィールド名およびデータ型を含みます。フィールド
	のリストを表示するために、項目の横にある矢印をクリック
	して項目を展開することが必要な場合があります。
	   入力ソースが eMessage のランディング・ページの場合、各
	フィールド名はランディング・ページの属性です。その属性
	に特殊文字またはスペースが含まれている場合は、有効なフ
	ィールド名に変換されます。すべてのランディング・ページ
	属性のデータ型は、テキストとしてリストされます。
	注: スキーマ・オブジェクト名は 30 文字までに制限されま
	す。ご使用の属性名を 30 文字以下に制限して、抽出された
	出力の有効な列名を作成してください。
出力フィールド	「候補フィールド」リストから抽出することを選択したフィ
	ールド。「フィールド名」はデフォルトで「抽出フィール
	ド」列のフィールド名に設定されます。
「プロファイル」ボタン	選択した「候補フィールド」の値のリストをプレビューする
	には、「プロファイル」をクリックします。 55 ページの
	『フィールドのプロファイル』を参照してください。
「ユーザー定義フィールド」	「選択フィールド」のリストに変数を作成するには、「ユー
ボタン	<b>ザー定義フィールド</b> 」をクリックします。 205 ページの『ユ
	ーザー定義フィールドについて』を参照してください。
「詳細」ボタン	「拡張設定」ダイアログを開くには、「詳細」をクリックし
	ます。このダイアログには、重複 ID を出力から除外する
	ためのオプションや、Campaign が重複を識別する方法を指
	定するオプションが含まれています。 71ページの『プロセ
	ス出力での重複 ID の除外』を参照してください。

# スナップショット

スナップショット・プロセスを使用して、ID および関連するデータのリストを取得し、それらをテーブルまたはファイルにエクスポートします。

オファーをリストに関連付けたりトラッキングしたりするには、メール・リスト・ プロセスまたはコール・リスト・プロセスを使用します。複製行がエクスポートさ れないようにするには、抽出プロセスを使用して、結果のスナップショットを取得 します。

# スナップショット・プロセスを構成するには

- 1. フローチャートを編集用に開きます。
- パレットにあるスナップショット・プロセス・ボックスをフローチャート・ワ ークスペースにドラッグします。
- 3. 入力となる 1 つ以上のプロセスをスナップショット・プロセスに接続します。

注:入力として選択するすべてのセルで、オーディエンス・レベルが同じでな ければなりません。

フローチャート・ワークスペースでスナップショット・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが表示されます。

- 5. 「スナップショット」タブをクリックします。
  - a. 「入力」リストを使用して、スナップショットのデータ・ソースとして使用 するセルを指定します。

注:出力セルを提供するプロセスにスナップショット・プロセスが接続され ていない場合、「入力」リストから選択するセルはありません。「複数セ ル」オプションは、入力プロセスが複数のセルを生成する場合にのみ使用可 能です。

b. 「**エクスポート先**」リストを使用して、スナップショット出力を書き込むテ ーブルまたはファイルを指定します。

注:確認可能な一時ファイルに出力をエクスポートしてスナップショット・ プロセスを実行することにより、そのスナップショット・プロセスをテスト することができます。

- 使用するテーブルがリストにない場合、またはマップされていないテーブルに出力する場合は、「データベース表」を選択します。「データベース表の指定」ダイアログを使用して、表およびデータベースの名前を指定します。ここで指定するテーブル名では、ユーザー変数がサポートされています。
- 「エクスポート先」リストから「ファイル」を選択した場合は、出力を書 き込むファイルのタイプ、ファイル名、および対応するデータ・ディクシ ョナリーを指定できます。
- 新規ユーザー・テーブルを作成する場合は、「エクスポート先」リストから「新規マップ・テーブル」を選択します。詳しくは、「Campaign 管理 者ガイド」を参照してください。

- c. 出力ファイルまたはテーブルの更新の処理方法を指定する以下のいずれかの オプションを選択します。
  - データ追記。テーブルまたはファイルの末尾に新しい情報を追加します。
    区切り記号付きファイルにこのオプションを選択する場合、ラベルは最初の行としてエクスポートされません。データベース表ではこのオプションが推奨されます。
  - レコード置換。テーブルまたはファイルから既存のデータを削除して、新 規の情報に置き換えます。
  - レコード更新。テーブルにエクスポートする場合にのみ使用可能です。ス ナップショット用に指定されたすべてのフィールドは、プロセスの現在の 実行から得られる値で更新されます。
  - 新規ファイル作成。ファイルにエクスポートする場合にのみ使用可能です。このオプションは、ファイルにエクスポートする場合はデフォルトで 選択されます。プロセスを実行するたびに、新規ファイルが作成され、
     「1」、「2」などの値がファイル名に追加されます。
- 6. スナップショットの対象とするフィールドを指定します。
  - a. 「**候補フィールド**」リストを使用して、出力に含めるフィールドを選択しま す。

「Campaign 生成済みフィールド」のリストを展開して、Campaign 生成済み フィールドを使用するか、「ユーザー定義フィールド」ボタンをクリックし てユーザー定義フィールドを使用することができます。フィールドを複数選 択するには、Ctrl キーを押しながらクリックします。また、フィールドの連 続範囲を選択するには、Shift キーを押しながらクリックします。

- b. 選択したフィールドを「**スナップショット・フィールド**」リストに移動する には、「追加」をクリックします。
- c. スナップショットの宛先としてテーブルを選択した場合は、そのテーブル・フィールドが「テーブル・フィールド」列の下の「エクスポート・フィールド」リストに表示されます。「照合」をクリックすることにより、一致するフィールドを自動的に見つけることができます。テーブル・フィールド名が完全に一致するフィールドが、「エクスポート・フィールド」リストに自動的に追加されます。一致するフィールドが複数ある場合、最初の一致が使用されます。「削除」または「追加」をクリックすることにより、組み合わせを手動で変更することができます。
- d. 必要に応じて、フィールドを選択し、「1 つ上へ」または「1 つ下へ」をク リックしてリスト内でフィールドを上下に移動することにより、「スナップ ショット・フィールド」リスト内のフィールドを再配列します。

注: フィールドの値を表示するには、そのフィールドを選択して、「プロフ ァイル」をクリックします。

7. 重複する ID を持つレコードをスキップすることを指定するか、レコードが出 力される順序を指定するには、「詳細」をクリックします。

「拡張設定」ウィンドウが表示されます。

a. 同一入力セル内の重複 ID を除去するには、「重複 ID のレコードを除外」 を選択します。次に、重複 ID が見つかった場合にどのレコードを残すかを 判別するための基準を選択します。例えば、「最大値選択」と 「Household\_Income」を選択することで、重複 ID が見つかったときに、 Campaign が世帯収入が最も多い ID のみをエクスポートするように指定で きます。

注: このオプションは、同じ入力セル内の複製のみ削除します。同じ ID が 複数の入力セルに出現する場合、スナップショット・データには複製 ID が 引き続き含まれていることがあります。重複 ID をすべて除去するには、ス ナップショット・プロセスの上流でマージ・プロセスまたはセグメント・プ ロセスを使用して、重複 ID を消去するか、相互に排他的なセグメントを作 成します。

- b. スナップショット出力をソートするには、「出力順」チェック・ボックスを 選択してから、ソートの基準にするフィールドとソート順を選択します。例 えば、「Last\_Name」と「昇順」を選択することにより、ID を姓の昇順に ソートできます。
- 8. 「**OK**」をクリックします。
- 9. (オプション) 「全般」タブをクリックして、名前および説明の注釈をプロセス に割り当てます。

フローチャート内のプロセス・ボックスに名前が表示されます。フローチャー ト内のプロセス・ボックス上にマウス・カーソルを移動させると、注釈が表示 されます。

10. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを 確認するために、プロセスの実行をテストできます。

# スケジュール

注: IBM EMM 8.0 リリースから、IBM スケジューラーは、フローチャート全体の 実行をスケジュールするための Campaign スケジュール・プロセスに代わるものと して用意されています。スケジューラーは、それが実行されていない場合でもフロ ーチャートを開始しますが、フローチャート内のスケジュール・プロセスは、フロ ーチャートが実行されている場合のみ動作します。スケジューラーを使用して、フ ローチャート実行を開始する最上位プロセスとしてスケジュール・プロセスを使用 するフローチャートをスケジュールすることはしないでください。一般に、どちら か一方があれば十分です。

スケジュール・プロセスを使用して、プロセス、一連のプロセス、またはフローチ ャート全体を開始します。スケジュール・プロセスは、定義された期間中にアクテ ィブです。この期間中、指定されたイベントが発生し、それらのイベントにより、 接続されている後続のプロセスの実行が開始する場合があります。スケジュール・ プロセスの最も一般的な使用法は、フローチャート全体のタイミングを制御するこ とです。

プロセスが実行を開始してからの期間を日、時間、および分単位で設定することに より、スケジュール期間全体を定義するようにスケジュール・プロセスを構成でき ます。 スケジュール・オプションは、以下のとおり、きめ細かくかつフレキシブルです。

- 繰り返し、トリガー、カレンダーなど、さまざまな方法でプロセスの実行をスケジュールすることができます。
- 複数のスケジュール・オプションを組み合わせることができます。例えば、毎週 月曜日の午前 9:00 時にプロセスが実行されるようにするとともに、特定のイベ ント (Web サイトのヒットなど) によってトリガーが発生した場合にも必ずプロ セスが実行されるようにスケジュールすることができます。
- バッチ処理を、例えば、日中のジョブを妨げることのない深夜に実行するように スケジュールできます。

フローチャートのスケジューリングで同時に使用できるオプションの数について既 定の制限はありません。ただし、選択したオプションが矛盾しない場合に限りま す。(例えば、「1回のみ」と「毎週月曜日」の両方を実行するようにフローチャ ートをスケジュールすることはできません。)

一般的に、プロセスのすべての入力が正常に実行された場合のみ(すなわち、現在のプロセスに接続されているプロセスがすべて実行された場合。依存関係が一時的でしかない場合も含みます。)、プロセスは実行されます。ただし、複数のスケジュール入力が1つのブランチ内に存在している場合は、その入力のいずれか1つが完了したときに(その入力の「AND」ではなく「OR」)必ずプロセスが実行されます。

トラッキングが使用可能になっているコンタクト・プロセスには、固有のスケジュ ールが含まれています。フローチャートの真ん中でのスケジュール・プロセスの使 用は高度な手法です。必要な動作および正しい結果が得られることを確認してくだ さい。

注:フローチャート内のスケジュール・プロセスによって、直前の実行が完了する 前にフローチャートを実行するよう指示される場合、Campaign は、直前の実行が終 了するまでその要求を保留します。このような方法で、1 つの実行のみ保持される ようにすることができます。このことは、フローチャートの実行回数が、ユーザー が予期する回数より少なくなる場合があることを意味しています。

例えば、フローチャートが実行に 2 時間を要する場合に、10 分間隔で 3 つの実行 のトリガーを試みるスケジュール・プロセスを使用すると、Campaign は最初の実行 を開始します。スケジュール・プロセスが 2 番目の実行を開始しようとすると、 Campaign はそれをキューに入れます。スケジュール・プロセスが 3 番目の実行を 開始しようとすると、Campaign はそれを無視します。最初の実行が完了すると、 Campaign は 2 番目の実行を開始します。3 番目の実行が開始されることはありま せん。

# Campaign スケジュール・プロセスと IBM スケジューラーとの間の相違

IBM EMM 8.0 リリースから、IBM スケジューラーは、フローチャート全体の実行 をスケジュールするための Campaign スケジュール・プロセスに代わるものとして 用意されています。 IBM スケジューラーは、フローチャートが実際に実行されて いないときにはサーバー・システムのリソースを消費しないので、より効率的で す。 IBM スケジューラーは、それが実行されていない場合でもフローチャートを 開始しますが、フローチャート内の Campaign スケジュール・プロセスは、フロー チャートが実行されている場合のみ動作します。

Campaign スケジュール・プロセスは、以前のバージョンとの完全な互換性のため、 また IBM スケジューラーでは処理されない他のユースケースのために、保持され ています。例えば、Campaign スケジュール・プロセスを使用すると、 Campaign ト リガーを送信したり従属処理の実行を遅延させたりすることができます。

IBM スケジューラーを使用して、フローチャート実行を開始する最上位プロセスと して Campaign スケジュール・プロセスを使用するフローチャートをスケジュール することはしないでください。一般に、どちらか一方があれば十分です。ただし、 IBM スケジューラーによって開始されたフローチャート内にスケジュール・プロセ スが存在する場合、それは構成されたとおりに機能します。 IBM スケジューラー およびスケジュール・プロセスで必要となる条件は、後続のプロセスが実行される 前に満たされていなければなりません。

IBM スケジューラーとは異なり、 Campaign スケジュール・プロセスは外部トリガ ーを送信してコマンド行スクリプトを呼び出すことができます。 IBM スケジュー ラーがトリガーを送信できるのは、それ自体のスケジュールに対してのみです。

## スケジュール・プロセスを構成するには

 フローチャートの編集モードで、フローチャート・ワークスペース内のスケジュ ール・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが表示されます。

- 2. 「スケジュール」タブで、以下のとおり、スケジューリングの条件を指定しま す。
  - a. 「日」、「時間」、および「分」の各フィールドに適切な値を入力して、 「実施期間」の値を指定します。「実施期間」は、スケジュール・プロセス がアクティブになっている時間の合計です。デフォルトでは、「実施期間」 は 30 日に設定されます。
  - b. 「実施頻度」ドロップダウン・リストから実行頻度を選択し、以降の接続プロセスをスケジュール・プロセスがいつアクティブにするかを正確に指定します。
    - 「1回のみ」オプションを選択すると、追加された他のスケジュール・オ プションに関係なく、フローチャートは1回のみ実行されます。他の値が 選択されると、スケジュール・オプションはORステートメントとして接 続され、スケジュール・プロセスは、いずれかのオプションが満たされた ときに、そのスケジュール・プロセスが接続されているプロセスを開始し ます。
    - 満たされる最初のオプションによって、スケジュールの実行が開始されます。「実施頻度」が唯一の有効なオプションであり、その設定が「1回のみ」である場合、プロセスは即時に実行されます(遅延またはユーザー承認が有効になっていない場合)。
    - 「時間」および「分」フィールドを使用すると、スケジュールを実行する
      時間を指定できます。時間の入力形式は、24 時間制(「ミリタリー・タイム」とも呼ばれます)に基づいています。すなわち、9 時 30 分は 9:30

a.m. であり、22 時 45 分は 10:45 p.m です。時間基準が 24 時間である ため、a.m. または p.m. を指定する必要はありません。

3. 「実行頻度」ドロップダウン・リストから「カスタム設定」を選択すると、「カスタム設定」オプションが有効になります。「日時指定」チェック・ボックスまたは「トリガー指定」チェック・ボックス、またはその両方を選択して、スケジュールを特定の時間(複数可)に実行するか、または着信トリガーに基づいて実行するかを指定します。トリガーについて、詳しくは「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

**注:** これらの選択は相互に排他的ではありません。すなわち、スケジュールされ た時間とトリガーを組み合わせて使用することを選択できます。

- 「日時指定」を選択する場合、1 つ以上の日時を指定する必要があります。複数のエントリーはコンマで区切る必要があります。「カレンダー」をクリックしてカレンダー機能にアクセスし、日時を選択します。
- 「**トリガー指定**」を選択する場合、1 つ以上のトリガーを指定する必要があり ます。

指定されたトリガーは、「ツール」>「トリガー」を使用してスケジュール・ プロセスに対して定義し、完全に構成する必要があります。このスケジュー ル・プロセスをアクティブ化できる各トリガーの名前を入力します。複数のト リガーは、コンマで区切ります。トリガー名には、コンマを除く任意の文字を 使用できます。トリガー名は、固有でなくてもかまいません。複数のキャンペ ーンまたはフローチャートで同じトリガーを使用して、それらのキャンペーン またはフローチャートをすべて同時にアクティブ化することができます。

4. 「実行時に承認が必要」チェック・ボックスまたは「実行前の遅延期間」チェック・ボックス、またはその両方を選択して、「実行制限」設定を指定します。

注: これらの選択は相互に排他的ではありません。すなわち、いずれか一方を選 択することも両方を選択することもできます。

「実行時に承認が必要」を選択すると、他のスケジュール条件が満たされるたびに、ユーザー承認を求めるプロンプトが表示され、特定の承認が行われない限り、スケジュール・プロセスはアクティブ化されません。このオプションを指定すると、このオプションは他のあらゆるスケジュール・インディケーターに優先し、承認が行われない場合は、プロセスは開始されません。

注: 接続されたクライアントでフローチャートが実行される場合、ユーザー承認はそのクライアントを介してのみ実行できます。クライアントが接続されていない場合は、キャンペーンに対する読み取り/書き込み権限を持つ任意のユ ーザーがその続行を承認できます。

「実行前の遅延期間」を選択する場合、「日」、「時間」、および「分」の各フィールドを使用して、スケジュール条件が満たされた後、プロセスが実行される前に待機する時間を指定する必要があります。この遅延は、指定された他のすべてのスケジュール・オプションに適用されます。例えば、スケジュール・プロセスが、月曜日の朝 9:00 a.m. に 1 時間の遅延時間で実行されるように構成されている場合、後続のプロセスは 10:00 a.m. に実行を開始します。

5. (オプション) 「実施後トリガー実行」チェック・ボックスを選択して、1 つ以上 のトリガーを指定することにより、スケジュール実行が完了した後に送信するト リガーを指定します。

「実施後トリガー実行」チェック・ボックスを選択すると、Campaign は、スケジュール・プロセスがアクティブ化されるたびに 1 つ以上のトリガーを実行します。発信トリガーはコマンド・ライン (バッチ・ファイルまたはスクリプト・ファイルが可能)を実行します。指定されたトリガーは、「ツール」>「トリガー」を使用して定義する必要があります。トリガー名を複数指定する場合は、コンマで区切る必要があります。

6. (オプション) 「全般」タブをクリックして、名前または注釈、またはその両方を プロセスに割り当てます。

割り当てられた名前がフローチャートのプロセスに表示されます。注釈は、ユー ザーがフローチャートのプロセスを指すと表示されます。

7. 「**OK**」をクリックします。

プロセスが構成され、フローチャート内で使用可能な状態で表示されます。予期される結果をプロセスが返すかどうかを確認するために、プロセスをテストできます。

## トリガーに基づいたスケジューリング

スケジュール・プロセスは、以下の方法でトリガーを使用することができます。

- 『トリガーによる実行』
- 116ページの『各実行後のトリガー送信』
- 116ページの『他のスケジュール・オプションとトリガーの併用』

#### トリガーで実行されるようにスケジュール・プロセスを構成するには

 「スケジュール・プロセス構成」ダイアログの「スケジュール」タブで、「実施 頻度」ドロップダウン・リストから「カスタム設定」を選択します。

「カスタム設定」機能が有効になります。

- 2. 「**トリガー指定**」フィールドに、このスケジュール・プロセスをアクティブ化で きる各トリガーの名前を入力します。複数のトリガーは、コンマで区切ります。
  - トリガー名には、コンマを除く任意の文字を使用できます。
  - トリガー名は、固有でなくてもかまいません。複数のキャンペーンまたはフロ ーチャートで同じトリガーを使用して、それらのキャンペーンまたはフローチ ャートをすべて同時にアクティブ化することができます。

## トリガーによる実行

「実行頻度」ドロップダウン・リストから「カスタム設定」を選択すると、「トリ ガー指定」オプションが使用可能になります。このオプションを使用可能にして、 スケジュール・プロセスをアクティブ化する 1 つ以上の着信トリガーを指定しま す。 「トリガー指定」を使用可能にする場合、1 つ以上のトリガーを指定する必要があ ります。指定されたトリガーは、「ツール」>「トリガー」を使用してスケジュー ル・プロセスに対して定義し、完全に構成する必要があります。

着信トリガーは、フローチャートまたはキャンペーンを自動的に作動させる外部イ ベントです。トリガーは、ユーザーが任意に定義できます。例えば、Web サイト・ リンクのクリック、E メール・メッセージの受信、テレマーケティング担当者の応 答標識、データベースのアップロードの完了、定義されたその他の任意のイベント などです。

「トリガー指定」オプションは、実行のために IBM アプリケーションの unica\_actrg (ご使用の Campaign インストール済み環境に組み込まれています) を 使用します。「トリガー指定」が裏側でどのように動作しているかを理解するに は、以下の例を参照すると役立ちます。

#### 例: トリガー指定

オンライン小売業者は、顧客が購買を行うとクロスセル・オファーがトリガーされ るように、トリガーで実行されるクロスセル・キャンペーンを実施します。

具体的には、顧客が購買を行うと、以下が実行されます。

- Web サイトで unica\_actrg 実行可能プログラムが実行され、キャンペーン・コー ドおよびトリガー名 (web\_purchase) が渡されます。
- Campaign リスナーは、キャンペーンがアクティブになっていて、トリガー名が存 在することをチェックしてから、スケジュール・プロセスを実行して、キャンペ ーン・フローチャートを起動させます。

トリガーについて、詳しくは「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

#### 各実行後のトリガー送信

発信トリガーはコマンド・ライン (バッチ・ファイルまたはスクリプト・ファイル が可能)を実行します。スケジュール・プロセスが「**実施後トリガー実行**」フィー ルドのトリガー名をアクティブ化するたびに、Campaign で 1 つ以上のトリガーを 実行させることができます。トリガー名を複数指定する場合は、コンマで区切る必 要があります。

この機能を使用することにより、発信トリガーを実行可能ファイルに送信すること ができます。ファイルの絶対パスおよび名前を「トリガー」ウィンドウに定義する 必要があります。スケジュール・プロセスがアクティブ化されるたびに、Campaign は、指定された実行可能ファイルを実行します。

#### 他のスケジュール・オプションとトリガーの併用

トリガーは他のスケジュール・オプションと共に使用することも、単独で使用する こともできます。組み合わせて使用する場合、例えば、毎週月曜日の 9:00 a.m に実 行され、かつ、誰かがインターネット・バナーの広告をクリックするたびに実行さ れるフローチャートをセットアップすることができます。 例えば、Web サイトのヒットに基づいて「**トリガー指定**」が行われるようにフロー チャートをスケジュールし、さらに「実行前の遅延期間」も指定すると、イベント (Web の「ヒット」)が発生し、かつ遅延時間が満了するまでフローチャートは開始 されません。

## キューブ

キューブ・プロセスは、顧客データベース表から作成された戦略的セグメントに基づくディメンションからのデータ・キューブの作成をサポートします。

注: キューブ・プロセスは、テクニカル・ユーザーまたは IBM コンサルタントによ る使用を目的としています。すべてのグローバル構成体 (例えば、キューブおよび 戦略的セグメント) をアプリケーションの「**セッション**」領域で作成することが推 奨されます。

ユーザーは、1 つ以上の定義済みセグメントを選択し、キューブを作成してから、 データをドリリングして、フローチャートに含めるために適切なプロセス(例え ば、選択プロセス)に変換可能な対象オーディエンスを選択することができます。

# キューブ・プロセスを構成するには

「セッション」領域で作成されたキューブはいずれもグローバルに使用可能です。

- 1. キューブ・プロセスを使用してキューブを作成するには、事前に戦略的セグメントまたはディメンション階層を作成しておく必要があります。
- セッション・フローチャートで、キューブ・プロセスを選択してワークスペース までドラッグします。
- フローチャート・ワークスペースでキューブ・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが表示されます。

4. 「**ソース**」タブで、「入力セグメント」ドロップダウン・リストを使用して、1 つ以上のセグメントをキューブの入力として選択します。

**重要:** 複数のソース・セグメントを選択する場合、それらがすべて同じオーディ エンス・レベルを持っていることを確認してください。

5. キューブを定義するために「**キューブ定**義」タブをクリックします。「キューブ 定義」ウィンドウが表示されます。

「キューブ定義」ウィンドウでは、以下の操作を実行できます。

- 「追加」をクリックして、新規キューブを追加する
- ・ 既存のキューブを選択して、「編集」をクリックして変更する
- 既存のキューブを選択して、「削除」をクリックして削除する
- 6. キューブを追加するには、以下を実行します。
  - a. 「追加」をクリックします。「キューブの編集」ウィンドウが表示されま す。
  - b. キューブの名前と説明を該当する領域に入力します。

- c. 対応するドロップダウン・リストから最大 3 つのディメンションを選択しま す。ディメンションは、キューブ・ソースが基づいている戦略的セグメント に関連している必要があります。
- d. キューブに関する情報の入力が完了したら、「OK」をクリックします。「キ ューブの編集」ウィンドウが閉じ、新規キューブ定義が「キューブ定義」タ ブのキューブのリストに表示されます。
- 7. 「**追加フィールドの選択**」タブをクリックして、トラッキングのための追加フィ ールドを指定します。

「追加フィールドの選択」ウィンドウが表示されます。

「追加フィールドの選択」ウィンドウでは、以下の操作を実行できます。

- 「選択可能なフィールド」リストからトラッキングするフィールドを選択し、 「追加>>」ボタンを使用して、そのフィールドを「選択済みフィールド」リストに移動する。
- 「ユーザー定義フィールド」をクリックして、トラッキングするユーザー定義 フィールドを選択または作成する。
- 「プロファイル」をクリックして、選択されたフィールドのプロファイルを作 成する。
- 8. (オプション) 「全般」タブをクリックして、名前または注釈、またはその両方を プロセスに割り当てます。

割り当てられた名前がフローチャートのプロセスに表示されます。注釈は、ユー ザーがフローチャートのプロセスにマウスオーバーすると表示されます。

9. 「**OK**」をクリックします。

プロセスが構成され、フローチャート内で使用可能な状態で表示されます。予期 される結果をプロセスが返すかどうかを確認するために、プロセスをテストでき ます。

## セグメントの作成

セグメントの作成プロセスを使用して、顧客データベース表からオーディエンス ID のリストを作成します。作成されたセグメントは、選択プロセスの入力として使用 したり、ディメンションとキューブを作成するための入力として使用したり、オー ディエンス・レベルのグローバル抑制セグメントとして使用することができます。

セグメントの作成プロセスは、Campaign 管理者による使用を想定して設計されてい ます。セグメントの作成プロセスは、Campaign の「セッション」領域で作成する必 要があります。これにより、セグメントが戦略的なものとなり、すべてのキャンペ ーンでグローバルに使用できるようになります。

**注:** 複数のキャンペーンで使用できるようにするため、すべてのグローバル構成体 を Campaign の「**セッション**」領域で作成することをお勧めします。ただし、セッ ション・フローチャート内ではなく、キャンペーン内で「セグメントの作成」を使 用することができます。

戦略的なセグメントで作業を行うには、以下の処理を実行します。

- 「**セッション**」領域でセグメントを作成します。
- 「セグメント」領域でセグメントを管理します。
- 「キャンペーン」セクションのキャンペーンで、これらのセグメントを使用します。

#### セグメント作成プロセスを構成するには

注: セグメント作成プロセスは、Campaign 管理者が戦略的セグメントの作成に使用 するためのものです。アプリケーションの「セッション」領域でセグメント作成プ ロセスを定義します。こうすることで、セグメントはすべてのキャンペーンでグロ ーバルに使用できるようなります。

- 1. 「編集」モードのセッション・フローチャートで、パレットにあるセグメント作 成プロセスをフローチャート・ワークスペースにドラッグします。
- 2. 1 つ以上のデータ操作プロセス (例えば、選択プロセス) を、セグメント作成プロセスへの入力として接続します。
- 3. セグメント作成プロセスをダブルクリックします。

「セグメント化プロセス構成」ダイアログが開きます。

- 4. 「セグメントの定義」タブで、以下を実行します。
  - a. 「入力」リストから 1 つ以上のソース・セルを選択します。これらのソー ス・セルはセグメントになります。
  - b. 条件を満たす各レコードが 1 つのセグメントにしか属さないようにする場合 は、「データの重複を許可しない」を選択します。
  - c. 「結果セグメント」領域で、入力セルを強調表示し、「編集」をクリックしてセグメントを構成します。

「セグメントの編集」ダイアログが開きます。

- 5. 「セグメントの編集」ダイアログで、以下のようにします。
  - a. セグメントに、その目的を表す名前を付けます。セグメントの内容の要旨 (例 えば、セグメントの作成に使用された入力) を入力します。
  - b. 「保存先」リストから、セグメントを保管するフォルダーを選択します。
  - c. 「一時テーブルのデータ・ソース」リストから、戦略的セグメントをキャッシュに入れるデータ・ソースを選択します。データ・ソースを複数選択する場合は Ctrl キーを使用します。

ー時テーブルをユーザー・データ・ソースではなくサーバー上のバイナリ ー・ファイルに保管するほうがよい場合は、データ・ソースを選択しないで ください。一時テーブルのデータ・ソースを(例えば、データ・ソースが選択 されていない状態に戻すために)選択解除するには、もう一度項目を Ctrl キ ーを押しながらクリックします。

注:データ・ソースの選択は、

「Campaign|partitions|partition[*n*]|Server|Optimization」構成ページの「doNotCreateServerBinFile」プロパティーが「TRUE」に設定されている場合にのみ必要になります。このプロパティーが「TRUE」に設定されている場合は、有効なデータ・ソースを少なくとも1つ選択しなければなりません。

- d. 「**セキュリティー・ポリシー**」リストから、新規セグメントに適用されるセ キュリティー・ポリシーを選択します (該当する場合)。
- e. 「**OK**」をクリックして、「**セグメントの定義**」タブに戻ります。
- 6. (オプション)「全般」タブを使用して、名前と説明する注釈を割り当てます。
- 7. 「**OK**」をクリックします。

プロセスがフローチャートに構成されます。

セグメント作成プロセスをテスト実行できますが、テスト実行で戦略的セグメント が作成されたり、既存の戦略的セグメントが更新されたりするわけではありませ ん。

**注:** 戦略的セグメントを作成または更新するには、セグメント作成プロセスを実動 モードで実行してください。

# メール・リスト

メール・リスト・プロセスは、コンタクト・プロセスの1つです。このプロセス は、フローチャート内の他のプロセスからの出力セルを使用して、ダイレクト・メ ール・キャンペーンのコンタクト・リストの生成、そのコンタクト・リストへの特 定のオファーの割り当て、およびコンタクト履歴の記録を行います。

# コンタクト・プロセス (メール・リストまたはコール・リスト) を 構成するには

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- パレットにあるコンタクト・プロセス (メール・リストまたはコール・リスト)
  をフローチャートにドラッグします。
- 3. 1 つ以上の構成済みプロセスをコンタクト・プロセスへの入力として接続しま す。

**重要:**入力セルとして選択するセルはすべて、同じオーディエンス・レベルを 持っている必要があります。

フローチャート・ワークスペースでコンタクト・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが開きます。

- 5. 「実現」タブを使用して、コンタクト・リストの作成に使用する入力を指定す るとともに、出力をリストに生成するか表に生成するかを指定します。
  - a. 「入力」リストから、コンタクト・リストのデータ・ソースとして使用する 入力セルを指定します。

注: コンタクト・プロセスが、出力セルを提供するプロセスに接続されてい ない場合、「入力」リストから選択するセルはありません。「複数セル」オ プションが使用可能なのは、入力プロセスが複数セルを生成する場合か、コ ンタクト・プロセスにフィードするプロセスがさらに存在する場合のみで す。

- b. 「エクスポート先を有効にする」チェック・ボックスはデフォルトで選択されています。リスト・データをテーブルまたはファイルにエクスポートするには、「エクスポート先を有効にする」にチェック・マークを付けたままにしておき、以下の適切なオプションを使用します。
  - データベース表に出力を書き込むには、「エクスポート先を有効にする」
    リストからデータベース表の名前を選択します。
  - 使用するデータベース表がリストにない場合、またはマップされていない テーブルに出力を書き込む場合は、「データベース表」を選択します。
     「データベース表の指定」ダイアログを使用して、表およびデータベース 名を指定します。ここで指定するテーブル名では、ユーザー変数がサポー トされています。
  - 出力をファイルに書き込むには、「エクスポート先を有効にする」リストから「ファイル」を選択し、「出力ファイルの指定」ダイアログを使用してファイル名などの詳細を指定します。ファイルに書き込むことにより、コンタクト・プロセスの出力をテストできます。プロセスを実行した後、ファイルを調べて、期待どおりの結果であることを確認します。
  - ユーザー・テーブルを作成するには、「エクスポート先を有効にする」リ ストから「新規マップ・テーブル」を選択します。詳しくは、「*Campaign* 管理者ガイド」を参照してください。
  - 出力ファイルまたは出力テーブルの更新の処理方法を指定します。
    - データ追記。テーブルまたはファイルの末尾に新しい情報を追加します。データベース表ではこのオプションが推奨されます。区切り記号付きファイルにこのオプションを選択する場合、ラベルは最初の行としてエクスポートされません。
    - **レコード置換**。テーブルまたはファイルから既存のデータを削除して、新規の情報に置き換えます。
    - 新規ファイル作成。このオプションは、「エクスポート先を有効にす る」フィールドで新規ファイルを指定した場合のみ使用可能です。
- c. コンタクト履歴への書き込みだけを行い、テーブルにもファイルにも出力を 生成しない場合は、「エクスポート先を有効にする」チェック・ボックスを クリアします。(この一連のステップの中で後ほど説明する「ログ」タブを 使用して、コンタクト履歴テーブルに記録する方法を指定します。)
- d. (オプション) サマリー・ファイル:「サマリー・ファイル」フィールドにパ スとファイル名を入力するか、省略符号ボタンをクリックしてファイルの場 所に移動します。サマリー・ファイルは、拡張子が .sum のテキスト・ファ イルです。このファイルには、リストの内容に関する情報が入れられます。 リストをフルフィルメント・センターに送るときは通常、このファイルも含 めます。
- e. (オプション) プロセスの実行が終了したときにトリガーを送信するには、
  「トリガー送信」チェック・ボックスを選択し、送信するトリガーを選択し
  ます。複数のトリガーを送信するには、Ctrl キーを押しながらクリックする
  ことにより、トリガーを複数選択します。選択したトリガーは「トリガー送
  信」フィールドにリストされ、コンマで区切られます。
- 6. 「**処理**」タブを使用して、リストされた各ターゲット・セルにオファーまたは オファー・リストを 1 つ以上割り当てます。

a. ターゲット・セルにオファーを割り当てるには、セルの横の「オファー」フ ィールドをクリックし、選択可能なオファーのリストから選択します。複数 のセルに 1 つ以上のオファーを割り当てるには、オファーを割り当てる行 をすべて選択して、「オファー割り当て」ボタンを使用します。

注: ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) で定義されたトップダウ ン・セルに入力セルがリンクされていて、TCS でオファーが既に割り当てら れていれば、それらのオファーはここに表示されます。これらの割り当ては 上書きできます。コンタクト・プロセスで行った変更は、フローチャートを 保存すると TCS に反映されます。

- b. コンタクト・リストから除外されているコントロール・グループを使用する
  には、「検証コントロール・グループを使用」を選択します。コントロール・グループに関連する列がグリッドに表示されます。
- c. コントロールとして使用するセルごとに、「制御?」フィールドを「N」 (デ フォルト) から「Y」に変更します。コントロールとして指定されたセルに オファーを割り当てることはできません。
- d. 非コントロール・セルごとに、コントロール・セルとオファーを指定できます。オプションで、「コントロール・セル」リストからコントロール・セルを選択します。このリストには、「制御?」=「Y」を指定したセルの名前が設定されます。
- e. 非コントロール・セルに割り当てられたオファーを変更するには、「オファー」フィールドをクリックし、使用可能なオファーを選択します。
- 「パラメーター」タブを使用して、セルごとにオファーを詳細化します。この タブには、「処理」タブで割り当てられたパラメーター化されたオファーごと にパラメーター名と値が示されます。パラメーター値を変更する場合は、以下 の手順を実行します。パラメーター化されたオファーがない場合は、このタブ をスキップできます。
  - a. 「対象セル」リストを使用して、対象とするセルを選択します。

個々のセルを選択すると、テーブルには、選択したセルに割り当てられてい るオファーのみが表示されます。「**割り当て値**」フィールドに入力する値 は、そのセルにのみ適用されます。

「**すべてのセル**」を選択すると、1 オファー 1 パラメーターにつき 1 行が 表示されます。「**割り当て値**」フィールドに入力する値は、そのオファーを 取得するすべてのセルに適用されます。

「処理」タブで同じオファーを複数のセルに割り当てて、しかもセルごとに 異なるパラメーター値を設定することが可能です。この場合、「**すべてのセ** ル」ビューでは、「割り当て値」列にテキスト「複数の値」が表示されま す。「対象セル」リストを使用して、各セルに割り当てられた値を確認して ください。

注: データ入力時間を節約するには、「**すべてのセル**」を使用してほとんど のセルに適用される値を割り当ててから、個々のセルを選択し、それらの値 を上書きします。

- b. 「割り当て値」フィールドをクリック(またはテーブルで行を選択して「値の割り当て」をクリック)し、パラメーターに割り当てる値を選択するか入力します。定数、ユーザー定義フィールド、またはテーブル・フィールドを値として使用できます。
- 8. 「パーソナライズ」タブを使用して、コンタクト・リストに書き出すフィール ドを指定します。例えば、メール配信リストを作成する場合は、コンタクト名 とアドレスを含めます。
  - 「エクスポート・フィールド」リストは、出力リストに書き込むフィールド を示しています。
  - 「実現」タブでテーブルを選択した場合、「エクスポート・フィールド」リストにはそのテーブルにあるすべてのフィールドが含まれます。各データ・フィールドを、対応するテーブル列にマップする必要があります。一致するフィールドを自動的に検出するには、「照合」をクリックします。テーブル・フィールド名が完全に一致するフィールドが、リストに自動的に追加されます。一致するフィールドが複数ある場合、最初の一致が使用されます。
  - 「実現」タブでファイルを選択した場合、「エクスポート・フィールド」リストは空です。出力するフィールドを指定する必要があります。
  - 「候補フィールド」を選択した場合は、項目の横にある矢印をクリックして その項目を展開することができます。例えば、「IBM Campaign 生成フィー ルド」リストを展開し、「処理コード」を選択できます。出力に「処理コー ド」を含めることにより、その処理コードを使用してレスポンスをトラッキ ングすることができます。直接レスポンス・トラッキングの場合、顧客はオ ファーに応答するときに(例えばクーポンを使用して)同じコードを提示する 必要があります。フィールドを複数選択するには、Ctrl キーを押しながらク リックするか、Shift キーを押しながらクリックします。
  - フィールドの値を表示するには、そのフィールドを選択して、「プロファイ ル」をクリックします。
  - リストの内容を調整するには、「追加」および「削除」コントロールを使用 します。
  - データが書き出される順序は、「エクスポート・フィールド」リストのフィールドの順序で決まります。
- 9. 出力をソートして、リスト内の重複 ID の扱いを指定するには、「パーソナラ イズ」タブの「詳細」をクリックします。

「拡張設定」ダイアログが表示されます。

a. 重複 ID をリストに含めるか省略するかを決めてください。例えば、オーデ ィエンス ID が世帯である場合、その世帯の各個人のオーディエンス ID が 重複する可能性があります。リストに各個人を含める場合と含めない場合が あります。重複 ID を省略するには、「重複 ID のレコードを除外」を選択 し、重複 ID が返された場合にどのレコードを保持するかを指定します。例 えば、世帯収入が最も多い家族構成員だけを保持する場合は、「最大値選 択」と「Household Income」を選択します。

注: このオプションは、同じ入力セルで生じる重複を除去します。複数の入 カセルに同じ ID が存在する場合、コンタクト・リストにはまだ重複が含ま れている可能性があります。リストからすべての重複を除去することが目標 である場合は、コンタクト・プロセスの上流でマージ・プロセスまたはセグ メント・プロセスを使用して、重複 ID を消去するか、相互に排他的なセグ メントを作成します。

注: このオプションは、フルフィルメント・テーブル(リスト)のみに関係 し、コンタクト履歴には関係しません。コンタクト履歴テーブルには、常に 固有 ID のみが含まれます。例えば、出力リストに複数の家族構成員(世帯 の重複 ID)が含まれるとします。コンタクト履歴には世帯のレコードが 1 つだけ含まれ、最初に検出された顧客 ID が使用されます。フローチャート 設計者は、レコードがコンタクト履歴テーブルに到達する前に、正しいレコ ードが結果セットに取り込まれようにする必要があります。コンタクト・プ ロセス・ボックスの前で抽出プロセスを使用して結果から重複 ID を除去し て、実施テーブルとコンタクト履歴の両方に正しいレコードが書き込まれる ようにします。

- b. 出力をソートするには、「出力順」オプションを使用します。例えば、姓を 逆順にソートするには、「Last\_Name」フィールドと「降順」を選択しま す。
- c. 「OK」をクリックして、「拡張設定」ウィンドウを閉じます。
- 10. 「ログ」タブを使用して、コンタクト履歴に書き込む内容を制御します。

コンタクト履歴ログのオプションを有効または無効にするための適切な権限を 持っている必要があります。

a. コンタクト履歴をシステム・テーブルに記録するには、「コンタクト履歴テ ーブルに記録」にチェック・マークを付けます。 このオプションは、 Campaign 全体でのトラッキングとレポート作成にコンタクト情報を使用で きるようにします。

注: メール配信リストを構成する際、そのリストを処理(アドレスの確認や ハウスホールディングなど)のためにメーリング・ハウスに送信することを 計画しているのであれば、コンタクト履歴に記録しないでください。代わり に、トラッキング・プロセスを使用して、メーリング・ハウスから返される 情報を記録することを検討してください。このようにして、オファーがメー ル送信された顧客のリストのみを取り込みます。別の方法としては、メー ル・リストでコンタクト履歴を更新できるようにし、トラッキング・プロセ スを使用して、メール・リスト・プロセスによって作成されたコンタクト履 歴レコードを更新します。

- b. (オプション) コンタクト履歴テーブルに加えて、またはコンタクト履歴テーブルの代わりに、別の場所にコンタクト情報を保管するには、「任意の保存 先に記録」にチェック・マークを付けます。このオプションは、情報を別の フォーマットでさらに処理することを組織が必要としている場合や、コンタ クト履歴を更新する前に出力を調べる場合に有用です。
- 11. 「ログ」タブで「**任意の保存先に記録**」を選択した場合は、以下のようにしま す。
  - a. 「**セルの選択**」を使用して、(入力が複数ある場合に) どの入力を使用するか を指定します。

b. 「保存先」を使用して、宛先のテーブルまたはファイルを選択します。「フ ァイル」を選択した場合は、「出力ファイルの指定」ダイアログを使用し て、出力ファイル名とパラメーターを定義します。

候補フィールドを「出力フィールド」リストに移動することにより、どのフ ィールド・データを含めるかを指定します。「照合」をクリックすることに より、一致するフィールドを自動的に見つけることができます。「テーブ ル・フィールド」名が完全に一致するフィールドが、「ログ・フィールド」 リストに自動的に追加されます。一致するフィールドが複数ある場合、最初 の一致が使用されます。ファイル内のデータの順序は、リストのフィールド の順序で決まります。

- c. 以下のオプションを使用して、宛先ファイルまたは宛先テーブルの更新の処 理方法を指定します。
  - データ追記: テーブルまたはファイルの末尾に新規コンタクト情報を追加 します。データベース表の場合、データ追記は既存データが保持されるの で、安全な選択です。区切り記号付きファイルにこのオプションを選択す る場合、ラベルは最初の行としてエクスポートされません。
  - レコード置換: テーブルまたはファイルから既存のレコードを削除して、 新規のコンタクト情報に置き換えます。

情報フィールドは、「重複 ID のレコードを除外」が「はい」に設定されて いるか「いいえ」に設定されているかを示します。このオプションは「パー ソナライズ」タブで設定しますが、コンタクト履歴を別に記録する場所とし て「任意の保存先に記録」で指定したテーブルまたはファイルにも適用され ます。

12. コンタクト履歴に書き込まれる情報をカスタマイズするには、「ログ」タブの 「**詳細オプション**」をクリックします。

「コンタクト履歴ログ・オプション」ダイアログが開きます。

a. このプロセスが実行されるときにコンタクト履歴が更新されないようにする には、「**処理の作成のみ**」を選択します。

このオプションは、コンタクト履歴を更新せずに 処理テーブルに新しい処 理を生成し、履歴テーブルの遅延更新を許可します。例えば、後処理で無効 アドレスおよび重複アドレスを除去することを計画している場合は、このオ プションを使用しますオファーの送信先 ID の最終リストでコンタクト履歴 を更新するのを待つことにより、結果のコンタクト履歴は小さくなるうえ に、より正確になります。

このオプションを選択すると、このダイアログ内の適用されなくなる他のオ プションは無効になります。

デフォルトでは、このオプションは選択されていません。したがって、コン タクト履歴はプロセスが実行されると更新されます。

コンタクト履歴の記録について詳しくは、187ページの『第 9 章 コンタクト履歴およびレスポンス・トラッキング』を参照してください。

b. 最新のプロセス実行のパッケージ ID と同じパッケージ ID を持つ新規処理 を生成するには、「前回のパッケージ ID の使用」を選択します。 同一コンタクト・プロセスで 1 個人に与えられるオファーはすべて、単一 「パッケージ」であると見なされます。デフォルトでは、「前回のパッケー ジ ID の使用」は選択されていません。このオプションが選択されていなけ れば、コンタクト・プロセスの実稼働実行ごとに、各パッケージに固有 ID が割り当てられるようになります。

「処理の作成のみ」を選択して顧客の履歴が更新されないようにした場合 は、「前回のパッケージ ID の使用」を選択することで、前の実行でのパッ ケージ ID がオファーの各セットに割り当てられるようにすることもできま す。このアクションは、既存のコンタクト履歴にオファーをリンクします。

- c. 「**トラッキング・オーディエンス・レベル**」リストを使用して、コンタクト 履歴をトラッキングするオーディエンス・レベルを選択します。
- d. 「コンタクト日付」フィールドを使用して、コンタクト・リスト内の人たち にいつコンタクトするかを指定します。日付を指定しない場合、Campaign はフローチャート実行日を使用します。
- e. 「**コンタクト・ステータス・コード**」リストを使用して、トラッキングのス テータス・コードを指定します。
- f. コントロールを使用して、フィールドを選択し、それらを「**候補フィール ド**」リストと「**ログ・フィールド**」リストの間で移動します。
- g. 「**閉じる**」をクリックして、プロセス構成ダイアログの「**ログ**」タブに戻り ます。
- (オプション) コンタクト・プロセスの次回実行前に既存のコンタクト履歴と関 連レスポンス履歴のエントリーの一部またはすべてをクリアするには、「ロ グ」タブの「履歴の消去」をクリックします。

重要: 「履歴の消去」は、コンタクト履歴およびレスポンス履歴のレコードを システム・テーブルから完全に削除します。このデータはリカバリーできません。

- 14. (オプション) 「全般」タブを使用して、名前および説明する注釈をプロセスに 割り当てます。
- 15. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを 確認するために、プロセスの実行をテストできます。テスト実行では、データが出 力されたりテーブルやファイルが更新されたりすることはありませんが、「実現」 タブで選択したどのトリガーも実行されます。

#### コール・リスト

コール・リスト・プロセスはコンタクト・プロセスです。コール・リスト・プロセ スを使用して、コンタクト・リストの生成 (例えば、テレマーケティング・キャン ペーン用のコンタクト・リストなど)、そのコンタクト・リストへの特定のオファー の割り当て、およびコンタクト履歴の記録を行います。

コール・リスト・プロセスは、メール・リスト・プロセスと同じ方法で構成しま す。 120ページの『コンタクト・プロセス (メール・リストまたはコール・リスト) を構成するには』を参照してください。

# トラッキング

トラッキング・プロセスを使用して、コンタクト・ステータス、またはコンタクト 履歴内の既存のレコードの追加のトラッキング・フィールドを更新します。

トラッキング・プロセスは、コンタクト履歴内の既存の行を更新することも、新し い行を作成することもできます。

例えば、「推奨」のコンタクト・ステータスを使用してレコードが最初にコンタクト履歴に書き込まれた場合、トラッキング・プロセスを使用して、コンタクトされたコンタクト履歴内のレコードを、「コンタクト済み」のコンタクト・ステータスを使用して後で更新することができます。あるいは、例えば、ダイレクト・メールが送られたすべてのコンタクトが、「コンタクト済み」のコンタクト・ステータスでコンタクト履歴に書き込まれ、ユーザーが配達不能メール配信リストを後で受け取った場合、「配達不能(Undeliverable)」のコンタクト・ステータスを使用してそのリストにある個人を更新できます。

コンタクトのリストを生成したコンタクト・プロセスとは別に、トラッキング・プロセスを使用してコンタクト履歴テーブルにコンタクト情報を記録することができます。例えば、最初に生成されたコンタクト・リストは、メーリング・ハウスが後処理を行って無効アドレスや重複アドレスを除去するので、コンタクト履歴に書き込まないほうがよい場合があります。実際にオファーを送った ID の確認リストをメーリング・ハウスが送ってくるのを待てば、コンタクト履歴はより正確になります。この場合は、メーリング・ハウスが後処理を行った後に使用した最終的なメール配信リストが、トラッキング・プロセスの入力になります。

さらに、ターゲット・リストが大きいために、その情報のすべてをコンタクト履歴 にロードする必要がないときもあります。代わりに、実際にコンタクトしたコンタ クト先だけを記録すればよいのです。多くの場合、誰にコンタクトして誰にコンタ クトしなかったかを組織が知るのは、コール・センターまたはメーリング・ハウス からフィードバックを受け取ってからです。さまざまなソースからフィードバック を受け取ったらそのフィードバックをコンタクト履歴テーブルに挿入できるように トラッキング・プロセスを使用することができます。

コンタクト履歴へのコンタクトの記録について詳しくは、187ページの『第9章 コンタクト履歴およびレスポンス・トラッキング』を参照してください。

トラッキング・プロセスを使用して、コンタクト情報をリアルタイムで記録することもできます。例えば、トラッキング・プロセスを使用して、電話で行われたオファーを通話中に記録できます。 Campaign Interact を使用すれば、コール・センターの電話担当者が電話で顧客にオファーを提示するときに、オファーが行われたことを示すボタンをクリックすることもできます。その情報を直ちにトラッキング・プロセスに送って、そこで記録するか、蓄積しておいて定期的にバッチ・モードで処理することができます。 Campaign Interact でのトラッキング・プロセスの使用について詳しくは、Interact の付属資料を参照してください。

#### 例

別個の 2 つのフローチャートを作成することによって、コンタクト履歴へのトラッ キング・プロセスの遅延書き込みを活用できます。コンタクト・リストをフローチ ャート 1 で作成します。選択プロセスがデータを選択し、セグメント・プロセスに 入力を提供します。セグメント・プロセスでは、データが値層別にセグメント化され、セグメント化データがメール・リスト・プロセスに出力されます。メール・リ スト・プロセスは ID のリストをファイルに出力するだけにし、コンタクト履歴を 記録しないように構成します。メーリング・ハウスでコンタクト・リストを後処理 してもらうからです。

メーリング・ハウスから返される最終コンタクト・リストを処理して、実際のコン タクトを最終的にコンタクト履歴に書き込むためのフローチャート 2 を作成しま す。フローチャート 2 は選択プロセスとそれに接続されたトラッキング・プロセス からなります。選択プロセスの入力はメーリング・ハウスによって実際にコンタク トされた顧客のリストであり、トラッキング・プロセスでは情報がコンタクト履歴 に書き込まれます。

この例のバリエーションとして、メーリング・ハウスがコンタクト済み ID のリストを返すのではなく、コンタクトできなかった ID のリストを返す場合は、フロー チャート 1 での元の出力コンタクト・リストを選択し、配信不能 ID (メーリン グ・ハウスが提供)をマージ・プロセスを使用して抑止することにより、コンタク ト済み ID のリストを得ることができます。こうすると、マージ・プロセスからの 出力はコンタクト済み ID のリストになり、それらのコンタクト済み ID をコンタ クト履歴に書き込むためにトラッキング・プロセスに渡すことができます。

## トラッキング・プロセスを構成するには

コンタクト履歴内の既存の行を更新するか新しい行を作成するようにトラッキン グ・プロセスを構成します。例については、127ページの『トラッキング』を参照 してください。

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. パレットにあるトラッキング・プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 3. 1 つ以上の構成済みプロセスをトラッキング・プロセスへの入力として接続し ます。
- 4. フローチャートでトラッキング・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが開きます。

- 5. 「**ソース**」タブを使用して、潜在的レスポンダーが含まれる入力セルを選択し ます。トラッキング・プロセスに接続されたプロセスのセルは、「入力」リス トに表示されます。
  - a. 「入力」リストを使用して、異なるまたは追加のソース・セルを選択しま す。
  - b.「コンタクト日付」フィールドを使用して、トラッキング・プロセスが更新 するレコードに関連付ける日付を選択します。デフォルトでは、「今日」の 値が選択されます。また、ユーザー定義フィールドを使用して「コンタクト 日付」の値を設定することもできます。
  - c. 更新するコンタクト履歴内のレコードに関連付ける「**コンタクト・ステータ** ス・コード」を選択します。
- 6. 「**処理へのマッピング**」タブをクリックします。

「操作フィールド候補」リストを使用して、処理コードに対応させる関連フィ ールドを選択します。処理コードは、更新するコンタクト履歴の行を一意的に 識別します。

対応付けに使用するフィールドを選択し、「追加」をクリックしてそのフィー ルドを「オファー・フィールド/処理フィールドの組み合わせ」リストに移動し ます。こうすると、そのフィールドが処理コードとペアになります。

7. 「ログ」タブをクリックして、コンタクト履歴の更新方法を指定します。

**注:** コンタクト履歴テーブルの更新を有効または無効にするための適切な権限 を持っている必要があります。

- a. コンタクト履歴をシステム・テーブルで更新するには、「コンタクト履歴テ ーブルに記録」チェック・ボックスを選択します。
- b. コンタクト履歴テーブルの更新方法を指定します。
  - 既存のレコードを更新: レコードが存在する場合に、レコードを更新しま す。レコードが存在しない場合は、レコードを作成しません。
  - 新しいレコードのみを作成: レコードが存在しない場合に、レコードを作成します。既存のレコードは更新しません。
  - 既存の更新と新規作成: レコードが存在すれば、レコードを更新します。 レコードが存在しなければ、レコードを追加します。
- c. コンタクト履歴に追加フィールドを書き込むには、「追加フィールド」をク リックして「コンタクト履歴ログ・オプション」ダイアログを表示します。 「追加」、「削除」、「照合」、「1 つ上へ」、および「1 つ下へ」ボタン を使用して、「候補フィールド」リストからフィールドを選択して「ログ・ フィールド」リストに移動します。一致しないフィールドは更新されませ ん。
- d. 「**OK**」をクリックします。
- システム・テーブルのコンタクト履歴以外の宛先またはコンタクト履歴に加え て別の宛先にも記録する場合は、「任意の保存先に記録」チェック・ボックス を選択します。このオプションを使用すれば、代替のテーブルまたはファイル に書き込むことができます。
  - a. 「保存先」リストを使用して、出力をファイルに書き込むかデータベースの 新しいまたは既存の表に書き込むかを指定します。

「**ファイル**」を選択した場合は、「出力ファイルの指定」ダイアログを使用 して、出力ファイル・タイプ、ファイル名、および対応するデータ・ディク ショナリーを指定します。

「新規テーブル」を選択した場合は、「新規テーブル定義」ダイアログを使 用して、ログ出力を書き込む新規テーブルに関する情報を指定します。

- b. 出力するフィールドを指定するには、「候補フィールド」リストからフィー ルドを選択し、それらを「出力フィールド」リストに移動します。 選択し ようとするフィールドが表示されない場合は、「候補フィールド」リスト内 の項目を展開してください。また、「選択フィールド」にユーザー定義フィ ールドを使用することもできます。
- c. 「照合」をクリックすることにより、一致するフィールドを自動的に見つけ ることができます。「テーブル・フィールド」名が完全に一致するフィール

ドが、「**ログ・フィールド**」リストに自動的に追加されます。一致するフィ ールドが複数ある場合、最初の一致が使用されます。

- d. 出力ファイルまたはテーブルの更新の処理方法を指定するオプションを選択 します。
  - データ追記: テーブルまたはファイルの末尾に新規コンタクト情報を追加 します。区切り記号付きファイルにこのオプションを選択する場合、ラベ ルは最初の行としてエクスポートされません。データベース表ではこのオ プションが推奨されます。
  - レコード置換: テーブルまたはファイルから既存のレコードを削除して、 新規のコンタクト情報に置き換えます。
- 9. (オプション) 「全般」タブをクリックして、名前または説明の注釈をプロセス に割り当てます。
- 10. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを 確認するために、プロセスの実行をテストできます。

# レスポンス

レスポンス・プロセスは、メール・リストやコール・リストなどのコンタクト・プ ロセスでコンタクトされた顧客のレスポンスをトラッキングします。レスポンス・ プロセスは、プロセス構成時に定義したルールに基づいて、どのレスポンスが有効 とみなされるか、およびそれらのレスポンスがキャンペーンまたはオファーにどの ように結び付いているかを評価します。レスポンス・プロセスの出力は、複数のレ スポンス履歴システム・テーブルに書き込まれます。このテーブルでは、キャンペ ーン・パフォーマンス・レポートおよび収益性レポートを使用した分析にデータを 利用できます。

レスポンス・プロセスは、最も単純な形式で、選択プロセス(およびオプション で、セグメント・プロセス)に接続されたそれ自身のフローチャートに表示するこ とができます。このようなフローチャートでは、選択プロセスは、レスポンダーと そのレスポンス・アクションに関するデータを含むマップ・テーブルから ID を選 択します。これらの ID は、セグメント・プロセスによって意味のあるグループに セグメント化され、最終的にはレスポンス・プロセスに渡されます。レスポンス・ プロセスでは、レスポンス・トラッキング・ルールが適用されて、レスポンス履歴 テーブルに出力が書き込まれます。

レスポンス・プロセスは対応するコンタクト・プロセスと緊密に連携しており、現 在トラッキングされているレスポンダーは、特定のオファーによるターゲットとさ れたセルのメンバーであった可能性があります。そのため、レスポンス・プロセス を構成するには、事前に以下を行う必要があります。

- コンタクト・リストのオーディエンス・レベルを知り、コンタクトおよびトラッキングする各オーディエンス・レベルのコンタクト履歴およびレスポンス履歴のシステム・テーブルがマップされていることを確認する。これは通常、システム管理者が行います。
- レスポンダーをトラッキングするオーディエンス・レベルごとに別個のレスポンス・プロセスをセットアップする。

- トラッキングするレスポンス・タイプを表すコードを知る。
- トラッキングのためにマップできるように、コンタクト・リストに送信される Campaign 生成コード (キャンペーン、セル、オファー、または処理コード) は何 かを知る。
- Campaign で、Campaign システム・テーブル・データベース内に一時テーブルを 作成できるようにする (すなわち、AllowTempTables プロパティーを TRUE に設 定する必要があります)。

## レスポンス・プロセスを構成するには

レスポンス・プロセスは、レスポンス情報をコンタクト履歴と比較し、情報を該当 オーディエンス・レベルのレスポンス履歴テーブルに記録します。

詳しくは、187ページの『第 9 章 コンタクト履歴およびレスポンス・トラッキン グ』を参照してください。

- 1. コンタクト・フローチャート (分析することを計画しているオファーを割り当 てたもの)を作成したキャンペーンのリストにナビゲートします。
- 2. 通常は、レスポンス・プロセスを扱うための別個のフローチャートを作成する ことになります。
- 3. パレットにあるレスポンス・プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 4. 選択プロセスまたは抽出プロセスをレスポンス・プロセスへの入力として接続 します。選択プロセスまたは抽出プロセスは、アクション・テーブル から読み 取らなければなりません。アクション・テーブルは、IBM Campaign 外で作成 されたデータベース・ファイルまたは表です。アクション・テーブルには、顧 客にオファーが提示されてから収集されたレスポンス・データが入っていま す。このデータには通常、顧客 ID、レスポンス・コード、および対象の属性が 含まれます。
- 5. フローチャートでレスポンス・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが開きます。

- 6. 「**ソース**」タブを以下のように使用します。
  - a. この手順の各ステップに従ってきていれば、「入力」リストに正しい入力が 既に表示されています。入力のソースは、顧客レスポンス情報を保持するデ ータマート内のマップされたアクション・テーブルでなければなりません。

注: レスポンス・プロセスへの入力として区切り記号付きフラット・ファイ ルを使用する場合、入力ファイルのすべてのデータ型が適切にマップされて いることを確認する必要があります。マップの確認はレスポンス・プロセス によって実行されないためです。不一致のデータ型を使用すると(例えば、 UA\_Treatment.TreatmentCode フィールドが「ストリング」型の場合に、処 理コードが「数値」としてマップされている場合など)、一部のデータベース (例えば、DB2<sup>®</sup>上のシステム・テーブルなど)でデータベース・エラーが発 生します。

b. 「レスポンス日付」で、レスポンス・プロセスによって出力されるレコード に関連付ける日付をアクション・テーブルから選択します。デフォルトで は、「今日」の値が選択されます。

- c. 「レスポンス・タイプ・コード」で、アクション・テーブルのフィールドを 選択します。レスポンス・タイプ・コードはグローバルに定義されており、 すべてのキャンペーンで使用可能です。レスポンス・タイプとはトラッキン グ対象の特定のアクションのことで、クリックスルー、照会、購入、アクテ ィベーション、使用などがあります。各レスポンス・タイプは固有のレスポ ンス・コードによって表されます。
- 7. 「**処理へのマッピング**」タブを使用して、トラッキングするフィールドを選択 し、それらをオファー属性と処理属性のリストに対応させます。
  - a. 「**操作フィールド候補**」リストで、使用するアクション・テーブルを展開して、フィールドのリストが表示されるようにします。
  - b. 「追加」ボタンを使用して、「操作フィールド候補」を、「オファー・フィ ールド/処理フィールドの組み合わせ」リスト内の対応する属性に対応させま す。「オファー/処理属性」列に、システム内のオファー属性または処理属性 がすべてリストされます。

少なくとも 1 つの対象の属性と 1 つのレスポンス・コードに対応させるの が最善です。

注: マップされていないフィールド、および値が使用不可 (または NULL) のフィールドは、レスポンス属性に使用されません。処理インスタンスがレ スポンスの帰属を受け取るには、データが入力されたすべてのフィールドが 一致している必要があります (ただし、制御は除く)。この場合、そのすべて のコードは無視されます。

8. 「**ログ**」タブをクリックして、レスポンス履歴に記録する追加フィールドを指 定します。

コントロールを使用して、「**候補フィールド**」リストにあるフィールドを、 「**ログ・フィールド**」リスト内のフィールドに対応させます。

「照合」をクリックすることにより、フィールドを自動的に対応付けることが できます。「テーブル・フィールド」名が完全に一致するフィールドが、「ロ グ・フィールド」リストに自動的に追加されます。一致するフィールドが複数 ある場合、最初の一致が使用されます。

- 9. 「全般」タブをクリックして、名前と説明の注釈をプロセスに割り当てます。
- 10. 「**OK**」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを 確認するために、プロセスの実行をテストできます。フローチャートを保存して実 行すると、レスポンス履歴システム・テーブルに情報が書き込まれます。

# モデル

モデル・プロセスを使用して、ランタイム・モデル・ファイルを作成します。ユー ザーはリアルタイム・スコアリングまたはバッチ・スコアリングにこのファイルを 使用できます。このプロセスは、応答する可能性が高い候補者を決定するために顧 客または見込み顧客をスコアリングする際に使用できるレスポンス・モデルの作成 を自動化します。 通常、フローチャート内でモデル・プロセスをセットアップし、2 つのセルから入 力を取得します。2 つのセルのうち 1 つはレスポンダー (積極的に反応するか、オ ファーまたはコミュニケーションを受け取ったときに何らかのアクションを起こす コンタクト)を表し、もう 1 つは非レスポンダー (何のアクションも起こさないコ ンタクト)を表します。

例えば、2 つの選択プロセスを使用して、1 つのプロセスでオファーとコンタクト があった人を選択し、もう 1 つのプロセスでレスポンダーを選択します。次に、マ ージ・プロセスを使用してレスポンダーを除外し、非レスポンダーのリストを取得 できるようにします。マージ出力と「レスポンダー」選択出力をモデル・プロセス に接続し、非レスポンダーとレスポンダーのセルをそのモデルで使用できるように します。

別のシナリオとして、選択プロセスを使用して、オファーのすべてのコンタクトを 選択してから、セグメント・プロセスを使用して、そのセルをレスポンダーと非レ スポンダーにセグメント化することができます。

## モデル・プロセスを構成するには

IBM Campaign モデリング・エンジンを使用してレスポンス・モデルを生成するようにモデル・プロセスを構成します。モデル・プロセスは、ランタイム・モデル・ファイル (.rtm)を生成します。この .rtm ファイルをスコア・プロセスで使用することで、最も応答しそうな顧客または見込み顧客を判別できます。

- 1. フローチャートを「編集」モードで開きます。
- 2. パレットにあるモデル・プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 3. モデル・プロセスへの入力を構成し接続して、レスポンダーと非レスポンダーを 識別します。

例えば、選択プロセスを使用して、あるオファーのためにすべてのコンタクトを 選択した後、セグメント・プロセスを使用してレスポンダーと非レスポンダーを 識別することができます。

別の例として、選択プロセスを 1 つ使用してレスポンダーを識別することがで きます。非レスポンダーのリストを生成するには、コンタクトされた人たちをも う一つの選択プロセスを使用して識別した後、マージを使用してレスポンダーを 除外します。次に、マージ・プロセス(非レスポンダー)と選択プロセス(レス ポンダー)をモデル・プロセスへの入力として接続します。

4. フローチャート・ワークスペースでモデル・プロセスをダブルクリックします。

プロセス構成ダイアログが開きます。

- 5. 「ソース」タブを使用して、モデリングに使用するフィールドを選択します。
  - a. 「レスポンダー」リストおよび「非レスポンダー (Non-Responder)」リスト から、レスポンダー・セルおよび非レスポンダー・セルをそれぞれ選択しま す。リストには、モデル・プロセスに接続された入力セルを使ってデータが 設定されます。

注: すべての入力セルのオーディエンス・レベルは同じでなければなりません。

b. 「説明変数」で、モデル生成時にモデル・プロセスによって使用されるフィ ールドを選択します。「すべて使用」をクリックして、モデリングに最も有 効な入力セットをモデル・プロセスに決定させることができます。ただし、 モデルに値を追加しない変数を除去することで、モデリング・プロセスを高 速化できます。例えば、すべてのレコードで値が同じフィールドや、すべて のレコードで値が異なるフィールドを除去することができます。

変数の予測値について確信が持てない場合は、その値を含めておき、その値 を使用すべきかどうかをモデル・プロセスに決定させます。

- 6. 「操作」タブを使用して、モデルの生成方法を指定します。
  - a. 以下のいずれかのオプションを選択して、データ・マイニング・アルゴリズ ムが最適モデルに到達する方法を決定します。
    - 最適モデル生成期間: (デフォルト) モデリングの制限時間を指定します。
      「モデル」プロセスは、ユーザーが指定した期間に作成された最適モデル を保持します。デフォルトは3時間です。
    - 最適モデル候補数: 作成する候補モデルの数を指定します。「モデル」プロセスは、これらのモデルの中で最適なモデルを保持します。デフォルトは 20 です。
  - b. 使用アルゴリズム: 実行するモデリングのタイプを選択します。1 つ、複数、またはすべてのアルゴリズムを選択できます。「すべてのアルゴリズム」(デフォルト)を選択すると、さらに正確なモデルが生成されますが、所要時間が長くなる可能性があります。
  - c. 保持するモデルの最大数:保持するモデルの最大数を指定します。デフォルトは5です。保持するモデルが多いほど、必要なディスク・スペースが大きくなります。トップ・モデルはそれぞれ、モデル・ファイル名の末尾に番号記号(#)が付加されて保存されます。複数のモデルが保持される場合、モデルのランクを示すインデックスが基本ファイル名に付加されます。
  - d. モデル・ファイル名:作成されるランタイム・モデル・ファイル (.rtm)の絶対パス名を指定するか、「参照」をクリックしてファイルにナビゲートします。モデル・プロセスを実行すると、NAME.rtm モデル・ファイルが生成されます。このファイルをスコア・プロセスでスコアリングに使用できます。
- 7. (オプション)「全般」タブを使用して、名前と説明する注釈を割り当てます。
  8. 「OK」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。予期される結果をプロセスが返すかどうかを 確認するために、プロセスの実行をテストできます。

# スコア

スコア・プロセスを使用して、購買を行うか、オファーに応答する各顧客の見込み を評価し、実行しようとしているキャンペーンの最も優良な顧客または見込み顧客 を識別します。スコア設定は、PredictiveInsight または Campaign のモデル・プロセ スによって作成されるランタイム・モデル・ファイル (.rtm ファイル) からインポ ートされるモデリング結果に基づいています。

スコア・プロセスをフローチャート内で以下のように使用することもできます。フ ローチャートは、毎月フローチャートを実行するスケジュール・プロセスから始ま ります。このフローチャートは、データマート内のデータから顧客 ID のリストを 生成する選択プロセスに接続されています。次に、ID がスコア・プロセスに送られ て、データ・モデルに照らしてスコアの設定が行われます。最後に、スコア・プロ セスの結果がスナップショット・プロセスに送られて、スプレッドシートに書き出 されます。



# スコア・プロセスを構成するには

- 1. キャンペーン内で、編集するフローチャートを開きます。
- 2. パレットにあるスコア・プロセスをフローチャートにドラッグします。
- 3. 構成済みプロセスをスコア・プロセスへの入力として接続します。例えば、顧客 ID のリストを生成する選択プロセスを接続すると、それらの ID をデー タ・モデルに照らしてスコアリングできます。
- 4. フローチャート内のスコア・プロセスをダブルクリックして、プロセス構成ダ イアログを開きます。
- 5. 「入力」リストを使用して、スコアリングする顧客 ID を含むソース・セルを 選択します。スコアリングするソース・セルを 1 つだけ選択できます。
- 6. 「モデル数」フィールドで、作成するモデルの数を指定します。
- パラメーター領域をクリックします。「モデル数」を1より大きく設定した場合、パラメーター領域には要求した数だけモデルがリストされます。モデルの デフォルト名には、Model 1、Model 2、Model 3 という形式が使用されます。
- 8. モデルごとに、「**スコア・フィールド名**」をダブルクリックし、スコアリング 結果を保管するフィールドの名前を入力します。デフォルト名は、 「scoreN\_1」です。例えば、Score1\_1 になります。
- モデルごとに、「モデル・ファイル」フィールドをダブルクリックし、下矢印 をクリックし、「参照」を使用してファイル選択ウィンドウを開きます。顧客 ID のスコアリングに使用するランタイム・モデル・ファイル (.rtm)を選択し ます。ランタイム・モデル・ファイルは、PredictiveInsight または Campaign の モデル・プロセスによって作成します。
- 10. 「変数の照合」をクリックして「変数の照合」ウィンドウを開きます。

顧客を適切にスコアリングするために、モデル・ファイルで使用される変数 を、スコアリングするデータ・セット内の対応するフィールドと照合する必要 があります。例えば、モデルが average\_balance 変数を使用する場合、その変数 を、データ・セット内の平均残高を含むフィールドと照合する必要がありま す。

a. データ・セット内のフィールドと照合する「**候補フィールド**」リスト内のフィールドを選択し、それらのフィールドを「**照合結果**」リストに移動します。

「**照合**」をクリックすることにより、一致するフィールド名を自動的に照合 することができます。このオプションは、手動照合を上書きします。 「**ユーザー定義フィールド**」をクリックして、ユーザー定義フィールドを作 成することもできます。

重要:スコア・プロセスを適切に構成するには、すべての変数を照合する必要があります。変数名とフィールド名は一致している必要はありませんが、 データ型 (数値またはストリング)は一致していなければなりません。

- b. 「**OK**」をクリックして、構成ダイアログに戻ります。
- 11. (オプション) 「**全般**」タブをクリックして、名前または注釈をプロセスに割り 当てます。

フローチャート内のプロセス・ボックスに名前が表示されます。フローチャー ト内のプロセス・ボックス上にマウス・カーソルを移動させると、注釈が表示 されます。

12. 「OK」をクリックします。

これで、プロセスが構成されました。フローチャートを保存した後にプロセス をテスト実行して、予期される結果をプロセスが返すかどうかを確認できま す。

# 第7章オファー

オファーとは、1 つ以上の経路 (チャネル)を使って特定の人々のグループに送られ る、マーケティング上の特定のコミュニケーションです。オファーには、単純なオ ファーと複雑なオファーがあります。例えば、オンライン小売業者からの単純なオ ファーは、「4 月中にオンラインで購入される全品目の配送料が無料になる」とい う項目から成ることがあります。より複雑なオファーとしては、金融機関からのク レジット・カードに、対象となる顧客の信用格付けと地域に基づいて異なるアート ワーク、初期の利率、有効期限を個人別に組み合わせて付帯するオファーが考えら れます。

Campaign では、1 つ以上のキャンペーンで使用できるオファーを作成します。

オファーは、以下のように再使用可能です。

- 異なるキャンペーン内で
- 異なる特定時点において
- 異なる人々のグループ (セル) を対象として
- オファーのパラメーター化されたフィールドを変化させた、異なる「バージョン」として

いったん使用されたオファーは削除できませんが、回収することはできます。

回収済みのオファーは割り当てられることはなくなり、回収された割り当て済みオ ファーは提供されなくなります。回収済みオファーは引き続きオファー階層に表示 (ただし、ぼかし表示)され、レポート作成とレスポンス・トラッキングにも引き続 き使用することができます。

注:オファー名には文字に関する特定の制限があります。詳しくは、265ページの 『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

オファーは、企業が指定した形式に基づく、システム割り当ての固有のオファー・ コードによって識別されます。(セキュリティー権限に応じて)オファー・コードの オーバーライドや再生成が可能ですが、それを行うと、新しいオファー・コードの 固有性チェックが Campaign によって行われなくなります。固有でないオファー・ コードを作成してレスポンス・トラッキングで使用すると、トラッキング結果が正 確でなくなる可能性があります。

オファー・コードについて詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」の『固有コードの 管理』を参照してください。

## オファー属性

オファー属性は、オファーを定義するフィールドです。オファーの属性には、オフ ァー名、説明、チャネルなどがあります。あるタイプのオファーに固有の属性もあ ります。例えば、利率は、クレジット・カード・オファーの属性として使用できま すが、「配送料無料」オファーの属性ではありません。 オファー属性には、以下の3つのタイプがあります。

- 基本 オファーを定義するために必要な最低限のフィールド (オファー名、固有のオファー・コード、オファーの説明、および関連製品)のセット。
- 標準 オファーを定義するためのオプションの事前定義フィールド。例えば、 チャネルはオファーのオプションの属性として使用できます。
- カスタム 組織のオファーの定義用にカスタム作成された追加のフィールド (部門、スポンサー、販売促進用利率および通常利率、在庫維持単位数 (SKU) な ど)。カスタム属性をオファー・テンプレートに追加して、オファーを詳細に定義 したり、オファーを分析したりすることができます (例えば、ロールアップ分析 を行うためにカスタム属性ごとにオファーをグループ化することができます)。カ スタム属性について詳しくは、「Campaign 管理者ガイド」の『カスタム属性』を 参照してください。

オファー・テンプレートでオファー属性を定義する場合は、各属性を静的 属性かパ ラメーター化された 属性として定義できます。同じオファー属性 (チャネルなど) は、あるオファー・テンプレートでは静的属性、別のオファー・テンプレートでは パラメーター化された属性として定義できます。

- 静的属性 これらは、オファーの別のバージョンを作成しても値が変わらない オファー属性です。例えば、チャネル、オファー・コード、オファー名、および 説明は、静的オファー属性です。
- 表示されない静的属性 一部の静的属性は、オファー定義の一部であっても、 ユーザーがオファー・テンプレートを使用してオファーを作成する際に、それら のユーザーに対して非表示になるように設計することができます。したがって、 表示されていない属性は、編集できませんが、他のオファー属性と同じ方法でト ラッキングおよびレポートの対象にすることが可能です。例えば、表示されない 静的属性を、オファーのコスト (オファーを管理する組織にとってのコスト)にす ることができます。この属性の値は変更できませんが、検索で使用したり (例え ば、管理コストが \$1.00 未満のすべてのオファーを検索する場合)、レポートに使 用したり (例えば、パフォーマンス ROI 分析レポートに使用する場合) すること ができます。
- パラメーター化された属性 これらは、オファーを割り当てる際に、値を入力 したり、事前定義ドロップダウン・リストからオプションを選択したり、データ ベースのフィールドを使用して値を指定したり、ユーザー定義フィールドの値を 計算したりすることによって、値を設定できるオファー属性です。標準オファー 属性またはカスタム・オファー属性は、管理者がオファー・テンプレートの作成 時にパラメーターとしてセットアップできます。

オファー・テンプレートのパラメーター化された属性には、オファーの作成時また は割り当て時にオーバーライド可能なデフォルト値が指定されています。例えば、 クレジット・カード・オファーの初期利率をオファー・テンプレートでパラメータ ー化して、ユーザーがこのテンプレートを使用してオファーを作成する場合に、ド ロップダウン・リストからデフォルトの利率として 5.99%、8.99%、または 12.99% を選択できるようにすることができます。このオファーを後でフローチャートに使 用して、セルに割り当てる場合、ユーザーは必要に応じて利率を別の値に変更でき ます。
# オファーのバージョン

**注:** Campaign バージョン 7.x から使われ始めた「オファー・バージョン」という語 の意味は、Campaign の旧リリース (5.1 から 6.x) での「オファー・バージョン」と 同じではありません。オファー・バージョンは、オファー・ツリー階層に表示され ず、バージョン名またはコードがありません。オファー使用法の特定のインスタン スを一意的に識別するには、処理コードを使用する必要があります。

オファー・バージョンは、オファーのパラメーター化された属性を変更するたびに 作成され、固有の組み合わせが作成されます。

例えば、クレジット・カード・オファーの以下の属性を変更できます。

- アートワーク (灯台、子猫、レーシング・カー)
- 初期利率 (5.99%、8.99%、または 12.99%)
- ・ オファーの有効な日付 (1 月、6 月、または 9 月中は有効)

したがって、イメージが灯台、初期利率が 5.99%、2006 年 9 月 1 日から 31 日ま で有効なオファーのカードは、イメージが灯台、初期利率が 5.99%、2007 年 1 月 1 日から 31 日まで有効なオファーのカードとは、オファーのバージョンが異なり ます。

# オファー・テンプレート

Campaign で使用可能なオファー・テンプレートを使用して、オファーを作成しま す。これらのテンプレートは、システム管理者またはオファー管理者によって既に 作成されています。各オファー・テンプレートには、テンプレートにアクセスして 使用できるユーザーを決定するセキュリティー・ポリシーがあります。表示される のは、自分がアクセス権限を持っているオファー・テンプレートのみです。

適切なテンプレートを使用して新しいオファーを作成することにより、オファーの 作成プロセスが簡素化されます。例えば、クレジット・カード・オファー用に設計 されたテンプレートを使用してクレジット・カード・オファーを作成する場合は、 クレジット・カード・オファーに関連したフィールドのみを入力することになりま す。

管理者は、オファーの情報を指定するときに選択できるドロップダウン・リスト形 式の値を作成して、データ検索の時間を短縮したり、データ入力のエラーを減らし たりすることができます。管理者は、属性をオファーで使用するときに新規項目を 追加できるドロップダウン・リスト形式としてオファー属性を設計することができ ます。新しい値を追加できる場合は、オファー属性の横に「追加」ボタンが表示さ れます。このような属性に新しい値を追加するときに、追加した値を削除すること もできます。自分で追加したのではない値を削除することはできません。

オファー・テンプレートは、以下を定義します。

- オファー・コード形式
- テンプレート・コード形式
- オファー属性と、その表示順序

- 各オファー属性が、静的属性、表示されていない属性、パラメーター化された属 性のいずれであるか
- オファー属性のデフォルト値

新しいオファー・テンプレートはいつでも追加でき、Campaign で定義できるテンプ レートの数に制限はありません。テンプレートは、テンプレートを元にして作成さ れたオファーの固有属性であるため、テンプレートを検索条件として使用して、オ ファーを検索できます。

注: オファー・テンプレートを削除することはできませんが、今後使用できないようにするために管理者が回収することができます。回収されたオファー・テンプレートは、オファー・テンプレートのリストでグレー化され、新規オファーを作成するために使用できません。

オファー・テンプレートの管理について詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」の 『オファー・テンプレートの管理』を参照してください。

# オファー・リストについて

オファー・リストとは、Campaign 内で作成できるオファーのグループのことで、こ れを利用すると、複数のオファー、または時間の経過に伴って変化する可能性のあ るオファー・セットを簡単に割り当てることができます。

複数のオファー・リストに同じオファーが存在することが可能です。オファー・リ ストはオファーと同じ階層内に表示されますが、アイコンによって識別されます。 単一のオファーには、ドル記号付きの1シート・アイコンが表示されます。静的オ ファー・リストには、ドル記号付きの複数シート・アイコンが表示されます。スマ ート・オファー・リストには、ドル記号と虫メガネ付きの複数シート・アイコンが 表示されます。

オファーと同様に、いったん使用されたオファー・リストは削除できませんが、回 収することはできます。

回収済みのオファー・リストは割り当てられることはなくなり、回収された割り当 て済みオファー・リストは提供されなくなります。

オファー・リストには以下の 2 つのタイプがあります。

- 『静的オファー・リスト』
- 141 ページの『スマート・オファー・リスト』

注:オファー・リスト名には文字に関する特定の制限があります。詳しくは、265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

## 静的オファー・リスト

静的オファー・リストは、リストを明示的に編集しない限り、内容が変わらないオ ファーの事前定義リストです。静的オファー・リストの制限は、パラメーター化さ れたオファー属性にデフォルト値が使用されるということです。

一般に、静的オファー・リストは、特定の固定されたオファー・セットを繰り返し 再使用する場合に使用します。例えば、5 つの RFM (最新購買日、購買頻度、購買 金額) セグメントと、125 のセルがある場合で、各セルに同じオファーを割り当て る場合は、1 つのオファー・セットを静的オファー・リストに作成して、そのオフ ァー・リストを 125 のすべてのセルに割り当てることができます。フローチャート とキャンペーンでも、同じような再使用が可能です。

# スマート・オファー・リスト

スマート・オファー・リストは、スマート・リストを使用するたびにさまざまな結 果に解決されるオファーの動的リストです。スマート・オファー・リストは、オフ ァー属性、オファーの場所 (フォルダーまたはサブフォルダー)、オファー所有者な どをベースにできる照会によって指定されます。

一般に、スマート・オファー・リストは、定期的に繰り返されるキャンペーンに使 用します。スマート・オファー・リストを受け取るようにセルをセットアップして から、フローチャートを変更することなくスマート・オファー・リストの内容を変 更できます。例えば、スマート・オファー・リストを特定のフォルダーの内容とな るようにセットアップすると、そのフォルダーを対象としてオファーを追加または 削除するだけで、キャンペーンが実行されるたびに配布されるオファーを変更でき ます。

スマート・オファー・リストを使用する別の例では、配布したいオファーを自動的 に返すスマート・オファー・リストを設定することが関係しています。「高価値顧 客」セルに、使用可能な「最良のクレジット・カード・オファー」を付与する場合 は、最低利率でソートされ、最大サイズが1にセットアップされたすべてのクレジ ット・カード・オファーが組み込まれたスマート・オファー・リストをセットアッ プできます。フローチャート・コンタクト・プロセスの実行時に使用可能な最低利 率のクレジット・カード・オファーが、自動的に検索されて高価値セルに付与され ます。

## セキュリティーおよびオファー・リスト

オファー・リストとリストに含まれているオファーが存在するフォルダーに基づい て、オブジェクト・レベルのセキュリティーがオファー・リストに適用されます。

静的オファー・リストの作成時は、アクセス権限を持っているオファーのみを追加 できます。ただし、オファー・リストにアクセスする権限を持つユーザーには、そ のリストに含まれているオファーにアクセスする権限が自動的に付与されます。し たがって、リストにアクセスできるユーザーは、自分のセキュリティー権限では通 常、それらのオファーにアクセスできないとしても、そのオファー・リストや、そ こに含まれるすべてのオファーも使用できます。

同様に、スマート・オファー・リストが含まれているフォルダーにアクセスできる ユーザーは、そのスマート・オファー・リストを使用できます。このようなユーザ ーは、特定のオファー (例えば、別の部門のフォルダー内のオファー) に対するアク セス権限を通常は持っていないとしても、そのオファー・リストを実行する他のユ ーザーと同じ結果を得ます。 処理とは、特定の時点のセルとオファーのバージョンの固有の組み合わせのことで す。これにより、非常に具体的な方法でレスポンスをトラッキングできるため、レ スポンスのトラッキングに処理コードを使用することはベスト・プラクティスで す。

処理は、オファーに関連付けられているコンタクト・プロセス (コール・リストまたはメール・リスト)を使用してフローチャートを実行すると、自動的に作成されます。各処理は、システムで生成される処理コードによって一意的に識別され、この形式はオファーを作成する基になったオファー・テンプレートに指定されています。ユーザーは、処理コードをオーバーライドできません。

コンタクト・プロセスを実行する度に (テスト・モードは除く)、Campaign は、以下の詳細を記録します。

- コンタクト・プロセスで割り当てられるオファーのバージョン
- オファーが割り当てられているセル
- オファーのバージョン、セル、および日時のそれぞれの固有の組み合わせの処理 コード
- コンタクト・プロセスの実行日

同じコンタクト・プロセスを (実稼働実行で) 2 回実行すると、それぞれが固有の処 理コードを持つ 2 つの処理インスタンスが作成されます。これにより、正確なコン タクト・インスタンスに至るまで、非常に具体的な方法でレスポンスをトラッキン グできます。例えば、2 月 15 日に実行するのと同じプロモーションを 1 月 15 日 に実行できます。さらに、トラッキングに処理コードを使用する場合は、顧客が両 方のプロモーションのターゲットになっているとしても、2 月 15 日のメール配信 に応答した顧客を、1 月 15 日のメール配信に応答した顧客から処理コードによっ て区別することができます。

処理コードは、実行時にのみ生成され、事前印刷コード要件に適していないため、 フローチャートの実行前は使用できません。ただし、トラッキングまたはオンデマ ンド印刷用に Campaign 生成済みフィールドとして出力すること可能です。

# コントロール・グループ

オファーを計画する場合は、そのオファーが割り当てられるセルの検証コントロー ル・グループを使用するかどうかを考慮する必要があります。コントロール・グル ープは、オファーを受け取ったアクティブなターゲット・セルからの応答内の「リ フト」または相違を比較するために使用できる非コンタクト・グループです。

制御は、Campaign のセル・レベルで適用されます。フローチャートのコンタクト・ プロセスで、またはターゲット・セル・スプレッドシートから、セルにオファーを 割り当てる場合は、ターゲット・セルごとに 1 つの制御セルをオプションで指定で きます。

# ターゲット・セルへの制御セルの関連付け

単一の制御セルを複数のターゲット・セルの制御として使用できますが、各ターゲット・セルには単一の制御セルしか関連付けることができません。この場合、セル

## 処理

はそのセル ID によって定義されます。単一の制御セルを複数のコンタクト・プロ セスで使用する場合、ターゲット・セルに対する制御セルの関係は、各コンタク ト・プロセスで同じ方法で構成する必要があります。複数の異なる制御関係が必要 な場合は、セルのコピーを作成します (例えば、選択プロセスを付加して、前のセ ルから「すべて選択」を実行することによって行います)。これにより、制御セルへ の異なる関係を適用できる別のターゲット・セルが作成されます。

## オファーの処理

オファーに関連して、以下のタスクを実行できます。

注:オファーを処理するには、適切な権限が必要です。権限について詳しくは、 「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

## 新規オファーの作成

顧客または見込み顧客に伝えるマーケティング・メッセージを表すオファーを作成 する必要があります。新規オファーを作成するのか、あるオファーの単なるバージ ョンを作成するのかは、オファー・テンプレートが管理者によってどのように定義 されているかによって異なります。

以下の状況では、新規オファーを作成する必要があります。

- パラメーター化されていないオファー・フィールドを変更する場合
- 追跡用 (例えば、メーラーでの応答コードの事前印刷用) に新規オファー・コード が必要な場合

まったく新しいオファーを作成することに加えて、既存のオファーを複製し、必要 に応じて変更することによって、オファーを追加できます。

注:フォルダー内にオファーを作成するには、そのフォルダーを管理しているセキ ュリティー・ポリシーで適切な権限を持っている必要があります。

#### 新規オファーを追加するには

注:新規オファーを作成するには、そのオファーのベースとなる少なくとも 1 つの オファー・テンプレートに対するアクセス権限を事前に持っている必要がありま す。

1. 「キャンペーン」>「オファー」を選択します。

「オファー」ページが表示されます。

2. 「**オファーの追加**」アイコンをクリックします。

Campaign システムに複数のオファー・テンプレートがある場合は、「オファ ー・テンプレートの選択」ページが表示されます。存在するオファー・テンプレ ートが 1 つのみの場合は、テンプレートを選択することなく、「新規オファ ー」ページが直接表示されます。

- 3. 新規オファーのベースとなるテンプレートを選択します。選択したオファー・テ ンプレートの名前、説明、推奨される使い方、オファー・コードおよび処理コー ドの形式、静的属性およびパラメーター化された属性が表示されます。
- 4. 「続行」をクリックします。

「新規オファー」ページが表示されます。

5. 新規オファーの値 (パラメーター化された属性のデフォルト値を含む) を入力し ます。

ドロップダウン・リストで値が提供される属性、およびリスト項目の追加が許可 される属性の場合、オファーの作成時にリスト項目をここで追加できます。リス トに追加した項目は、オファーのカスタム属性に保存され、その後すべてのユー ザーが使用できるようになります。変更内容を保存すると、追加したリスト項目 を削除することはできません。管理者のみが、カスタム属性を変更することによ ってリストから項目を削除できます。

注:オファーの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

6. オファーの詳細の入力が終わったら、「変更の保存」をクリックします。

新規オファーの「オファー・サマリー (Offer Summary)」ページが表示されます。

## オファーの関連製品

関連製品はオファー・テンプレートの必須属性ですが、各オファーでデータを追加 する必要はありません。オファーの作成時に、このオファーに関連付ける製品 ID のリストを返す照会を指定できます。次いで、これらの製品 ID を推定レスポン ス・トラッキングに使用して、イベント (購入など)をレスポンスと見なす (例え ば、オファーに関連付けられているいずれかの関連製品の購入をレスポンスと見な す) かどうかを判別できます。

製品 ID のリストをソース・ファイルからコピーし、新規オファーの作成時に関連 製品定義に貼り付けることによって、オファーの作成時に製品 ID のリストをイン ポートすることもできます。

#### 貼り付けによって関連製品のリストをオファーにインポートするには

- 1. Campaign で、新規オファーの作成時に、「新規オファー」ページで「**製品 ID をインポート**」をクリックします。 「製品の選択」ウィンドウが開きます。
- 2. コンテキスト・メニューの「コピー」または Ctrl+C を使用して、ソース・ファ イルから製品 ID をコピーします。

注: 製品 ID のコピー時は、タブ、コンマ、または改行の 1 つ以上の区切り文 字を使用できます。複数の連続した区切り文字は無視されます。製品 ID がテキ スト・ストリングの場合、スペースはストリップされず、大文字と小文字も保持 されます。

- コンテキスト・メニューの「貼り付け」または Ctrl+V を使用して、コピーした ID を「製品 ID をインポート」リストに貼り付けます。 「製品の選択」ウィン ドウでの作業中に、「製品 ID をインポート」リストの項目を手動で追加、編 集、または削除することもできます。「製品 ID をインポート」リストに貼り付 けることができる項目の数に制限はありません。
- 4. 「製品 ID をインポート」領域への項目の追加が完了したら、「インポート」を クリックします。

「製品 ID をインポート」領域の ID がインポートされて「次の条件の製品の選 択」セクションにリストされ、「PRODUCTID =」が各製品 ID の前に付加され ます。インポート中にエラーが検出される場合(例えば、「製品 ID」フィール ドが数値の場合に英字が使用されている場合や、テキスト製品 ID の最大ストリ ング長を超えている場合)、各エラーのポップアップが表示されます。各エラー のメモを取り、「OK」をクリックして次のエラーを表示します。

注: インポート機能でインポートできる製品 ID は 1 回のみです。同じ値が複 製している場合は、自動的に無視されます。

注: 「製品の選択」ウィンドウで「変更の保存」をクリックするまで、製品 ID の貼り付けとインポートを続行できます。「製品の選択」ウィンドウを終了する と、追加の製品 ID をインポートすることはできません。もう一度「製品 ID を インポート」をクリックすると、既存の照会が消去されて新たに作業を開始でき ます。既存の照会を消去したくない場合は、確認のプロンプトが出された場合に 「キャンセル」をクリックします。

- 5. 製品 ID のインポートが完了したら、「変更の保存」をクリックします。「次の 条件の製品の選択」リストに表示されていた製品 ID が、オファーの照会として 保存され、関連製品の下に製品 ID のリストが表示されます。
- 6. オファーの作成を続行します。

#### オファーの関連製品照会を編集するには

オファーの関連製品のリストのインポート後に、そのリストは照会として保存され ます。オファーの編集時に、照会条件を追加することも含めて、この照会を編集で きます。

- 1. Campaign で、関連製品のリストを編集するオファーを開きます。
- 2. 関連製品のリストの下で、「照会の編集」をクリックします。 「製品の選択」 ウィンドウが開き、現在照会に含まれている ID のリストが「次の条件の製品の 選択」の下に表示されます。
- 「<<」ボタンを使用して選択した項目をリストから除去したり、上矢印ボタンおよび下矢印ボタンを使用して項目の順序を変更したりして、照会を編集します。 UA\_Products テーブルの属性 (製品 ID を含む)を使用して照会節を追加し、「>>」ボタンを使用して、照会節を「次の条件の製品の選択」リストに移動します。
- 4. 照会の編集が完了したら、「変更の保存」をクリックして照会を保存します。
- 5. オファーの「編集」ページで「変更の保存」をクリックして、オファーを保存し ます。

#### オファーの関連製品照会を消去するには

オファーの関連製品のリストのインポート後に、そのリストは照会として保存され ます。オファーの編集時に、照会内のすべての既存の製品 ID を含めて照会全体を 消去できます。

- 1. Campaign で、関連製品のリストを消去するオファーを開きます。
- 2. 関連製品のリストの下で、「製品 ID をインポート」をクリックします。 製品 ID をインポートすることによってすべての既存の条件がリセットされることを 示す警告が表示されます。

- 3. 「OK」をクリックします。 ID が表示されていない「製品の選択」ウィンドウ が開きます。これで、新しい製品 ID をインポートするか、ID をインポートせ ずに照会を空のままにすることができます。
- 4. 「変更の保存」をクリックして、照会を保存します。
- 5. オファーの「編集」ページで「変更の保存」をクリックして、オファーを保存します。

#### 選択した製品を関連製品照会から削除するには

照会全体を消去するのではなく、選択した製品を照会から削除できます。

- 1. Campaign で、選択した製品 ID を関連製品から削除するオファーを開きます。
- 2. 関連製品のリストで、Ctrl キーを押しながらマウスで選択することによって、削除する項目を選択します。
- 3. 削除する項目の選択が完了したら、「**削除**」をクリックします。 選択した項目 が関連製品から削除されます。
- 4. 「変更の保存」をクリックして、オファーを保存します。

### オファーの複製

新しいオファーを作成するために既存のオファーを複製すると、データを入力する 時間を節約できます。アクティブなオファーだけでなく、回収したオファーも複製 できます。複製によって作成されるオファーには、固有のオファー・コードが自動 的に割り当てられ、「<元のオファーの名前>のコピー」という名前が付けられま す。また、このオファーの説明、セキュリティー・ポリシー、およびオファー属性 値は、元のオファーと同じです。

注: 複製されるオファーは、元のオファーと同じフォルダーに作成されますが、後 で別の場所に移動することができます。オファーを複製および移動するには、適切 な権限を持っている必要があります。

#### 「オファー」ページからオファーを複製するには

- 1. 「**キャンペーン」>「オファー**」を選択します。 「オファー」ページが表示され ます。
- 2. 複製するオファーが含まれているフォルダーにナビゲートします。
- 3. 複製するオファーの横にあるチェック・ボックスを選択します。
- 4. 「**選択したオファーの複製**」アイコンをクリックします。 確認ウィンドウが表示されます。
- 5. 「**OK**」をクリックして先へ進みます。 選択したオファーが複製され、オファー のリストに表示されます。

## オファーのサマリー・ページからオファーを複製するには

- コピーするオファーの「オファー・サマリー (Offer Summary)」ページで、「複 製オファーを作成」アイコンをクリックします。 確認ウィンドウが表示されま す。
- 「OK」をクリックして先へ進みます。 各フィールドに元のオファーの値が事前 に取り込まれた、新しいオファー・コードを持つ「新規オファー」ページが編集 モードで表示されます。

3. 変更する値 (オファー名と説明を含む)を編集します。

注:オファーの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

4. 「**変更の保存**」をクリックして、新規オファーを作成します。 オファーが保存 され、新規オファーの「オファー・サマリー (Offer Summary)」ページが表示さ れます。

# オファーのグループ化

報告または分析を目的として、オファーをグループ化できます。例えば、さまざま なチャネルを介して、さまざまな時期にオファーされた「配送料無料」オファーに 対するレスポンス率を確認できます。

**注**: グループ化またはロールアップを目的として、レポートでオファー属性を使用 するには、レポート管理者がレポートをカスタマイズする必要があります。

オファーは、以下の2とおりの方法でグループ化できます。

- 属性の使用
- フォルダーの使用

#### 属性の使用

「オファー・グループ化フィールド」として使用する任意の数のカスタム属性をオファー内に作成できます。例えば、さまざまな大学提携クレジット・カード・プロモーションがある場合は、「領域」という名前のカスタム属性を作成して、レポートに使用することができます。これにより、西海岸の大学の校友と対比してニューイングランド大学の校友をターゲットにしたオファーをグループ化することができます。

カスタム属性を使用するオファーを作成する場合は、値を手動で入力する必要があ ります。パラメーター化された属性の値もコピーされるため、類似のオファーを複 製して、データ入力の手間を省くこともできます。

オファーを識別しグループ化するために、オファー属性をスマート・オファー・リ スト内で使用することもできます。

### フォルダーでのオファーのグループ化

レポートを作成するために、オファーをフォルダー内でグループ化すると作業しや すくなる場合があります。関連するすべてのオファーを同じフォルダー内に維持し ていて、レポート作成対象のオファーの入力を求めるプロンプトが出されたとき に、そのフォルダーをターゲットとして指定すると、そのフォルダー(およびその サブフォルダー)内のすべてのオファーがレポート作成対象として自動的に選択さ れます。

注: この方法でレポート作成対象にフォルダーとサブフォルダーの内容を含めた場合、それらのオファーの「ロールアップ」レポートは作成されません。これらのオファーは、フォルダー構造に含まれているという事実に基づいて単純に選択されただけです。

## オファーを編集するには

既存のオファーがコンタクト・プロセスで使用されているかどうかに関係なく、役 割と権限に基づいて、既存のオファーをいつでも編集できます。

注: オファーが実稼働で使用されると (実稼働で実行され、コンタクト履歴に記録されているフローチャート内のセルに割り当てられると)、編集できるのは、オファーの名前、説明、およびパラメーター化されたオファー属性のデフォルト値のみになります。この制限によって、Campaign は、既に個人に配布されたオファーの正確なオファーの詳細を追跡できます。

- 1. 「**キャンペーン」>「オファー」**を選択します。 「オファー」ページが表示され ます。
- 編集するオファーにナビゲートし、ハイパーリンクされたオファー名をクリック します。オファーの「サマリー」ページが読み取り専用モードで表示されま す。
- 3. 「編集」アイコンをクリックして、「編集」モードに入ります。
- 4. 変更を行います。

注:オファーの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

5. 変更が完了したら、「変更の保存」をクリックします。変更内容が保存され、読 み取り専用のオファー・ページが表示されます。

## オファーまたはオファー・リストを移動するには

1 つ以上のオファーをフォルダー間で移動できます。オファーを移動するための手 順はオファー・リストを移動するための手順と同じであり、オファーとオファー・ リストは、同じ操作で移動できます。

注: Campaign のオブジェクトを移動する場合は、さまざまなロケーションへのアク セスが、さまざまなセキュリティー・ポリシーによって制御されている可能性があ ることを認識しておく必要があります。オファーをフォルダーに移動できるのは、 それを行う権限のあるセキュリティー・ポリシーを持っている場合のみです。

1. 「オファー」ページから、移動するオファーまたはオファー・リストを選択して、「**選択した項目の移動**」アイコンをクリックします。

オファーを移動する別の方法は、「オファー・サマリー」ページを表示して「別 のフォルダーに移動」アイコンをクリックするという方法です。ただし、この代 替方法は、オファーの移動のみに使用でき、オファー・リストの移動には使用で きないことに注意してください。

「項目の移動」ウィンドウが表示されます。

- 2. 選択した項目の移動先のフォルダーにナビゲートします。
- 3. 「このロケーションを受け入れる」をクリックします。

選択したオファーまたはオファー・リストが、選択したフォルダーに入れられま す。

### オファー・リストへのオファーの追加

静的オファー・リストへのオファーの追加は、オファー・リストの作成時、または オファー・リストを編集して行うことができます。

注:新しく作成したオファーは、スマート・オファー・リストの照会基準を満たしていれば、何も操作を行わなくてもスマート・オファー・リストに追加することができます。

# オファーの削除

オファーまたはオファー・リストを削除するには、適切な権限を持っている必要が あります。さらに、システム保全性を保つために、Campaign では、システム・テー ブルで参照されているオファーまたはオファー・リストを削除できません。これに は、以下のようなオファーまたはオファー・リストが含まれます。

- キャンペーンに関連付けられているオファーまたはオファー・リスト
- コンタクト履歴にデータが追加されているフローチャートのコンタクト・プロセス内のセルに割り当てられているオファーまたはオファー・リスト
- フローチャートの最適化プロセスのセルに割り当てられているオファーまたはオファー・リスト

**重要:** このような状態のオファーまたはオファー・リストを削除しようとすると、 オファーまたはオファー・リストが削除ではなく回収されることを示す確認メッセ ージが表示されます。システム・テーブルで参照されているオファーまたはオファ ー・リストが今後使用されないようにするには、オファーまたはオファー・リスト を削除するのではなく、回収する必要があります。

削除するオファーが静的オファー・リストに属している場合は、削除を確認するよう求められます。処理の続行を選択すると、削除されたオファーが、静的オファ ー・リストから自動的に削除されます。

削除されるオファーが割り当てられたセルを含むコンタクト・プロセスは、構成済 みの状態にとどまりますが、オファーはプロセス構成ダイアログで「不明なオファ ー」として示され、フローチャートの実行時に警告が生成されます。

オファーを削除するための手順はオファー・リストを削除するための手順と同じで あり、オファーとオファー・リストは、同じ操作で削除できます。

#### オファーまたはオファー・リストを削除するには

1. 「オファー」ページから、削除するオファーまたはオファー・リストを選択して、「**選択した項目を削除**」アイコンをクリックします。

または

削除するオファーの「オファー・サマリー (Offer Summary)」ページで、「オフ ァーの削除」アイコンをクリックします。 確認ウィンドウが表示されます。

2. 「**OK**」をクリックします。「オファー」ページが表示されます。削除されたオファーは、表示されていません。

## オファーの回収

適切な権限を持っている場合は、今後使用されないよう、オファーおよびオファ ー・リストを回収できます。オファーを回収しても、そのオファーが既に使用され ているキャンペーンまたはフローチャートは影響を受けず、そのオファーをベース にして生成されたシステム・テーブル・データ (コンタクトやレスポンス履歴など) とのデータ保全性が維持されます。

回収されたオファーは、オファー階層に表示されたままですが、グレー化されま す。これらは、検索機能を使用して検索でき、新規オファーを作成するために複製 でき、レポートに使用することができます。ただし、割り当てたり、オファー・リ ストの一部として配布したりすることはできません。

回収されたオファーを削除することによって、静的オファー・リストをクリーンア ップできます。スマート・オファー・リストは、照会基準と一致する回収されてい ないオファーのみに解決されるため、クリーンアップが不要です。

注:オファーを回収すると、再び有効にすることはできません同じ詳細を持つオファーが必要な場合は、回収したオファーを複製して新しいオファーを作成できます。

オファーを回収するための手順はオファー・リストを回収するための手順と同じで あり、オファーとオファー・リストは、同じ操作で回収できます。

### オファーまたはオファー・リストを回収するには

1. 「オファー」ページで、回収したいオファーまたはオファー・リストを選択して、「**選択したリストの回収**」アイコンをクリックします。

オファーを回収する別の方法は、「オファー・サマリー」ページを表示して「オ ファーの回収」アイコンをクリックするという方法です。ただし、この方法を使 用できるのはオファーの場合だけです。オファー・リストの場合は使用できませ ん。

2. 「OK」をクリックします。

選択したオファーとオファー・リストが回収され、グレーで表示されます。

### フローチャート内のセルにオファーを割り当てるには

フローチャートの中で「メール・リスト」または「コール・リスト」のプロセスを 構成する際に、オファーをセルに割り当てることができます。またオプションとし て、コントロール・グループをコンタクトから除外することができます。このよう にして、どのセルがどのオファーを受け取るかを決定します。

注: また、ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) からのセルにオファーを割 り当てることもできます。 151 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシート内 のセルにオファーを割り当てる方法』を参照してください。

- 1. オファーまたはオファー・リストを作成します。
- 「編集」モードのフローチャートで、オファーを割り当てる対象となるセルが含 まれている「メール・リスト」または「コール・リスト」のプロセスをダブルク リックします。

 「処理」タブを使用して、各セルに1つ以上のオファーを割り当てます。「パ ラメーター」タブを使用して、オファーのパラメーター値を指定します。手順については、120ページの『コンタクト・プロセス (メール・リストまたはコール・リスト)を構成するには』を参照してください。

注: Campaign が Marketing Operations と統合されている場合は、Marketing Operations を使用することによって、キャンペーン・プロジェクトのターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) の形式で出力セルにオファーを割り当てます。 Campaign 統合環境が従来のキャンペーンにアクセスするように構成されている場合、セルにオファーを割り当てるには、ターゲット・セル・スプレッドシートから割り当てる方法と、コンタクト・プロセスを構成する方法の 2 とおりの方法があります。詳しくは、2ページの『IBM Marketing Operations との統合について』を参照してください。

# ターゲット・セル・スプレッドシート内のセルにオファーを割り当 てる方法

ターゲット・セル・スプレッドシート内のセルへのオファーの割り当ては「トップ ダウン」モードで行うことができます。

- セルにオファーを割り当てるキャンペーンで、「ターゲット・セル」タブをクリ ックします。現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示 されます。
- 2. スプレッドシートで「編集」リンクをクリックします。スプレッドシートが編集 モードで表示されます。フローチャートで使用されている既存のセルは色付きで 強調表示されています。
- 3. 編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートで、オファーを割り当てるセルの行の「割り当て済みオファー」列をクリックします。

「オファーの検索 (Search Offers)」アイコンが表示されます。

4. 「オファーの検索 (Search Offers)」アイコンをクリックします。

「オファーの選択」ウィンドウが表示されます。

- 5. 「オファーの選択」ウィンドウで、オファー・フォルダー内を移動して 1 つ以 上のオファーまたはオファー・リストを選択するか、「検索」タブをクリックし て、名前、説明、またはコードによってオファーを見つけます。
- 6. 現在のセルに割り当てるオファー (複数可) を選択したら、「**承認して閉じる**」 をクリックします。

「オファーの選択」ウィンドウが閉じ、選択したオファーが「**割り当て済みオフ ァー**」列に挿入されます。

7. セルへのオファーの割り当てを完了したら、「保存」または「保存して戻る」を クリックして変更を保存します。

## オファーの検索

Campaign は、オファーの検索はサポートしますが、オファー・リストの検索はサポ ートしません。以下のいずれかの基準で、オファーの基本検索を実行できます。

• 名前または名前の一部

- 説明または説明の一部
- オファー・コードまたはオファー・コードの一部
- 所有者名

さらに、オファー属性および指定した値に基づく照会を使用してオファーまたはオ ファー・リストを検索するために、拡張検索機能を使用することができます。

#### オファーを検索するために拡張検索を使用するには

1. オファー・フォルダーから、「拡張検索」アイコンをクリックします。

「拡張検索オプション」ウィンドウが表示されます。

- 2. 「**条件の作成**」セクションで、「**検索する属性**」フィールドに使用するオファー 属性を選択します。
- 3. 選択した属性のタイプに基づいて、検索のための条件をさらに入力できます。以下に例を示します。
  - ・「オファー当たりのコスト」属性で、\$10.00以下の値を検索します。
  - ・ 「終了日」属性で、指定の日付 11/30/2007 を検索します。
  - 「説明」属性で、ストリング「2005」が含まれていない、指定した値を検索します。
- 「AND>>」または「OR>>」をクリックして一連の基準を「次の条件でオファー を検索」セクションに移動し、照会を作成します。「次の条件でオファーを検 索」セクションから条件を削除するには、「<<」をクリックします。</li>

注:照会で使用する演算子 (例えば、「=」、「>」、「以下が含まれる」、「値で始まる」など) に基づいて、複数の値か単一の値のみを選択できます。演算子を使用して複数の値を選択するときは、「OR」条件を作成することになる場合があることに注意してください。例えば、「Color =」と指定し、blue、red、および white を色として選択する照会を作成する場合は、「Color = blue OR color = red OR color = white」という照会を作成することになります。

5. 照会の作成が完了したら、「検索」をクリックします。

「検索結果」ページに、検索基準に一致するオファーが表示されます。

## 「オファー一覧」ページのアイコン

「オファー一覧」ページでは以下のアイコンが使用されます。



以下の表では、左側のアイコンから右側のアイコンへの順番で説明します。

表15. 「オファー一覧」ページのアイコン

アイコン名	説明
オファーの追加	新規オファーを追加する場合にクリックします。
リストの追加	新規オファー・リストを追加する場合にクリックします。

表 15. 「オファー一覧」ページのアイコン (続き)

アイコン名	説明
サブフォルダーの追加	新規オファーのサブフォルダーを追加する場合にクリックし
	ます。
拡張検索	「拡張検索オプション」ダイアログを開く場合にクリックし
	ます。このダイアログで、オファーを検索するための属性と
	値を指定できます。
項目の印刷	各オファーの横のチェック・ボックスをクリックして1つ
	以上のオファーを選択してから、このアイコンをクリックし
	て、選択したオファーを印刷します。
選択した項目の移動	各オファーの横のチェック・ボックスをクリックして1つ
	以上のオファーを選択してから、このアイコンをクリックし
	て、選択したオファーを移動します。
選択した項目の削除	各項目の横のチェック・ボックスをクリックして 1 つ以上
	のオファーまたはオファー・リストを選択してから、このア
	イコンをクリックして、選択した項目を削除します。
選択したリストの回収 (Retire	各項目の横のチェック・ボックスをクリックして 1 つ以上
Selected Lists)	のオファーまたはオファー・リストを選択してから、このア
	イコンをクリックして、選択した項目を回収します。
選択したオファーの複製	各オファーの横のチェック・ボックスをクリックして 1 つ
	以上のオファーを選択してから、このアイコンをクリックし
	て、選択したオファーを複製します。
オファーの再ロード	ページ上のオファーおよびオファー・リストの一覧をリフレ
	ッシュする場合にこのアイコンをクリックします。

# サマリー・ページからオファー・レポートを表示するには

オファーのレポートには、オファーのサマリー・ページからアクセスできます。こ れらのレポートは、現在のオファーについてのデータのみが提供されている点を除 けば、アプリケーションの「**キャンペーン分析**」領域で使用可能なレポートと同じ です。

1. 「**キャンペーン」>「オファー」**をクリックします。

「オファー」ページが表示されます。

- 2. フォルダー構造をナビゲートして、レポートを表示するオファーを見つけます。
- 3. オファー名をクリックします。

「オファー・サマリー」ページが表示されます。

- 4. 「分析」タブをクリックします。
- 5. 「*レポート・タイプ*」ドロップダウン・リストからレポートを選択します。

選択したレポートが、Campaign によって表示されます。

オファー・リストの処理

オファー・リストでは、以下のタスクを実行できます。

注:オファー・リストを処理するには、適切な権限が必要です。権限について詳しくは、「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

## 静的オファー・リストを追加するには

1. 「キャンペーン」>「オファー」を選択します。

「オファー」ページが表示されます。

2. 「**リストの追加**」アイコンをクリックします。

「新規オファー・リスト」ページが表示されます。

3. オファー・リストの名前、セキュリティー・ポリシー、および説明 (オプション) を入力します。

注: オファー・リストの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しく は、 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してく ださい。

- 4. 「これをスマート・オファー・リストにする (This is a smart offer list)」チェ ック・ボックスは、チェック・マークを外したままにします。
- 5. 「含まれているオファー」セクションで、ツリーまたはリスト・ビューを使用して、リストに追加するオファーを選択します。選択したオファーを「>>」ボタンを使用して「含まれているオファー」ボックスに移動します。
- 6. オファーの選択が完了したら、「変更の保存」をクリックします。新しいリストの「オファー・リスト・サマリー」ページが表示されます。

## スマート・オファー・リストを追加するには

1. 「キャンペーン」>「オファー」を選択します。

「オファー」ページが表示されます。

2. 「リストの追加」アイコンをクリックします。

「新規オファー・リスト」ページが表示されます。

- 3. オファー・リストの名前、セキュリティー・ポリシー、および説明 (オプション) を入力します。
- 4. 「これをスマート・オファー・リストにする (This is a smart offer list)」チェ ック・ボックスを選択します。
- 5. 「**含まれているオファー**」セクションで、既存のオファー属性、それらの値、 AND および OR 演算子を使用して、このオファー・リストにオファーを含める ための条件を作成します。
- 必要に応じて、「検索アクセスを制限 (すべてのユーザー)」の下にあるフォルダ ー・ビューを使用して、選択したフォルダーに検索を制限します。検索結果にサ ブフォルダーを含めるには、「サブフォルダーを含める」チェック・ボックスを 選択します。

注: この検索の結果として選択されたオファーは、ユーザーが通常はオファーを 表示したりオファーにアクセスしたりする権限を持っていないとしても、このオ ファー・リストに対するアクセス権限を持つすべてのユーザーに対して使用可能 になります。

- 必要に応じて、「一致するオファーのソート条件」の下にあるドロップダウン・ リストを使用して、一致するオファーをソートする基準となるオファー属性を選 択し、ソートを昇順にするのか降順にするのかを選択します。
- 8. 必要に応じて、検索結果を一致する最初の「X」個のオファーに制限するかどう かを示します。デフォルトで、制限はありません。
- スマート・オファー・リストの基準を定義し終えたら、「変更の保存」をクリックします。新しいリストの「オファー・リスト・サマリー」ページが表示されます。

# オファー・リストを編集するには

オファー・リストの変更を保存すると、オファー・リストを使用するキャンペーン は、次回の実行時に最新のオファー・リスト定義を自動的に使用します。

1. 「キャンペーン」>「オファー」を選択します。

「オファー」ページが表示されます。

2. 編集するオファー・リストのハイパーリンクされた名前をクリックします。

オファー・リストの「**サマリー**」タブが表示されます。

3. 「編集」アイコンをクリックします。

オファー・リストの詳細が「編集」モードで表示されます。

4. 必要な変更を行います。

オファー・リストの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

5. 変更が完了したら、「**変更の保存**」をクリックします。リストの「オファー・リ スト・サマリー」ページが表示されます。

### オファー・リストの移動

オファーを移動する場合と同じステップを実行して、1 つ以上のオファー・リスト をフォルダー間で移動できます。また、オファーとオファー・リストは、同じ操作 で移動できます。

# オファー・リストの削除

オファーを削除する場合と同じステップを実行して、1 つ以上のオファー・リスト を削除できます。また、オファーとオファー・リストは、同じ操作で削除できま す。

### オファー・リストの回収

今後使用されないよう、オファー・リストをいつでも回収できます。オファー・リ ストを回収しても、そのリストに含まれているオファーは影響を受けません。

回収されたオファー・リストは、オファー階層に表示されたままですが、グレー化 されます。これらは、レポートの対象として使用可能ですが、割り当てることがで きなくなります。 注:オファー・リストを回収すると、再び有効にすることはできません回収したオファー・リストと同じ詳細を持つオファー・リストが必要な場合は、オファー・リストを手動で再作成する必要があります。

オファーを回収する場合と同じステップを実行して、オファー・リストを回収しま す。また、オファーとオファー・リストは、同じ操作で回収できます。

# セルへのオファー・リストの割り当て

注: Campaign 環境が Marketing Operations と統合されている場合は、Marketing Operations を使用して、オファーまたはオファー・リストをキャンペーン・プロジ ェクトのターゲット・セル・スプレッドシート・フォームの出力セルに割り当てる 必要があります。 Campaign 環境がレガシー・キャンペーンにアクセスするように 構成されている場合は、このガイドの説明に従って、オファーまたはオファー・リ ストをレガシー・キャンペーン内の出力セルに割り当てます。レガシー・キャンペ ーンの場合は、2 とおりの方法でオファーをセルに割り当てることができます。つ まり、キャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートから割り当てる方法 と、プロセス構成ダイアログを使用する方法です。詳しくは、2 ページの『IBM Marketing Operations との統合について』を参照してください。

コンタクト・プロセスでオファー・リストをセルに割り当てる方法は、個々のオフ ァーを割り当てる場合と同じです。オファーとオファー・リストは任意の組み合わ せで同じセルに割り当てることができます。

ただし、オファー・リストに含まれているオファーのパラメーター化された属性に ついては、そのデフォルト値が使用されます。オファー・リストに含まれているオ ファーにパラメーター値を割り当てることはできません。パラメーター化された値 を変更する必要がある場合は、以下のいずれかを行うことができます。

- 既存のオファーに関連付けられているデフォルト値を変更し、その希望のデフォルト値を使用してオファーのコピーを作成し、オファー・リストでその値が確実に使用されるようにする。
- オファー・リストの外部でオファーを個々に割り当てる。

# Marketing Operations が Campaign と統合されている場合のオファーの 管理

IBM Campaign 環境が IBM Marketing Operations と統合されている場合、オファー 管理には 2 つのオプションがあります。

- Marketing Operations バージョンの機能によってオファーが管理されるようにシス テムが構成されている場合は、「操作」メニューの「オファー」オプションを使 用します。この方法によるオファーの作成について詳しくは、「IBM Marketing Operations および Campaign 統合ガイド」を参照してください。
- Campaign バージョンの機能によってオファーが管理されるようにシステムが構成 されている場合は、「キャンペーン」メニューの「オファー」オプションを使用 します。

どのオファー管理オプションがシステムで構成されているのかについては、システ ム管理者に確認してください。

# Marketing Operations の資産を Campaign のオファーで使用する方法

Marketing Operations と Campaign の両方がインストールされていて、Marketing Operations 用の IBM Marketing Asset Management アドオンのライセンス交付を受けている場合、Marketing Operations の資産ライブラリー内のデジタル資産をキャンペーンに組み込むことができます。例えば、Marketing Operations の資産ライブラリーに格納されている製品ロゴをオファーに組み込むことができます。

注: Campaign は、Marketing Operations と統合されていても統合されていなくても かまいません。

資産をオファーに組み込むには、CreativeURL 属性を持つテンプレートを基にして オファーを作成します。「クリエイティブ URL」とは、Marketing Operations の資 産の場所を指すポインターのことです。CreativeURL 属性が指す資産が、オファー に組み込まれます。

「**CreativeURL**」属性を使用すると、オファー、オファー・テンプレート、またはキャンペーンの構成時に、Campaign から Marketing Operations ヘシームレスに移動することができます。

例えば、キャンペーンを作成または編集する際に、ターゲット・セル・スプレッド シート (TCS) 内のセルから、そのセルに関連するオファーに移動することができま す。そのオファーから、Marketing Operations 内の関連する資産に移動して、この資 産を表示または変更することができます。キャンペーンですぐに使用できるよう に、新しい資産をライブラリーにアップロードすることもできます。

Marketing Operations が Campaign に統合されていないシステムについて、考えられるワークフローの例を以下に示します。実際のワークフローは、この例とは異なる場合があります。



# Marketing Operations の資産を Campaign のオファーで使用す る方法

このトピックでは、統合されていないシステムにおいて、Marketing Operations のデ ジタル資産を Campaign のオファーに関連付ける方法について説明します。

注: Marketing Operations が Campaign に統合されていて、かつオファーの統合が有 効になっている場合は、手順が少し異なります。「*IBM Marketing Operations およ* び *Campaign 統合ガイド*」を参照してください。

資産は、マーケティング・プログラムで使用することを意図した電子ファイルで す。例えば、ロゴ、ブランド・イメージ、マーケティング調査文書、参照資料、企 業販促用品、文書テンプレートなどがあります。Marketing Operations と Campaign の両方を使用する場合、Marketing Operations の資産ライブラリー内のファイルを Campaign のオファーの一部として組み込むことができます。資産をオファーに組み 込むには、CreativeURL 属性を使用します。「クリエイティブ URL」は、 Marketing Operations の資産ライブラリー内のファイルを指すポインターです。

表 16. Marketing Operations の資産を Campaign のオファーで使用する方法

タスク	詳細
前提条件: Marketing Operations に	ファイルのリポジトリーとして機能する資産ライブラリーは、Marketing
資産ライブラリーを作成してデータ	Operations 管理者が作成します。Marketing Operations ユーザーは、デジタル資
を追加します。	産をアップロードし、資産ライブラリーのフォルダー内でそれらの資産を編成
	することができます。
	前提条件とガイドラインのリストについては、「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。
前提条件:「CreativeURL」属性をオ	Campaign 管理者は、テンプレートの定義時に「CreativeURL」属性をオファ
ファー・テンプレートに追加しま	ー・テンプレートに追加します。
す。	  詳しくは、「 <i>Campaign 管理者ガイド</i> 」を参照してください。

表 16. Marketing Operations の資産を Campaign のオファーで使用する方法 (続き)

タスク	詳細
CreativeURL 属性を持つテンプレ ートを基にオファーを作成し、この オファーに資産を 1 つ関連付け る。	<ol> <li>「キャンペーン」&gt;「オファー」を選択し、「オファーの追加」アイコンを クリックして、「CreativeURL」属性が含まれているテンプレートを選択し ます。</li> <li>「新規オファー」ページを使用して、オファー(名前、セキュリティー・ポ リシー、その他の情報)を定義してから、「クリエイティブ URL」の「ラ イブラリーの参照」をクリックします(ステップ 2 から 5 は ターゲッ</li> </ol>
	<ol> <li>ト・セル・スプレッドシート・ビュー・モードから実行することもできます)。</li> <li>ポップアップで、開くライブラリーをクリックします。ライブラリー・ウィンドウが開きます。</li> </ol>
	<ol> <li>4. ライブラリー・ウィンドウで、資産ライブラリー内のフォルダーに移動して、このオファーで使用する資産を選択します。</li> </ol>
	5. 資産を追加するには、「資産の追加」をクリックし、資産の名前、所有者、 その他の情報を定義します。「ファイル」フィールドで「アップロード」を クリックして、資産を参照します。ファイル、プレビュー・ファイル、また はサムネールをアップロードすることができます。
	6. プロンプトに従って、資産を選択してライブラリーにアップロードし、変更 内容を保存し、資産を受け入れます。
	7. 「変更の保存」をクリックして、オファーを保存します。
	これで、指定した資産へのリンクが「 <b>クリエイティブ URL</b> 」フィールドに組み 込まれました。
キャンペーンのターゲット・セル・ スプレッドシート (TCS) 内のセル	1. 「キャンペーン一覧」ページに移動して任意のキャンペーンをクリックし、 「ターゲット・セル」タブを選択して TCS を編集します。
にオファーを割り当てる。	2. 「割り当て済みオファー」列をクリックして、「1 つまたは複数のオファー の選択」をクリックします。
	3. 「オファーの選択」ウィンドウを使用して、作成したオファーを選択しま す。
	4. 編集内容を保存して TCS を終了します。
	これで、Marketing Operations のデジタル資産がキャンペーンに組み込まれました。通常、キャンペーンはこの後、以下の手順で説明するレビュー・プロセス と調整プロセスを通過します。

表 16. Marketing Operations の資産を Campaign のオファーで使用する方法 (続き)

タスク	詳細
オプションで、オファーを変更す る。	1. 「キャンペーン一覧」ページに移動して任意のキャンペーンをクリックし、 「ターゲット・セル」タブを選択して TCS を編集します。
	2. 「割り当て済みオファー」列をクリックして、「 <b>オファーの表示</b> 」をクリックします。
	3. 「オファー詳細の表示/編集」ウィンドウが開きます。オファーを選択して、 「プレビュー」をクリックします。(オファーを削除する場合は、オファーを 選択して「削除」をクリックします)。
	<ol> <li>編集用にオファーを開くには、ポップアップ・ウィンドウの上部にある「編</li> <li>集」アイコンをクリックします。</li> </ol>
	5. オファーが編集用に表示されたら、パラメーター化された属性の値を編集す ることができます。以下のようにして、Marketing Operations 資産にアクセ スすることもできます。
	a. 「 <b>クリエイティブ URL</b> 」フィールドの「 <b>ライブラリーの参照</b> 」リンクを クリックします。
	b. ウィンドウが表示されたら、ライブラリーをクリックします。
	c. ウィンドウが表示されたら、資産ライブラリー内のフォルダーに移動 し、このオファーで使用する資産を選択します。
	d. 資産を追加する場合は、「資産の追加」をクリックして必要な情報を入 力します。「ファイル」フィールドで「アップロード」をクリックし て、資産を参照します。ファイル、プレビュー・ファイル、またはサム ネールをアップロードすることができます。プロンプトに従ってアクシ ョンを実行してください。
	e. 「変更の保存」をクリックして、オファーを保存します。
	これで、選択した資産へのリンクが「 <b>クリエイティブ URL</b> 」フィールドに組み 込まれました。
保存して終了します。	IBM Marketing Operations のウィンドウを終了して、Campaign TCS に戻ります。編集内容を保存して TCS を終了します。

# 第8章セル

セルとは、Campaign において 1 つ以上のオファーの割り当て先となる ID (データ ベース内の顧客 ID や見込み顧客 ID など) のリストのことです。

セルは、フローチャートでデータ操作プロセスを構成および実行して作成します。 これらの出力セルは、同じフローチャート内の他のプロセス (その作成元プロセス のダウンストリーム) で、入力として使用することもできます。

フローチャートで生成される各セルには、以下が含まれます。

- システム生成のセル・コード。セル・コードはシステム管理者が決定する標準形式になっており、生成時には固有になっています。セル・コードの固有性については、フローチャートの構成パラメーター AllowDuplicateCellCodes が「No」に設定されていない限りチェックされません。「No」の場合、セル・コードは現在のフローチャート内のみで固有であることが強制されます。セル・コードとセル・コード・ジェネレーターについて詳しくは、「Campaign 管理者ガイド」を参照してください。IBM EMM が提供する構成パラメーターについて詳しくは、「Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。
- ・システム生成のセル名。現在のフローチャート内で固有です。

フローチャート内でセルを作成するほかに、ターゲット・セル・スプレッドシート にプレースホルダー・セル・コードを作成することもできます。後でこれを、フロ ーチャートで作成したセルにリンクすることができます。

## セル名およびセル・コード

セル名とセル・コードは重要です。セルを出力するかまたはセルを入力として使用 するプロセス間のリンクが、セル名とセル・コードによって確立されるためです。

#### セル・コード

セル・コードはシステム管理者が決定する標準形式になっており、生成時には固有 になっています。セル・コードは編集可能であるため、セル・コードの固有性につ いては、フローチャートの構成パラメーター AllowDuplicateCellCodes が「No」に設 定されていない限りチェックされません。「No」の場合、セル・コードは現在のフ ローチャート内のみで固有であることが強制されます。ターゲット・セル・スプレ ッドシート (TCS) では、固有性についてのチェックは行われません。セル・コード およびセル・コード・ジェネレーターについて詳しくは、「Campaign 管理者ガイ ド」を参照してください。IBM EMM が提供する構成パラメーターについて詳しく は、「Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。

### セル名

注: セル名には文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

デフォルトでは、セル名はその生成元のプロセスに基づいて決まります(例えば、 セルが「Select1」というプロセスによって生成された場合、デフォルトのセル名は 「Select1」です)が、オーバーライドすることは可能です。プロセス名を変更する と、そのプロセスによって生成されたセル名も、そのプロセス内、および同じフロ ーチャート内の接続されたダウンストリーム・プロセス内の両方で、自動的に変更 されます。セル名を変更すると、そのセルと、そのセルを入力として使用するダウ ンストリーム・プロセスの間のリンクにも影響する可能性があります。

例えば、Segment1 および Segment2 という 2 つの出力セルを生成するセグメン ト・プロセスがあり、これらのセルが 2 つのメール・リスト・プロセス (Mail List 1 および Mail List 2) への入力として使用される場合、それらのメール・リスト・ プロセスを既に接続してしまった後にセグメント・セルの名前を変更するときは、 Campaign が新しいセル名をどのように処理するかを理解することが必要になりま す。

次の図は、2 つのセルを出力するセグメント・プロセスがあり、その各セルがダウ ンストリームのメール・リスト・プロセスの入力になる、という基本的な例を示し ています。



## 例: セルの名前変更のシナリオ

### シナリオ 1: すべての新規セル名が元のどの名前とも異なる場合

新規セル名が元のデフォルトの名前とオーバーラップしない場合(つまり、この例では、セグメント出力セルのどちらにも名前として「Segment1」も「Segment2」も使用しない場合)、Campaignはセルの元の「順序」に基づいて元のリンクを維持できます。この状況では、元のセル名のどちらともオーバーラップや再使用がないため、セグメント・プロセスの出力セルと2つそれぞれのメール・リスト・プロセスとの間のリンクは変更されないまま維持されます。次の図を参照してください。



## シナリオ 2: 新規セル名セットが元のセル名セットと同じだが、順序 が変更されている場合

セル用に選択した新規名が元の名前セットとまったく同じで、単純に順序変更した だけの場合、ダウンストリーム・プロセスは使用可能な出力セルを名前(つまり、 新規セル名の名前)で探すため、必要に応じてリンクが切り替わります。この例で は、名前変更されて新たに Segment2 となった出力セルは Mail List 2 への入力セ ルとなり、新たに Segment1 となったセルは Mail List 1 への入力セルとなりま す。次の図を参照してください。



次の図は、3 つの出力セルおよび入力セルがある場合の同じ状況を示しています。



## シナリオ 3: 新規セル名セットが元のセル名の一部とオーバーラップ し、新しいセル名が導入された場合

新しい名前が元の名前の一部とオーバーラップし、新しいセル名が追加された場合、元のセル名セットの名前を使用するリンクは認識可能ですが、それ以外のリンクは切断されます。例えば、セル「Segment1」を「Segment2」に名前変更し、セル「Segment2」を「NewSegment」に名前変更すると、新しい「Segment2」は Mail List2 に接続されますが、Mail List1 は、「Segment1」という名前の入力セル名を見つけられないため、構成解除されます。



# セルの操作

セルは、1 つ以上のオファーを割り当てる対象となる ID (顧客や見込み顧客など) のリストです。セルでは、以下のタスクを実行できます。

# フローチャート・プロセス内でセルを作成する方法

セルは、フローチャート内のいずれかのデータ操作プロセス (オーディエンス、抽 出、マージ、選択など)の出力として作成します。

- 1. 編集モードのフローチャートで、データ操作プロセスを構成します。
- 2. プロセスを実行すると、(プロセスのタイプおよび構成の詳細に応じて) 1 つ以上 のセルがそのプロセスの出力として作成されます。

注: フローチャート内でセルを作成するほかに、ターゲット・セル・スプレッド シートにプレースホルダー・セルを作成して、後でそれらをフローチャートのセ ルにリンクすることもできます。

## 出力セル・サイズの制限

オーディエンス、抽出、マージ、選択などのデータ操作プロセスによって生成される ID の数を制限するには、プロセス構成ダイアログの「セル・サイズの制限」タ ブをクリックします。

出力セル・サイズを制限するためのオプションは、そのプロセスがセルまたはテー ブルからの入力を受け入れるかどうかによって異なります。どちらのタイプの入力 も受け入れることができるプロセスでは、「セル・サイズの制限」ウィンドウが動 的に変化して、入力タイプに応じたオプションが表示されます。

- 出力セルから入力を受け取るプロセス
- テーブルから入力を受け取るプロセス

どちらのタイプの入力でも、ID のランダム選択で使用するランダム・シードも変更 可能です。

### 出力セルから入力を受け取るプロセス

プロセスが出力セルから入力を受け取る場合、「セル・サイズの制限」タブを使用 することによって、出力する ID の数を制限することができます。

Specify outpu	t cell size limitation	
🔿 Unlimi	ed cell size	
Limit	output cell size to:	
🖌 Limit	output cell size based on sizes of input cells:	
Size	f Any Checked Cells	
- Central		
	Cell Name	
	Extract1	*
		-

出力セル・サイズを制御するには、以下のコントロールを使用します。

- 「セル・サイズの制限なし」では、照会基準または選択基準を満たすすべての ID が返されます。このオプションはデフォルトです。
- 「出力セル・サイズの上限指定」では、照会基準と一致するすべての ID からランダムに選択された固有 ID が、指定された数以下返されます。テキスト・ボックスに、返される ID の最大数として指定する数を入力します。 Campaign は、データベースから返される重複解消済みレコードを入力セルのレコードと照合した後、ランダム選択により最終セル・サイズにします。プロセスからプロセスに渡されるセル内の ID リストは常に固有です。

**注:**「**ランダム**」オプションは、ちょうど *N* 件のレコードが返されることが重要で ある場合にのみ使用してください。このオプションでは、すべての ID を Campaign サーバーに取得する必要があるため、大量の一時スペースが使用され、時間も最も 長くかかります。

### 入力セル・サイズに基づいた出力セル・サイズの制限

セルから入力を受け取るプロセスでは、接続された着信プロセスからのセル・サイズを属性として使用して、出力セル・サイズを制限することができます。これは、 実際にそのセル・データまたは ID を使用していない場合でも可能です。

例えば、それぞれが 1 つの出力セルを持つ 3 つのプロセスを選択プロセスに接続 する場合、選択プロセスへの実際のデータ入力として 3 つの着信セルの 1 つしか 使用しない可能性がありますが、それ以外の着信セルの属性 を使用して選択プロセ スの出力セル・サイズを指定することができます。実線は、出力セルが実際に選択 プロセスによって使用されたプロセスを接続し、点線は、出力セルがデータ入力と して使用されず、選択プロセスと一時的な関係のみを持つプロセスを接続します。

サイズ属性を、現在のプロセスの出力セル・サイズの制限に使用する入力セルを指 定するには、「入力セル・サイズに基づく制限」チェック・ボックスを使用しま す。これらのオプションの一部は、指定する「セル・サイズの上限指定」値と併用 することで機能します。

#### 入力セル・サイズに基づいて出力セル・サイズを制限する方法:

1. プロセスで「**セル・サイズの制限**」タブをクリックします。

「セル・サイズの制限」ウィンドウが表示されます。

- 2. プルダウン・リストからオプションを選択して、制限を計算する方法を選択しま す。
  - 選択したセルの最大値 出力セル・サイズが、選択した入力セルのうち最大のセルのサイズを超えてはならないことを指定します。例えば、サイズがそれぞれ250、500、および100のセルA、B、およびCをチェック対象として選択する場合、このプロセスの出力セル・サイズは、入力セル・サイズの最大値である500に制限されます。
  - 指定した上限値と選択されたセルの合計値の差 このオプションは、上記で 指定された「出力セル・サイズの上限指定」の値と組み合わせて使用します。
     このオプションは、出力セル・サイズが、上記の「出力セル・サイズの上限指 定」フィールドに指定された数値と、選択したすべての入力セルの合計との差
     を超えてはならないことを指定します。例えば、「出力セル・サイズの上限指 定」の値として 1000 を入力し、サイズがそれぞれ 100 および 200 の入力セ

ル A および B をチェックした場合、このプロセスの出力セル・サイズは 1000 - (100+200) = 700 に制限されます。

- ・ 選択したセルの最小値 出力セル・サイズが、選択したどの入力セル・サイズも超えてはならないことを指定します。例えば、サイズがそれぞれ
   250、500、および 100 のセル A、B、および C をチェック対象として選択する場合、このプロセスの出力セル・サイズは、入力セル・サイズの最小値である 100 に制限されます。
- ・ 選択したセルの合計値 出力セル・サイズが、選択したすべての入力セルの
   合計サイズを超えてはならないことを指定します。例えば、サイズがそれぞれ
   250、500、および 100 のセル A、B、および C をチェック対象として選択す
   る場合、このプロセスの出力セル・サイズは、3 つすべての入力セル・サイズ
   の合計である 850 に制限されます。
- 3. 入力セルのリストで、出力セル・サイズの基準となるサイズを持つ入力セルのチ ェック・ボックスを選択します。

## テーブルから入力を受け取るプロセス

プロセスがテーブル (または戦略的セグメント。ただしこのオプションが可能なプロセスの場合) から入力を受け取る場合、「セル・サイズの制限」タブを以下のようにして使用します。

Specify output cell size limitation -			
Unlimited cell size			
O Limit output cell size to:			
O Limit selection based on:	record	ds. 🔘 First N (fastest) 🗍 Random	
Test Run output cell size limi	utions		
Unlimited cell size			
Limit output cell size to:	0		

このタブは、出力セル・サイズに関する制限を指定するために使用します。制限の 2 つのオプションの間の主な相違点は、リソースへの影響、およびデータ・ソース が正規化されていない場合の最終結果レコード数です。

- セル・サイズの制限なし: 照会基準または選択基準を満たすすべての ID が返されます。このオプションはデフォルトです。
- 出力セル・サイズの上限指定: 照会基準と一致するすべての ID からランダムに 選択された固有 ID が、指定された数以下返されます。テキスト・ボックスに、 返される ID の最大数として指定する数を入力します。 Campaign はランダム選 択の前に ID セット全体で重複解消を実施した後、指定された数のレコードのみ を保持します。それによって、ID フィールドに重複が存在する場合でも固有 ID からなるリストが返されることになります。このオプションでは、すべての ID を Campaign サーバーに取得する必要があるため、大量の一時スペースが使用さ

れ、時間も最も長くかかります。このオプションは、ID フィールドでデータが正 規化されておらず、かつちょうど N 件のレコードが返されることが重要である場 合にのみ使用してください。

- 出力件数の指定: このオプションは、照会基準を満たすレコードの数に上限を設ける場合に使用します。このオプションを指定した場合、最終レコード・セットの選択に必要な時間とメモリー量が削減されます。しかし、固有 ID の数として指定された数よりも少なくなることがあります。
  - 最初のN件(最速): Campaign は、照会基準を満たすレコードのうち最初のN 個のみをデータベースから取り出します。その後、Campaign はそれらの ID の重複解消を実施します。データが正規化されていない場合、最終結果に含ま れるレコード数は、要求された固有レコード数よりも少なくなります。これ は、データ取得のための時間が少なく、使用する一時スペースも少ないため、 最も高速な方法です。
  - ランダム: Campaign は、照会基準を満たすすべてのレコードをデータベースから取得した後、要求された数のレコードをランダムに選択します。その後、Campaign はそれらの ID の重複解消を実施します。データが正規化されていない場合、最終結果に含まれるレコード数は、要求された固有レコード数よりも少なくなります。このオプションでは、ランダムに選択されたレコードのみがCampaign によって取得および保管されるため、使用一時スペース量は少なくなります。

### テスト実行の出力セル・サイズ制限の適用

オーディエンス・プロセスや選択プロセスなどの一部のプロセスでは、テスト実行 用に特別にセル・サイズを制限することもできます。このセクションで示すオプシ ョンを使用して、テスト実行で返され、その後に処理されるデータの量を制御して ください。

- セル・サイズの制限なし これはデフォルト・オプションです。このプロセスの「ソース」タブの照会基準または選択基準によって返される ID の数は変わりません。このオプションを使用すると、実稼働実行中に対象となるすべてのデータに対してテスト実行が行われますが、オファー履歴とコンタクト履歴へのデータ挿入は行われません。
- 出力セル・サイズの上限指定 照会基準と一致するすべての ID からランダム に選択された ID が、ちょうど指定された数だけ返されます。このテキスト・ボ ックスに、返されるようにする ID の数を入力します。この方法では、Campaign はランダム選択の前に ID セット全体で重複解消を行い、そのうえで指定された 数のレコードのみを保存するため、ID フィールドに複製が存在する場合でも固有 ID のリストが返されます。

注: このオプションでレコードを選択すると、すべての ID を Campaign サーバー に取得する必要があるため、大量の一時スペースが使用され、時間も最も長くかか ります。このオプションは、ID フィールドでデータが正規化されていないときに、 正確に N 個のレコードが返されることが重要な場合にのみ使用してください。

## セル名の変更

デフォルトでは、プロセス内で作成されるセルの名前はそのプロセス名と一致しま す。複数のセルを作成するプロセスでは、出力セル名はプロセス名とセグメント名 を連結した名前になります。例えば、3 つのセグメントを作成する「Segment1」と いうセグメント・プロセスでは、デフォルトの出力セル名は

「Segment1.Segment1」、「Segment1.Segment2」、および「Segment1.Segment3」となります。

セル名は、その作成元のプロセスの名前にリンクするように設計されています。プロセス名を編集すると、セル名も自動的に変更されます。

ただし、セル名を編集すると、プロセス名へのリンクが削除されます。つまり、それ以降にプロセス名を変更した場合、セル名は自動的に変更されなくなります。

### フローチャート・プロセス内のセルの名前を変更する方法

**注:** 出力セル名への変更を保存すると、セル・コードに対して「自動生成」が選択 されている場合は、セル・コードが再生成されます。セル・コードを変更したくな い場合は、セル名の編集前に「自動生成」のチェック・マークを外しておきます。

- 1. 編集モードのフローチャートで、出力セル名を変更するプロセスをダブルクリックします。そのプロセスのプロセス構成ダイアログが表示されます。
- 2. 「**全般**」タブをクリックします。プロセス名や出力セル名など、プロセスの全般 情報が表示されます。
- 3. 「出力セル名」フィールドにカーソルを置いてテキストが選択されるようにし、 セル名を編集します。
- 4. 「**OK**」をクリックします。変更が保存されます。 セル名を編集したためにプロ セス名と一致しなくなった場合、これらの名前はリンクされなくなります。

注: フローチャートを保存しても、どのようなタイプの検証もトリガーされません。フローチャートが正しく構成され、エラーがないことを確認するには、手動でフローチャートの検証を実行できます。

## セル名のリセット

デフォルトでは、プロセス内で作成されるセルの名前はそのプロセス名と一致しま す。複数のセルを作成するプロセスでは、出力セル名はプロセス名とセグメント名 を連結した名前になります。例えば、3 つのセグメントを作成する「Segment1」と いうセグメント・プロセスでは、デフォルトの出力セル名は

「Segment1.Segment1」、「Segment1.Segment2」、および「Segment1.Segment3」となります。

プロセスの名前を変更した場合、セル名も自動的に変更されるため、セル名とプロ セス名のリンクは維持されます。

ただし、セル名を手動で変更したためにプロセス名と相違するようになると、セル 名とプロセス名はリンクされなくなります。リンクを復元するには、セル名を変更 してプロセス名と同じ名前にします。

#### セル名をリセットする方法

- 1. 編集モードのフローチャートで、出力セル名をリセットするプロセスをダブルク リックします。そのプロセスのプロセス構成ダイアログが表示されます。
- 2. 「全般」タブをクリックします。プロセスの全般情報が表示されます。

- 3. 次のステップは、単一のセルを出力するプロセス、または複数のセルを出力する プロセスのどちらを編集するかによって異なります。
  - 単一のセルを出力するプロセスでは、「出力セル名」フィールドのテキストを 編集して、その名前が「プロセス名」フィールドに表示されているプロセス名 と同じになるようにします。
  - 複数のセルを出力するプロセスでは、「セル名のリセット」をクリックします。セル名がデフォルトの形式(すなわち、現在のプロセス名とセグメント名を連結した形式)に戻されます。

これで、プロセス名とセル名は再リンクされます。この時点でプロセス名を変更 すると、出力セル名も自動的に変更されます。

4. 「**OK**」をクリックします。変更が保存され、プロセス構成ダイアログが閉じま す。

## セル名とセル・コードのコピーおよび貼り付けについて

複数のセルを出力するプロセスでは、コピーおよび貼り付け機能を使用して、「出 カセル」グリッドで複数の出力セル名およびセル・コードを編集することができま す。

### グリッド内のすべてのセルをコピーおよび貼り付けする方法

複数のセルを出力するプロセスでは、コピーおよび貼り付け機能を使用して、「出 カセル」グリッドで複数の出力セル名およびセル・コードを編集することができま す。

- 編集モードのフローチャートで、セル名とセル・コードをコピーおよび貼り付け するプロセスをダブルクリックします。そのプロセスのプロセス構成ダイアログ が表示されます。
- 2. 「全般」タブをクリックします。「出力セル」グリッドなど、プロセスの全般情報が表示されます。
- 3. 「出力セル」グリッドで、任意の場所をクリックしてすべてのセルを選択しま す。カーソル位置に関係なく、常にすべてのセルが貼り付け対象として選択され ます。

注: 「セル・コードを自動生成」チェック・ボックスをクリアしていない限り、 「セル・コード」列は選択も編集もできません。

- 「コピー」をクリックします。すべてのセルがクリップボードにコピーされます。
- 5. セルの貼り付け先の左上の位置にくるセルの中をクリックします。
- 6. 「**貼り付け**」をクリックします。コピー元と同じサイズのセル・ブロックの元の 内容が、コピーされたセルの内容によって置き換えられます。

### 外部スプレッドシートからセル名とセル・コードを貼り付ける方法

 外部スプレッドシートまたは他のアプリケーションから、そのアプリケーション のコピー機能を使用してセルまたはテキストを選択してコピーします。

- Campaign 内において、編集モードのフローチャートで、セル名とセル・コード をコピーおよび貼り付けるプロセスをダブルクリックします。そのプロセスのプ ロセス構成ダイアログが表示されます。
- 3. 「全般」タブをクリックします。「出力セル」グリッドなど、プロセスの全般情報が表示されます。

注:「セル・コードを自動生成」チェック・ボックスをクリアしていない限り、 「セル・コード」列は選択も編集もできません。内容を「セル・コード」列に貼 り付ける場合は、必ずこのチェック・ボックスをクリアしてください。

- コピーした内容の貼り付け先であるセルの中をクリックします。長方形のセル・ グループをコピーおよび貼り付ける場合は、その長方形の左上のセルになるセル の中をクリックします。
- 5. 「**貼り付け**」をクリックします。コピーしたセルの内容により、同じサイズのセル・ブロックの元の内容が置き換えられます。

## セル・コードの変更

デフォルトでは、セルのコードは、システム管理者がすべてのセル・コードに対し て定義した形式に基づき、システムが自動的に生成します。セル・コードの固有性 は、フローチャートとキャンペーン全体で強制的に確保されますが、フローチャー ト構成パラメーター AllowDuplicateCellCodes を「Yes」に設定している場合は、 フローチャート内でセル・コードを複製することができます。

IBM EMM によって提供される中央構成パラメーター内の構成パラメーターについ て詳しくは、「*Marketing Platform 管理者ガイド*」を参照してください。

注: デフォルトのシステム生成セル・コードをオーバーライドすることはできます が、手動で入力するセル・コードもセル・コードの形式に従っている必要がありま す。この形式は、プロセス構成ダイアログの「セル・コード」フィールドの下に表 示されます。コードの形式は以下のように定数と変数によって表されます。大文字 は英字の定数を表し、小文字の「n」は数字を表します。例えば、セル・コードの形 式が「Annn」の場合、セル・コードの長さは 4 文字、先頭文字は大文字の「A」、 その後に 3 桁の数字が続くことを表します。この形式のセル・コード例は「A454」 です。

### フローチャート・プロセス内のセルのコードを変更する方法

- 1. 編集モードのフローチャートで、出力セル名を変更するプロセスをダブルクリックします。そのプロセスのプロセス構成ダイアログが表示されます。
- 2. 「全般」タブをクリックします。プロセスの全般情報が表示されます。
- 3. 「自動生成」チェック・ボックスが選択されている場合は、選択をクリアしま す。「セル・コード」フィールドが編集可能になります。
- 「セル・コード」フィールドで、セル・コードを編集します。変更したコードは、「セル・コード」フィールドの下の表示されているセル・コードの形式に従っている必要があることを覚えておいてください。
- 5. セル・コードの編集が完了したら、「OK」をクリックします。プロセス構成ダ イアログが閉じ、変更が保存されます。

# 「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログを使用してフロー チャート・セルを照合およびリンクする方法

各プロセスの設定ダイアログからセルをリンクするだけでなく、「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログからフローチャート全体のターゲット・セルのリンクと管理を行うことができます。これを行う前に、キャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートにプレースホルダーのセル・コードおよびセル名が存在することを確認してください。自動照合を実行する場合は、ターゲット・セル・スプレッドシートで定義されているセルが、出力セル名と同じ名前、または少なくとも先頭の3文字が同じ名前になっていることを確認します。

1. 編集モードのフローチャートで、「オプション」 > 「ターゲット・セルの照合 とリンク」オプションを選択します。

「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログが表示され、左のペインには使 用可能なターゲット・セル、右のペインにはフローチャート出力セルが表示され ています。

2. 名前に基づいてターゲット・セルとフローチャート出力セルを自動照合するに は、「自動照合」をクリックします。

正しく自動照合されたセルは、右のペインにステータスが「正確」または「最適 一致 (Best Match)」として表示されます。照合が済んだターゲット・セルは赤で 表示されます。

3. 照合されたこれらのセル・ペアのリンクを完了するには、「**OK**」をクリックしてそれらを保存し、ダイアログを閉じます。

フローチャートの実行結果が失われることを示す警告が表示されます。「**OK**」 をクリックして先に進みます。

このフローチャートで次回「**ターゲット・セルの照合とリンク**」ダイアログを表示すると、照合とリンクを行ったセルのステータスが「**リンク済み**」と表示されます。

注: ターゲット・セルのリンクは、フローチャートを保存するまでデータベース に保存されません。フローチャートの変更をキャンセルすると、セルのリンクは データベースに保存されません。

# 「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログを使用してフロー チャート・セルを照合解除またはリンク解除する方法

注: コンタクト履歴が関連付けられているセルをリンク解除すると、それらのセル が「回収」されます。回収されたセルはターゲット・セル・スプレッドシートには 表示されないため、その場所では見えなくなります。ターゲット・セル・スプレッ ドシートにセルを保持するには、リンクを解除する前に、そのセルのコンタクト履 歴を削除します。

1. 編集モードのフローチャートで、「オプション」 > 「ターゲット・セルの照合 とリンク」オプションを選択します。 照合またはリンクされているセルは右のペインに表示され、それぞれのステータ スが「**ステータス**」列に示されています。

2. 照合されているすべてのセル・ペアを照合解除するには、「**すべて照合解除**」を クリックします。

照合解除されたターゲット・セルが「使用可能なターゲット・セル」ペインでリ フレッシュされ、出力セルの「ステータス」列および「ターゲット・セル名」列 がクリアされます。リンクされているセル・ペアは変更されません。

リンクされているすべてのセル・ペアをリンク解除するには、「すべてリンク解除」をクリックします。

前にリンクされていたペアはリンク解除されますが、照合対象のまま維持されま す。「使用可能なターゲット・セル」リストに、それらのターゲット・セルが照 合されているターゲット・セルとして赤で表示されるようになります。

注: ターゲット・セルのリンクは、フローチャートを保存するまでデータベース に保存されません。フローチャートの変更をキャンセルすると、セルのリンクは データベースに保存されません。

# 「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログを使用してフロー チャート・セルを手動で照合およびリンクする方法

1. 編集モードのフローチャートで、「オプション」 > 「ターゲット・セルの照合 とリンク」オプションを選択します。

「ターゲット・セルの照合とリンク」ダイアログが表示され、左のペインには使 用可能なターゲット・セル、右のペインにはフローチャート出力セルが表示され ています。

2. 照合するターゲット・セルとフローチャート出力セルのペアを 1 つ以上選択し、「照合>>」をクリックします。

選択したターゲット・セルが選択したフローチャート出力セルと順番に照合され ます。正しく照合された出力セルには「**手動**」というステータスが表示され、照 合が済んだターゲット・セルは赤で表示されます。

3. 照合されたこれらのセル・ペアのリンクを完了するには、「**OK**」をクリックし てそれらを保存し、ダイアログを閉じます。

フローチャートの実行結果が失われることを示す警告が表示されます。「**OK**」 をクリックして先に進みます。

このフローチャートで次回「**ターゲット・セルの照合とリンク**」ダイアログを表示すると、照合とリンクを行ったセルのステータスが「**リンク済み**」と表示されます。

注: ターゲット・セルのリンクは、フローチャートを保存するまでデータベース に保存されません。フローチャートの変更をキャンセルすると、セルのリンクは データベースに保存されません。

# プロセス構成ダイアログを使用してフローチャート・セルをターゲ ット・セルにリンクする方法

これを行う前に、キャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートにプレースホルダーのセル・コードおよびセル名が存在することを確認してください。

- 編集モードのフローチャートで、出力セルをターゲット・セル・スプレッドシートのセルにリンクするプロセスをダブルクリックします。そのプロセスのプロセス構成ダイアログが表示されます。
- 2. 「全般」タブをクリックします。プロセスの全般情報が表示されます。
- 3. 「ターゲット・セルの選択」ウィンドウにアクセスします。
  - 単一のセルを出力するプロセス (例えば、選択プロセス) で、「ターゲット・セルへのリンク…」をクリックします。
  - 複数のセルを出力するプロセス (例えば、セグメント・プロセス) で、リンク するセルごとに「出力セル名」行または「セル・コード」行をクリックしま す。表示される省略符号ボタンをクリックします。

現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートで定義されているセ ルを表示する、「ターゲット・セルの選択」ウィンドウが表示されます。

- 4. 「ターゲット・セルの選択」ウィンドウで、現在の出力セルのリンク先のセルの 行を選択します。
- 「OK」をクリックします。「ターゲット・セルの選択」ウィンドウが閉じます。プロセス構成ダイアログの出力セル名とセル・コードが、ターゲット・セル・スプレッドシート内のセルのコードと名前に置き換えられます。これらはイタリックで表示され、ターゲット・セル・スプレッドシートにリンクされていることを示します。
- 6. 「**OK**」をクリックします。プロセス構成ダイアログが閉じ、変更が保存されま す。

# プロセス構成ダイアログを使用してフローチャート・セルをターゲ ット・セルからリンク解除する方法

**重要:** コンタクト履歴が関連付けられているセルをリンク解除すると、それらのセルが「回収」されます。回収されたセルはターゲット・セル・スプレッドシートには表示されないため、その場所では見えなくなります。ターゲット・セル・スプレッドシートにセルを保持するには、リンクを解除する前に、そのセルのコンタクト履歴を削除します。

- 1. 編集モードのフローチャートで、出力セルをターゲット・セル・スプレッドシートのセルからリンク解除するプロセスをダブルクリックします。そのプロセスの プロセス構成ダイアログが表示されます。
- 2. 「全般」タブをクリックします。プロセスの全般情報が表示されます。
- 3. 「ターゲット・セルの選択」ウィンドウにアクセスします。
  - 単一のセルを出力するプロセス (例えば、選択プロセス) で、「ターゲット・ セルへのリンク…」をクリックします。
複数のセルを出力するプロセス (例えば、セグメント・プロセス) で、リンク 解除するセルの「出力セル名」行または「セル・コード」行をクリックしま す。表示される省略符号ボタンをクリックします。

現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートで定義されているセ ルを表示する、「ターゲット・セルの選択」ウィンドウが表示されます。現在リ ンクされているセルが強調表示されます。

- 4. 「ターゲット・セルの選択」ウィンドウで、[リンクされていません] を選択しま す。そのセル名とセル・コードは強調表示されなくなります。
- 「OK」をクリックします。「ターゲット・セルの選択」ウィンドウが閉じます。プロセス構成ダイアログの出力セル名とセル・コードがイタリック表示されなくなり、ターゲット・セル・スプレッドシートにリンクされていないことを示します。
- 6. 「**OK**」をクリックします。プロセス構成ダイアログが閉じ、変更が保存されま す。

## フローチャート内のセルにオファーを割り当てるには

フローチャートの中で「メール・リスト」または「コール・リスト」のプロセスを 構成する際に、オファーをセルに割り当てることができます。またオプションとし て、コントロール・グループをコンタクトから除外することができます。このよう にして、どのセルがどのオファーを受け取るかを決定します。

注: また、ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) からのセルにオファーを割 り当てることもできます。 151 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシート内 のセルにオファーを割り当てる方法』を参照してください。

- 1. オファーまたはオファー・リストを作成します。
- 「編集」モードのフローチャートで、オファーを割り当てる対象となるセルが含 まれている「メール・リスト」または「コール・リスト」のプロセスをダブルク リックします。
- 3. 「処理」タブを使用して、各セルに 1 つ以上のオファーを割り当てます。「パ ラメーター」タブを使用して、オファーのパラメーター値を指定します。手順に ついては、120ページの『コンタクト・プロセス (メール・リストまたはコー ル・リスト)を構成するには』を参照してください。

注: Campaign が Marketing Operations と統合されている場合は、Marketing Operations を使用することによって、キャンペーン・プロジェクトのターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) の形式で出力セルにオファーを割り当てます。 Campaign 統合環境が従来のキャンペーンにアクセスするように構成されている場合、セルにオファーを割り当てるには、ターゲット・セル・スプレッドシートから割り当てる方法と、コンタクト・プロセスを構成する方法の 2 とおりの方法があります。詳しくは、2ページの『IBM Marketing Operations との統合について』を参照してください。

## セルへのオファー・リストの割り当て

オファー・リストをセルに割り当てる方法は、フローチャートから行う場合でもタ ーゲット・セル・スプレッドシートで行う場合でも、単一のオファーまたは複数の オファーをセルに割り当てるときと同じです。ただし、オファー・リスト内にオフ ァー内のパラメーターの値を指定することはできません。パラメーター化されたオ ファー・フィールドのデフォルト値が使用されます。

## セルに割り当てられたオファーでパラメーター値を設定するには

オファーをセルに割り当てた後、割り当て済みオファーで使用するパラメーター化 属性の値を指定することができます。例えば、メール・リスト・プロセスにクレジ ット・カード・オファーが含まれている場合、オファーされた条件を調整すること ができます。

- 1. フローチャートを「編集」モードで開きます。
- オファー属性を調整する対象となる「メール・リスト」または「コール・リスト」のコンタクト・プロセスをダブルクリックします。
- 3. 「**パラメーター**」タブをクリックします。このタブには、「処理」タブで割り当 てられたパラメーター化されたオファーごとにパラメーター名と値が示されま す。
- 「対象セル」フィールドで、名前により特定のセルを選択するか、または「すべてのセル」を選択することによってすべてのセルに同じパラメーター値を割り当てます。
- 5. セル/オファー/パラメーターの組み合わせごとに、「割り当て値」フィールドを クリックします。使用可能な値がある場合はそれが表示されます。またはフィー ルドのテキストを編集します。この値は、このオファーが含まれるすべてのセル に適用されます。

「処理」タブで同じオファーを複数のセルに割り当てて、しかもセルごとに異な るパラメーター値を設定することが可能です。この場合、「すべてのセル」ビュ ーでは、「割り当て値」列にテキスト「複数の値」が表示されます。「対象セ ル」リストを使用して、各セルに割り当てられた値を確認してください。

コンタクト構成プロセス・ダイアログの「パラメーター」タブの使用について詳しくは、120ページの『コンタクト・プロセス (メール・リストまたはコール・リスト)を構成するには』を参照してください。

# ターゲット・セル・スプレッドシートについて

注: ご使用の Campaign 環境が Marketing Operations と統合されている場合、 Marketing Operations を使用してターゲット・セル・スプレッドシートを操作できる ようにする必要があります。その Campaign 環境がレガシー・キャンペーンにアク セスできるように構成されている場合は、本書の説明に従ってレガシー・キャンペ ーンのターゲット・セル・スプレッドシートを操作してください。詳しくは、2ペ ージの『IBM Marketing Operations との統合について』を参照してください。

ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) は、キャンペーン内のフローチャート で使用されているすべてのセルとその詳細 (割り当て済みオファーなど) を表示す る、キャンペーンごとのスプレッドシート・タイプ機能です。この機能は、キャン ペーンのフローチャートで使用されているすべてのセルのアクセス可能ビューを表 示するだけでなく、セル・ベースでオファーの割り当てを行うツールでもありま す。 ターゲット・セル・スプレッドシートはいつでも編集でき、これを保存すると、値 が Campaign システム・テーブルに書き込まれます。

以下のような2 つのモードで使用できます。

- トップダウン ターゲット・セル・スプレッドシートですべてのターゲット・ セルおよびコントロール・セルを作成してから、後でそれらのセルをフローチャ ートの中で作成されたセルに、セル・コードを使用してリンクします。 TCS 内 で作成されたセルの場合、「フローチャートで使用されている」フィールド以外 のフィールドは、すべて TCS で編集することができます。
- ボトムアップ フローチャート・プロセスの中で作成した各ターゲット・セルは、フローチャートの保存後、TCS に表示されます。フローチャートから作成されたセルの場合、カスタム属性のみ TCS で編集することができます。

2 つのモードはいつでも切り替え可能です。ただし、通常はあまり頻繁に行われま せん。トップダウンとボトムアップの定義タスクは、それぞれ異なる人々によって 実行される傾向があるためです。

重要: 関連するキャンペーン内のいずれかのフローチャートが編集または実行され たときに、ターゲット・セル・スプレッドシートが編集されてしまう可能性を最小 限に抑えるビジネス・ルールを導入する必要があります。異なるユーザーがフロー チャートと TCS を同時に編集すると (例えば、あるユーザーがフローチャート内か らコンタクト・プロセスを編集し、別のユーザーが TCS から同じセルのオファー の割り当てを変更した場合など)、誤ったデータが保存され、競合が発生する可能性 があります。

ただし、モードの切り替えが必要になる場合もあります。例えば、フローチャート での作業中に、ターゲット・セルがトップダウン・モードで TCS に定義されてい ないことに気が付いた場合、そのフローチャートを保存してからトップダウン・モ ードに切り替え (TCS に移動してセルを作成します)、その後、ボトムアップ・モー ドに戻すことができます (フローチャートに戻り、TCS の新しいセルにリンクしま す)。これで、コンタクト・プロセスが正しく構成されます。

トップダウン・モードで TCS に作成されたセルは、ボトムアップ・モードで未使 用になっている場合でも、無効として表示 (ぼかし表示) されることはありません。

# ターゲット・セル・スプレッドシートのセル・ステータス情報

Campaign のターゲット・セル・スプレッドシートには、各セルの現在のステータス が表示されます。表示されるステータスには、セル数、前回の実行タイプ (フロー チャート、ブランチ、またはプロセスの実稼働実行あるいはテスト実行)、前回の実 行時刻などがあります。セル数は、実行されたフローチャート内の出力セルにリン クされている、セルごとの固有のオーディエンス ID の数です。このセル・ステー タスは、対応するプロセスについて最も新しく保存された実稼働実行またはテスト 実行の結果です。

セル・ステータス情報は、Campaign (スタンドアロン時) または Marketing Operations (統合時) のターゲット・セル・スプレッドシートに表示されます。

### セル数の更新

プロセス構成を変更すると、前の実行結果はすべて失われ、ターゲット・セル・ス プレッドシートの「**セル数**」、「前回の実行タイプ」、および「前回の実行時刻」 の各列はブランクになります。セル数を更新するには、フローチャート、ブラン チ、またはプロセスを実稼働モードまたはテスト・モードで実行して、その後にフ ローチャートを保存する必要があります。

以下のタイプのプロセス構成変更における、TCS のセル数に対する影響に注意して ください。

- ターゲット・セルへのフローチャート出力セルのリンク。次回の実稼働実行また はテスト実行が保存されるまで、セル数はブランクのままです。
- ターゲット・セルからのフローチャート出力セルのリンク解除。前の実行結果は すべて削除され、セル数はブランクです。

### セル数を手動でリフレッシュする方法

ターゲット・セル・スプレッドシート内のセル数は、実稼働でフローチャート、ブ ランチ、またはプロセスを実行したとき、またはテスト実行を保存したときに自動 的に更新されます。実行の完了時に TCS が開いていた場合は、「セルのステータ スを取得」アイコンをクリックすることにより、手動でセル数をリフレッシュする 必要があります。

## ターゲット・セル・スプレッドシートの操作

ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) の作業について詳しくは、以下のトピックを参照してください。

### ターゲット・セル・スプレッドシートに 1 つの行を追加する方法

1. セルを追加するキャンペーンで、「**ターゲット・セル**」タブをクリックします。

現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示されます。

2. 「編集」アイコンをクリックします。

スプレッドシートが編集モードで表示されます。フローチャートで使用されてい る既存のセルは色付きで強調表示されています。

3. 「セルの追加」アイコンをクリックします。

スプレッドシートの下部に 1 行追加されます。

### ターゲット・セル・スプレッドシートに複数の空白行を追加する方法

- セルを追加するキャンペーンで、「ターゲット・セル」タブをクリックします。
   現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示されます。
- 2. 「編集」アイコンをクリックします。

スプレッドシートが**編集**モードで表示されます。フローチャートで使用されてい る既存のセルは色付きで強調表示されています。

3. 「多数のセルの追加」アイコンをクリックし、ドロップダウン・リストから「N 件の空白行」を選択します。 「複数の新規行を追加」ウィンドウが表示されま す。

- 4. 「作成する行数」フィールドに、追加する行数を入力します。
- 5. 「ターゲット・セルの作成」をクリックします。

スプレッドシートの下部に、セル・コードとセル名が挿入済みの新規ターゲット・セル行が追加されています。

6. スプレッドシートの新規セルに追加情報 (ある場合) を入力し、「保存」または 「保存して戻る」をクリックして変更を保存します。

### ターゲット・セル・スプレッドシート内の行を複製する方法

- セルを複製するキャンペーンで、「ターゲット・セル」タブをクリックします。
   現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示されます。
- 2. 「編集」アイコンをクリックします。

スプレッドシートが**編集**モードで表示されます。フローチャートで使用されてい る既存のセルは色付きで強調表示されています。

- 3. 複製する行を選択します。
- 4. 「**多数のセルの追加**」アイコンをクリックし、ドロップダウン・リストから「**N** 件の複製行」を選択します。

「複数の新規行を追加」ウィンドウが表示されます。

- 5. 「作成する行数」フィールドに、追加する行数を入力します。
- 6. 「ターゲット・セルの作成」をクリックします。

選択した行の下に、セル・コードとセル名が挿入済みの新規ターゲット・セル行 が追加されています。「フローチャートで使用 (Used in Flowchart)」を除く他 のすべての列の値が、元のセル行からコピーされます。

7. スプレッドシートの新規セルに追加情報 (ある場合) を入力し、「保存」または 「保存して戻る」をクリックして変更を保存します。

### ターゲット・セル・スプレッドシート内で検索する方法

ターゲット・セル・スプレッドシートの検索機能では、ストリングの一部を入力して、スプレッドシートの任意の列にある一致を見つけることができます。例えば、検索フィールドに「924」と入力すると、コードが「A000000924」のセルを含む行と、「Offer9242007」という名前のオファーに割り当てられたセルの行の両方が一致となります。

注:検索機能は、編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートでのみ使用で きます。

1. セルを検索するキャンペーンで、「ターゲット・セル」タブをクリックします。

現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示されます。

2. スプレッドシートで「編集」リンクをクリックします。

スプレッドシートが**編集**モードで表示されます。フローチャートで使用されてい る既存のセルは色付きで強調表示されています。

3. 「検索」をクリックします。

4. 「検索」ウィンドウで、検索するストリングを入力し、「ストリングの検索 (Find String)」をクリックします。

その検索ストリングで最初に見つかった一致を含む行が強調表示されます。

5. スプレッドシートで一致の検索を続行するには、「**次を検索**」をクリックしま す。

### 現在のセルが制御セルであるかどうかを指定する方法

編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートで、編集するセルの「制御セル」列をクリックします。

セルが編集可能になり、ドロップダウン・リストが表示されます。

- 2. ドロップダウン・リストから「**はい**」または「**いいえ**」を選択して、現在のセル が制御セルかどうかを示します。
- 3. 「保存」または「保存して戻る」をクリックして変更を保存します。

重要:制御セル (例えば、セル A) を 1 つ以上のターゲット・セルの制御として割 り当て、後でセル A をターゲット・セルに変更した場合、セル A は、前にそれを 制御として使用していたターゲット・セルから、その制御として削除されます。

### 現在のセルに対する制御セルを指定する方法

1. 編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートで、編集するセルの「制御セ ル・コード」列をクリックします。

セルが編集可能になり、ドロップダウン・リストが表示されます。制御セルとし て指定されている(つまり、「制御セル」列の値が「はい」になっている)セル のセル・コードが、制御セルとして選択できるようになります。

- 2. 現在のセルの制御として使用するセルをドロップダウン・リストから選択します。
- 3. 「保存」または「保存して戻る」をクリックして変更を保存します。

## ターゲット・セル・スプレッドシートでセル・コードを生成して使用 する方法

この機能は、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用する固有のセル・コード を Campaign によって生成する場合に使用します。

1. 編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートで、「**セル・コードの**生成」 アイコンをクリックします。

生成されたセル・コードを含むウィンドウが表示されます。

- 2. このウィンドウの中をクリックし、マウスを使用してセル・コードを選択しま す。
- 3. 右クリックして、コンテキスト・メニューから「**コピー**」を選択します。
- セル・コードを貼り付けるターゲット・セル・スプレッドシート内のフィールド をクリックします。

- 右クリックして、コンテキスト・メニューから「貼り付け」を選択します。生成 されたセル・コードがターゲット・セル・スプレッドシートに貼り付けられま す。
- 6. 「保存」または「保存して戻る」をクリックして変更を保存します。

## ターゲット・セル・スプレッドシートを編集する方法

何らかの時点でターゲット・セル・スプレッドシート内のセルの属性を編集する場 合は、関連するキャンペーン内のフローチャートの編集中または実行中に同時に行 わないように注意してください。

**重要:** 異なるユーザーがフローチャートと TCS を同時に編集すると (例えば、ある ユーザーがフローチャート内から CSP を編集し、別のユーザーが TCS から同じセ ルのオファーの割り当てを変更した場合など)、誤ったデータが保存され、競合が発 生する可能性があります。

1. セルを編集するキャンペーンで、「ターゲット・セル」タブをクリックします。

現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示されます。

2. 「編集」アイコンをクリックします。

**編集**モードのスプレッドシートが表示されます。フローチャートで使用されてい る既存のセルは色付きで強調表示されています。

- 3. 編集するセルのフィールドをクリックし、変更を行います。
- 4. スプレッドシート内で選択した行を上下に移動する場合、または選択した行を削除する場合は、Campaign ツールバーのアイコンを使用してください。
- 5. 編集を完了したら、「保存」または「保存して戻る」をクリックして変更を保存 します。

# 外部ソースからターゲット・セル・スプレッドシートにデータを貼り 付ける方法

- 1. セルを編集するキャンペーンで、「**ターゲット・セル**」タブをクリックします。 現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示されます。
- スプレッドシートで「編集」リンクをクリックします。スプレッドシートが編集 モードで表示されます。フローチャートで使用されている既存のセルは色付きで 強調表示されています。
- 3. 外部アプリケーションで、ターゲット・セル・スプレッドシートに貼り付けるセ ルの内容またはテキストをコピーします。
- 編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートで、コピーした内容を貼り付けるセルをクリックするか、または複数のセルを選択する場合は、Shift キーを押したままま、セルをクリックして選択します。
- 5. 右クリックして、コンテキスト・メニューから「貼り付け」を選択します。コピーしたセルの内容が、選択したセルに貼り付けられます。
- 6. 「保存」または「保存して戻る」をクリックして変更を保存します。

# .csv ファイルからターゲット・セル・スプレッドシートにデータをイ ンポートする方法

大量のターゲット・セル・データを、.csv 形式のファイルからターゲット・セル・ スプレッドシートにインポートすることができます。このファイルは、『ターゲッ ト・セル・スプレッドシートにインポートするための CSV ファイルの必須形式』 で説明している形式にする必要があります。

- ターゲット・セル・データをインポートするキャンペーンで、「ターゲット・ セル」タブをクリックします。現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレ ッドシートが表示されます。
- スプレッドシートの「ターゲット・セルのインポート」アイコンをクリックします。
- 3. 「TCS のインポート」ダイアログで、「参照」ボタンを使用してインポートする .csv ファイルに移動し、ファイルを選択して、「ファイルの選択」ダイアロ グで「開く」をクリックします。
- 4. 「**インポート**」をクリックします。
- 5. ターゲット・セル・スプレッドシートの既存のセルの下に付加された .csv ファ イルの内容によって、その TCS がリフレッシュされます。

# ターゲット・セル・スプレッドシートにインポートするための CSV ファイルの必須形式

ターゲット・セル・スプレッドシートにデータを正しくインポートするには、準備 するコンマ区切り値 (.csv) ファイルが以下の形式と一致している必要があります。 ターゲット・セル・スプレッドシートの内容をエクスポートする際には、これがデ ータのエクスポート形式にもなります。

- ファイルには、事前定義およびカスタムのセル属性と一致する列名があるヘッダ 一行を含める必要があります。
- 各行には、ヘッダー行に指定された数と同じ数の列が必要です。
- データのない列は、ブランクのまま残す必要があります。
- カスタム属性の値は、適切なデータ型に変換されます。日付の場合、日付ストリングはユーザーのロケールの形式になっている必要があります。

列名	説明	必須	有効な値
CellName	ターゲット・セルの名前。	はい	
CellCode	このターゲット・セルに割り当てられ たセル・コード。空の場合は Campaign がセル・コードを生成しま す。それ以外の場合、指定された値が 使用されます。	はい (ただし、 この行が IsControl = Yes としてマークさ れている場合)。	セル・コードは、定義されたセ ル・コード形式と一致している必 要があります。
IsControl	この行のセルが制御セルか通常のター ゲット・セルかを示します。	いいえ	Yes, No
ControlCellCode	IsControl = Yes としてマークされて いるセルの CellCode。	いいえ	IsControl = Yes としてマークされ ているセルに対して存在する有効 なセル・コード。

列名	説明	必須	有効な値
AssignedOffers	セミコロンで区切ったオファー・セッ ト、オファー・リスト、またはこれら の組み合わせ。	いいえ	オファーはオファー・コードを使 用して指定でき、オファー・リス トはオファー・リスト名を使用し て指定できます。形式は
			OfferName1[OfferCode1]; OfferName2[OfferCode2]; OfferListName1[]; OfferListName2[] です。この場
			合、オファー名はオプションです が、オファー・コードは必須で す。また、空の大括弧があるオフ ァー・リスト名は必須です。
FlowchartName	関連するフローチャートの名前。	いいえ。この列	
		には Campaign	
		がデータを挿入	
		します。指定し	
		ても無視されま	
		す。エクスポー	
		ト用にデータが	
		挿入されます。	
CellCount	このセルの数。	いいえ。この列	
		には Campaign	
		がテータを挿入	
		します。指定してき価担された	
		しも悪視されま	
		9。エクスホート田にデータが	
		挿入されます。	
LastRunTyne	前回のフローチャート実行のタイプ	いいえ この列	
Lustruiriype		には Campaign	
		がデータを挿入	
		します。指定し	
		ても無視されま	
		す。エクスポー	
		ト用にデータが	
		挿入されます。	
LastRunTime	前回のフローチャート実行の時刻	いいえ。この列	
		には Campaign	
		がテータを挿入	
		しより。指定してた毎月された	
		しつ 思祝 されま	
		9。エクスホ ト田にデータが	
		挿入されます。	
Custom Attr1	データのインポート対象の定義溶みカ	いいえ	カスタム属性のデータ型およびユ
	スタム・セル属性ごとに、1 つの列を		ーザーのロケール/形式で要求され
	追加します。		る有効値。

# ターゲット・セル・スプレッドシートからデータをエクスポートする 方法

ターゲット・セル・スプレッドシートの内容を、.csv 形式でローカル・ドライブまたはネットワーク・ドライブ上の場所にエクスポートすることができます。 TCS の内容全体がエクスポートされます。内容のサブセットを選択することはできません。

- TCS の内容をエクスポートするキャンペーンで、「ターゲット・セル」タブを クリックします。現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが 表示されます。
- 2. 「**ターゲット・セルのエクスポート**」アイコンをクリックします。
- 3. 「ファイル・ダウンロード」ダイアログで 「保存」 をクリックします。
- 4. 「名前を付けて保存」ダイアログで、ファイルのファイル名を指定し、ファイル の保存先ディレクトリーに移動し、「保存」をクリックします。「ファイル・ ダウンロード」ダイアログにダイアログが完了したことが示されます。
- 5. 「閉じる」をクリックしてターゲット・セル・スプレッドシートに戻ります。

# ターゲット・セル・スプレッドシート内のセルにオファーを割り当て る方法

ターゲット・セル・スプレッドシート内のセルへのオファーの割り当ては「トップ ダウン」モードで行うことができます。

- セルにオファーを割り当てるキャンペーンで、「ターゲット・セル」タブをクリ ックします。現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示 されます。
- 2. スプレッドシートで「編集」リンクをクリックします。スプレッドシートが編集 モードで表示されます。フローチャートで使用されている既存のセルは色付きで 強調表示されています。
- 3. 編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートで、オファーを割り当てるセルの行の「割り当て済みオファー」列をクリックします。

「オファーの検索 (Search Offers)」アイコンが表示されます。

4. 「オファーの検索 (Search Offers)」アイコンをクリックします。

「オファーの選択」ウィンドウが表示されます。

- 5. 「オファーの選択」ウィンドウで、オファー・フォルダー内を移動して 1 つ以 上のオファーまたはオファー・リストを選択するか、「検索」タブをクリックし て、名前、説明、またはコードによってオファーを見つけます。
- 6. 現在のセルに割り当てるオファー (複数可) を選択したら、「**承認して閉じる**」 をクリックします。

「オファーの選択」ウィンドウが閉じ、選択したオファーが「**割り当て済みオフ ァー**」列に挿入されます。

7. セルへのオファーの割り当てを完了したら、「保存」または「保存して戻る」を クリックして変更を保存します。

## ターゲット・セル・スプレッドシート内のセルからオファーを割り当 て解除する方法

オファーをセルに割り当てた後に、それらを割り当て解除することができます。

- セルからオファーを割り当て解除するキャンペーンで、「ターゲット・セル」タ ブをクリックします。現在のキャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシートが表示されます。
- 2. スプレッドシートで「編集」リンクをクリックします。スプレッドシートが編集 モードで表示されます。フローチャートで使用されている既存のセルは色付きで 強調表示されています。
- 3. 編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートで、オファーを割り当て解除 するセルの行の「割り当て済みオファー」列をクリックします。

「オファーの表示」アイコンが表示されます。

4. 「**オファーの表示**」アイコンをクリックします。

「オファー詳細の表示/編集」ウィンドウが表示され、「割り当て済みオファー」 セクションに割り当て済みオファーまたはオファー・リストが表示されます。

- 5. セルから削除するオファーまたはオファー・リストを選択 (複数可) し、選択し た項目を「>>」ボタンをクリックして「削除済みオファー」セクションに移動し ます。
- 6. オファーまたはオファー・リストの削除を完了したら、「変更の承認」をクリッ クします。

「オファー詳細の表示/編集」ウィンドウが閉じ、削除されたオファーまたはオフ ァー・リストはセルの「割り当て済みオファー」列に表示されなくなります。

7. セルからのオファーの割り当て解除を完了したら、「保存」または「保存して戻 る」をクリックして変更を保存します。

### 割り当て済みオファーまたはオファー・リストを表示する方法

オファーまたはオファー・リストをセルに割り当てたら、割り当て済みオファーを 表示したり、割り当て済みオファー・リストの内容をプレビュー表示したりするこ とができます。

- セルに割り当てられているオファーまたはオファー・リストを表示するキャンペ ーンで、「ターゲット・セル」タブをクリックします。現在のキャンペーンのタ ーゲット・セル・スプレッドシートが表示されます。
- 2. スプレッドシートで「編集」リンクをクリックします。スプレッドシートが編集 モードで表示されます。フローチャートで使用されている既存のセルは色付きで 強調表示されています。
- 編集モードのターゲット・セル・スプレッドシートで、割り当て済みオファーまたはオファー・リストを表示するセルの行の「割り当て済みオファー」列をクリックします。

「オファーの表示」アイコンが表示されます。

4. 「オファーの表示」アイコンをクリックします。

「オファー詳細の表示/編集」ウィンドウが表示され、「割り当て済みオファー」 セクションに割り当て済みオファーまたはオファー・リストが表示されます。

5. オファー・リストを選択し、「オファー・リスト・プレビュー」をクリックしま す。

選択したオファー・リストの「サマリー」ページが表示され、含まれているオファーのプレビューが表示されます。

### 「ターゲット・セル」タブのアイコン

「ターゲット・セル」タブでは以下のアイコンが使用されます。



以下の表では、左側のアイコンから右側のアイコンへの順番で説明します。

表17. 「ターゲット・セル」タブのアイコン

アイコン名	説明
編集	ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) を編集する場
	合に、このアイコンをクリックします。
	注: ターゲット・セル・スプレッドシートを編集するには、
	適切な権限が必要です。詳しくは、「Marketing Platform 管
	理者ガイド」を参照してください。
ターゲット・セルのインポー	.csv ファイルの内容をターゲット・セル・スプレッドシー
F	トにインポートする場合に、このアイコンをクリックしま
	す。
ターゲット・セルのエクスポ	このターゲット・セル・スプレッドシートの内容をすべて
- <b>F</b>	.csv ファイルにエクスポートする場合に、このアイコンを
	クリックします。
セルのステータスを取得	ターゲット・セル・スプレッドシート内のデータをリフレッ
	シュする場合に、このアイコンをクリックします。

# 第9章 コンタクト履歴およびレスポンス・トラッキング

Campaign では、「コンタクト履歴」という一般用語は、以下に関して取得された情報を表します。

- 送信されたオファー
- ・送信先の顧客(あるいは、オーディエンス・レベルに応じて、アカウントまたは 世帯)
- 使用したチャネル
- 日付

例えば、キャンペーンのターゲット顧客のリストは、キャンペーンのフローチャー ト内のコンタクト・プロセスの出力(例えば、コール・リストやメール・リスト)と して生成することができます。各ターゲット顧客は、1つ以上のオファーに割り当 てられているセルに属します。コール・リストまたはメール・リストのプロセスが 実稼働モード(テスト・モードではなく)で実行され、コンタクト履歴への記録が有 効になっている場合、詳細は Campaign システム・データベース内の複数のテーブ ルに書き込まれます。

これらのテーブルを併せてコンタクト履歴が構成されます。コンタクト履歴には、 フローチャートの実行時に各セル内の各 ID に指定された特定のオファー・バージ ョン (パラメーター化されたオファー属性の値を含む)、およびいかなるコミュニケ ーションも受信しないように抑制されている制御セルのメンバーが記録されます。

Campaign 内の制御セルは常に検証制御 (つまりコンタクトなし制御) であるため、 制御セルに属する顧客にはオファーを割り当てることができず、それらの顧客はコ ンタクト・プロセス出力リストに含まれません (ただし、コンタクト履歴テーブル には書き込まれます)。

# コンタクト履歴およびオーディエンス・レベル

Campaign は、システム管理者が定義したオーディエンス・レベルごとにそれぞれ別 個のコンタクト履歴および詳細コンタクト履歴を記録し、保守します。各オーディ エンス・レベルには、Campaign システム・データベース内に独自の関連コンタクト 履歴テーブルおよび詳細コンタクト履歴テーブルがあります。ただし、これらのテ ーブルは、データベース内の同じ基盤物理テーブルにマップすることができます。

コンタクト履歴およびオーディエンス・レベルについて詳しくは、「*Campaign 管理* 者ガイド」を参照してください。

# 詳細コンタクト履歴

セルのすべてのメンバーが同じ扱いをされる場合(すなわち、全員に同じオファ ー・バージョンが提供される場合)、基本のコンタクト履歴が記録されます。しか し、同じセル内の複数の異なる個人が異なる数のオファーを受け取る場合、または それぞれ異なるオファー・バージョンを受け取る場合(同じセル内の個人がそれぞ れ異なるオファー・バージョンを受け取るようにオファーがパーソナライズされて いる場合)、Campaign は、各個人が受け取った内容を正確に詳細コンタクト履歴に 記録します。

また、制御情報もすべて詳細コンタクト履歴に記録され、個人が検証コントロー ル・グループとして選択されていない場合に受け取っているはずの、特定のオファ ーを識別します。この情報により、リフトおよび ROI の計算に関するターゲット・ セル対制御セルの適切な分析および比較が可能になります。

詳細コンタクト履歴は短期間で大規模に拡大する可能性がありますが、極めて詳細 なレベルのレスポンス・トラッキングの実行およびターゲット・セルと制御セルの 分析を可能にする、すべてのデータを提供します。

# コンタクト履歴テーブルへのエントリーの書き込み

コンタクト履歴テーブルにエントリーが書き込まれるのは、フローチャートのコン タクト・プロセス (コール・リストまたはメール・リスト) が、コンタクト・ログ・ オプションを有効にした実稼働モードで実行された場合のみです。テスト実行で は、コンタクト履歴テーブルへの書き込みは行われません。

適切な権限がある場合は、コンタクト・プロセスの構成ウィンドウでコンタクト履 歴への記録を有効または無効にすることができます。

重要: コンタクト・プロセスを含むフローチャートの場合は、フローチャートの実 稼働実行のつど、コンタクト履歴を生成できるのは 1 回のみである点に注意してく ださい。同じ ID リストから複数のコンタクトを生成するには、ID リストのスナッ プショットを作成し、フローチャートを実行するたびにそのリストから読み取りを 行います。もう 1 つは、同じ ID リストを複数のコンタクト・プロセスへの入力と して使用する方法です。

コンタクト履歴への記録が有効である場合、コンタクト履歴に以下の詳細が取得さ れます。

- コンタクトの日時(デフォルトでは、コンタクト・プロセスが実行された時点)
- コンタクト・プロセスに割り当てられたオファー・バージョン (パラメーター化 されたオファー属性値を含む)
- 各 ID に提供された正確なオファー・バージョン
- ターゲット・セルおよび制御セルの場合、オファー・バージョン、セル、および
   日時の、それぞれの固有の組み合わせをトラッキングするための処理コード

フローチャートのコンタクト・プロセスの実稼働実行は、以下のシステム・テーブ ルに影響します。

- 処理履歴 (UA\_Treatment)
- ベース・コンタクト履歴 (UA\_ContactHistory)
- 詳細コンタクト履歴 (UA\_DtlContactHist)
- オファー履歴

コンタクト履歴の場合に書き込みが行われるシステム・テーブルについて詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

## 処理履歴 (UA\_Treatment)

フローチャートが実稼働モードで実行されるたびに、処理履歴テーブル (UA\_Treatment) に行が追加されます。つまり、フローチャートが定期的に実行され るようにスケジュールしている場合、フローチャートの実行時に新たな実行が行わ れるたびに、コンタクト・セルと制御セルの両方で、セルごとの各オファーに対し て1つずつ、新しい処理セットが生成されます。これにより、Campaign では、処 理が生成されるたびに別個のインスタンスとして記録することで、可能な限り最も きめ細かなトラッキングが実現します。処理履歴がベース・コンタクト履歴と連動 することで、圧縮性の高い効率的な方法ですべてのコンタクト履歴情報が保管され ます。ベース・コンタクト履歴テーブル (UA\_ContactHistory) には該当するオーディ エンスのセル・メンバーシップ情報のみが記録されます。それに対し、処理履歴テ ーブル (UA\_Treatment) には各セルに提供される処理が記録されます。

各処理インスタンスはグローバルに固有の処理コードによって識別されます。この コードをレスポンス・トラッキングで使用して、特定の処理インスタンスに直接帰 属させることができます。

制御が使用された場合、処理履歴には制御セルのデータも記録されます。ターゲッ ト・セルに提供されたオファーに関連する行は、ターゲット処理と呼ばれます。制 御セルに提供されたオファーに関連する行は、制御処理と呼ばれます。コンタク ト・プロセスで制御セルがターゲット・セルに割り当てられた場合、ターゲット処 理に制御処理が関連付けられます。各制御処理には固有の処理コードも割り当てら れます。ただし、それらのコードは検証制御のメンバーには配布されません。制御 処理コードが生成される目的は、制御の識別用にカスタム・フローチャート・ロジ ックが使用される、カスタム・レスポンス・トラッキングを可能にすることです。 レスポンスを正確な制御処理インスタンスに帰属させられるよう、制御処理コード を調べて、イベントと関連付けることができます。

## ベース・コンタクト履歴 (UA\_ContactHistory)

ターゲット・セルおよび制御セルについて、コンタクト ID、セル、およびフローチャート実行日時の組み合わせごとに、ベース・コンタクト履歴テーブルに 1 行ずつ書き込まれます。

## 相互に排他的なセル・メンバーシップ

セルが相互に排他的なセルであり、各 ID が 1 つのセルにしか属すことができない 場合、割り当てられたオファーの数に関係なく、単一のコンタクト・プロセス内で 処理されるときは、各 ID がコンタクト履歴テーブル内の 1 行を占めることになり ます。例えば、「低価値」、「中価値」、および「高価値」のセグメントに対応す るセルを定義していて、顧客が一時点においてそれらのセグメントの 1 つにしか属 すことができない場合が、このケースに該当します。同じコンタクト・プロセス内 で「高い価値」セグメントに 3 つのオファーが提供された場合でも、ベース・コン タクト履歴にはセル・メンバーシップが記録されるため、ベース・コンタクト履歴 に書き込まれるのは 1 行のみです。

### 排他的でないセル・メンバーシップ

しかし、個人が複数のターゲット・セルに属すことができる場合(例えば、各ター ゲット・セルが複数の異なる資格ルールに基づいてオファーを受け取り、顧客がそ れらのオファーのうちゼロ、1 個、または複数を受け取る資格がある場合)、各個人 は、自分がメンバーになっているセルの数に応じた行数をコンタクト履歴テーブル に占めることになります。

例えば、「過去3カ月以内に購入を行った顧客」および「前四半期に少なくとも \$500払った顧客」という2つのセルを定義した場合、個人はこれらのセルの1つ または両方のメンバーになることができます。個人が両方のセルのメンバーである 場合、コンタクト・プロセスを実行すると、その個人のベース・コンタクト履歴に 2つのエントリーが書き込まれます。

個人が複数のターゲット・セルに属しているために、その人のコンタクト履歴テー ブルに複数の行が書き込まれる場合でも、同じコンタクト・プロセスで提供された すべてのオファーは単一の「パッケージ」または「邪魔なもの」と見なされます。 コンタクト履歴テーブル内の固有の「パッケージ ID」は、個人の特定コンタクト・ プロセスの特定実行インスタンスによって書き込まれた行を、まとめてグループ化 します。1人の個人または1件の世帯に対する「邪魔なもの」が複数生じるの は、その個人または世帯が別個のコンタクト・プロセスにある複数のセルに属して いた場合のみです。

#### 追加でトラッキングするフィールドのコンタクト履歴への書き込み

追加でトラッキングするフィールドを作成して、ベース・コンタクト履歴テーブル に挿入することができます。例えば、処理テーブルからの処理コード、あるいはオ ファー属性を、追加でトラッキングするフィールドとしてコンタクト履歴に書き出 すことができます。

ただし、ベース・コンタクト履歴に取得されるのはセル・メンバーシップであり、 各ターゲット・セルまたは制御セルで書き込まれるのはオーディエンス ID ごとに 1 行であるため、追加でトラッキングするフィールドをオファーまたは処理データ とともにベース・コンタクト履歴に挿入する場合、各ターゲット・セルまたは制御 セルの最初の処理のみが書き出されるので注意してください。

柳	 r.,	<b>• F</b>
	L	ni I
	r)	

セル	関連する制御セル	セルに提供されるオファー
TargetCell1	ControlCell1	OfferA、 OfferB
TargetCell2	ControlCell1	OfferC
ControlCell1	-	-

リストされたオファーを TargetCell1 および TargetCell2 に割り当てるコンタクト・ プロセスを含むフローチャートが (コンタクト履歴への書き込みを有効にして) 実稼 働で実行されると、セル、提供されるオファー、および実行日時の組み合わせごと に 1 つの処理が作成されます。つまり、この例では以下の 6 つの処理が作成され ます。

処理	処理コード
OfferA を受け取る TargetCell1	Tr001
OfferB を受け取る TargetCell1	Tr002
OfferA を受け取る ControlCell1	Tr003

処理	処理コード
OfferB を受け取る ControlCell1	Tr004
OfferC を受け取る TargetCell2	Tr005
OfferC を受け取る ControlCell1	Tr006

追加でトラッキングするフィールドとして処理コードをベース・コンタクト履歴に 追加した場合、各セルの最初のターゲット処理または制御処理のみが書き出されま す。したがってこの例では、各セルの最初の処理に対応する 3 つの行のみがベー ス・コンタクト履歴に書き込まれます。

セル	処理コード
TargetCell1	Tr001
ControlCell1	Tr003
TargetCell2	Tr005

この理由により、オファー・レベルの属性をベース・コンタクト履歴テーブルに取 得することは、適切な方法でない場合があります。完全なコンタクト情報が、以下 の場合にしか提供されないためです。

- 任意のターゲット・セルに 1 つのオファーのみが割り当てられている、および
- 各制御セルが1つのターゲット・セルのみに割り当てられている

それ以外のインスタンスではすべて、最初の処理 (または制御処理) に関連付けられ たデータのみが出力されます。代替手段としては、システム・テーブル UA\_ContactHistory および UA\_Treatment を結合することにより、データベース・ビ ューを使用してオファー・レベル情報をフラット化し、その情報にアクセスできる ようにすることです。この情報を代替コンタクト履歴に出力することもできます。

注: 詳細コンタクト履歴および代替コンタクト履歴では、動作が異なります。つま り、処理ごとに1行ずつ(セルごとに1行ずつではなく)書き込まれます。したが って、追加でトラッキングするフィールドとしてオファー属性情報を出力する場 合、すべての処理の行が書き出されるので、完全な処理情報を表示できます。

#### コンタクト履歴に対する更新

新しいエントリーは、コンタクト履歴テーブルの既存エントリーの後に付加されま す。「**履歴の消去**」機能を使用すると、選択したエントリーを手動で消去できま す。

## |詳細コンタクト履歴 (UA\_DtlContactHist)

詳細コンタクト履歴テーブルへの書き込みが行われるのは、同じセル内の複数の個 人がそれぞれ異なるバージョンのオファーを受け取る、というシナリオを使用する 場合のみです。例えば、同じセルのメンバーが同じ住宅ローンのオファーを受け取 っているが、そのオファーは、個人 A が金利 5% のオファーを受け取り、一方で 個人 B が金利 4% のオファーを受け取るようにパーソナライズできる、といった 場合です。詳細コンタクト履歴には、個人が受け取るオファー・バージョンごとに 各 1 行、および個人が受け取っているはずのオファー・バージョンに基づいた制御 セルごとに各 1 行が含まれます。

## オファー履歴

オファー履歴は複数のシステム・テーブルで構成されます。これらのテーブルに は、実稼働で使用されたオファー・バージョンに関する正確な情報がまとめて保管 されます。オファー履歴テーブルに新規行が追加されるのは、パラメーター化され たオファー属性値の組み合わせが固有である場合のみです。それ以外の場合は、既 存の行が参照されます。

コンタクト履歴テーブルについて詳しくは、「Campaign 管理者ガイド」を参照して ください。

## コンタクト履歴への書き込みの無効化

**重要:** コンタクト履歴への書き込みを無効にすることは可能ですが、コンタクト履 歴への記録を無効にしないことがベスト・プラクティスです。実稼働でキャンペー ンを実行し、コンタクト履歴に記録しない場合、基礎にある何らかのデータに変更 があった場合、後日この履歴を正確に再生成することはできません。

ただし、以下の 2 つの方法により、コンタクト履歴テーブルに書き込みを行わずに コンタクト・プロセスを実行できます。

- ・ 『テスト実行の実施』
- 『ログ・オプションを無効にする方法』

## テスト実行の実施

コンタクト履歴テーブルにエントリーが書き込まれるのは、フローチャートのコン タクト・プロセス (コール・リストまたはメール・リスト) が、コンタクト・ログ・ オプションを有効にした実稼働モードで実行された場合のみです。テスト実行で は、コンタクト履歴テーブルへの書き込みは行われません。

# ログ・オプションを無効にする方法

各コンタクト・プロセスは、実稼働実行中のコンタクト履歴への記録を無効にする ように構成できます。

- 1. コンタクト履歴への記録を無効にするコンタクト・プロセスをダブルクリックし ます。プロセス構成ダイアログが表示されます。
- 「ログ」タブをクリックします。コンタクト・トランザクションのログを構成す るためのウィンドウが表示されます。
- 3. コンタクト履歴への記録を抑制するには、「コンタクト履歴テーブルに記録」お よび「任意の保存先に記録」チェック・ボックスをクリアします。

オプションで、「詳細オプション」をクリックして「コンタクト履歴ログ・オプ ション」ウィンドウを表示することもできます。このウィンドウで、コンタクト 履歴にどの情報を記録するかをさらに詳しく制御できます。詳しくは、120ペー ジの『コンタクト・プロセス (メール・リストまたはコール・リスト)を構成す るには』を参照してください。 「OK」をクリックします。プロセス構成ダイアログが閉じ、変更が保存されます。このコンタクト・プロセスを実行した場合、これらのオプションを再び有効にするまで、コンタクト履歴テーブルにも代替のログ保存先にもエントリーは書き込まれません。

# コンタクト履歴およびレスポンス履歴の消去

例えば、誤って実稼働実行が行われた場合、または実稼働実行後にキャンペーンを 取り消すことを決定した場合などに、コンタクト履歴またはレスポンス履歴のレコ ードを消去することができます。

**重要:** コンタクト履歴およびレスポンス履歴を消去すると、このデータがデータベースから完全に削除されます。消去されたコンタクト履歴およびレスポンス履歴はリカバリーできません。後でリカバリーする必要が生じる可能性がある場合は、履歴を消去する前にシステム・テーブル・データベースをバックアップしてください。

すべての Campaign システム・テーブル間の参照整合性は常に保持されます。すべ てのコンタクト履歴テーブルは同時に書き込まれ、コンタクト履歴のクリーンアッ プもすべてのコンタクト履歴テーブルで同時に行われます。例えば、処理テーブル のエントリーは、ベース・コンタクト履歴テーブルまたは詳細コンタクト履歴テー ブルにそれらを参照するエントリーがある場合は削除できません。

コンタクト履歴を消去できるのは、それを実行する適切な権限がある場合、および 関連するレスポンス履歴レコードがない場合のみです。したがって、コンタクト履 歴を消去する場合は、関連するレスポンス履歴も消去する必要があります。

**重要:**一般的な状況では、対応するレスポンスが記録されているコンタクト履歴は 削除しないことが最良です。ただし、そのようなコンタクト履歴を削除する必要が ある場合は、関連するコンタクト履歴とレスポンス履歴のレコードをすべて消去す るか、レスポンス履歴レコードのみを消去するかを選択できます。

## コンタクト履歴およびレスポンス履歴の消去方法

**重要:** コンタクト履歴を消去すると、コンタクト履歴レコードがシステム・テーブ ルから完全に削除されます。このデータはリカバリーできません。

- 1. 「編集」モードのフローチャートで、履歴を消去するコンタクト・プロセスをダ ブルクリックします。プロセス構成ダイアログが表示されます。
- 2. 「**ログ**」タブをクリックします。コンタクト・トランザクションのログを構成す るためのウィンドウが表示されます。
- 3. 「**履歴の消去**」をクリックします。「コンタクト履歴の消去」ウィンドウが表示 されます

注: コンタクト履歴エントリーが存在しない場合に「履歴の消去」をクリックす ると、消去するエントリーがないことを示すエラー・メッセージが表示されま す。

該当する履歴の消去オプションを選択します。すべてのエントリーの消去、選択した日付範囲のすべてのエントリーの消去、または実行日時によって識別される特定のフローチャートの実行の消去を選択できます。

- 5. 「OK」をクリックします。
  - 選択したエントリーに対応するレスポンス履歴レコードが存在しない場合、確認メッセージが表示されます。
  - 選択したどのエントリーにも対応するレスポンス履歴レコードがない場合、 「履歴の消去オプション」ウィンドウが表示されます。以下のいずれかのオプションを選択します。
    - 関連するすべてのコンタクト履歴およびレスポンス履歴のレコードを消去 する:指定したエントリーに対応するコンタクト履歴およびレスポンス履歴 の両方を消去します。
    - 関連するレスポンス履歴のレコードのみを消去する:指定したエントリーに 対応するレスポンス履歴のみを消去します。コンタクト履歴レコードは消 去されません。
    - **キャンセル**: コンタクト履歴またはレスポンス履歴のいずれのレコードも消 去されません。
- 6. 選択した操作が完了すると、指定したレコードが消去されたことを示す確認メッ セージが表示されます。
- 7. 「OK」をクリックして確認メッセージを閉じます。
- 8. 「OK」をクリックしてプロセス構成ダイアログを閉じます。

# レスポンス・トラッキングについて

Campaign では、「レスポンス・トラッキング」という用語は、個人によって生じた イベントまたは操作が、それらの個人に提供されたオファーへの応答として生じた かどうかを決定するプロセスを表します。レスポンス・トラッキングには、検証コ ントロール・グループ内の個人の動作をトラッキングして、それらの個人がコンタ クトされなくても望まれた操作を実行したかどうかを確認する作業も含まれます。

Campaign では、キャンペーンへのレスポンスに関する以下の情報が取得されます。

- 応答者 トラッキング対象のレスポンス・タイプと動作が一致したオーディエンス・エンティティー (個々の顧客または世帯)のリスト。
- 応答者が実行した操作、およびその操作の日時 例えば、Web サイトでのクリ ックスルー、購入、特定の項目の購入など。
- 応答対象のオファー処理 Campaign 生成のコード (キャンペーン・コード、オファー・コード、セル・コード、または処理コード)、およびレスポンダーによって返された非ヌル値のオファー属性がすべて、レスポンス・トラッキングのために照合されます。
- レスポンスがどのように見なされるか 一致した、Campaign 生成コードまたは オファー属性の非ヌル値に基づき、レスポンスがどの程度キャンペーンに帰属し ているか、レスポンダーがオリジナルのターゲット・グループまたはコントロー ル・グループに属していたかどうか、および有効期限前にレスポンスを受け取っ たかどうかを判別します。

# レスポンス・トラッキングの実行

レスポンス・トラッキングは、レスポンス・プロセスを含むフローチャートを作成 することにより実行します。レスポンス・プロセスは、選択プロセスまたは抽出プ ロセスを通じてアクション・テーブルから入力を受け取ります。アクション・テー ブルは、すべてのアクションまたはイベントのレコードを含むファイルまたはテー ブルです。これらのアクションまたはイベントを評価することで、それらをレスポ ンスとして任意のコンタクトまたは制御の処理に帰属させる必要があるかどうかを 確認します。

レスポンス・プロセスはオファーへのレスポンスと見なす ID を処理、評価、およ び出力するように構成します。これは、アクション・テーブルのレスポンス・コー ド、またはその他の標準またはカスタムのオファー属性(あるいはこれらのコード と属性の両方)を何らかの形で組み合わせて照合を行った内容に基づきます。レス ポンス・プロセスにマップされる Campaign 生成のコード(キャンペーン・コー ド、オファー・コード、セル・コード、または処理コード)はすべて、「対象のレ スポンス・コード」と見なされます。レスポンス・プロセスにマップされるその他 のオファー属性(標準、カスタムを問わず)はすべて、「対象のレスポンス属性」と 見なされます。例えば、「関連製品」フィールドは、推定レスポンスをトラッキン グするためのオファー属性として使用できます。レスポンス処理ロジックでは、対 象のレスポンス・コードと対象のレスポンス属性の両方を使用して、直接レスポン スと推定レスポンスを判別します。

レスポンス・プロセスを実行すると、それらのレスポンスがレスポンス履歴システム・テーブル (UA\_ResponseHistory、または各オーディエンス・レベルの同等テーブル) に書き込まれます。コンタクト履歴と同様に、トラッキングするオーディエンス・レベルごとにレスポンス履歴システム・テーブルが 1 つずつ存在します。

レスポンス履歴で取得されたデータは、Campaign 内でパフォーマンス・レポートを 使用して分析に使用できるようになります。

Campaign は、レスポンス・トラッキングに関連する以下のデータを自動的に記録します。

- レスポンスが直接レスポンス (1 つ以上の Campaign 生成のコードが返されたもの)、推定レスポンス (レスポンス・コードが返されなかったもの) のどちらであるか
- レスポンスを受け取ったのが、特定のオファー・バージョンの有効期限の前か後か
- レスポンダーがキャンペーンのターゲット・セルまたは制御セルのどちらかに属しているか
- レスポンスが固有であるか複製であるか
- 完全一致、断片一致、および複数一致の各属性のスコア
- レスポンスに起因するレスポンス・タイプ (アクション)

### 複数のレスポンス・トラッキング・フローチャートの使用

企業のすべてのキャンペーン用に単一のレスポンス・トラッキング・フローチャー トを使用することができます。単一のアクション・テーブルを使用する場合、通常 はシステム管理者が、データを処理用にそのアクション・テーブルに書き込むよ う、セッションのフローチャートをセットアップしています。 ただし、Campaign の実装環境で、利便性のために、それぞれが別個のレスポンス・ トラッキング・フローチャートに関連している、1 つ以上のアクション・テーブル を使用する場合があります。

複数のレスポンス・トラッキング・フローチャートを使用するのは、以下の場合で す。

- 複数の異なるオーディエンス・レベルのレスポンスをトラッキングする場合
- リアルタイム処理とバッチ処理という対照的な要件がある場合
- 大量のデータの複製を避けたい場合
- 異なるシチュエーション用に特定のデータをハードコーディングしたい場合
- カスタムのレスポンス処理ロジックが必要な場合

#### 複数の異なるオーディエンス・レベルのレスポンスをトラッキングする場合

(必須) レスポンスを受け取り、トラッキングするオーディエンス・レベルごとに、 レスポンス・トラッキング・フローチャートが 1 つずつ必要です。レスポンス・プ ロセスは着信セルのそのオーディエンス・レベルで動作し、そのオーディエンス・ レベルに該当するレスポンス履歴テーブルに、自動的に書き込みを行います。2 つ の異なるオーディエンス・レベル (例えば、顧客と世帯) のレスポンスをトラッキン グするには、ほとんどの場合、2 つの別個のレスポンス・トラッキング・フローチ ャート内にある、2 つの異なるレスポンス・プロセスが必要です。

#### リアルタイム処理とバッチ処理という対照的な要件がある場合

(必須) レスポンス・トラッキング・セッションのほとんどはバッチ・フローチャートであり、アクション・テーブルに挿入されたイベントを定期的に処理します (例えば、顧客の購入の夜間処理)。レスポンス・トラッキングの実行頻度は、アクション・テーブルに挿入されるトランザクション・データの利用可能性に応じて異なります。

例えば、異なる複数のチャネル (Web とダイレクト・メールなど)からのレスポン スを処理する場合、各チャネルごとに着信トランザクション・データが利用可能に なる頻度が異なるため、それぞれ別個のレスポンス処理セッションが必要になる可 能性があります。

### 大量のデータの複製を避けたい場合

(オプション) 大量のトランザクション・ボリューム (例えば、1 日当たり数百万件 の販売トランザクション) を評価する必要がある場合、アクション・テーブルにそ のデータを ETL (Extract、Transform、Load) するのではなく、レスポンス・トラッ キング・フローチャートを作成して、ソース・データに対して直接マップすること ができます。

例えば、抽出プロセスで e-commerce システムの購入トランザクション履歴テーブ ルから (特定の日付範囲に基づき) 直接トランザクションをプルするレスポンス・ト ラッキング・フローチャートを作成し、さらに、この抽出からその履歴テーブル内 の列に直接マップするレスポンス・プロセスを作成することができます。

## 異なるシチュエーション用に特定のデータをハードコーディングしたい場合

(オプション)異なるシチュエーション (例えば、異なるチャネル)用に特定のデー タ (例えば、レスポンス・タイプ)をハードコーディングすることができます。例え ば、あるチャネル (例えば、「コール・センター」など)に固有の特定のレスポン ス・タイプ (例えば、「質問」)のみをトラッキングする必要がある場合、ユーザー 定義フィールドを作成してそれらのレスポンスをフィルタリングし、それをレスポ ンス処理フローチャートで使用して、コール・センター・データベースからすべて の質問をプルすることができます。データを単一のアクション・テーブルに書き込 むより、ユーザー定義フィールドを使用してレスポンス・トラッキングに必要なデ ータを作成し、そのデータをソースから直接プルする方が便利な場合があります。

### カスタムのレスポンス処理ロジックが必要な場合

(オプション)。レスポンスを帰属させるための独自のルールを作成する必要がある場合、カスタムのレスポンス・トラッキング・ロジックを実装するための別個のレス ポンス・トラッキング・フローチャートを作成することができます。例えば、「3 個買ったら1個無料」オファーへのレスポンダーを識別する必要がある場合、複数 のトランザクションを調べて、個人がレスポンダーとして適格かどうかを判別する 必要があります。適格な個人を見つけたら、その個人をレスポンス・プロセスに入 力し、処理コードと該当するレスポンス・タイプを使用してレスポンスを記録する ことができます。

## マルチパート・オファー・コードを使用したレスポンス・トラッキン グ

マルチパート・オファー・コード (つまり、2 つ以上のコードで構成されるオファ ー・コード) から成るユーザー定義フィールドを使用して、レスポンスをトラッキ ングすることができます。オファー・コードのすべての部分は、パーティション全 体の offerCodeDelimiter 構成プロパティーを使用して連結されている必要があり ます。次の例では、デフォルトの区切り記号「-」を使用して連結された 2 つの部 分から成る MultipleOfferCode というユーザー定義フィールドが作成されます。

MultipleOfferCode = string\_concat(OfferCode1, string\_concat("-",
OfferCode2))

ユーザー定義フィールドを操作フィールド候補として使用するようにレスポンス・ プロセスを構成する場合は、ユーザー定義フィールドを、マルチパート・コード内 の各才ファー・コードのオファー/処理属性と照合する必要があります。

### レスポンス・トラッキングの日付範囲

レスポンス・トラッキングでは、有効なオファー期間(すなわち、発効日以降、お よび有効期限以前)内にレスポンスが行われたかどうかを記録するほかに、すべて のオファーについてレスポンスが有効な日付範囲外に行われたかどうかも記録しま す。Campaignはオファーの有効期限後の構成可能期間に基づき、すべてのオファー の遅延レスポンスをトラッキングして、正式な終了日後にオファーが呼び戻された 頻度に関するデータを提供します。

Campaign のレスポンス・トラッキングの日付範囲はグローバルに設定され、すべて のキャンペーン・オファーに適用されます。システム管理者は、オファーの有効期 限後にレスポンスをトラッキングする日数を設定します。 この日付設定により、イベントと一致する可能性のある処理インスタンス数が自動 的に制限されます。日付範囲を狭くすると、パフォーマンスが向上します。処理テ ーブルから返される、一致の可能性があるインスタンスの数が少なくなるためで す。

日付範囲の設定について詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」の『キャンペーン終 了後にレスポンスを記録する日数を設定するには (Setting the number of days after a campaign ends to record responses)』を参照してください。

### 制御のレスポンス・トラッキング

コントロール・グループのレスポンスは、レスポンス・プロセスを使用してオファ ーのレスポンスと同時にトラッキングされます。

制御セルのレスポンスは、レスポンス・コードがすべて最初に破棄される点を除 き、推定レスポンスと同じ方法で処理されます。制御セルのメンバーからのレスポ ンスについては、レスポンス・トラッキング・コードはすべて無視され、すべての 対象の属性は制御処理インスタンスに照らして、一致があるか確認されます。 Campaign は、すべての制御処理に対して生成される内部のグローバルに固有の処理 コードを使用します。ただし、制御処理コードは提供されません。制御処理は常に コンタクトなしの検証制御であるためです。

同じイベントがターゲット処理インスタンスと制御処理インストールの両方に帰属 する場合も考えられます。例えば、ある特定の顧客が女性部門における購入の 10% についてのオファーのターゲットとなっていて、その顧客がその店舗からの購入に 関するモニターを行う検証コントロール・グループのメンバーでもある場合に、そ の顧客がクーポンを使って購入を行うと、そのイベントはターゲット処理インスタ ンス (クーポンの処理コードを使用) と制御処理インスタンスの両方に関連付けられ ます。また、コントロール処理インスタンスは、有効な日付範囲内および有効期限 切れ後もターゲット処理インスタンスと同じ方法で記録されます。これにより、タ ーゲット・セルの遅延アクティビティーに関する有効な制御比較が可能になりま す。

コントロール・セルのレスポンスでは完全一致属性または断片一致属性は使用され ず、常に複数一致属性が使用されます。つまり、レスポンダーがオファーの制御セ ルに属しており、そのレスポンダーのアクションが複数の制御処理の推定レスポン スとして適格性が認められた場合、これらの一致する制御処理はすべて、そのレス ポンスについてのクレジット (帰属) を受け取ります。

## パーソナライズされたオファーのレスポンス・トラッキング

データ駆動型でパーソナライズされた、つまりユーザー定義あるいはパラメーター 化されたオファー・フィールドを使用して、複数の異なるオファー・バージョンを 生成した場合、それらのパーソナライズされたオファーにレスポンスを正しく帰属 させるには、アクション・テーブルに、パラメーター化されたオファー属性フィー ルドを表すフィールドが含まれている必要があります。これらのフィールドがレス ポンス・プロセスに対象の属性としてマップされ、書き込まれると、それらのフィ ールドを使用してレスポンスをオファー・バージョンまたは処理インスタンスに対 して逆向きに照合することができます。これらの「対象の属性」の値を持つレスポ ンスは、オファー・バージョン履歴に、その処理への属性についてその個人に関し て記録された値と正確に一致している必要があります。 例えば、出発空港と到着空港によってパーソナライズされたフライト・オファーが ある場合、アクション・テーブルには「出発空港」と「到着空港」のフィールドが 含まれている必要があります。各フライトの購入トランザクションにはこれらの値 が含まれ、レスポンス・トラッキングでは、個人によって購入された特定のフライ トを、その人にプロモーションされたオファー・バージョンと照合できます。ま た、これらのフィールドはコントロール・グループのメンバーの推定レスポンスの トラッキングにも使用され、それらのメンバーが、自身にプロモーションされてい るはずのフライトを購入したかどうかが確認されます。

# レスポンス・タイプ

レスポンス・タイプとはトラッキング対象の特定のアクションのことで、クリック スルー、照会、購入、アクティベーション、使用などがあります。各レスポンス・ タイプは固有のレスポンス・コードによって表されます。レスポンス・タイプおよ びレスポンス・コードは Campaign レスポンス・タイプ・システム・テーブルでグ ローバルに定義され、すべてのオファーで使用できます。ただし、すべてのレスポ ンス・タイプがすべてのオファーに関連しているわけではありません。例えば、ダ イレクト・メール・オファーでクリックスルー・レスポンス・タイプを見受けるこ とは考えられません。

イベントがアクション・テーブルに書き込まれる際に、各イベント行に書き込める レスポンス・タイプは 1 つのみです。アクションのレスポンス・タイプ・フィール ドが空 (ヌル)の場合、デフォルトのレスポンス・タイプ (「不明」)としてトラッ キングされます。

単一のイベントを複数のレスポンス・タイプに関連付ける必要がある場合、レスポ ンス・タイプごとに1行ずつ、複数の行をアクション・テーブルに書き込む必要が あります。例えばある金融機関が、アクティベーション後の最初の月の間における 新規クレジット・カードの購入使用レベルを、レスポンス・タイプ

「Purch100」、「Purch500」、および「Purch1000」でトラッキングする場合、\$500 の購入では、「Purch100」と「Purch500」の両方のレスポンス・タイプでイベントを 生成する必要があると考えられます。その購入が両方の条件を満たすためです。

まとめて 1 つのレスポンス・イベントとして構成される、個々のトランザクション の複合シーケンスを検出する必要がある場合、適格なトランザクションを探すモニ ター・セッションが別個に必要であり、これらが検出されると、イベントがアクシ ョン・テーブルに送信されます。例えば、ある小売業者のプロモーションで、12 月 中に 3 枚の DVD を購入した顧客に特典が用意されている場合、フローチャートを 作成することにより、各顧客の DVD 購入枚数を計算し、3 枚以上購入した顧客を 選択し、それらの顧客を特殊なレスポンス・タイプ (例えば、「Purch3DVDs」)と 共にアクション・テーブルに書き込むことができます。

レスポンス・タイプについて詳しくは、「*Campaign* 管理者ガイド」を参照してください。

# レスポンス・カテゴリー

Campaign のレスポンスは以下の 2 つのカテゴリーに分類されます。

- 直接レスポンス オファーと共に送信された 1 つ以上の Campaign 生成のトラ ッキング・コードが返されており、返された対象の属性が一致している必要があ ります。
- ・ 推定レスポンス ― トラッキング・コードは返されていませんが、レスポンス・ トラッキングに使用されるオファー属性が少なくとも 1 つ返されて、一致してい ます。検証コントロール・グループからのレスポンスは、常に推定レスポンスで す。

# 直接レスポンス

レスポンスは、以下の場合に直接レスポンスと見なされます。

 レスポンダーが、Campaign によって生成された該当する可能性のある 1 つ以上 のターゲット処理インスタンスと正確に一致する、Campaign 生成のコード (キャ ンペーン・コード、セル・コード、オファー・コード、または処理コード) を 1 つ以上返した。

かつ

 ・返された「対象の属性」(すなわち、トラッキングのためにレスポンス・プロセス にマップされた任意のオファー属性のことで、標準またはカスタムのもの)の値 が、処理の属性の値と正確に一致している。

例えば、処理コードが対象のレスポンス・コードであり、「レスポンス・チャネ ル」が対象の属性である場合、処理コードの値が「XXX123」、レスポンス・チャネ ルの値が「小売店」である着信レスポンスは、対応する値がそれぞれ「XXX123」お よび「Web」である処理に対する直接一致とは見なされません。

対象の属性がヌル値のレスポンスは、そのオファー属性を持つ処理と照合すること はできません。例えば、「金利」の値がないレスポンスは、オファー属性として金 利を含むオファー・テンプレートから作成されたオファーと照合することはできま せん。

ただし、処理に存在しない対象の属性の値を持つレスポンスの場合、照合は抑制されません。例えば、「金利」オファー属性のないオファー・テンプレートから無料 配送オファーが作成された場合に、「金利」が対象の属性であるとすると、 Campaign が配送料無料オファーに関連する処理に対して該当する一致があるか検討 するときに、着信レスポンスの「金利」属性の値は問題になりません。

レスポンス・トラッキングでは、有効なオファー期間(すなわち、発効日以降、お よび有効期限以前)内にレスポンスが行われたかどうか、またはレスポンスが有効 な日付範囲外に行われたかどうかが検討されます。Campaignは、オファーの有効期 限後の構成可能な期間中の遅延レスポンスをトラッキングします。

また、レスポンス・トラッキングでは、直接レスポンスが、最初にコンタクトされ たグループ (すなわち、ターゲット・セル) に属するレスポンダーから送信されたか どうかも識別されます。

**注:** 直接レスポンスが最初にターゲットとなっていたグループから送信されたもの でなかった場合、そのレスポンスは「ウィルス性」レスポンス、つまり、「伝達さ れたもの」と見なされます。これは、そのレスポンダーが最初にオファーを受け取 ったわけではないが、何らかの方法で有効なレスポンス・コードを取得したことを 意味します。

レスポンスのうちのいくつがターゲット・グループから送信されたかを把握するこ とは、有益であると考えられます。特に、高価値顧客を獲得しようとする場合は重 要です。パフォーマンス・レポートでこれらの値を取り出して、最初のターゲッ ト・グループから送信された直接レスポンスの数と、ウィルス性レスポンスの数を 確認することができます。

直接レスポンスは、完全一致の場合と不完全一致の場合があります。

#### 直接完全一致

レスポンスは、それが帰属する単一のターゲット処理インスタンスを Campaign が 一意的に識別できる場合に直接完全一致であると見なされます。

注: トラッキングには Campaign 生成の処理コードを使用することがベスト・プラ クティスです。その処理コードが返された場合、Campaign が常に、帰属する処理イ ンスタンスを一意的に識別できるためです。

例えば、あるオファーでクーポン・コードとしてコンタクト・フローチャートから 生成された処理コードを使用した場合に、そのオファーのターゲット・セルのいず れかに属するレスポンダーによって処理コードが返されると、そのレスポンスはそ のオファーの直接完全一致となります。

該当するトラッキング・コードまたは属性を複数受け取った場合、処理インスタン スをカウントするには、すべてのコードと属性値が正確に一致している必要があり ます。つまり、レスポンダーがオファー・コード、処理コード、および非ヌル値の オファー属性を提供した場合、それらはすべて、処理内のコードおよびオファー属 性値と完全に一致していなければなりません。

#### 直接不完全一致

レスポンスは、それが帰属する処理インスタンスを Campaign が一意的に識別でき ないものの、返されたトラッキング・コード (複数の場合もあり)が、該当する可能 性のある複数のターゲット処理インスタンスと一致する場合に、直接不完全一致と 見なされます。

このレスポンスについてのクレジット (帰属) を受け取るターゲット処理インスタン スを絞り込むために、Campaign は、いずれかのターゲット処理インスタンスがレス ポンダーにコンタクトした場合、そのレスポンダーにコンタクトしなかった処理イ ンスタンスをすべて破棄します。どのターゲット処理インスタンスもレスポンダー にコンタクトしなかった場合、すべてのインスタンスが保持され、ウィルス性レス ポンスについてのクレジットを受け取ります。

例えば、高価値セグメントに属する顧客が、高価値および低価値の両方の顧客に提供されたキャンペーンからオファーを受け取り、オファー・コードを返した場合、 これは当初2つのターゲット処理インスタンス(1つは高価値セル、1つは低価値 セル)と一致します。このレスポンス・トラッキング・ルールを適用すると、実際 には高価値セルの処理インスタンスがこのレスポンダーをターゲットとしていて、 低価値セルの処理インスタンスはそうでなかったため、後者のインスタンスは破棄 されます。高価値顧客グループに関連する処理インスタンスのみが、このレスポン スについてのクレジットを受け取ります。

さらに、そのレスポンス日付が、残りのいずれかの処理インスタンスの有効日付範 囲内に該当した場合、その発効日から有効期限までの範囲に該当しない処理インス タンスはすべて破棄されます。

例えば、同じキャンペーンの1月インスタンスと2月インスタンスの両方で1人 の顧客にコンタクトが行われ、オファー・コードが返された場合、これは、2つの ターゲット処理インスタンス(1月と2月)と一致します。各オファー・バージョ ンがその発行月の終わりに有効期限切れとなった場合、2月にレスポンスが行われ ると、1月の処理インスタンスは有効期限切れになっているため、破棄されること になります。2月の処理インスタンスのみが、このレスポンスについてのクレジッ トを受け取ります。

レスポンス・トラッキング・ルールが適用され、無効なターゲット処理インスタン スがすべて破棄された後、Campaign は別の属性分析方式を使用して、残りの処理イ ンスタンスに与えるクレジットを計算します。

## 推定レスポンス

レスポンスは、以下の条件が満たされたときに推定レスポンスと見なされます。

- Campaign 生成のトラッキング・コード (キャンペーン・コード、セル・コード、 オファー・コード、または処理コード) が返されていない
- レスポンダーがターゲット・セルまたは制御セルに属している
- レスポンス・トラッキングに使用されたオファー属性の少なくとも1 つが返された
- 返されたオファー属性がすべて一致している

対象の属性がヌル値のレスポンスは、そのオファー属性を持つ処理と照合すること はできません。例えば、「金利」の値がないレスポンスは、オファー属性として金 利を含むオファー・テンプレートから作成されたオファーと照合することはできま せん。

ただし、処理に存在しない対象の属性の値を持つレスポンスの場合、照合は抑制されません。例えば、「金利」オファー属性のないオファー・テンプレートから無料 配送オファーが作成された場合に、「金利」が対象の属性であるとすると、 Campaign が配送料無料オファーに関連する処理に対して該当する一致があるか検討 するときに、着信レスポンスの「金利」属性の値は問題になりません。

さらに、レスポンスが推定レスポンスと見なされるためには、そのレスポンダーが コンタクトされている (すなわち、ターゲット・セルまたはコンタクトされたグル ープに属している) 必要があります。

例えば、洗濯用洗剤を \$1 割り引くクーポンが顧客に送信され、その顧客が洗濯用 洗剤を購入した場合 (たとえクーポンの引き換えが行われなくても)、Campaign は、 そのターゲット処理インスタンスに対する肯定的なレスポンスを推定します。

### コントロール・グループからの推定レスポンス

コントロール・グループ (Campaign において常に検証制御であるグループ)のメン バーからのレスポンスはすべて、推定レスポンスです。推定レスポンスの照合は、 検証コントロール・グループのメンバーからのレスポンスの帰属確認のための唯一 のメカニズムです。

コントロール・グループのメンバーはいかなるコミュニケーションも受け取らない ため、返すべきトラッキング・コードを持ち得ません。

レスポンス・トラッキングでは、コントロール・グループのメンバーをモニターし て、オファーを受け取っていなくても望まれた操作を実行したかどうかを確認しま す。例えば、あるキャンペーンが、当座預金口座オファーを使用して、当座預金口 座を持たない顧客のグループをターゲットとしているとします。コントロール・グ ループのメンバーがトラッキングされ、当座預金口座オファーと同じ期間内に当座 預金口座を開いたかどうかが確認されます。

着信イベントもすべて評価され、それらが制御処理インスタンスの推定レスポンス の可能性があるかどうかが確認されます。レスポンス・コードはすべて破棄され、 残りの対象の属性は、制御処理インスタンスに対して評価され、レスポンスの帰属 についての可能性が確認されます。

# 属性分析方式

Campaign は、オファーに対するレスポンスの帰属度を測る方法として以下の 3 つの方式をサポートします。

- 最適一致
- 断片一致
- 複数一致

これら 3 つのレスポンス属性分析方式はすべて、同時に使用され、レスポンス履歴 の一部として記録されます。これらの方式を 1 つだけ、どれかを組み合わせて、ま たは全部を選択して、さまざまなパフォーマンス・レポートで使用し、キャンペー ンとオファー・パフォーマンスを評価することができます。

レスポンス属性は、(処理インスタンスがレスポンダーにコンタクトしなかったため、またはターゲット・インスタンスが有効期限切れのため) 無効なレスポンスが 破棄された後に残っているターゲット処理インスタンスで実行されます。

例えば、3 つのオファーが提供されたターゲット・セル内のレスポンダーが 1 つの セル・コードを返したとします。この場合、正確な処理インスタンスを識別できま せん。最適一致属性では、3 つのオファーのうち 1 つを選んですべてのクレジット (帰属)をそれに与えます。断片一致属性では、3 つのオファーそれぞれに 1/3 ずつ のクレジットを与えます。複数一致属性では、応答についてのすべてのクレジット を 3 つすべてのオファーに与えます。

### 最適一致

最適一致属性では、単一のターゲット処理インスタンスのみが応答についてのすべ てのクレジット (帰属) を受け取り、一致する他のすべての処理インスタンスが受け 取るクレジットはゼロです。1 つの応答に対して複数の処理インスタンスが一致す る場合、Campaign は最新のコンタクト日付を持つ処理インスタンスを最適一致とし て選択します。同じコンタクト日時を持つ処理インスタンスが複数ある場合、 Campaign は任意でそのいずれかにクレジットを与えます。

注:同じコンタクト日時を持つ処理インスタンスが複数ある場合に、毎回同じイン スタンスにクレジットが与えられますが、Campaign が特定の処理インスタンスを選 択すると想定することはできません。

## 断片一致

断片一致属性では、一致する n 個すべての処理インスタンスが、レスポンスについ てそれぞれ 1/n のクレジット (帰属) を受け取ります。これにより、すべての属性 スコアの合計は 1 になります。

## 複数一致

複数一致属性では、一致する n 個すべての処理インスタンスが、レスポンスについ てのすべてのクレジット (帰属) を受け取ります。これは、処理のクレジットの過大 評価につながる可能性があるため、注意して使用する必要があります。コントロー ル・グループは常に、複数の属性を使用してトラッキングされます。コントロー ル・グループのメンバーからのレスポンスはすべて、すべてのクレジットを受け取 ります。

# 第 10 章 保管オブジェクト

頻繁に使用するキャンペーン・コンポーネントがある場合は、それらを保管オブジ エクトとして設計および保存するようにしてください。保管オブジェクトをフロー チャート間およびキャンペーン間で再使用することにより、時間を節約でき、キャ ンペーン間でより一貫性が保たれるようになります。

Campaign の保管オブジェクトには、以下のタイプがあります。

- ユーザー定義フィールド
- ユーザー変数
- カスタム・マクロ
- テンプレート
- 保管テーブル・カタログ

# ユーザー定義フィールドについて

ユーザー定義フィールドは、データ・ソースには存在しない変数であり、1 つ以上 の既存のフィールド (データ・ソースが異なる場合でも)から作成されます。多くの プロセスで、構成ウィンドウには「ユーザー定義フィールド」ボタンがあり、この ボタンを使用すると、テーブルへの出力を照会、セグメント化、ソート、計算、お よび提供するための新しい変数を作成できます。

明示的に作成するユーザー定義フィールドは、作成時に「**固定する**」オプションを 有効にすることによって、後続のプロセスで使用可能にすることができます。

一般に、プロセスで使用可能なユーザー定義フィールドは、「**ユーザー定義フィー** ルド」フォルダーにリストされています。ユーザー定義フィールドは、ユーザー定 義フィールドが作成されたプロセスでのみ使用可能です。プロセスでユーザー定義 フィールドを作成しなかった場合は、このリストに「**ユーザー定義フィールド**」フ ォルダーは表示されません。

ユーザー定義フィールドを後続プロセスではない別のプロセスで使用するには、ユ ーザー定義フィールド式を「**ユーザー定義フィールド式**」リストに保管します。 「ユーザー定義フィールド式」リストに組み込むと、ユーザー定義フィールドがす べてのプロセスおよびすべてのフローチャートで使用できるようになります。

## ユーザー定義フィールドの作成

ユーザー定義フィールドは、ユーザー定義フィールドをサポートするプロセスの構 成ウィンドウから作成します。

ユーザー定義フィールド式に使用できるのは、プロセス構成ダイアログで選択され たテーブルのフィールドのみです。目的のテーブルが表示されていない場合は、そ のテーブルがソース・テーブルとして選択されていることを確認してください。

### ユーザー定義フィールドの命名上の制約

ユーザー定義フィールド名には、以下の制約があります。

- ユーザー定義項目の名前は、以下のタイプの名前と同じにすることはできません。
  - INSERT、UPDATE、DELETE、WHERE などのデータベース・キーワード。
  - マップされたデータベース表内のフィールド。
- ユーザー定義項目の名前に Yes や No という単語を使用することはできません。

これらの命名上の制約に従わないと、正しくない名前のユーザー定義フィールドが 呼び出された場合に、データベース・エラーが発生して接続が切断される可能性が あります。

注: ユーザー定義フィールド名には、文字に関する特定の制約もあります。詳しくは、265ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

### ユーザー定義フィールドを作成するには

1. ユーザー定義フィールドをサポートするプロセスの構成ウィンドウから、「**ユー ザー定義フィールド**」をクリックします。

「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウが開きます。

- 2. このプロセスで以前に作成されたすべてのユーザー定義フィールドが、「フィー ルド名」リストに表示されます。新しいユーザー定義フィールドを作成するに は、別の名前を入力します。
- 3. このフィールドの計算値を保管して渡す場合は、「永続保存」チェック・ボック スにチェック・マークを付けます。このオプションを指定した場合、それ以降の プロセスでユーザー定義フィールドが使用可能になります。
- 「式」領域で直接ユーザー定義フィールドを定義するか、または式ヘルパーを使用します。選択可能なフィールドをダブルクリックすると、それを「式」領域に追加することができます。

ユーザー定義フィールドでは NULL 値が可能です。スナップショットで NULL 値を返すには、NULL を使用します。 Campaign マクロでユーザー定義フィール ドを使用する場合は、NULL\_STRING を使用することによって、文字列データ型 の NULL 値を返します。

ユーザー定義フィールドに文字列を定数として入力できます。文字列を使用する 場合は、二重引用符で囲む必要があります。例えば、"my string" のようにしま す。数値文字列に引用符は不要です。

- (オプション) このユーザー定義フィールドをリストに保存しておき、それを別の プロセスまたはフローチャートで再び使用できるようにするには、「保存された ユーザー定義フィールド」をクリックします。また、このオプションを使用する ことによって、既存のユーザー定義フィールドをロードしたり、保管されている ユーザー定義フィールドのリストを編成したりすることもできます。
- 6. 「構文チェック」をクリックして、エラーを検出します。
- 7. 「**OK**」をクリックして、ユーザー定義フィールドを保存し、プロセス構成ダイ アログに戻ります。

## 既存のユーザー定義フィールドから新しいユーザー定義フィールドを 作成するには

1. ユーザー定義フィールドをサポートするプロセスの構成ウィンドウから、「**ユー ザー定義フィールド**」をクリックします。

「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウが表示されます。

2. 「フィールド名」ドロップダウン・リストから、新しいユーザー定義フィールド を作成する基となる既存のユーザー定義フィールドを選択します。

選択したユーザー定義フィールドの式が「式」領域に表示されます。

3. 既存のユーザー定義フィールドの名前を、新しいユーザー定義フィールドに付け たい名前に変更します。

重要: ユーザー定義フィールドの名前に「Yes」または「No」という語を使用することはできません。このような名前を使用すると、これらのユーザー定義フィールドが呼び出されるときにデータベースが切断されます。

- 4. ユーザー定義フィールド式を必要に応じて編集します。
- 5. 「OK」をクリックして、新しいユーザー定義フィールドを保存し、プロセス構成ダイアログに戻ります。

### カスタム・マクロを使用してユーザー定義フィールドを作成するには

 ユーザー定義フィールドをサポートするプロセスから、「ユーザー定義フィール ド」をクリックします。

「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウが表示されます。

2. 「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウで、「入力サポート」をクリック します。

カスタム・マクロのリストが「入力サポート」に表示されます。

3. リストのマクロをダブルクリックして、マクロを選択します。

マクロの宣言および説明が表示され、マクロが「入力サポート」ウィンドウに挿 入されます。

- 4. 「**条件フィールド**」リストから適切なフィールドを選択して、式を完成させま す。
- 5. 「OK」をクリックして、新しいユーザー定義フィールドを保存し、プロセス構成ダイアログに戻ります。

### ユーザー定義フィールドの保管

ユーザー定義フィールドは、ユーザー定義フィールドが作成されたプロセスと、後 続のプロセス内でのみ使用可能です。例えば、プロセス内に、以下の式で Pct\_Usage という名前のユーザー定義フィールドを定義するとします。

(Curr\_bal / Credit\_limit) \* 100

Pct\_Usage は他のプロセス(「固定する」が有効になっている場合は、その直後のプロセス以外)では使用できません。

ただし、他の照会を保存するのと同じ方法で、ユーザー定義フィールドの定義を保存できます。ユーザー定義フィールドの定義を「ユーザー定義フィールドの定義を保存できます。ユーザー定義フィールド式」リストに保管して、名前(例えば、Pct\_of\_limit\_used)を付けることができます。後で、同じフローチャートまたは別のフローチャート内の別のプロセスで同じユーザー定義フィールドを使用する場合は、最初から再構成するのではなく、「ユーザー定義フィールド式」リストからPct\_of\_limit\_usedを選択して、ユーザー定義フィールド式を挿入することができます。

### ユーザー定義フィールドを保存するには

- 1. ユーザー定義フィールドをサポートするプロセスで、保存するユーザー定義フィ ールドを作成します。
- 2. 「ユーザー定義フィールド式」をクリックします。

「式の保存/呼び出し」ウィンドウが表示されます。

- 3. 「現在の式を保存する」を選択します。
- 4. **「OK」**をクリックします。
- 5. 「式の保存」ウィンドウを使用して、このユーザー定義フィールドを保存する場 所、セキュリティー・ポリシー (該当する場合)、およびこのフィールドに関する 説明を指定します。
- 6. 「保存」をクリックします。

注:既に作成されているユーザー定義フィールドを保存する場合は、「フィール ド名」ドロップダウン・リストからユーザー定義フィールドを選択します。ユー ザー定義フィールド式が「式」領域に表示されている場合は、「保存された式 (Stored Expressions)」をクリックします。

### ユーザー定義フィールド式を使用するには

- ユーザー定義フィールドをサポートするプロセスで、「ユーザー定義フィール ド」をクリックするか、「ツール」>「ユーザー定義フィールド式」をクリック して、「式の呼び出し/整理」ウィンドウにアクセスします。
- 2. ユーザー定義フィールド式のリストから、使用するユーザー定義フィールド式を 選択します。

## ユーザー定義フィールドを永続化するには

ユーザー定義フィールドを永続化すると、計算値を保管して後続のプロセスで使用 できるように、Campaign に指示を与えることになります。これにより、Campaign が、これらの値をフローチャートのダウンストリームで再計算する必要がなくなる ため、時間とリソースが節約されます。

1. ユーザー定義フィールドをサポートするプロセスの構成ウィンドウから、「**ユー ザー定義フィールド**」をクリックします。

「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウが表示されます。

2. このフィールドの計算値を保管して渡す場合は、「**固定する**」チェック・ボック スを選択します。

### 例: 永続的なユーザー定義フィールド

選択プロセスを、ユーザー定義フィールドに対する制約に基づいて ID を選択する ように構成し、そのユーザー定義フィールドが組み込まれている選択されたレコー ドを出力するためにスナップショット・プロセスに接続することができます。ユー ザー定義フィールドを永続的とマークする場合、計算値が選択プロセスからスナッ プショット・プロセスに渡されます。

永続的なユーザー定義フィールドの別の用途は、集約型のユーザー定義フィールド (AVG や GROUPBY など) に使用するというものです。これらの集約フィールドは 現行セル内の複数行のデータに基づいて計算されるため、これらの集約フィールド の値はセルの内容が変わると変更されます。永続的なユーザー定義フィールドで は、元の計算値を保持し、その値を他のプロセスに伝えることができます。ユーザ ー定義フィールドを再計算する場合、計算値は現行セル内の残りのレコードに基づ いて取得します。

例えば、2 つの選択プロセスからの入力を処理するスナップショット・プロセスな どのように、複数の入力を処理するプロセスがある場合、ダウンストリーム・プロ セスは、すべての永続的なユーザー定義フィールドを使用できます。

永続的なユーザー定義フィールドが、すべての着信選択プロセスで使用可能になっ ているわけではない場合で、スナップショット・プロセスの出力に組み込まれてい る場合、そのスナップショット・プロセスは、その永続的なユーザー定義フィール ドを持たない選択プロセスのすべての出力行の永続的なユーザー定義フィールドに ついて NULL 値を表示します。

永続的なユーザー定義フィールドが、すべての着信選択プロセスで使用可能になっ ているわけではない場合で、これを使用してセグメント・プロセスを定義する場 合、セグメント・プロセスでは、その永続的なユーザー定義フィールドを持たない 選択プロセスのセグメントは空になります。

すべての選択プロセスで使用可能になっているわけではない複数の永続的なユーザ ー定義フィールドを使用する式でセグメントを定義しようとすると、セグメント・ プロセスは未構成のままになります。

以下のガイドラインが永続的なユーザー定義フィールド (PDF) に適用されます。

- PDF がインバウンド・セル (ベクトル) にアタッチします
- PDF が照会実行前に計算されます
- ・以下のプロセスで複数の PDF が使用可能です。
  - スナップショット: PDF がセルに定義されていない場合、値は NULL です。
     単一 ID が 1 つのセルより大きい場合、セルごとに 1 行が出力されます。
  - セグメント: 複数の入力セルを選択する場合、PDF はフィールド別のセグメン テーションに使用できません。 PDF は、照会がセグメント内で使用する場合 は、すべての選択済み入力セルに存在している必要があります。
- PDF は、データ内での ID 値の発生回数に関係なく、ID 値ごとに単一値 (ラン ダムに選択される)のみを保持します。したがって、出力にテーブル・フィール ドが含まれていない (IBM ID は含まれている)場合は、ID 値ごとのレコードは 1 つのみです。

ただし、テーブル・フィールドに基づいてユーザー定義フィールドを使用する場合、出力にはテーブル・フィールドが間接的に組み込まれます。したがって、ID 値のインスタンスごとにレコードがあります。(言い換えると、ID 値がデータ内 で7回発生する場合、7個のレコード出力があります。)

永続的なユーザー定義フィールドは、オーディエンス ID ごとに単一の 値のみを保 管します。この値は、使用可能な値からランダムに選択されます。つまり、非正規 化データを処理する場合は、目的の動作を実現するために GROUPBY マクロ関数を 使用する必要があります。

例えば、購入トランザクション・テーブルから顧客が行った単一トランザクション の最高金額を検索して、これをダウンストリーム処理の永続的なユーザー定義フィ ールドとして保存するとします。以下のようなユーザー定義フィールドを作成(お よび永続的なユーザー定義フィールドとして永続化)できます。

Highest\_purchase\_amount = groupby(CID, maxof, Purch\_Amt)

以下のような非正規化購入トランザクション・データに対する計算結果は、以下の ようになります。

CID	DATE	PURCH_AMT	HIGHEST_PURCHASE_AMOUNT
А	1/1/2007	\$200	\$300
А	3/15/2007	\$100	\$300
А	4/30/2007	\$300	\$300

ユーザー定義フィールドを永続化する場合、任意の値 (すべて \$300) が (ランダム に) 選択され、顧客 A の \$300 の値が永続化されます。

2 番目の少し不明瞭な例では、固有のモデル X のスコア設定テーブルから予測モデル・スコアを選択します。ユーザー定義フィールドは、以下のようになっているとします。

ModelX\_score = groupby(CID, maxof, if(Model = 'X', 1, 0), Score)

データは、以下のとおりであるとします。

CID	MODEL	SCORE	MODELX_SCORE
А	А	57	80
А	В	72	80
А	Х	80	80

ユーザー定義フィールド ModelX\_Score を永続化すると、スコア値が 80 である目 的の結果が引き出されます。以下のユーザー定義フィールドを作成するのは、誤り です。

Bad\_ModelX\_score = if(Model = 'X', Score, NULL)

これは、以下のような結果になります。

CID	MODEL	SCORE	BAD_MODELX_SCORE
А	А	57	NULL
CID	MODEL	SCORE	BAD_MODELX_SCORE
-----	-------	-------	------------------
А	В	72	NULL
А	X	80	80

ユーザー定義フィールド Bad\_ModelX\_score を永続化する場合、永続化される値は NULL または 80 です。非正規化データを処理する場合で、ユーザー定義フィール ド値がすべて同じでない場合は、そのユーザー定義フィールドを永続化すると、結 果として任意の 値が返される場合があります。例えば、Derived\_field\_Score = SCORE と定義して、これを永続化すると、顧客 A の値は 57、72、または 80 に なります。目的の動作となるようにするには、GROUPBY マクロを顧客 ID に対し て使用し、ユーザー定義フィールド値がその顧客のすべてのデータで同じ になるよ うにする必要があります。

## ユーザー変数について

Campaign は、ユーザー変数をサポートします。このユーザー変数は、照会および式 を作成する場合にプロセス構成中に使用できます。

#### ユーザー変数を使用するためのガイドライン

ユーザー変数には、以下のガイドラインが適用されます。

- ユーザー変数は、ユーザー変数が定義され使用されるフローチャートに対してロ ーカルですが、そのフローチャート内でグローバル・スコープを持ちます。
- ユーザー変数は、UserVar.UserVarName という構文を使用します。
- ユーザー変数には「初期値」があります。これは、ユーザー変数が「ユーザー変数」ダイアログで最初に定義されるときに割り当てられる値です。「初期値」は、フローチャートの実行を行う前に「現在の値」を設定するためだけに使用されます。これは、Campaign がフローチャート実行中に使用する「現在の値」です。

注: ユーザー変数の「現在の値」が設定されていない状態でプロセスまたはブラ ンチを実行すると、Campaign はこのユーザー変数を解決できなくなります。 Campaign は、フローチャートを実行する前に、ユーザー変数の「現在の値」を 「初期値」に設定するだけで、その他の処理は実行しません。

- ユーザー変数の「現在の値」は、選択プロセスの「ユーザー定義フィールド」ウ ィンドウで変更できます。
- ユーザー変数は、定数または式 (UserVar.myVar = Avg(UserTable.Age) など) に設 定できます。

注: 複数の値 (テーブル内のレコードごとに 1 つの値を返す UserTable.Age+3 など) を返す式を使用する場合、ユーザー変数は最初に返される値に設定されます。

- ユーザー変数を SQL ステートメント内で使用する場合は、ユーザー変数を引用 符 (単一引用符でも二重引用符でも) で囲まないでください。
- オブジェクト名をデータベースに渡す場合(例えば、フローチャート名を含むユ ーザー変数を使用する場合)、特定のデータベースでサポートされている文字だけ

でオブジェクト名が構成されていることを確認する必要があります。そうしない と、データベース・エラーを受け取ります。

- ユーザー変数の値は、プロセス実行時に渡すことができます。
- ユーザー変数は、発信トリガーでサポートされています。
- ユーザー変数は、カスタム・マクロでの使用がサポートされています。

## ユーザー変数を作成するには

1. 「編集」モードのフローチャートで、「オプション」アイコンをクリックして 「ユーザー変数」を選択します。

「ユーザー変数」ダイアログが表示されます。

- 2. 「変数名」列で、<項目を追加するにはここをクリック> ホット・スポットをク リックして、新規ユーザー変数の名前を入力します。
- 「データ型」列で、ドロップダウン・リストからデータ型を選択します。データ 型を選択しない場合、「OK」をクリックすると、アプリケーションによって 「なし」が選択されます。

データ型を「**なし**」にすると、予測不能な結果を生じるおそれがあります。この 発生を回避するために、正しいデータ型を指定します。

- 「初期値」列に、ユーザー変数の初期(開始)値を入力します。また、列内でク リックすると使用可能になる省略符号ボタンをクリックして、選択可能な値のフ ィールドのプロファイルを作成することもできます。
- 5. 「現在の値」列に、ユーザー変数の現行値を入力します。また、列内でクリック すると使用可能になる省略符号ボタンをクリックして、選択可能な値のフィール ドのプロファイルを作成することもできます。
- 6. 作成するユーザー変数ごとに、これらのステップを繰り返します。
- 7. ユーザー変数を定義し終わったら、「OK」をクリックします。

アプリケーションによって、これらの新規ユーザー変数が保管されます。これら の変数は、後でプロセスの構成時にアクセスできます。

フローチャート実行が行われると、各ユーザー変数の「現在の値」がユーザー変数 ごとに「現在の値」セクション内に表示されます。現行値が初期値と異なる場合、 「デフォルトに復元する」をクリックして、初期値を復元することができます。

注: ユーザー変数の「現在の値」が選択プロセスで再定義される場合、「現在の 値」を「初期値」に手動でリセットしても、フローチャート、ブランチ、またはプ ロセスの実行中のユーザー変数の値には影響を与えません。

## カスタム・マクロについて

カスタム・マクロは、IBM 式、未加工 SQL、または値を含む未加工 SQL のいずれ かを使用して作成する照会です。カスタム・マクロは、変数もサポートしているた め、カスタム・マクロの設計により置換される、保存された照会よりもはるかに強 力です。 カスタム・マクロを保存して、フローチャート内でのプロセスの構成や、ユーザー 定義フィールドの定義に使用できます。

未加工 SQL がサポートされることにより、アプリケーション・サーバーで未加工 データをフィルタリングしたり操作したりするのではなく、複雑なトランザクショ ンをデータベースで実行できるようになるため、パフォーマンスが向上します。

Campaign は、以下の 3 つのタイプのカスタム・マクロをサポートしています。これらのマクロでサポートされる変数の数に制限はありません。

- IBM 式を使用するカスタム・マクロ
- ・ 未加工 SQL を使用するカスタム・マクロ
- 未加工 SQL を使用し、指定した値が含まれているカスタム・マクロ

**重要:**技術的な知識を持たないユーザーがカスタム・マクロを使用できるため、カ スタム・マクロを作成する場合は、カスタム・マクロがどのように機能するのかを 注意深く説明したり、類似したマクロを特別なフォルダーにまとめたりして、ユー ザーがカスタム・マクロを誤って使用したり、予期しないデータを取り出したりし ないようにする必要があります。

## カスタム・マクロを作成するには

1. 「**編集**」モードのフローチャート・ページで、「**オプション**」アイコンをクリ ックして「**カスタム・マクロ**」を選択します。

「カスタム・マクロ」ダイアログが表示され、既存のカスタム・マクロが表示 されます。

- 2. 「新規項目」をクリックします。
- 3. 「**保存先**」ドロップダウン・リストから、カスタム・マクロの保存先のフォル ダー・ロケーションを選択します。
- 4. 「**名前**」フィールドで、カスタム・マクロを参照できるように、以下の構文を 使用してカスタム・マクロの名前と宣言を入力します。

MacroName(var1,var2,...)

表現する必要があるのは、カスタム・マクロの名前(固有でなければならない) と変数のリストです。

「*MacroName*」は英数字でなければなりません。 MacroName 文字列にスペースを使用することはできませんが、下線 (\_) は使用できます。

注:カスタム・マクロと組み込みマクロが同じ名前の場合は、カスタム・マクロが優先します。ベスト・プラクティスとして、混乱を避けるために、カスタム・マクロには演算子の名前や Campaign の組み込みマクロと同じ名前を付けないでください。新しいカスタム・マクロを常に使用し、組み込みマクロをアクセス不能にする場合は例外です。

重要:変数名は、「式」ウィンドウのカスタム・マクロ定義の変数名と同じで なければならず、括弧で囲んだコンマ区切りリストとして表現する必要があり ます。

- 5. 「**セキュリティー・ポリシー**」ドロップダウン・リストから、新しいカスタ ム・マクロのセキュリティー・ポリシーを選択します。
- 6. オプションで、「説明」フィールドを使用して新しいカスタム・マクロの説明 を入力し、カスタム・マクロの目的と各変数が表す内容を明確にします。
- 7. 「**式の分類**」ドロップダウン・リストから、作成するカスタム・マクロの種類 を選択します。
  - 「SQL(ID)」を選択する場合は、「データベース」フィールドのドロップダウン・リストからデータベースを選択する必要もあります。
  - 「SQL(ID+データ)」を選択する場合は、「データベース」フィールドのドロップダウン・リストからデータベースを選択し、「値タイプ」ドロップダウン・リストからフィールドの値タイプを選択する必要もあります。ここで選択する値タイプが正確であることを確認してください。そうでないと、後でこの照会のプロファイルを作成しようとすると、「タイプが一致しない」という主旨のエラーが発生します。
  - 値タイプとして「テキスト」を選択した場合は、「データ長 (バイト数)」フィールドに値タイプのデータ長をバイト単位で指定します。このバイト単位のデータ長の情報は、データベースから取得する必要があります。データベースへのアクセス権限がない場合や、この情報を取得できない場合は、256(最大データ長)と入力します。
- 8. 「**式**」フィールド内をクリックして、「選択条件の指定」ウィンドウを開きま す。
- 9. 照会式を作成します。使用できる変数の数に制限はありません。変数の構文は 英数字で、変数は不等号括弧 (<>) で囲む必要があります。オペランド (値と文 字列) と演算子には、変数を使用できます。

**重要:**フローチャート・ユーザー変数をカスタム・マクロ定義に使用しないで ください。カスタム・マクロはグローバルですが、フローチャート・ユーザー 変数はグローバルでないためです。

#### 例: ID と値を選択する未加工 SQL を使用するカスタム・マクロ

ave Under: None	*
ems List:	Name:
selecti D_value     selecti Donly     GenSelect(id,table,opt,val)	GenGroupBy(id,val1,table,val2)
	Security Policy:
	Global Policy
	Note:
	id = customer ID val1 = field to perform sum on
	val2 = field to group by table = some table
	cauve - some cauve
	Expression: Edit
	select <id>, sum(<val1>) from  group by <id>,<val2></val2></id></val1></id>
	Expression Type: Raw SQL Selecting ID + Value
	Database: DCC_CUST_DATA 💌
	Value Type Numeric width (# Bytes):

10. 「保存」をクリックして、カスタム・マクロを保存します。

カスタム・マクロが保管され、名前によってアクセスできるようになります。 11. 「閉じる」をクリックして、「カスタム・マクロ」ダイアログを終了します。

## カスタム・マクロを使用するためのガイドライン

カスタム・マクロを作成または使用するときは、以下のガイドラインに留意してく ださい。

- カスタム・マクロの名前は英数字でなければなりません。名前文字列にスペース を使用することはできませんが、下線(\_)は使用できます。
- データ・ソースがプロパティー ENABLE\_SELECT\_SORT\_BY = TRUE で構成されている場合は、返されるレコードを作業を行っているオーディエンス・レベルのオーディエンス・キー・フィールドによってソートするために、「ORDER BY」節を指定して未加工 SQL カスタム・マクロを作成する必要があります。そうしないと、ソート順が期待どおりでない場合は、カスタム・マクロをスナップショット・プロセスのユーザー定義フィールドで使用するとエラーが生成されます。
- カスタム・マクロから返された値を比較しない場合、値が数値の場合は、ゼロ以外の値は TRUE として扱われ (したがって、これらの値に関連付けられている ID が選択される)、ゼロの値は FALSE として扱われます。ストリング値は常に FALSE として扱われます。
- 未加工 SQL を使用するカスタム・マクロを作成する場合は、一時テーブルを使用すると、処理する必要があるデータ量にスコープを設定することによって未加工 SQL のパフォーマンスが大幅に高速化される場合があります。

カスタム・マクロの基礎ロジックで一時テーブルを使用する場合は、ロジックで 障害が起こらないように一時テーブルがデータベースに保存されます。

ただし、カスタム・マクロを最上位 SELECT で使用する場合は、一時テーブルを データベースに保存するために Campaign が使用する履歴がないため、ロジック は失敗します。

したがって、未加工 SQL を使用するカスタム・マクロを作成する場合は、同じ カスタム・マクロの 2 つのバージョンを作成する必要がある場合があります。 1 つは一時テーブル・トークンを使用するカスタム・マクロで、もう 1 つは一時テ ーブル・トークンを使用しないカスタム・マクロです。

ー時テーブル・トークンを使用しないカスタム・マクロは、ツリーの最上位(例 えば、最初の SELECT)で使用できます。一時テーブル・トークンを使用するカ スタム・マクロは、利用する一時テーブルがあれば、ツリーの最上位以外の場所 で使用できます。

 カスタム・マクロから返される値を結合する場合、非正規化データに対して照会 を実行すると、期待どおりの動作ではない自己結合が発生する可能性がありま す。

例えば、値を返す未加工 SQL をベースにしたカスタム・マクロを使用し、(例え ば、スナップショット・プロセスで)カスタム・マクロと、カスタム・マクロの ベースになっているテーブルの別のフィールドを出力する場合、Campaign は、そ のテーブルに対して自己結合を実行します。テーブルが正規化されていない場合 は、デカルト積になります (つまり、表示されるレコード数が予想より多くなり ます)。

カスタム・マクロの定義は現行プロセスにコピーされないため、カスタム・マクロは自動的に参照になります。

実行時に、カスタム・マクロは UA\_CustomMacros システム・テーブル内 (ここ に定義が保管されます) でカスタム・マクロの定義を検索することによって解決 され、その後、使用または実行されます。

保存された照会とは異なり、カスタム・マクロの名前は固有で、フォルダー・パスとは無関係でなければなりません。5.0 より前のリリースでは、Aという名前の保存された照会を、例えば F1 と F2 の両方のフォルダーに置くことが可能でした。

Campaign は、旧リリースの保存された照会をサポートします。ただし、非固有の 保存された照会への参照では、次の古い構文を使用する必要があります。

storedquery(<照会名>)

- カスタム・マクロ内のユーザー変数を解決する場合、Campaign は、構文の検査時 にユーザー変数の現在の値を使用します。現在の値がブランクのままの場合、 Campaign はエラーを生成します。
- 一時テーブル・トークンは、現行プロセスが使用できる一時テーブル内の一連の オーディエンス ID によってデータベースからプルダウンされるデータ量にスコ ープを設定する、パフォーマンス最適化詳細機能として提供されています。この ID の一時テーブル・リストは、現行セル内の ID のスーパーセットである可能性

があります。したがって、一時テーブルに対して実行される集約関数 (平均や合 計など) はサポートされず、間違った結果を生成する可能性があります。

- 複数の異なるデータベースでカスタム・マクロを使用する場合、未加工 SQL は 特定のデータベースに固有である可能性があるため、未加工 SQL ではなく IBM 式を使用することをお勧めします。
- カスタム・マクロに未加工 SQL や別のカスタム・マクロが含まれている場合 は、未加工 SQL が実行される前にカスタム・マクロが解決され、実行され、値 が返されます。
- Campaign は、コンマをパラメーターの区切り記号として扱います。コンマをパラメーターのリテラル文字として使用する場合は、次の例のように大括弧 ({}) でテキストを囲みます。

TestCM( {STRING\_CONCAT(UserVar.Test1, UserVar.Test2) } )

 Campaign は、未加工 SQL コードを使用するカスタム・マクロのパラメーターで 簡単な置換をサポートしています。例えば、フローチャートで、次の照会を含む 選択プロセス・ボックスをセットアップするとします。

exec dbms\_stats.gather\_table\_stats(tabname=> <temptable>,ownname=>
'autodcc')

この場合、Campaign は、<temptable> トークンを実際の一時テーブルに正常に置換します。テーブル名は、単一引用符で囲む必要があることに注意してください。

以下の表は、Campaign が、照会およびユーザー定義フィールドでカスタム・マクロ を扱う方法を示しています。

#### 照会およびユーザー定義フィールドでのカスタム・マクロ (選択、セグメント、お よびオーディエンス・プロセス)

カスタム・マクロの種類	使用方法
未加工 SQL: ID	別個の照会として実行します。ID リストが他の結果とマージされます。
	カスタム・マクロに他のカスタム・マクロと未加工 SQL が 含まれている場合は、カスタム・マクロが解決され、実行さ れてから、未加工 SQL が実行されます。
未加工 SQL: ID + 値	返される値が式または比較で使用されることが期待されま す。
	この方法で値が使用されない場合、Campaign は、ゼロ以外 の値を ID 選択用に TRUE として扱い、ゼロの値と文字列 を FALSE として扱います。
IBM 式	式が解決され、構文チェックが実行されます。テーブルごと に 1 つの照会がサポートされ、ID が突き合わされてマー ジされます。

未加工 SQL 照会 (選択、セグメント、およびオーディエンス・プロセス)

カスタム・マクロの種類	使用方法
未加工 SQL: ID	カスタム・マクロが解決されてから、照会が実行されます。
未加工 SQL: ID + 值	サポートされていません。
IBM 式	式は解決されますが、構文チェックは実行されません。式が 間違っている場合は、実行時にデータベース・サーバーによ って検出されます。

## カスタム・マクロを管理するには

カスタム・マクロを編成するためのフォルダー構造を作成できます。その後、この 構造内で、あるフォルダーから別のフォルダーにカスタム・マクロを移動できま す。

1. 「編集」モードのフローチャート・ページで、「オプション」アイコンをクリッ クして「カスタム・マクロ」を選択します。

「カスタム・マクロ」ダイアログが表示されます。

2. 「項目リスト」をナビゲートして、編集するマクロを選択します。

「詳細情報」領域に、選択したマクロの詳細情報が表示されます。

3. 「編集/移動」をクリックして、選択したマクロを編集または移動します。

「カスタム・マクロの編集/移動 (Edit/Move Custom Macros)」ダイアログが開きます。

- 4. マクロの名前を変更し、説明を編集し、マクロを保管するフォルダー/ロケーションを変更するか、「編集」をクリックして式を編集できます。
- 5. 「保存」をクリックして、変更を保存します。
- 6. 「閉じる」をクリックして、「カスタム・マクロ」ダイアログを終了します。

# テンプレートについて

テンプレートは、フローチャートから選択されて保存されたプロセスのグループで す。テンプレートでは、1 つ以上のプロセスを 1 回のみ設計および構成することが でき、それらのプロセスをテンプレート・ライブラリーに保存できます。テンプレ ートは、プロセス構成およびテーブル・マッピングを保存し、任意のセッションま たはキャンペーンで使用できます。

## テンプレートをテンプレート・ライブラリーにコピーするには

テンプレートをテンプレート・ライブラリーにコピーすることで、テンプレートを 追加できます。

- 「編集」モードのフローチャートで、テンプレートとして保存するプロセスを選 択します。 Ctrl キーを押しながらクリックすることにより、複数のプロセスを 選択できます。フローチャート内のすべてのプロセスを選択するには、Ctrl+A を使用します。
- 選択されているプロセスを右クリックし、「テンプレート・ライブラリーへのコ ピー」を選択します。

「テンプレートの保存」ウィンドウが表示されます。

3. テンプレートの名前を「名前」フィールドに入力します。

名前の中にスペースを使用することはできません。テンプレートは名前で識別さ れ、この名前はテンプレートが保管されているフォルダー内で固有でなければな りません。

- 4. (オプション) 「説明」フィールドに説明を入力します。
- 5. (オプション) 「保存先」リストを使用してテンプレートのフォルダーを選択する か、または「新規フォルダー」を使用して新しいフォルダーを作成します。テン プレートを編成および保管するために作成できるフォルダーの数に制限はありま せん (階層構造のネスト・フォルダーを含む)。
- 6. 「保存」をクリックします。

## テンプレート・ライブラリーからテンプレートを貼り付けるには

テンプレート・ライブラリーから、作成中のフローチャートにテンプレートを貼り 付けることができます。

「編集」モードのフローチャート・ページで、「オプション」アイコンをクリックして「テンプレート」を選択します。

「テンプレート」ダイアログが表示されます。

- 2. 「項目」リストからテンプレートを選択します。
- 3. 「**テンプレートの貼り付け**」をクリックします。

選択したテンプレートがフローチャート・ワークスペースに貼り付けられます。

注:挿入されたプロセスは、既にフローチャート内にある他のプロセスの上に表示 される場合があります。挿入されたすべてのプロセスは、グループとして移動しや すいように、最初から選択された状態になります。

他のセッションまたはキャンペーンは、テンプレート・ライブラリーを介してテン プレートにアクセスできます。さまざまなテーブル・マッピングを持つフローチャ ートにテンプレートを貼り付ける場合、後続のマッピングは拡大されますが、テー ブル名が同じでない限り、新しいマッピングによって置き換えられることはありま せん。

### テンプレートを管理するには

このコマンドによって、新規フォルダーを作成し、テンプレートを編集、移動、および削除できます。

1. 「編集」モードのフローチャート・ページで、「**オプション**」アイコンをクリッ クして「**テンプレート**」を選択します。

「テンプレート」ダイアログが表示されます。

- 2. 「項目リスト」から、編集または移動するテンプレートを選択します。
- 3. 「編集/移動」をクリックします。

「テンプレートの編集/移動 (Edit/Move Stored Templates)」ダイアログが開きます。

- 4. 「**保存先**」フィールドで、テンプレートの移動先のフォルダー/ロケーションを指 定します。
- 5. テンプレートの名前を変更したり、テンプレートに関連付けられている説明を編 集したりすることもできます。
- 6. 「保存」をクリックして、変更を保存します。
- 7. 「閉じる」をクリックして、「テンプレート」ウィンドウを終了します。

## 保管テーブル・カタログについて

テーブル・カタログは、マップされたユーザー・テーブルの集合です。テーブル・ カタログには、各フローチャートで再利用するための、ユーザー・テーブル・マッ ピング・メタデータ情報すべてが保管されます。テーブル・カタログは、デフォル トでは .cat 拡張子を使用してプロプラエタリー・バイナリー・フォーマットで保 管されます。

テーブル・カタログの作成および作業については、「*Campaign* 管理者ガイド」を参照してください。

## 保管テーブル・カタログにアクセスするには

「編集」モードのフローチャート・ページで、「オプション」アイコンをクリック して「保管テーブル・カタログ」を選択します。

「保管テーブル・カタログ」ダイアログが表示されます。

注:管理者権限を持っている場合は、「キャンペーン設定」ページから保管された カタログにアクセスすることもできます。詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を 参照してください。

### テーブル・カタログを編集するには

1. 「編集」モードのフローチャート・ページで、「オプション」アイコンをクリッ クして「保管テーブル・カタログ」を選択します。

「保管テーブル・カタログ」ダイアログが表示されます。

2. 「項目リスト」で目的のテーブル・カタログを選択します。

「詳細情報」領域に、選択したテーブル・カタログの詳細情報 (テーブル・カタ ログ名とファイル・パスを含む) が表示されます。

- 3. 「編集/移動」をクリックします。
- 保管テーブル・カタログの名前を変更し、テーブル・カタログの説明を編集し、 テーブル・カタログを保管するフォルダー/ロケーションを変更することができま す。
- 5. 「保存」をクリックします。
- 6. 「保管テーブル・カタログ」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

## テーブル・カタログを削除するには

重要:テーブル・カタログの削除には、Campaign インターフェースだけを使用して ください。テーブルを削除した場合やファイル・システム内のテーブル・カタログ を直接変更した場合、Campaign はシステム内のデータ保全性を保証できません。

1. 「編集」モードのフローチャート・ページで、「オプション」アイコンをクリッ クして「保管テーブル・カタログ」を選択します。

「保管テーブル・カタログ」ウィンドウが表示されます。

2. 「項目リスト」で目的のテーブル・カタログを選択します。

「詳細情報」領域に、選択したテーブル・カタログの詳細情報 (テーブル・カタログ名とファイル・パスを含む) が表示されます。

3. 「削除」をクリックします。

選択したテーブル・カタログの削除を確認するよう求める確認メッセージが表示 されます。

- 4. 「**OK**」をクリックします。
- 5. 「保管テーブル・カタログ」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

# 第 11 章 セッション

キャンペーンと同様、セッションは個々のフローチャートで構成されています。た だし、セッションでは、すべてのキャンペーンでグローバルに使用可能な永続的な データ構造(戦略的セグメント、保管されたディメンション階層、キューブなど)を 作成できます。セッションを使用して、以下のフローチャートを作成できます。

- キャンペーン間で必要なデータを変換する
- PredictiveInsight 入力ファイルを作成する
- 戦略的セグメントを収容する

注:フローチャートの設計時は、プロセス間で循環依存関係を作成することがない ように注意してください。例えば、フローチャートには、CreateSeg プロセスへの入 力を提供する選択プロセスがあります。選択プロセスが出力を提供するのと同じ CreateSeg プロセスによって作成されるセグメントを、選択プロセスで入力として選 択すると、循環依存関係が作成されます。この状態は、このプロセスを実行しよう とするとエラーになります。

## セッションの操作

セッションでは、以下のタスクを実行できます。

注: セッションで作業するには、適切な権限が必要です。権限については、 「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

#### 関連概念:

- 226ページの『セッションの編成について』
- 225 ページの『セッションのコピーについて』
- 225 ページの『セッションの実行について』

## セッションを作成するには

1. 「キャンペーン」>「セッション」を選択します。

「セッション一覧」ページに、会社のセッションを編成するために使用されるフ ォルダー構造が表示されます。「セッション一覧」ページ内でサブフォルダーを 以前に開いている場合は、そのサブフォルダーが表示されます。

- セッションの追加先となるフォルダーの内容が表示されるまで、フォルダー構造 をナビゲートします。
- 3. 「**セッションの追加**」アイコンをクリックします。

「新規セッション」ページが表示されます。

4. セッションの名前、セキュリティー・ポリシー、および説明を入力します。

注: セッションの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。 5. 「変更の保存」をクリックします。

**注:** 「保存とフローチャートの追加」をクリックして、セッションのフローチャートの作成をすぐに開始することもできます。

## セッションを表示するには

1. 「キャンペーン」>「セッション」を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

2. 表示するセッションの名前をクリックして、セッションの「**サマリー**」タブを開きます。

または

3. 表示するセッションの名前の横にある「**タブの表示**」アイコンをクリックしま す。

「**サマリー**」とセッション内のフローチャートの名前がコンテキスト・メニュー に表示されます。

4. 表示するセッション・タブを選択します。

選択したタブにセッションが表示されます。

### セッションのサマリー詳細を編集するには

1. 「キャンペーン」>「セッション」を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

2. サマリー詳細を編集するセッションの名前をクリックします。

「サマリー」タブにセッションが表示されます。

- 3. 「サマリーの編集」アイコンをクリックします。
- 4. 「サマリー」タブで、必要な編集を行います。

注: セッションの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

5. 変更が完了したら、「変更の保存」をクリックします。

変更内容が保存され、セッションが閉じます。

## セッション・フローチャートを編集するには

1. 「キャンペーン」>「セッション」を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

- 2. フローチャートを編集するセッションの名前の横にある「**タブを編集**」アイコン をクリックします。
- 3. コンテキスト・メニューから、編集するフローチャートの名前をクリックしま す。

「フローチャート」ページが「読み取り専用 (Read Only)」モードで表示されま す。

- 4. 「編集」アイコンをクリックして、フローチャートを「編集」モードで開きま す。
- 5. フローチャートに対して必要な変更を行います。
- 6. 変更が完了したら、「保存」または「保存して終了」をクリックします。

## セッション・フローチャートのプロパティーを編集するには

- 1. フローチャートを編集用に開きます。
- 2. フローチャート・ツールバーの「プロパティー」をクリックします。

「フローチャート・プロパティーの編集」ページが表示されます。

3. フローチャートの名前または説明を変更します。

注:フローチャートの名前には、文字に関する特定の制限があります。 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

4. 「変更の保存」をクリックします。

変更したフローチャート詳細が保存されます。

### セッションのコピーについて

セッションではなく、セッション内のフローチャートをコピーします。

## セッションの実行について

セッションを実行するには、セッションの各フローチャートを実行する必要があり ます。

## セッションを移動するには

組織上の目的で、セッションをフォルダー間で移動できます。

注:移動しようとしているセッションのフローチャートがユーザーによって編集されている場合は、セッションを移動すると、フローチャート全体が失われる可能性があります。セッションを移動する場合は、編集用に開いているセッション内のフローチャートがないことを確認してください。

1. 「キャンペーン」>「セッション」を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

- 2. 移動するセッションが入っているフォルダーを開きます。
- 3. 移動するセッションの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のセッションを選択して同じ場所に一度に移動できます。
- 4. 「移動」アイコンをクリックします。

「項目の移動」ウィンドウが表示されます。

5. セッションの移動先のフォルダーをクリックします。

フォルダーの横にある + 記号をクリックしてフォルダーを開き、リストをナビ ゲートします。

6. 「このロケーションを受け入れる」をクリックします。

**注:** フォルダーをダブルクリックすると、場所の選択と受け入れを 1 回の手順 で行うこともできます。

セッションが宛先フォルダーに移動します。

## セッションの削除について

セッションを削除する場合は、セッションおよびすべてのフローチャート・ファイ ルが削除されます。再使用する目的で保管しておきたいセッションの一部がある場 合、それらを保管オブジェクトとして保存できます。詳しくは、205ページの『ユ ーザー定義フィールドについて』を参照してください。

**重要:** 関連付けられているコンタクトまたはレスポンス履歴レコードを持つセッションを削除すると、すべての対応するコンタクトおよびレスポンス履歴レコードが 削除されます。関連付けられているコンタクトおよびレスポンス履歴を保持する必 要がある場合は、セッションを削除しないでください。

#### セッションを削除するには

1. 「キャンペーン」>「セッション」を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

2. 削除するセッションが入っているフォルダーを開きます。

フォルダー名をクリックしてフォルダーを開くか、「セッション一覧」をクリッ クして「セッション一覧」ページを表示するか、「親フォルダー」をクリックし て現在開いているフォルダーを開くことによって、フォルダー構造をナビゲート します。

- 3. 削除するセッションの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のセッションを選択して一度に削除できます。
- 4. 「選択項目の削除」アイコンをクリックします。

注: 関連付けられているコンタクトまたはレスポンス履歴レコードを持つセッションを削除しようとすると、すべての対応するコンタクトおよびレスポンス履歴 レコードが削除されることが警告メッセージで示されます。対応するコンタクト 履歴およびレスポンス履歴を保持する必要がある場合は、「キャンセル」をクリ ックします。

5. 確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

セッションが削除されます。

## セッションの編成について

フォルダーまたは一連のフォルダーを作成することによってセッションを編成でき ます。その後、作成したフォルダー構造内で、あるフォルダーから別のフォルダー にセッションを移動できます。 フォルダーを追加、移動、および削除して、セッションを編成できます。フォルダ ーの名前および説明を編集することもできます。

## セッション・フォルダーを追加するには

1. 「キャンペーン」>「セッション」を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

 サブフォルダーの追加先のフォルダーをクリックして「サブフォルダーの追加」 をクリックするか、単に「サブフォルダーの追加」をクリックしてフォルダーを 最上位に追加します。

「サブフォルダーの追加」ページが表示されます。

3. フォルダーの名前、セキュリティー・ポリシー、および説明を入力します。

注: フォルダーの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

4. 「変更の保存」をクリックします。

「セッション一覧」ページが表示されます。作成した新しいフォルダーまたはサブ フォルダーが表示されます。

### セッション・フォルダーの名前および説明を編集するには

1. 「キャンペーン」>「セッション」を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

- 2. 名前を変更するフォルダーをクリックします。
- 3. 「名前の変更」アイコンをクリックします。

「サブフォルダー名の変更」ページが表示されます。

4. フォルダーの名前と説明を編集します。

注: フォルダーの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

5. 「変更の保存」をクリックします。

「セッション一覧」ページが表示されます。フォルダーまたはサブフォルダーの 名前が変更されます。

## セッション・フォルダーを移動するには

**重要:**移動しようとしているセッションのフローチャートがユーザーによって編集 されている場合は、セッションを移動すると、フローチャートの結果またはフロー チャート全体が失われる可能性があります。セッションを移動する場合は、編集用 に開いているセッション内のフローチャートがないことを確認してください。

1. 「**キャンペーン」>「セッション」**を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

- 2. 移動するサブフォルダーが入っているフォルダーをクリックします。
- 3. 移動するフォルダーの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のフォル ダーを選択して同じ場所に一度に移動できます。
- 4. 「移動」アイコンをクリックします。

「項目の移動」ウィンドウが表示されます。

5. サブフォルダーの移動先のフォルダーをクリックします。

フォルダーの横にある + 記号をクリックしてフォルダーを開き、リストをナビ ゲートします。

6. 「このロケーションを受け入れる」をクリックします。

**注:** フォルダーをダブルクリックすると、場所の選択と受け入れを 1 回の手順 で行うこともできます。

サブフォルダーと、そのすべての内容が宛先フォルダーに移動します。

## セッション・フォルダーを削除するには

フォルダーを削除するには、事前にフォルダーの内容を移動または削除する必要があります。

注:フォルダーを削除するために必要な権限を持っている場合、Campaign で、そのフォルダー内のサブフォルダーを削除することもできます。

1. 「**キャンペーン」>「セッション」**を選択します。

「セッション一覧」ページが表示されます。

- 2. 削除するサブフォルダーが入っているフォルダーを開きます。
- 3. 削除するフォルダーの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のフォル ダーを選択して一度に削除できます。
- 4. 「選択項目の削除」アイコンをクリックします。
- 5. 確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

フォルダーと、下位のすべての空のサブフォルダーが削除されます。

## 「セッション一覧」ページのアイコン

「セッション一覧」ページでは、以下のアイコンが使用されます。



以下の表では、左側のアイコンから右側のアイコンへの順番で説明します。

注: Campaign インターフェースの多くのアイコンは、権限が必要な機能に関連付け られています。詳しくは、「Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してくださ い。以下の「セッションの追加」および「サブフォルダーの追加」アイコンは、適 切な権限がなければ表示されません。

アイコン名	説明
セッションの追加	新規セッションを追加する場合にクリックします。
サブフォルダーの追加	新規セッション・サブフォルダーを追加する場合にクリック します。
項目の印刷	各セッションの横にあるチェック・ボックスをクリックして 1 つ以上のセッションを選択してから、このアイコンをクリ ックすると、選択したセッションが印刷されます。
移動	各セッションの横にあるチェック・ボックスをクリックして 1 つ以上のセッションを選択してから、このアイコンをクリ ックすると、選択したセッションの移動先が指定されます。
選択項目の削除	各項目の横にあるチェック・ボックスをクリックして1つ 以上のセッションを選択してから、このアイコンをクリック すると、選択したセッションが削除されます。

## 戦略的セグメントについて

戦略的セグメントは、ID のグローバル永続リストです。戦略的セグメントは、すべてのキャンペーンでグローバルに使用できるよう、通常は Campaign 管理者がセッション・フローチャートでセグメント化プロセスを使用して作成するセグメントに 過ぎません。

Campaign は複数の戦略的セグメントをサポートし、それぞれの戦略的セグメントおよびオーディエンス・レベル用に作成される ID リストは Campaign システム・テーブルに保管されます。 1 つのキャンペーン内で関連付けることができる戦略的セグメントの数に制限はありません。

戦略的セグメントは、キューブで使用されることが多いです。キューブは、どの ID リストからでも作成できますが、戦略的セグメントをベースにすれば、より強力な ものになります。戦略的セグメントをベースにしたキューブは、グローバルであ り、さまざまなセグメント・レポートによって分析可能であるためです。

戦略的セグメントは、グローバル抑制セグメントとして使用できます。グローバル 抑制セグメントは、特定のオーディエンス・レベルに対して、フローチャート内の セルから自動的に除外される ID のリストを定義します。

戦略的セグメントは、オプションで 1 つ以上の IBM データ・ソースを指定できま す。このデータ・ソースには、戦略的セグメントがキャッシュされます (つまり、 戦略的セグメントを使用するフローチャートごとに戦略的セグメント ID のアップ ロードが必要にならないようにデータベースに保管されます)。このようにすると、 戦略的セグメントを使用する際のパフォーマンスを大幅に向上させることができま す。

キャッシュされた戦略的セグメントは、TempTablePrefix 構成パラメーターが割り 当てられる一時テーブルに保管されます。 注:戦略的セグメントを処理するには、適切な権限が必要です。権限については、 「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

## 戦略的セグメントのパフォーマンスの向上

デフォルトで、セグメントの作成プロセスは、アプリケーション・サーバー上に 1 つのバイナリー・ファイルを作成します。大規模な戦略的セグメントの場合、完了 するまでに長時間かかる場合があります。 Campaign がバイナリー・ファイルを更 新すると、行を除去してから、キャッシュ・テーブルに行を再度挿入します。ファ イル全体がソート用に再書き込みされます。非常に大規模な戦略的セグメントの場 合 (例えば 4 億個の ID)、大部分の ID が変わっていなくても、ファイル全体の再 書き込みに長い時間がかかります。

パフォーマンスを向上させるため、「構成」ページで doNotCreateServerBinFile プロパティーを TRUE に設定します。値が TRUE の場合、これは、アプリケーショ ン・サーバー上にバイナリー・ファイルを作成するのではなく、戦略的セグメント によりデータ・ソース内に一時テーブルを作成することを指定します。このプロパ ティーが TRUE に設定されている場合は、セグメントの作成プロセス構成の「セグ メントの定義」タブで、少なくとも 1 つの有効なデータ・ソースが指定されていな ければなりません。

インデックス作成や統計生成など、その他のパフォーマンス最適化も、セグメント 一時テーブルと一緒に使用できます。ただし、キャッシュ・セグメント・テーブル には適用できません。「構成」ページの PostSegmentTableCreateRunScript、 SegmentTablePostExecutionSQL、および SuffixOnSegmentTableCreation の各プロ パティーにより、それらのパフォーマンス最適化がサポートされます。

「構成」ページのプロパティーについて詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

### 戦略的セグメントを作成するための前提条件

戦略的セグメントを作成する前に、以下を行う必要があります。

- 戦略的セグメントを編成する方法、使用するフォルダー階層および命名規則を決定する。
- 自分にとって確実に重要な戦略的セグメントを決定する。
- 戦略的セグメントの背後のロジックを決定する。
- さまざまな戦略的セグメント間の関係を識別する。
- 戦略的セグメントに適したオーディエンス・レベルを識別する。
- 戦略的セグメントをリフレッシュする頻度を決定する。
- 各戦略的セグメントで定義する詳細のレベルを決定する。例えば、1 つのセグメントにすべての抑制を入れる必要があるかなど。
- 戦略的セグメント履歴をアーカイブ・フォルダーに保持するかどうかを決定する。
- 作成する戦略的セグメントのサイズと、パフォーマンスに与える潜在的な影響を 考慮する。
   『戦略的セグメントのパフォーマンスの向上』を参照してください。

## 戦略的セグメントを作成するには

注:戦略的セグメントを処理するには、適切な権限が必要です。権限については、 「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

セグメント化プロセスが実稼働モードで正常に実行された場合のみ、戦略的セグメ ントが作成され、選択できるようになります。セグメント化プロセスを構成するだ けでは、十分ではありません。このプロセスをテスト・モードで実行しても、戦略 的セグメントは作成されず、既存の戦略的セグメントが更新されることもありませ ん。

1. セッションを作成するか、既存のセッションを編集用に開きます。

注: セグメントの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

2. 最終出力プロセスがセグメント化プロセスであるフローチャートを作成します。

3. フローチャートの作成が完了したら、「保存して戻る」をクリックします。

フローチャートが保存されます。戦略的セグメントが「セグメント一覧」ページ にリストされ、すべてのキャンペーンで使用できるようになります。

#### 例:戦略的セグメントを作成するセッション・フローチャート

Campaign のセッション領域のフローチャートで、2 つの選択プロセスを追加しま す。1 つは、データマート内のマップされたテーブルの特定のフィールドからすべ てのレコードを選択するプロセスで、もう 1 つはオプトアウトとして分類されてい るために全体の ID リストから削除する必要がある、同じデータマートのすべての レコードを選択するプロセスです。

次に、入力がこれら 2 つの選択プロセスの出力セルで構成されるマージ・プロセス を使用して、オプトアウト ID を除去し、適格 ID の出力セルを作成します。

次に、マージ・プロセスからの適格 ID が渡されるセグメント・プロセスを追加し ます。このセグメント・プロセスでは、適格 ID が 3 つの個別の ID グループに分 割されます。

最後に、セグメント化プロセスを追加して、3 つのセグメントをオーディエンス ID のグローバル永続リストとして出力します。

フローチャートを実稼働モードで実行して戦略的セグメントを作成し、複数のキャ ンペーンで使用できるようにします。

## 「セグメントー覧」ページからセグメントを表示するには

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

2. 表示するセッションの名前をクリックします。

「サマリー」ページにセグメントのサマリー情報が表示されます。

表18. セグメントのサマリー情報

要素	説明
説明	セグメント化プロセスで提供されるセグメントの説明
ソース・フローチャート	セグメントが定義されたフローチャートの名前
オーディエンス・レベル	セグメントのオーディエンス・レベル
現在のデータ件数	このセグメント内の ID の数と、このセグメントを最後に 実行した日付
使用しているキャンペーン	このセグメントを使用するすべてのキャンペーンのリスト (これらのキャンペーンへのリンクを含む)

## キャンペーンのサマリー・ページから戦略的セグメントを表示する には

- 1. 表示するセグメントを使用しているキャンペーンのサマリー・ページに移動しま す。
- 2. 「関連セグメント」リストで、セグメントの名前をクリックします。

セグメントの「サマリー」ページが表示されます。

## セグメントのサマリー詳細を編集するには

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

2. サマリー詳細を編集するセグメントの名前をクリックします。

「サマリー」タブにセグメントが表示されます。

3. セグメントの名前または説明に対して、必要な編集を行います。

注: セグメントの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

4. 変更が完了したら、「変更の保存」をクリックします。

変更内容が保存され、セグメントが閉じます。

## 戦略的セグメントのソース・フローチャートを編集するには

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

2. フローチャートを編集するセグメントの名前をクリックします。

セグメントの「サマリー」ページが表示されます。

3. 「**ソース・フローチャート**」の下で、フローチャートへのリンクをクリックしま す。

「フローチャート」ページが「読み取り専用 (Read Only)」モードで開きます。 4. 「編集」をクリックして、フローチャートを「編集」モードで開きます。

- 5. フローチャートに対して必要な変更を行います。
- 6. 変更が完了したら、「保存」または「保存して終了」をクリックします。

**重要:**既存の戦略的セグメントは、更新されたフローチャートを実稼働モードで再 実行するまで更新されません。

## 「セグメント一覧」ページのアイコン

「セグメント一覧」ページでは、以下のアイコンが使用されます。



以下の表では、左側のアイコンから右側のアイコンへの順番で説明します。

表 19. 「セクメント一覧」ペーシのア
----------------------

アイコン名	説明
サブフォルダーの追加	新規セグメント・サブフォルダーを追加する場合にクリック
	します。
拡張検索	「拡張検索オプション」ダイアログを開く場合にクリックし
	ます。このダイアログでは、オファーを検索するための属性
	および値を指定できます。
印刷	各セグメントの横にあるチェック・ボックスをクリックして
	1 つ以上のセグメントを選択してから、このアイコンをクリ
	ックすると、選択したセグメントが印刷されます。
移動	各セグメントの横にあるチェック・ボックスをクリックして
	1 つ以上のセグメントを選択してから、このアイコンをクリ
	ックすると、選択したセグメントの新しい場所が指定されま
	す。
選択項目の削除	各セグメントの横にあるチェック・ボックスをクリックして
	1 つ以上のセグメントを選択してから、このアイコンをクリ
	ックすると、選択したセグメントが削除されます。

### 戦略的セグメントの実行

データマートの内容が変更された場合は、戦略的セグメントを再生成する必要があ ります。戦略的セグメントを再生成するには、そのセグメントが作成されたフロー チャートを実稼働モードで実行します。テスト実行モードで「出力を有効にする」 を設定しても、何の影響もありません。戦略的セグメントは実稼働モードでのみ出 力されます。

注: セグメント化プロセスを実稼働モードで再実行すると、そのプロセスによって 作成された既存の戦略的セグメントが削除されます。つまり、新しいセグメント化 プロセスの実行が正常に完了しない場合、またはその実行中に、既存の戦略的セグ メント (グローバル抑制を含む)のユーザーに対して「無効なセグメント」エラーが 表示される可能性があります。

### 戦略的セグメントの編成

フォルダーまたは一連のフォルダーを作成することによって、戦略的セグメントを 編成できます。その後、作成したフォルダー構造内で、あるフォルダーから別のフ ォルダーに戦略的セグメントを移動できます。

注:戦略的セグメントが入っているフォルダーは、戦略的セグメントに適用されて 戦略的セグメントに対するアクセス、編集、または削除を実行できるユーザーを決 定するセキュリティー・ポリシーを指定します。

#### セグメント・フォルダーを追加するには

フォルダーを追加、移動、および削除して、セグメントを編成できます。フォルダ ーの名前および説明を編集することもできます。

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

- 2. サブフォルダーの追加先のフォルダーをクリックします。
- 3. 「**サブフォルダーの追加**」アイコンをクリックします。

「サブフォルダーの追加」ページが表示されます。

4. フォルダーの名前、セキュリティー・ポリシー、および説明を入力します。

注:フォルダーの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

5. 「変更の保存」をクリックします。

「セグメント一覧」ページが表示されます。作成した新しいフォルダーまたはサ ブフォルダーが表示されます。

#### セグメント・フォルダーの名前および説明を編集するには

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

- 2. 名前を変更するフォルダーをクリックします。
- 3. 「名前の変更」をクリックします。

「サブフォルダー名の変更」ページが表示されます。

4. フォルダーの名前と説明を編集します。

注: フォルダーの名前には、文字に関する特定の制限があります。詳しくは、 265 ページの『IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字』を参照してください。

5. 「変更の保存」をクリックします。

「セグメント一覧」ページが表示されます。フォルダーまたはサブフォルダーの 名前が変更されます。

#### セグメント・フォルダーを移動するには

**重要:**移動しようとしているセグメントのソース・フローチャートがユーザーによって編集されている場合は、セグメントを移動すると、フローチャート全体が失われる可能性があります。サブフォルダーを移動する場合は、編集用に開いているソース・フローチャートがないことを確認してください。

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

2. 移動するサブフォルダーが入っているフォルダーを開きます。

フォルダー名をクリックしてフォルダーを開くか、「**セグメント**一覧」をクリッ クして「セグメント一覧」ページを表示するか、フォルダー名をクリックしてツ リー構造でフォルダーを開くことによって、フォルダー構造をナビゲートしま す。

- 3. 移動するフォルダーの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のフォル ダーを選択して同じ場所に一度に移動できます。
- 4. 「移動」アイコンをクリックします。

「項目の移動」ウィンドウが表示されます。

5. サブフォルダーの移動先のフォルダーをクリックします。

フォルダーの横にある + 記号をクリックしてフォルダーを開き、リストをナビ ゲートします。

6. 「このロケーションを受け入れる」をクリックします。

注:フォルダーをダブルクリックすると、場所の選択と受け入れを 1 回の手順 で行うこともできます。

サブフォルダーと、そのすべての内容が宛先フォルダーに移動します。

#### セグメント・フォルダーを削除するには

フォルダーを削除するには、事前にフォルダーの内容を移動または削除する必要があります。

注:フォルダーを削除するために必要な権限を持っている場合、Campaign で、そのフォルダー内のサブフォルダーを削除することもできます。

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

2. 削除するサブフォルダーが入っているフォルダーを開きます。

フォルダー名をクリックしてフォルダーを開くか、「**セグメント**一覧」をクリッ クして「セグメント一覧」ページを表示するか、フォルダー名をクリックしてツ リー構造でフォルダーを開くことによって、フォルダー構造をナビゲートしま す。

3. 削除するフォルダーの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のフォル ダーを選択して一度に削除できます。

- 4. 「選択項目の削除」アイコンをクリックします。
- 5. 確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

フォルダーと、下位のすべての空のサブフォルダーが削除されます。

#### セグメントを移動するには

組織上の目的で、戦略的セグメントをフォルダー間で移動できます。

**重要:**移動しようとしているセグメントのソース・フローチャートが編集用に開い ている場合は、セグメントを移動すると、フローチャート全体が失われる可能性が あります。サブフォルダーを移動する前に、編集用に開いているソース・フローチ ャートがないことを確認してください。

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

- 2. 移動するセグメントが入っているフォルダーを開きます。
- 3. 移動するセグメントの横にあるチェック・ボックスをクリックします。複数のセ グメントを選択して同じ場所に一度に移動できます。
- 4. 「移動」アイコンをクリックします。

「項目の移動」ウィンドウが表示されます。

5. セグメントの移動先のフォルダーをクリックします。

フォルダーの横にある + 記号をクリックしてフォルダーを開き、リストをナビ ゲートします。

6. 「このロケーションを受け入れる」をクリックします。

**注:** フォルダーをダブルクリックすると、場所の選択と受け入れを 1 回の手順 で行うこともできます。

セグメントが宛先フォルダーに移動します。

#### 戦略的セグメントの削除

戦略的セグメントは、以下の方法で削除できます。

- 「セグメント一覧」ページで、戦略的セグメントをフォルダーの場所から削除する。この方法で戦略的セグメントを削除すると、当初これらの戦略的セグメントを生成したセグメント化プロセスを、実稼働モードで再実行する場合は、これらの戦略的セグメントが再作成されます。詳しくは、237ページの『セグメントを削除するには』を参照してください。
- 戦略的セグメントを作成したセグメント化プロセスを削除する。戦略的セグメントは、フローチャートが保存される場合にのみ削除されます。この方法で削除する戦略的セグメントはリカバリーできません。詳しくは、フローチャートのプロセスの削除に関する説明を参照してください。
- 戦略的セグメントを作成したセグメント化プロセスが入っているフローチャート を削除する。この方法で削除する戦略的セグメントはリカバリーできません。詳 しくは、フローチャートの削除に関する説明を参照してください。

#### セグメントを削除するには

「セグメント一覧」ページから戦略的セグメントを直接削除するには、以下の手順 を実行します。

**注**: この方法で戦略的セグメントを削除すると、当初これらの戦略的セグメントを 生成したセグメント化プロセスを、実稼働モードで再実行する場合は、これらの戦 略的セグメントが再作成されます。

1. 「キャンペーン」>「セグメント」を選択します。

「セグメント一覧」ページが表示されます。

- 2. 削除するセグメントが入っているフォルダーを開きます。
- 3. 削除するセグメントの横にあるチェック・ボックスを選択します。複数のセグメ ントを選択して一度に削除できます。
- 4. 「選択項目の削除」アイコンをクリックします。
- 5. 確認ウィンドウで「OK」をクリックします。

セグメントが削除されます。

注: このセグメントが入っているアクティブなフローチャートがまだある場合、 これらのフローチャートを実行すると、このセグメントを再作成することができ ます。このセグメントの削除時に、このセグメントが入っているフローチャート が編集用に開いていた場合にも、このセグメントは再作成されます。

## グローバル抑制およびグローバル抑制セグメントについて

グローバル抑制機能を使用して、Campaign でフローチャート内のすべてのセルから 自動的に除外される ID のリスト (オーディエンス・レベル別)を指定します。

これを行うには、このユニーク ID のリストを戦略的セグメントとして作成してから、そのセグメントを特定のオーディエンス・レベルのグローバル抑制セグメントとして指定します。オーディエンス・レベルごとに 1 つのグローバル抑制セグメントしか構成できません。

注: グローバル抑制セグメントの指定および管理には、適切な権限が必要であり、 通常は Campaign 管理者によって実行されます。詳しくは、「*IBM Campaign 管理* 者ガイド」を参照してください。

## グローバル抑制の適用

あるオーディエンス・レベルに対してグローバル抑制セグメントが定義されている 場合、そのオーディエンス・レベルに関連付けられた最上位の「選択」、「抽 出」、または「オーディエンス」のいずれかのプロセスで、グローバル抑制セグメ ントの ID が出力セルから自動的に除外されます (特定のフローチャートでグロー バル抑制が明示的に無効になっている場合を除く)。デフォルトでは、各フローチャ ートでグローバル抑制が有効になっているため、構成したグローバル抑制を適用す るために操作を行う必要はありません。

デフォルトではグローバル抑制が有効になりますが、グローバル戦略的セグメント そのものを作成した「セグメント化」プロセスが含まれるフローチャートの場合 は、例外となります。この場合、グローバル抑制は常に無効になります (グローバ ル抑制セグメントを作成するオーディエンス・レベルの場合のみ)。

注: 「選択」、「抽出」、または「オーディエンス」プロセスで件数確認を実行す る場合、グローバル抑制は考慮されないことにも注意してください。

#### グローバル抑制が設定されたオーディエンスの切り替え

フローチャート内でオーディエンス 1 からオーディエンス 2 に切り替える場合、 これらのオーディエンス・レベルごとに 1 つのグローバル抑制が定義されていると きは、オーディエンス 1 のグローバル抑制セグメントが入力テーブルに適用され、 オーディエンス 2 のグローバル抑制セグメントが出力テーブルに適用されます。

### グローバル抑制の無効化

個々のフローチャートのグローバル抑制を無効にできるのは、適切な権限がある場 合のみです。適切な権限がない場合は、設定を変更できないので、既存の設定でフ ローチャートを実行する必要があります。

管理者は、グローバル抑制のオーバーライド権限を特定のユーザーに付与して、そのユーザーが、通常は抑制されている ID (汎用検証グループ内の ID など) に連絡 できる特別なキャンペーンを設計および実行できるようにすることができます。

#### フローチャートのグローバル抑制を無効にするには

- 1. フローチャートを編集用に開きます。
- 2. 「システム管理」アイコンをクリックして、「拡張設定」を選択します。
- 3. 「拡張設定」ウィンドウで「このフローチャートのグローバル抑制を無効にす る」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。
- 4. **「OK」**をクリックします。

## ディメンション階層について

ディメンション階層は、ID の任意のリストに適用可能な一連の SQL 選択照会で す。戦略的セグメントと同様、ディメンション階層は選択プロセスでグローバルに 使用可能にしたり、キューブを構成するための基礎として使用したりすることがで きます。

最もよく指定されるディメンションには、時間、地理、製品、部門、および流通チャネルなどがあります。ただし、ビジネスやキャンペーンと最も関係のある、どの ような種類のディメンションでも作成できます。

キューブの構成要素として、ディメンションはさまざまなレポート (集約レベルが 増加している全製品の総売上高、地理別の経費対売上高のクロス集計分析など)の 基礎になります。ディメンションは単一のキューブに限定されず、多数のキューブ で使用できる。

ディメンション階層はさまざまなレベル で構成されていて、このレベルはディメン ション要素 (略して要素) で構成されています。 Campaign は、レベルおよび要素 (それぞれ数の制限なし) と、以下で構成されるディメンションをサポートします。

- 顧客分析レポート作成および視覚的選択の入力として作成されたデータ・ポイン ト
- ドリルダウン機能をサポートするためのカテゴリー(数の制限なし)へのロールアップ。(ディメンションの境界をまたぐときに明確にロールアップする必要があるため、要素は相互に排他的で、オーバーラップしないようにする必要がある。)

## 例: ディメンション階層

以下の 2 つの例は、データマート内に作成され、Campaign にマップされる基本的 なディメンション階層を示しています。

#### 例:「年齢」ディメンション階層

最下位: (21-25)、(26-30)、(31-35)、(36-45)、(45-59)、(60+)

ロールアップ: 若年 (18-35)、中年 (35-59)、高齢 (60+)

#### 例:「所得」ディメンション階層

最下位: >\$100,000、\$80,000-\$100,000、\$60,000-\$80,000、\$40,000-\$60,000

**ロールアップ:** 高 (> \$100,000)、中 (\$60,000-\$100,000)、低 (< \$60,000) (> \$100,000)、(\$60,000-\$100,000)、(< \$60,000)

## ディメンション階層の作成

Campaign でディメンションを使用するには、以下を行う必要があります。

- テーブルまたはデータマートの区切り記号付きフラット・ファイルに階層ディメンションを定義および作成します。
- この階層ディメンション・テーブルまたはフラット・ファイルを、Campaignのディメンションにマップします。

注: 階層ディメンションは、Campaign システム管理者または IBM コンサルティン グ・チームのメンバーによってデータマート内に作成され、Campaign の外部の操作 です。また、階層ディメンションの最下位では、未加工 SQL または純粋な IBM 式 (カスタム・マクロ、戦略的セグメント、またはユーザー定義フィールドがない)を 使用して、個々の要素を定義する必要があることに注意してください。

この階層ディメンションが Campaign にマップされると、Campaign が、このコード を実行してさまざまなロールアップを実行します。

#### 階層ディメンションを Campaign ディメンションにマップするには

**注:**以下の説明は、階層ディメンションがデータマートに既に存在していることを 前提にしています。

**注:** ほとんどすべての場合に、ディメンションはキューブを作成するために使用されるため、アプリケーションの「**セッション**」領域のフローチャートからディメンションを作成できます。

- 1. 以下のいずれかの場所から、「ディメンション階層」ウィンドウにアクセスしま す。
  - 「編集」モードのフローチャートで「システム管理」アイコンをクリックし、 「ディメンション階層」を選択します。
  - ・「管理設定」ページで「ディメンション階層の管理」を選択します。

「ディメンション階層」ウィンドウが表示されます。

2. 「新規ディメンション」をクリックします。

「ディメンションの編集」ウィンドウが表示されます。

- 3. 作成するディメンションについて、以下の情報を入力します。
  - ディメンション名
  - 説明
  - ディメンション内のレベルの数(ほとんどの場合、このディメンションをマッ プするデータマートの階層ディメンション内のレベルに対応している必要があ ります)。
  - このディメンションをキューブのベースとして使用する場合は、「データの重 複を許可しない」にチェック・ボックスにチェック・マークを付けておく必要 があります (Campaign では、このオプションはデフォルトでチェック・マー クが付いています)。そうしないと、要素の値はキューブ内でオーバーラップ できないため、このディメンションを使用してキューブを作成するときにエラ ーを受け取ります。
- 4. 「**テーブル・マッピング**」をクリックします。

「テーブル定義の編集」ウィンドウが表示されます。

- 5. 以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 既存ファイルにマップ
  - 選択したデータベースの既存テーブルにマップ

テーブルをマップするための手順に進みます。詳しくは、「*Campaign 管理者ガ* イド」を参照してください。

**注:** ディメンション階層のテーブルをマップする場合は、正常にマップするため に、「Level1\_Name」、「Level2\_Name」などのフィールド名がテーブル内に存 在している必要があります。

ディメンションのテーブルのマッピングが完了したら、「ディメンションの編 集」ウィンドウに新規ディメンションのディメンション情報が表示されます。

6. 「**OK**」をクリックします。

「ディメンション階層」ウィンドウに、新しくマップされたディメンションが表 示されます。

 ディメンション階層を保管して、将来使用できるようにしたり、再作成する必要 をなくしたりするには、「ディメンション階層」ウィンドウで「保存」をクリッ クします。

## ディメンション階層を更新する

Campaign は、ディメンション階層の自動更新をサポートしていません。基礎データ が変わった場合は、ディメンション階層を手動で更新する必要があります。

**注:** キューブは戦略的セグメントに基づくディメンションで構成されているため、 戦略的セグメントを更新するたびにディメンションを更新する必要があります。

- 1. 以下のいずれかの場所から、「ディメンション階層」ウィンドウにアクセスしま す。
  - 「編集」モードのフローチャートで「システム管理」アイコンをクリックし、
     「ディメンション階層」を選択します。
  - 「管理設定」ページで「ディメンション階層の管理」を選択します。

「ディメンション階層」ウィンドウが表示されます。

2. 「すべて更新」をクリックします。

注: 個々のディメンションを更新するには、ディメンションを選択してから「更 新」をクリックします。

## 保管ディメンション階層をロードする

- 1. 以下のいずれかの場所から、「ディメンション階層」ウィンドウにアクセスしま す。
  - 「編集」モードのフローチャートで「システム管理」アイコンをクリックし、
     「ディメンション階層」を選択します。
  - ・「管理設定」ページで「ディメンション階層の管理」を選択します。

「ディメンション階層」ウィンドウが表示されます。

2. ロードするディメンション階層を強調表示して、「ロード」をクリックします。

# キューブについて

キューブとは、多くのディメンション階層によって提供される照会ごとの ID リストの同時セグメンテーション (ほとんどの場合、戦略的セグメント)です。キューブの作成後、任意の時点で、キューブの 2 つのディメンションをドリリングするセグメント・クロス集計レポートを表示できます。

キューブを作成する前に、以下の事前タスクを実行する必要があります。

- 戦略的セグメントの作成
- 戦略的セグメントに基づくディメンションの作成
- 以下のガイドラインがキューブに適用されます。
- キューブ・メトリックは、どの Campaign 式としても定義できますが、以下の制 限があります。
  - 指定可能な追加の NUMERIC メトリックの数に制限はなく、それらのメトリックの最小、最大、合計、平均が Campaign によって計算されます。選択したメトリックは、ユーザー定義フィールドまたは永続的なユーザー定義フィールドにすることができます。

- セル数 (最小、最大、平均、合計数の % など) の集計関数は、自動的に計算 されます。
- 属性値 (平均 (年齢) など) の集計関数は、最小、最大、合計、および平均を自 動的に計算します。
- 複数の属性値を含む式 (例えば、(attribute1 + attribute2)) は、ユーザー定義フィールドでサポートされます。
- キューブ・プロセスは、ユーザー定義フィールドと永続的なユーザー定義フィールドをサポートします。
- Groupby 式 (例えば、(groupby\_where (ID, balance, avg, balance, (trxn\_date > reference\_date))) ) は、ユーザー定義フィールドでサポートされます。
- ユーザー変数 (キューブ・プロセスと同じフローチャートで定義され、 Distributed Marketing に公開されている) を含む式は、ユーザー定義フィール ドと永続的なユーザー定義フィールドでサポートされます。(Distributed Marketing について詳しくは、「Distributed Marketing User's Guide」を参照し てください)。
- 未加工 SQL を使用する式は、未加工 SQL カスタム・マクロを使用するユー ザー定義フィールドでサポートされます。
- カスタム・マクロを使用する式は、ユーザー定義フィールドでサポートされます。
- キューブは最大3つのディメンションで構成されていますが、メトリックは同時に2つのディメンションについてのみ表示できます。表示されていない3番目のディメンションは計算され、サーバー上に保管されますが、その特定のレポートの視覚的選択/レポートには使用されません。
- キューブはセルおよびセグメントに基づいて作成できます(例えば、トランザクション・レベルで作成できます)。ただし、キューブをセルに基づいて作成する場合、そのキューブはそのフローチャートでのみ使用できます。このため、戦略的セグメントをキューブのベースにすることができます。
- テーブルが正規化されていない限り、オーディエンス・レベルで多対多の関係で ディメンションを定義すると、予期しない結果となる可能性があります。
   Campaign によって使用されるキューブ・アルゴリズムは、正規化されたテーブル に依存しています。キューブを選択して作成する前に、データを(例えば、デー タ準備セッションを介して顧客レベルに)ロールアップすることによって正規化 します。

注: 非正規化ディメンションをベースにしてキューブを作成する場合、キャンペ ーンがディメンション ID を処理する方法のために、クロス集計レポートで合計 数が間違って計算されます。非正規化ディメンションを使用する必要がある場合 は、2 つのディメンションのみを持つキューブを作成し、非正規化ディメンショ ンの最低レベルのメトリックとして、顧客 ID ではなくトランザクションを使用 します。トランザクション合計は正しく計算されるからです。

 キューブのディメンションを作成する場合は、ディメンションに名前、オーディ エンス・レベル、そのディメンションに対応するテーブルを指定する必要があり ます。後で、セッションまたはキャンペーン・フローチャートで作業するとき に、データベース表をマップする場合と同様に、このディメンションをマップし ます。 キューブの作成は、ユーザーがキューブにアクセスしていないとき (通常は営業
 時間後や週末) に行う必要があります。

# 第 12 章 レポート

Campaign には、キャンペーンおよびオファー管理で役立つさまざまなレポートが提供されています。一部のレポートは、フローチャートの設計フェーズで使用することを意図して設計されています。その他のレポートは、コンタクト・レスポンスやキャンペーン全体の効率を分析するのに役立ちます。

Campaign には、以下に示す標準のレポートが含まれています。

フローチャート・セル・レポート。このレポートにアクセスするには、フローチャートを編集モードで開き、フローチャート・ツールバーのレポート・アイコン

● をクリックします。 252 ページの『フローチャート・セル・レポート』を 参照してください。

- セグメント・クロス集計レポート。これらのレポートにアクセスするには、「分析」メニューから「キャンペーン分析」を選択します。 258 ページの『セグメント・クロス集計レポート』を参照してください。
- キャンペーン・カレンダー。このレポートにアクセスするには、「分析」メニュ ーから「キャンペーン分析」を選択します。259 ページの『キャンペーン・カレ ンダー』を参照してください。

さらに多くの付加的なレポートが提供されています。

- Campaign Reports Pack には、Campaign で使用するためのサンプル・レポートが 提供されています。それらのレポートは、Campaign が IBM Cognos<sup>®</sup> に統合され ている場合に利用可能です。それらのレポートにアクセスするには、「分析」メ ニューから「キャンペーン分析」を選択するか、またはキャンペーンやオファー などの特定のオブジェクトの「分析」タブを使用します。
- 関連製品 (eMessage、Interact、または Distributed Marketing)のためのレポート・ パックも提供されています。それらのレポートでは、Campaign が IBM Cognos に統合されていることが必要です。それらのレポートには、各製品の「分析」ペ ージからアクセスするか、あるいは、キャンペーンまたはオファーの「分析」タ ブからアクセスできます。詳しくは、各製品の資料を参照してください。

IBM Cognos レポートのインストールと構成について詳しくは、「*IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド*」を参照してください。

## レポート・タイプ

Campaign は、以下の 3 つの一般的なレポート・タイプをサポートしています。

システム全体のレポート — Campaign 内の複数のオブジェクトについてのレポート。これらのレポートには、メイン・ナビゲーション・ペインの「分析」リンクから起動される「キャンペーン分析」ページからアクセスします。例えば、「キャンペーン分析」ページのフォルダーから、「キャンペーン・カレンダー」レポートにアクセスできます。このレポートは、システムのすべてのキャンペーンをカレンダー形式で表示します。

- オブジェクト固有のレポート 特定のオブジェクト (キャンペーンまたはオファー) に関するレポート。これらのレポートには、オブジェクトの「分析」タブからアクセスします。例えば、キャンペーンの「分析」タブから、「オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Offer)」レポートにアクセスできます。このレポートは、対応するキャンペーン別にオファーがグループ化された状態で、キャンペーンおよびオファー・パフォーマンスのサマリーを提供します。
- フローチャート・セル・レポート セッションまたはキャンペーンの中の特定のフローチャートのセルに関連するさまざまな情報を提供するレポート。セル・レポートには、フローチャートを「編集」モードで表示しているときに「レポート」アイコンをクリックしてアクセスできます。

**注:** オブジェクトのフローチャート、「分析」タブ、および「キャンペーン分析」 ページにアクセスできるかどうかは、アクセス権限によって決まります。

# Campaign リスト・ポートレット

このセクションでは、Campaign レポート・パッケージがインストールされていない としても、ダッシュボード上で使用できる標準の Campaign ポートレットについて 説明します。

レポート	説明
My Custom	このレポートを表示しているユーザーが作成した Web サイトまた
Bookmarks (カスタ	はファイルへのリンクのリスト。
ム・ブックマーク)	
最近使ったキャンペ	このレポートを表示しているユーザーが作成した最新のキャンペー
ーン	ンのリスト。
最近使ったセッショ	このレポートを表示しているユーザーが作成した最新のセッション
ン	のリスト。
キャンペーン・モニ	このレポートを表示しているユーザーが作成した、実行済みまたは
ター・ポートレット	現在実行中のキャンペーンのリスト。
(Campaign Monitor	
Portlet)	

## Campaign IBM Cognos レポート・ポートレット

このセクションでは、Campaign レポート・パッケージで使用可能なダッシュボード・ポートレットについて説明します。

レポート	説明
Campaign 投資収益率	レポートを表示しているユーザーが作成または更新したキャンペー
比較 (Campaign	ンの ROI の概要を比較する IBM Cognos レポート。
Return on Investment	
Comparison)	
レポート	説明
----------------------	---------------------------------------
Campaign レスポンス	レポートを表示しているユーザーが作成または更新した 1 つ以上の
率比較 (Campaign	キャンペーンのレスポンス率を比較する IBM Cognos レポート。
Response Rate	
Comparison)	
Campaign オファー別	レポートを表示しているユーザーが作成または更新したオファーが
の収益比較 (Campaign	含まれているキャンペーン当たりの、収益と日付を比較する IBM
Revenue Comparison	Cognos レポート。
by Offer)	
過去 7 日間のオファ	レポートを表示しているユーザーが作成または更新した各オファー
ー・レスポンス数	に基づいて、過去 7 日間で受け取ったレスポンスの数を比較する
(Offer Responses for	IBM Cognos レポート。
Last 7 Days)	
オファー・レスポン	レポートを表示しているユーザーが作成または更新したオファー別
ス率比較 (Offer	のレスポンス率を比較する IBM Cognos レポート。
Response Rate	
Comparison)	
オファー・レスポン	レポートを表示しているユーザーが作成または更新したさまざまな
スの詳細 (Offer	アクティブ・オファーを表示する IBM Cognos レポート (ステータ
Response Breakout)	ス別)。

## レポートの操作

Campaign でレポートを使用するための情報については、以下のセクションで説明されています。

## レポートへのアクセスと表示

レポートにアクセスできるかどうかは、オブジェクトまたは機能に対するアクセス 権限によって決まります。例えば、フローチャートを編集する権限がない場合は、 フローチャートのセル・レポートにアクセスできません。

レポートには、Campaign の以下のセクションからアクセスできます。

- 「分析」メニューの「キャンペーン分析」リンク このリンクをクリックする と、「キャンペーン分析」ページが表示され、そこに Campaign で使用可能なす べてのレポートのためのフォルダーが表示されます。フォルダーのリンクをクリ ックして、実行できるレポートのサブフォルダーまたはリストを表示します。レ ポートが、修正日時と一緒にリストされます。
- オブジェクトの「分析」タブ このキャンペーン、オファー、またはセグメントについてのレポートへのリンクを表示します。ページの右上にある「レポート・タイプ」ドロップダウン・リストから、表示するレポートのタイプを選択します。
- 「編集」モードのフローチャート・ページ ページ上部の「レポート」リンク をクリックすると、フローチャートに関するセル・レポートが表示されます。セ ル・レポートにアクセスできるかどうか、またセル・レポートをエクスポートで きるかどうかは、アクセス権限によって決まります。

### 「キャンペーン分析」ページからレポートを表示するには

1. 「分析 (Analytics)」>「キャンペーン分析」を選択します。

「キャンペーン分析」ページが表示され、Campaign で使用可能なレポートのフォルダーが表示されます。

- 表示するレポートが入っているフォルダーをクリックします。フォルダーの内容 (存在する場合はサブフォルダーも)を表示したページが表示されます。
- 3. 表示するレポートのリンクをクリックします。レポートでフィルタリングが可能 な場合は、「レポート・パラメーター」ウィンドウが開きます。
- レポートのフィルター基準となる1つ以上のオブジェクトを選択します。アクセス権限を持っている特定のオブジェクトのみが選択対象として表示されることに注意してください。複数のオブジェクト選択が可能なレポートの場合は、Ctrlキーを押しながら複数のオブジェクトを選択します。
- 5. レポート用のオブジェクトの選択が完了したら、「レポート生成」をクリックし ます。レポートが同じウィンドウ内に表示されます。

#### キャンペーンの「分析」タブからレポートを表示するには

- 1. レポート対象のキャンペーンを選択します。「キャンペーン・サマリー」ページ が表示されます。
- 2. 「分析」タブをクリックします。右上に「レポート・タイプ」ドロップダウン・ リストが表示されています。
- ドロップダウン・リストから、表示するレポートのタイプを選択します。レポートが同じウィンドウ内に表示されます。

## フローチャートからセル・レポートを表示するには

セル・レポートへのアクセスは、実際に付与されているアクセス権限に応じて異な ります。例えば、フローチャートを編集したりレビュー (編集できるが保存はでき ない)したりする権限が付与されていない場合、フローチャート・セル・レポート にアクセスすることはできません。また、セル・レポートを表示したりエクスポー トしたりするための明示的なアクセス権限が必要です。システム定義の管理役割の セル・レポート・アクセス権限について詳しくは、「Campaign 管理者ガイド」を参 照してください。

- 1. フローチャートを「編集」モードで開きます。
- フローチャート・ウィンドウ・ツールバーの「レポート」アイコンをクリックします。

「セル別詳細レポート」ウィンドウが表示されます。デフォルトで、「セル・リ スト」レポートが表示されます。

3. 「対象データ」リストを使用して、別のレポートを選択します。レポートを印刷 またはエクスポートする場合、あるいはそのレポートに固有のその他の操作を実 行する場合は、レポート上部にあるコントロールを使用します。

レポートとそれに対応して使用可能なコントロールについて詳しくは、252ページの『フローチャート・セル・レポート』を参照してください。

## レポート制御

レポートを表示用に生成する場合は、以下の制御と情報を使用できます。

- レポートの生成時刻 レポート・ページの右下に表示されます。
- レポートの生成日付 レポート・ページの左下に表示されます。
- 「上」/「下」コントロール これらのリンクをクリックすると、レポートの先 頭または末尾が表示されます。現在のレポートに複数のページがある場合にのみ 表示されます。
- 「前ページ (Page up)」/「次ページ (Page down)」コントロール これらのリンクをクリックすると、レポートの前のページまたは次のページが表示されます。

## レポート・ツールバー

🔁 Keep this version 🔻 🖶 🛧 🚮 👻 🥫 🔻

注: レポート・ツールバーは、Cognos によって生成されたレポートでのみ表示され ます。このツールは、カレンダー・レポートやセグメント・レポート、またはフロ ーチャート内のセル・レポートでは使用できません。

レポートが生成されるとレポート・ツールバーが表示され、以下のタスクを実行で きるようになります。

- このバージョンを保持 (Keep this version): レポートを E メールで送信します
- ドリルダウン/ドリルアップ (Drill Down/Drill Up): ディメンション・ドリル機能 に対応しているレポートで使用されます。
- 関連リンク (Related links): ディメンション・ドリル機能に対応しているレポートで使用されます。
- 表示形式 (View format): レポートのデフォルト表示形式は HTML です。ドロッ プダウン・リストから別の表示形式を選択できます。現在選択されている表示オ プションに応じて、表示形式アイコンが変わります。

## レポートを E メールで送信するには

このオプションを使用するには、SMTP サーバーが Cognos と連携するようにセットアップされている必要があります。この機能が使用不可になっている場合は、レポート管理者に確認してください。

Cognos ライセンスを IBM 製品と一緒に取得した場合は、レポートにリンクを組み 込むためのオプションはサポートされません。この機能を使用するには、Cognos の フルライセンスを購入する必要があります。

 レポートの実行が完了したら、レポート・ツールバーの「このバージョンを保持 (Keep this version)」をクリックして、「Eメール・レポート (Email Report)」 ドロップダウン・リストを選択します。「Eメール・オプションの設定 (Set the email options)」ページが表示され、Eメールの受信者と、オプションのメッセー ジ・テキストを指定できるようになります。

- レポートを E メール・メッセージの添付ファイルとして送信する場合は、「レ ポートを添付する (Attach the report)」チェック・ボックスを選択して、「レポ ートにリンクを組み込む (Include a link to the report)」チェック・ボックスを クリアします。
- 3. 「OK」をクリックします。要求が E メール・サーバーに送信されます。

## さまざまな形式でのレポートの表示

注: すべてのレポートをあらゆる形式で表示できるわけではありません。例えば、 複数の照会を使用するレポートは、CSV 形式または XML 形式で表示することはで きません。

レポート・ビューアーを使用すると、以下の形式でレポートを表示できます。

- HTML
- PDF
- Excel
- CSV
- XML

### レポートを HTML 形式で表示するには

HTML は、レポートを表示するためのデフォルトの形式です。レポートを他の形式 で表示している場合に HTML 形式に切り替えるには、「レポート」ツールバーの 「表示形式 (View format)」アイコンをクリックして、ドロップダウン・リストから 「HTML 形式で表示 (View in HTML Format)」を選択します。ページが最新表示 された後で、レポートが複数ページにまたがっている場合は、「レポート」制御を 使用してレポートをナビゲートできます。

## レポートを PDF 形式で表示するには

レポートが生成されたら、「レポート」ツールバーで「**表示形式 (View format)」**ア イコンをクリックし、ドロップダウン・リストから「**PDF 形式で表示 (View in PDF Format)**」を選択します。ページが最新表示され、レポートが PDF 形式で表 示されます。 PDF リーダー制御を使用して、レポートを保存または印刷できま す。

## レポートを Excel 形式で表示するには

レポートの生成後に、「レポート」ツールバーの「表示形式 (View format)」アイコ ンをクリックして、「Excel オプションで表示 (View in Excel Options)」を使用し ます。プロンプトが出されたら、ファイルを開くのか保存するのかを指定します。

- ・保存しないでレポートを表示するには、「開く」をクリックします。レポートが、Excel 形式の単一ページとして表示されます。
- レポートを保存するには、「保存」をクリックしてプロンプトの指示に従います。

### レポートを CSV (コンマ区切り値) 形式で表示するには

レポートが生成されたら、「レポート」ツールバーで「表示形式 (View format)」ア イコンをクリックして「Excel 表示オプション (View in Excel Options)」をクリッ クし、ドロップダウン・リストから「CSV 形式で表示 (View in CSV Format)」を 選択します。新しいウィンドウが開きます。ファイルを開くのか保存するのかを尋 ねるウィンドウが表示されます。

- 保存しないでレポートを表示するには、「開く」をクリックします。レポートが、スプレッドシート形式の単一ページとして表示されます。
- レポートを保存するには、「保存」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。ファイルを保存する場所に移動し、「ファイル名」フィールドに名前を入力します(デフォルトでは、このファイルは .xls ファイルとして保存されます)。「保存」をクリックします。ファイルの保存が完了すると、「ダウンロード完了 (Download complete)」ウィンドウが表示されます。

### レポートを XML 形式で表示するには

レポートが生成されたら、「レポート」ツールバーで「表示形式 (View format)」ア イコンをクリックし、ドロップダウン・リストから「XML 形式で表示 (View in XML Format)」を選択します。ページが最新表示され、レポートが同じウィンドウ 内に XML 形式で表示されます。

## レポートの再実行

レポートは、最新のデータを反映するよう、データ・ソースに対して生成されま す。表示するレポートについて、レポートを最後に実行した後にデータが変更され ていると考えられ、最新バージョンを確認したい場合は、レポートを再実行できま す。

## Campaign レポートのリスト

Campaign では、標準のレポートとして以下のものが提供されています。

- 252 ページの『フローチャート・セル・レポート』
- 258ページの『セグメント・クロス集計レポート』
- 259ページの『キャンペーン・カレンダー』

Campaign Reports Pack には、サンプルとして付加的なレポートが提供されていま す。それらのサンプル・レポートは、Campaign が IBM Cognos に統合されている 場合に使用可能です。それらのサンプル・レポートについては、以下に示すトピッ クにおいて情報が提供されています。

- 259ページの『キャンペーンおよびオファーのリストのレポート』
- 259ページの『パフォーマンス・レポート』

IBM Cognos のさまざまなレポートのインストールと構成について詳しくは、「*IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド*」を参照してください。

各レポートで使用されるデータ項目、照会、および式について詳しくは、「IBM Campaign Report Specifications」資料を参照してください。

## フローチャート・セル・レポート

セル・レポートは、セッションまたはキャンペーンの特定のフローチャート内のセ ルに関連したさまざまな情報を提供します。すべてのセル・レポートには、フロー チャートを「編集」モードで表示しているときに「レポート」メニューからアクセ スできます。

Campaign は、以下のタイプのセル・レポートをサポートしています。

- 『「セル・リスト」レポート』
- 253 ページの『セル・プロファイル・レポート』
- 254 ページの『セル・クロス集計レポート』
- 256ページの『セル・コンテンツ・レポート』
- 256ページの『「セル・ウォーターフォール」レポート』

### セル・レポートを印刷およびエクスポートするには

任意のセル・レポートを印刷したり、Excel スプレッドシートにエクスポートしたり するには、「セル別詳細レポート」ページの上部にある「印刷」または「エクスポ ート」ボタンをクリックします。

### 「セル・リスト」レポート

「セル・リスト」レポートは、現在のフローチャート内で使用されているすべての セルについての情報を提供します。この情報は、フローチャートにおけるすべての プロセス実行のセル出力の結果です。

「セル・リスト」レポートを生成するには:

- 1. フローチャートを「編集」モードで開きます。
- 2. ツールバーの「**レポート**」アイコンをクリックします。

「セル別詳細レポート」ウィンドウが開き、そこにデフォルトで「セル・リスト」レポートが表示されます。フローチャートの各セルが、レポートの1行に対応しています。

このレポートでは、フローチャートを前回実行したときのデータが表示されま す。「ステータス」列には、「テスト実行」や「実稼働実行」など、フローチャ ート実行のタイプが示されます。

- 3. 表示をソートするには、レポートの列見出しをクリックします。
- 4. 表示を変更するには、「オプション」メニューを開き、「**ツリー表示**」または 「**テーブル表示**」を選択します。
  - 「ツリー表示」:フローチャート・セルをフォルダー階層により表示します。
    このビューのレベルは、フローチャート内のレベルと関係を表しています。各レベルを展開したり折りたたんだりすると、それより下の項目が表示または非表示になります。

フローチャートにマージ・プロセスが含まれている場合、それらのプロセスは レポートを通じて色分け表示されます。例えば、Merge1 は赤、Merge2 は 青、というようになります。各マージ・プロセスの子セルと親セルも色分け表 示され、リストのソート状態には関係なく容易に識別することができます。例 えば、Merge1 が赤の場合、Merge1 の子プロセスと親プロセスのすべてについて、「セル ID」フィールドが赤になります。

「テーブル表示」:フローチャート・セルを表形式で表示します (デフォルト)。

### セル・プロファイル・レポート

「セル・プロファイル」レポートは、選択したセルの 1 つの変数に関連付けられて いるデータを表示します。例えば、以下の図は、マルチチャネルのリテンション・ キャンペーンの Gold.out セル (ゴールド・クレジット・カードを持つクライアント 用)を示しています。 Gold.out セルに属している年齢層を示すために、Age-Range 変数が表示されています。

セル・プロファイル・レポート



「セル・プロファイル」レポートを生成するには:

- 1. 既存のフローチャートを「**編集**」モードで開くか、新しいフローチャートを作成 します。
- 2. 「レポート」アイコンをクリックします。「セル別詳細レポート」ウィンドウが 表示され、デフォルトで「セル・リスト」レポートが表示されます。レポートで は、フローチャートの各セルが1行に1つ表示されています。
- 3. 「**対象データ**」ドロップダウン・リストから、「**セル・プロファイル**」を選択し ます。
- 4. 「**対象セル**」ドロップダウン・リストから、プロファイルするセルを選択しま す。
- 5. 「**フィールド**」ドロップダウン・リストから、選択したセルのプロファイル対象 のフィールドを選択します。
- 6. 選択したセルおよびフィールドに基づいて、Campaign がセル・プロファイルを 生成します。

- (オプション)レポートの表示を変更するには、「オプション」をクリックします。「レポート・オプション」ウィンドウが表示され、以下のオプションを選択できるようになります。
  - 「階級数」 レポートに表示する階級の数を入力します。水平軸のフィール ド値がビンに編成されます。指定する数が、異なるフィールド値の数より小さ い場合、一部のフィールドが結合されて1個のビンになります。デフォルト は25です。
  - 「メタタイプ別プロファイル」 メタデータ別にプロファイルを作成する場合にクリックします。メタデータ別のプロファイルについて詳しくは、『メタタイプ別プロファイル』を参照してください。このオプションは、デフォルトで使用可能になっています。
  - 「テーブルの表示」 ーレポートを表形式で表示します。各ビンが行として表現され、各ビンのカウントが列になります。
  - 「グラフの表示」 レポートをグラフとして表示します。これはデフォルト・オプションです。2ディメンション・レポートまたは3ディメンション・レポートの表示中にレポートを右クリックすると、さらに多くのオプションにアクセスできます。
  - 「2 つ目のセル表示」 プロファイル作成に利用可能なセルが複数個ある場合にこのオプションを選択すると、2 つ目のセルがレポートに表示されます。
    このオプションを選択すると、プロファイルする追加のセルを選択するためのドロップダウン・リストが表示されます。
    2 つのセルが、グラフィック形式で横並びに表示されます。

### セル・クロス集計レポート

「セル・クロス集計」レポートは、2 つのフィールドで同時にプロファイルされて いるセルの詳細を表示します。このレポートでは、選択した各フィールドが複数の ビンに分割されていて、それぞれの交差部分のボックスのサイズは、選択した属性 を持つ顧客 ID の相対的な数を表しています。例えば、以下の図では、Gold.out セ ルの 2 つのレコードがプロファイルされています (つまり、資金

(Indiv.\_Total\_Funds) が名前 (First\_Name) ごとに表示されています)。別の例として、購入金額量と年齢のかけ合わせなどが考えられます。

**注:** セルをプロファイルするには、セルを生成するプロセスを完全に構成して、正常に実行する必要があります。

セル・クロス集計レポート

tita Ce	ell Specific Reports							_ 🗆	×
				Report to V	fiew: Cell Variable C	Crosstab	Options	Export Print	
Cell:	Gold.out								_
Field 1	1: Individual.Contact_I	Indiv.First_Name		<b>▼</b> F	Field 2:  Individual.Fi	inancial_Holdings_Ir	ndiv.Total_Funds		•
1 5	ì		Create Multic	channel Campaign	(Gold.out,Platinum.o	ut)×Tab			
s (con	660000 - 1110000								
tal Fund	486000 - 659999								
Indiv To	369997 - 485999								
ldinas	5 280000 - 368000								
H H	195999 - 279999								
l Finan	111998 - 195998								
alpivib	-3 - 111997			•	•		•	•	
	. –	'Aaron' - 'Cassandra'	'Catherine' - 'Edward'	'Edwin' - 'Irene'	'Iris' - 'King'	'Kirk' - 'Michelle'	'Migue'' - 'Salvador'	'Sam' - 'Zoe'	
				Individual.C	Contact_Indiv.First_N	ame (count)			

「セル・クロス集計」レポートを生成するには:

- 1. 既存のフローチャートを「**編集**」モードで開くか、新しいフローチャートを作成 します。
- 2. 「レポート」アイコンをクリックします。「セル別詳細レポート」ウィンドウが 表示され、デフォルトで「セル・リスト」レポートが表示されます。レポートで は、フローチャートの各セルが1行に1つ表示されています。
- 3. 「**対象データ**」ドロップダウン・リストから、「**セル・クロス集**計」を選択しま す。
- 4. 「セル」ドロップダウン・リストからセルを選択します。
- プロファイルするフィールド (変数) を、「フィールド 1」および「フィールド 2」ドロップダウン・リストから選択します。

選択内容に基づいて、Campaign がレポートを生成します。

- (オプション) レポートの表示を変更するには、「オプション」をクリックします。「レポート・オプション」ウィンドウが表示され、以下のオプションを選択できるようになります。
  - 「階級数」 表示される階級の数を変更します。水平軸のフィールド値がビンに編成されます。指定する数が、異なるフィールド値の数より小さい場合、一部のフィールドが結合されて1個のビンになります。デフォルトは10です。
  - 「メタタイプ別プロファイル」 メタデータ別にプロファイルを作成する場合にクリックします。メタデータ別のプロファイルについて詳しくは、『メタタイプ別プロファイル』を参照してください。このオプションは、デフォルトで使用可能になっています。
  - 「テーブルの表示」 レポートを表として表示する場合に選択します。

- 「2 次元グラフの表示」 レポートを 2 次元グラフとして表示する場合に選択します (デフォルト)。 2 ディメンションまたは 3 ディメンションのレポートの表示中にレポートを右クリックすると、一連の表示オプションにアクセスできます。
- 「3 次元グラフの表示」 レポートを 3 次元グラフとして表示する場合に選択します。 2 ディメンションまたは 3 ディメンションのレポートの表示中にレポートを右クリックすると、一連の表示オプションにアクセスできます。
- 「セル1表示」 セル情報をX軸に表示する方法を選択します。特定の数値フィールドの場合は、「フィールド」ドロップダウン・メニューから操作対象のフィールドを選択できます。
- 「値フィールド」-(「セル 1 表示」と「セル 2 表示」の両方)。プロファイルされている既存の変数に変数を追加します。この2番目の変数は、最初の変数を表すボックス内のボックスとして表示されます。

#### セル・コンテンツ・レポート

「セル・コンテンツ」レポートは、セル内のレコードの詳細を表示します。現在の オーディエンス・レベルで定義されているテーブル・ソースの値を表示できます。 このレポートは、実行結果を確認するのに役立ちます。

「セル・コンテンツ」レポートを生成するには:

- 1. 既存のフローチャートを「編集」モードで開くか、新しいフローチャートを作成します。
- 2. 「レポート」アイコンをクリックします。「セル別詳細レポート」ウィンドウが 表示され、デフォルトで「セル・リスト」レポートが表示されます。レポートで は、フローチャートの各セルが1 行に1 つ表示されています。
- 3. 「対象データ」ドロップダウン・リストから「セル内容」を選択します。
- 4. 「セル名」プルダウン・メニューからセルを選択します。
- 5. (オプション) レポートの表示を変更するには、「オプション」をクリックしま す。「レポート・オプション」ウィンドウが表示され、以下のオプションを選択 できるようになります。
  - 「最大表示行数」 レポートに表示される最大行数を変更します。デフォルトは 100 です。
  - 「表示フィールド」―「選択可能なフィールド」域のフィールドを選択し、それらを「表示フィールド」域に追加することによって、レポートに表示するフィールドを選択します。
  - 「重複 ID のレコードを除外」 重複フィールドが含まれるレコードをスキップする場合に選択します。このオプションは、非正規化テーブルを使用している場合に役立ちます。このオプションは、デフォルトで使用不可になっています。

注: レコード数フィールドの上限は 10000 です。

#### 「セル・ウォーターフォール」レポート

「セル・ウォーターフォール」レポートは、フローチャートのさまざまなプロセス を介してセルが入力および出力されることによる、オーディエンス・メンバーの減 少を示します。このレポートは、出力ボリュームに影響を与えるプロセスを識別 し、出力に関するさまざまな割合や数量の詳細を提供します。「セル・ウォーター フォール」レポートは、ターゲット数の精度を上げるために、連続する各基準によ って発生した減少を確認する場合に使用します。

以下の例は、マルチチャネルのリテンション・キャンペーンのフローチャートを示しています。後に示すレポートは、「ゴールド (Gold)」という選択プロセスからの 出力を分析したものです。



このフローチャートに基づく「セル・ウォーターフォール」レポートを、以下の図 に示します。「ゴールド (Gold)」(選択) プロセスが「**セル**」リストの中で選択され ているため、それが分析されています。この例の場合、このフローチャートで「ゴ ールド (Gold)」セルのパスは 1 つのみ (「ゴールド (Gold)」から「適格 (Eligible)」へ) であるため、「**パス**」リストは重要ではありません。「ゴールド (Gold)」プロセスのボックスからフローチャート内の他のプロセスへの出力が提供さ れていれば、「**パス**」リストを使用することによってその他のシーケンスを見るこ とができます。

and testal	1	-	entry ethology					
reit: Gold [Gold]		Path:	GOID->Eligible			- <b>T</b>		
Cell Name [Process]	Size	#Ds Removed	%Remain	Segki	#Ds (RemovalQuery)	Removal Query	Notes	
Gold [Gold]	18688	0	100.00	0.00				
Eligible(Eligible)	26371	Added 7683	141.11		5987	Individual.EMail_Op		
Value Tiers	26371	0	141.11	30.00				
Preferred_Channel_Direct_Ma	il 7911			29.81				
Preferred_Channel_E_Mail	7861			9.92				
Preferred_Channel_Telemarke	eting 2616			30.27				
Preferred_Channel_Unknown	7983							
Total	18688	10705	42 72					

各セルは、プロセス構成ダイアログの「全般」タブで割り当てられる「出力セル 名」および「プロセス名」(大括弧内)によって識別されます。

このレポートは、「ゴールド (Gold)」セルの ID が「対象 (Eligible)」という名前の マージ・プロセスに渡されることを示しています。マージ・プロセスの結果とし て、(「プラチナ (Platinum)」選択プロセスから) いくつかの ID が追加されます。 また、「削除照会」の列には、いくつかの ID が除去されたことも示されていま す。この例では、フローチャートのオプトアウト・プロセスにより、電子メール通 信を受け取らないという選択をした顧客が除去されました。したがって、「ゴール ド (Gold)」セルと「プラチナ (Platinum)」セルのマージ結果は、それら 2 つのセル の合計よりも少なくなります。次に、適格 ID が「値層 (Value Tiers)」というセグ メント・プロセスに渡されます。このセグメント・プロセスにより、適格 ID が複 数のコンタクト・チャネルに分割されます。

「セル・ウォーターフォール」レポートの「合計」行には、「ゴールド (Gold)」出 カセルから除去された ID の数の合計が表示されます。また、そこには残ったゴー ルド ID の数と割合も示されます。

「セル・ウォーターフォール」レポートを生成するには:

- 1. フローチャートを「編集」モードで開きます。
- フローチャート・ウィンドウ・ツールバーの「レポート」アイコンをクリックします。「セル別詳細レポート」ウィンドウが表示されます。
- 3. 「対象データ」リストから「セル・ウォーターフォール」を選択します。
- 4. 分析の対象となるセルを「セル」リストから選択します。
- 5. そのセルが複数の下流プロセスに接続されている場合、「パス」リストを使用す ることにより、分析対象となるフローチャート内のパスを選択します。
- 6. (オプション) レポートを印刷するには「印刷」アイコンを使用します。
- (オプション)レポートをコンマ区切り値 (csv) ファイルとして保存したり開いた りするには、「エクスポート」アイコンを使用します。ファイル名を指定しま す。ただし、パスや拡張子は含めないでください。 CSV ファイルに列見出しを 含める場合は、「先頭行に項目名を出力」にチェック・マークを付けます。

ファイルを保存することを選択した場合、パスを入力するためのプロンプトが表示され、またファイル名を変更することができます。

## セグメント・クロス集計レポート

セグメント・クロス集計レポートには、Campaign の「分析」セクションからアクセ スします。このレポートは、以下の個々のレポートで構成されています。

- 『セグメント・クロス集計分析』
- 259 ページの『セグメント・プロファイル分析』

#### セグメント・クロス集計分析

「セグメント・クロス集計分析レポート」は、キューブ・プロセスの定義に従い、 キューブの任意の 2 つのディメンションを計算して、結果を表形式で表示します。 このレポートでは、セルをドリリングして、キャンペーンまたはセッション・フロ ーチャートで使用できる選択プロセスを作成することができます。 「セグメント・クロス集計分析レポート」で分析できるのは、キューブの一部であ る戦略的セグメント (セル)のみです。

### セグメント・プロファイル分析

「セグメント・プロファイル分析」は、戦略的セグメントのディメンション数を計 算して表示します。この情報は、表形式とグラフィック形式の両方の形式で表示さ れます。「セグメント・プロファイル分析」レポートで分析できるのは、キューブ の一部である戦略的セグメントのみです。

## キャンペーン・カレンダー

「キャンペーン・カレンダー」レポートでは、キャンペーンの開始日および終了日 をカレンダー上で確認できます。

## キャンペーンおよびオファーのリストのレポート

キャンペーンおよびオファーのリストのレポートは、IBM レポートおよび Campaign レポート・パックをインストールする場合にのみ使用できます。IBM レ ポートのインストールと構成について詳しくは、インストール・ガイドと「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

キャンペーンおよびオファーのリストのレポートには、Campaign の「分析」セクションからアクセスします。このレポートは、以下の個々のレポートで構成されています。

- 『キャンペーン・サマリー』
- 『オファー・キャンペーンのリスト』

#### キャンペーン・サマリー

「キャンペーン・サマリー」レポートは、作成されたすべてのキャンペーンの概要 を提供します。このレポートは、キャンペーン・コード、作成日、開始日と終了 日、前回実行日、各キャンペーンのイニシアチブおよび目的をリストします。

#### オファー・キャンペーンのリスト

「オファー・キャンペーンのリスト」レポートは、オファー別にグループ化された キャンペーンをリストします。このレポートは、キャンペーン・コード、イニシア チブ、開始日と終了日、および前回実行日をリストします。

## パフォーマンス・レポート

Campaign Reports Pack には、いくつかのパフォーマンス・レポートが提供されてい ます。それらのレポートは、Campaign が IBM Cognos に統合されている場合にの み使用可能です。レポートのインストールと構成について詳しくは、「*IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド*」を参照してください。

パフォーマンス・レポートの出力例については、「IBM Campaign Report Specifications」資料を参照してください。

パフォーマンス・レポートにアクセスするには、「分析」メニューから「キャンペ ーン分析」を選択するか、あるいはキャンペーンやオファーなどの特定のオブジェ クトの「分析」タブを使用します。 パフォーマンス・レポートについて詳しくは、以下のトピックを参照してくださ い。

- 『仮定オファー収支サマリー ("What If" Offer Financial Summary)』
- 261ページの『キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細 (Campaign Detailed Offer Response Breakout)』
- 261ページの『オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績) (Campaign Financial Summary by Offer (Actual))』
- 261ページの『月別のキャンペーン・オファー・パフォーマンス (Campaign Offer Performance by Month)』
- 261ページの『キャンペーン・パフォーマンス比較』
- 261ページの『キャンペーン・パフォーマンス比較 (収益) (Campaign Performance Comparison (with Revenue))』
- 261ページの『イニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス比較 (Campaign Performance Comparison by Initiative)』
- 262 ページの『セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Cell)』
- 262ページの『セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Cell (with Revenue))』
- 262 ページの『セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サ マリー (Campaign Performance Summary by Cell and Initiative)』
- 262ページの『セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Cell and Offer)』
- 263ページの『セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Cell and Offer (with Revenue))』
- 263 ページの『オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Offer)』
- 263ページの『オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Offer (with Revenue))』
- 263 ページの『日別のオファー・パフォーマンス (Offer Performance by Day)』
- 263 ページの『オファー・パフォーマンス比較 (Offer Performance Comparison)』
- 264 ページの『オファー・パフォーマンス・メトリック (Offer Performance Metrics)』
- 264 ページの『キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー (Offer Performance Summary by Campaign)』

#### 仮定オファー収支サマリー ("What If" Offer Financial Summary)

「仮定オファー収支サマリー ("What If" Offer Financial Summary)」レポートは、オファーの仮定の収支パフォーマンスを入力内容に基づいて計算します。レスポンス率がさまざまであるシナリオを評価するためのパラメーターを指定します。このレポートは、指定したレスポンス率とレスポンス率増分に基づいて増分を行うことにより、6 つのシナリオの収支パフォーマンスを計算します。例えば、2% のレスポンス率と、0.25% のレスポンス率増分を指定する場合、このレポートは、レスポンス率が 2% から 3.25% の範囲の 6 つのシナリオのパフォーマンス・データを返します。

オプションで、仮定レポートのパラメーター (「コンタクト単位のコスト」、「オファー・フルフィルメント固定コスト (offer fulfillment fixed cost)」、「レスポンス 当たりの売上」など) を変更できます。

# キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細 (Campaign Detailed Offer Response Breakout)

「キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細 (Campaign Detailed Offer Response Breakout)」レポートは、さまざまなレスポンス・タイプのキャンペーン・ パフォーマンス・データを提供します。キャンペーンに関連付けられているすべて のオファーと、レスポンス・タイプごとのレスポンス数をリストします。

# オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績) (Campaign Financial Summary by Offer (Actual))

「オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績) (Campaign Financial Summary by Offer (Actual))」レポートは、キャンペーン内のオファーの収支データを提供しま す。これには、コンタクト・コスト、総収益、純利益、および ROI などのデータが 含まれます。

# 月別のキャンペーン・オファー・パフォーマンス (Campaign Offer Performance by Month)

「月別のキャンペーン・オファー・パフォーマンス (Campaign Offer Performance by Month)」レポートは、指定した月のキャンペーン・パフォーマンスと、キャンペーン内の各オファー・パフォーマンス・データを示します。これは、指定した月における、提供されたオファーの数、レスポンス・トランザクションの数、およびレスポンス率をリストします。

## キャンペーン・パフォーマンス比較

「キャンペーン・パフォーマンス比較」レポートは、キャンペーンの財務パフォー マンスを比較します。これには、レスポンス・トランザクションやレスポンス率、 固有のレスポンダーの数やレスポンダー率などのデータが含まれます。これには、 リフト・オーバーコントロール・グループ情報も含まれます。

# キャンペーン・パフォーマンス比較 (収益) (Campaign Performance Comparison (with Revenue))

「キャンペーン・パフォーマンス比較 (収益) (Campaign Performance Comparison (with Revenue))」レポートは、選択したキャンペーンの財務パフォーマンスを比較し ます。これには、レスポンス・トランザクション、レスポンス率、固有のレスポン ダーの数、レスポンダー率、および実際の収益などのデータが含まれます。これに は、オプションのリフト・オーバーコントロール・グループ情報も含まれます。

# イニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス比較 (Campaign Performance Comparison by Initiative)

「イニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス比較 (Campaign Performance Comparison by Initiative)」レポートは、イニシアチブ別にグループ化された選択したキャンペーンの財務パフォーマンスを比較します。これには、レスポンス・トラ

ンザクションやレスポンス率、固有のレスポンダーの数やレスポンダー率などのデ ータが含まれます。これには、オプションのリフト・オーバーコントロール・グル ープ情報も含まれます。

# セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Cell)

「セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Cell)」レポートは、対応するキャンペーン別にセルがグループ化され た状態で、キャンペーン・パフォーマンス・データを提供します。これには、提供 されたオファーの数、レスポンス・トランザクションの数、レスポンス率、固有の レスポンダーの数、およびレスポンダー率などのデータが含まれます。これには、 リフト・オーバーコントロール・グループ情報も含まれます。

## セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Cell (with Revenue))

「セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Cell (with Revenue))」レポートは、対応するキャンペーン別にセルが グループ化された状態で、選択したキャンペーン・パフォーマンス・データを提供 します。これには、提供されたオファーの数、レスポンス・トランザクションの 数、レスポンス率、固有のレスポンダーの数、レスポンダー率、および実際の収益 などのデータが含まれます。これには、オプションのリフト・オーバーコントロー ル・グループ情報も含まれます。

**注:** このレポートでは、レスポンス履歴テーブル内に付加的にトラッキングされる フィールド「収益」が必要です。

## セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリ - (Campaign Performance Summary by Cell and Initiative)

「セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Cell and Initiative)」レポートは、選択したキャ ンペーン・パフォーマンス・データと、対応するキャンペーンおよびイニシアチブ 別にグループ化されたセルを提供します。これには、提供されたオファーの数、レ スポンス・トランザクションの数、レスポンス率、固有のレスポンダーの数、およ びレスポンダー率などのデータが含まれます。これには、オプションのリフト・オ ーバーコントロール・グループ情報も含まれます。

## セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Cell and Offer)

「セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Cell and Offer)」レポートは、同じレポート内のオファー およびセル別にキャンペーン・パフォーマンスを表示する手段を提供します。各キ ャンペーンが、各セルおよび関連付けられたオファー名と一緒にリストされます。 このレポートは、セルとオファーの組み合わせごとに、提供されたオファーの数、 レスポンス・トランザクションの数、レスポンス率、一意の受信者およびレスポン ダーの数、レスポンダー率を示します。これには、リフト・オーバーコントロー ル・グループ情報も含まれます。

## セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Cell and Offer (with Revenue))

「セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Cell and Offer (with Revenue))」レポートは、 収益情報と一緒に、同じレポート内のオファーおよびセル別にキャンペーン・パフ ォーマンスを表示する手段を提供します。各キャンペーンが、各セルおよび関連付 けられたオファー名と一緒にリストされます。このレポートは、セルとオファーの 組み合わせごとに、提供されたオファーの数、レスポンス・トランザクションの 数、レスポンス率、一意の受信者およびレスポンダーの数、レスポンダー率、およ び収益を示します。これには、リフト・オーバーコントロール・グループ情報も含 まれます。

**注:** このレポートでは、レスポンス履歴テーブル内に付加的にトラッキングされる フィールド「収益」が必要です。

# オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Offer)

「オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (Campaign Performance Summary by Offer)」レポートは、選択したオファーが対応するキャンペーン別にグ ループ化された状態で、キャンペーンおよびオファー・パフォーマンスのサマリー を提供します。これには、提供されたオファーの数、レスポンス・トランザクショ ンの数、レスポンス率、固有のレスポンダーの数、およびレスポンダー率などのデ ータが含まれます。これには、リフト・オーバーコントロール・グループ情報も含 まれます。

## オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Offer (with Revenue))

「オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益) (Campaign Performance Summary by Offer (with Revenue))」レポートは、選択したキャンペー ンのオファー・パフォーマンスのサマリーを提供します。これには、提供されたオ ファーの数、レスポンス・トランザクションの数、レスポンス率、固有のレスポン ダーの数、レスポンダー率、および実際の収益などのデータが含まれます。これに は、オプションのリフト・オーバーコントロール・グループ情報も含まれます。

### 日別のオファー・パフォーマンス (Offer Performance by Day)

「日別のオファー・パフォーマンス (Offer Performance by Day)」レポートは、指定 した日付または日付範囲のオファー・パフォーマンスを示します。このレポート は、提供されたオファーの数、レスポンス・トランザクションの数、および指定し た日付または日付範囲の間のレスポンス率をリストします。

### オファー・パフォーマンス比較 (Offer Performance Comparison)

「オファー・パフォーマンス比較 (Offer Performance Comparison)」レポートは、選 択したオファー・パフォーマンスを比較します。これには、提供されたオファーの 数、レスポンス・トランザクションの数、レスポンス率、固有のレスポンダーの 数、およびレスポンダー率などのデータが含まれます。これには、リフト・オーバ ーコントロール・グループ情報も含まれます。

# オファー・パフォーマンス・メトリック (Offer Performance Metrics)

「オファー・パフォーマンス・メトリック (Offer Performance Metrics)」レポート は、「最適一致 (Best Match)」、「断片一致 (Fractional Match)」、「複数一致 (Multiple Match)」などの各種レスポンス属性に基づいて、選択したオファー・パフ ォーマンスを比較します。これには、オプションのリフト・オーバーコントロー ル・グループ情報と、各種の属性率の間におけるパーセンテージの相違も含まれま す。

# キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー (Offer Performance Summary by Campaign)

「キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー (Offer Performance Summary by Campaign)」レポートは、選択したオファーについてキャンペーンごと のパフォーマンスのサマリーを提供します。これには、提供されたオファーの数、 レスポンス・トランザクションの数、レスポンス率、固有のレスポンダーの数、お よびレスポンダー率などのデータが含まれます。これには、リフト・オーバーコン トロール・グループ情報も含まれます。

# 付録. IBM Campaign オブジェクト名での特殊文字

Campaign のオブジェクトの名前に関して、特定の要件がある場合があります。特殊 文字のいくつかは、Campaign オブジェクト名としてサポートされていません。加え て、オブジェクトの中には特定の命名上の制約があるものもあります。

注:オブジェクト名をデータベースに渡す場合(例えば、フローチャート名を含むユ ーザー変数を使用する場合)、特定のデータベースでサポートされている文字だけで オブジェクト名が構成されていることを確認する必要があります。そうしないと、 データベース・エラーを受け取ります。

## サポートされていない特殊文字

次のオブジェクトの名前には、その下の表でリストされている文字を使用しないで ください。

- キャンペーン
- フローチャート
- フォルダー
- オファー
- オファー・リスト
- セグメント
- セッション

表 20. サポートされていない特殊文字

文字	説明
%	パーセント
*	アスタリスク
?	疑問符
	パイプ (垂直バー)
:	עםב
,	コンマ
<	より小記号
>	より大記号
&	アンパーサンド
/	円記号
/	スラッシュ
"	二重引用符

## 命名上の制約を持たないオブジェクト

Campaign の次のオブジェクトには、その名前に使用される文字に関する制約があり ません。

- オーディエンス・レベル (オーディエンス・レベルのフィールド 名には命名上の 制約があります)
- カスタム属性の表示 名 (カスタム属性の内部 名には命名上の制約があります)
- オファー・テンプレート

## 特定の命名上の制約を持つオブジェクト

Campaign の次のオブジェクトには、その名前に関する特定の制約があります。

- カスタム属性の内部 名 (カスタム属性の表示 名には命名上の制約がありません)
- オーディエンス・レベルのフィールド名(オーディエンス・レベルの名前には命名上の制約がありません)
- ・セル
- ユーザー定義フィールド
- ユーザー・テーブルおよびフィールドの名前

これらのオブジェクトについては、名前に関する次の制約があります。

- 英字、数字、下線 (\_) 文字だけで構成される
- 先頭文字は英字

非ローマ字言語の場合、Campaign では、構成されているストリング・エンコードに よってサポートされるすべての文字がサポートされます。

**注:** ユーザー定義フィールド名には、追加の制約があります。詳しくは、 206 ページの『ユーザー定義フィールドの命名上の制約』を参照してください。

# IBM 技術サポートへの連絡

文書を参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通 じて IBM 技術サポートに電話することができます。 このセクションの情報を使用 するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM 管理者にお問い合わせください。

#### 収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデー タ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

### システム情報

IBM 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられること があります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」 ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM のアプリ ケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「**ヘルプ」>「バージョン情報」**を選択することによ り表示できます。 「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM アプ リケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある version.txt ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番 号を入手できます。

### IBM 技術サポートのコンタクト情報

IBM 技術サポートとの連絡を取る方法については、 IBM 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open\_service\_request) を参照して ください。

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合 があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサー ビスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用 可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所 有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを 使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサー ビスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む)を 保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実 施権を許諾することを意味するものではありません。 実施権についてのお問い合わ せは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的 に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随 時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を 行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。 それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプロ グラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の 相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする 方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation 170 Tracer Lane Waltham, MA 02451 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができま すが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれ と同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定された ものです。 そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値 が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。 さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。 実際の結果は、異なる可能性があ ります。 お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行 っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の 要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それら の製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回 される場合があり、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行 価格であり、通知なしに変更されるものです。 卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。 これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ ん。

#### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を 例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されていま す。 お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラット フォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプ リケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式 においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが できます。 このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを 経ていません。 従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、 利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。 これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるも のであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サンプル・プ ログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示さ れない場合があります。

### 商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。 他の製品名およびサービス名等は、そ れぞれ IBM または各社の商標である場合があります。 現時点での IBM の商標リ ストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

## プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」)では、製品の使用に関する情報の収集、エン ド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のた めに、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。 Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピ ューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。 多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご 使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類する テクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体 的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、 お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれ のお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie お よび持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効 にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできま せん。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令 等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie および さまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能 を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイ ドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意 取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関す る方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件 (例えば、プライバシー・ ポリシー) への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者の コンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置するこ とを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、 および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへ の閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前 に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含むさまさまなテクノロジーの使用について詳しく は、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他 のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan